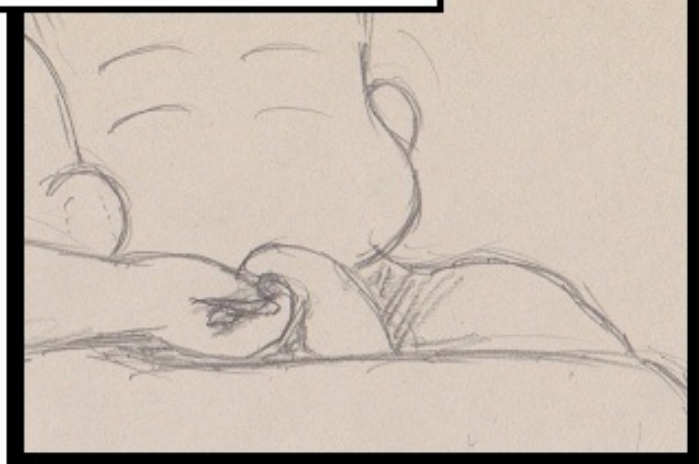


MEN'S ONLY03

Architecture
Product
System

CHIRO GOTOH
*GOTOCHIHI



チキンウィング・フェイスロック！



MODERN

最新更新 情報

虫がいて女性を退ける



そういえば『ゴールデンカムイ』を一巻の頭から読まず、連載をチラッと読んだだけだけど、なんでこの人をナコルルは「アスタリスク先生」と呼んでいるのだろう。

最新更新情報はこちら

MEN'S ONLY04

おすすめコンテンツ

[随筆](#) [U](#)

説明をすると「アントン・ハイセルにお金をつっこむか、未亡人が宝飾品にお金をつっこむと、団体が分裂してしまう」というお話。

この電書は 文読の
コマーシャルだから
タダで読めていいのですよ
文章読本、買って下さい

宣伝

[文章読本](#) [アマゾン](#)

12月の更新情報

2016年12月25日 今年最後の更新情報

「文章読本」はほぼ完成して、もしかしたら、数日後にアマゾンあたりで買えるようになって
いるはず。

このため「今月は休みにになった」か、『ありえない未来の思い出たち』第二巻の続きが今月中
ではなく、来月初めになるかもしれない。閲覧数も少ないから、ダイジョウブ。第一巻は六万ぐ
らいだけど、人気が続かなかったのか、第二巻はギリ貧で千ぐらいしか閲覧が無い。

もっと、拡散してみんな事実を知った方がいい。

こうした知識や蜷川演出術は、実はゲーム業界では通用しない。

それは覆しようが無い。

若い世代にはもっと周知してほしい。

忘れていた。

「鯨の横本」を修正・追加。

メビウス・ジャン・ジローの方の「SideBook JIROW」も少し、ラジオ番組ラテ欄のコラージュ
が新規追加。

「販促！文章読本」もいろいろ修正…オフタイムがロスタイムにまだ直っていない。

2016年12月20日 福袋無し

まずい！

少し何かを修正している。暇は無い。

もう十日ぐらいしか、今年が残っていない。

今年がダメなら、来年があるさ。

来年元日の福袋だって、用意していないのに、文読（文章読本を略してこう言う）が完成する
のか、かなりあやしい。来年の今頃同じ事を書いているかもしれない。

谷口ジローではなく、普通名詞の「ジローの横本」を修正したと思う。

15・16日の放送を聞いて「助けて」がいいと思った。グロリアちゃんが「*さん、助けて！」
とか、この更新情報誌では書いちゃいけないことも、時間が無いという、せっぱつまっている
から、可能。

忙しくて、すっかり「販促」の「堀井のブンブン調査」を修正したことを、書き忘れてしまったけど、「いいよね。だって『ドラクエ研究研究指針』は売れない」から、こ
れからドラクエ研究や、批評みたいなのは、廃れていかざるをえない。売れないというのは、人気が無いということだから。いつのまにかサンタさんに、「締め切りが伸
びる」プレゼントを願う大人になった。

12月13日ぐらい ダイナマイト・エクあすたりすくシー

とりあえず、木曜深夜の「おぎやはぎのメガネびいき」を聴いてもらうしかない。聞けない場合、お金を払ってラジコに加入し、無理にでも聞くように。

聴取率週間だから。

ツイッターの場合、番組ラテ欄コラージュのレギュラーでマルキ・ド・佐渡高校野球部にて行われる「特訓という名のソドム120日」を見学にやってくるアンジャッシュ渡部健（ブランド物のおしゃれサングラスをしてポッケからトリュフを取り出して食うという目撃情報は無い）の言っているように、ハッシュタグをつけて、呟きをしなくてははいけない。

横本では「ジロー」と「オルカ」を修正。

「Puboo×Paboo2014」で、一枚絵を足した。

アニメレビューの「『かぐや姫』は戦後アニメの自意識」を追加修正。

文読はできそうなのか心配なのに、「販促！文章読本」をちょっと修正。

これで全部だと思う。

忘れていたら、後で追加する。（追加は無かった）

2016年12月7日 自己同一性の言及

「かぐや姫の物語」アニメレビュー、アニメレビューが修正されているはず。

メインがPDF②ページになるところを三頁になりそうだ。

「ジローの横本」は番組ラテ欄のコラージュのところを少し広告を入れた。

私の自己同一性であるうんこやちんこを抜いたマンガの第二巻は今月でほぼ終わり、来月は三巻を作るために「休む」。

修正するところを映画のスクリプター同様に記録を作って、誤配法のために、残すところも用意しておかなくちゃいけない…と、思っていたらうっかり第四の壁の説明するために、もう少しマンガを描かなくてははいけないと、思い出した。だが、もう今月で収めたいから、第三巻に持ち越し、にしたい。

クオリティーマンガを描かないといけない。

ワヲンちゃんが、音の怪ものと戦うシーン・・・ここまで書かなくてもいい。書かなくていい

から、描かなくていいんだ！

スマブラの体験版をやっていたら、「第四の壁」をちゃんと表現している。当たり前に行えることである。

そういえば、セリフ表を書いていたら、第三巻の最後あたりで、

蜷川演出は
私の血肉となり
「明日蜷川と同じ
ことをやってくれ」
と言われたら
いつでもできる

と言うはずのセリフをうっかり書きちゃったり、いきあたりばったりである。口すっぱく言うけど、蜷川演出が出来ても、ゲーム業界では評価されない。そのことを次の世代に伝えるためにあるのが、『ありえない未来の思い出たち』であるから。

それはそうと、文読は本当に今月で出来るのか？

売れるのか？ 「文章礼賛」の原稿がまだ校正までいけない段階で、こんな先走ったことを書いていいのか？ もしも、完成しなかったらどうしよう。

詳しくは『本のセールスマン』「銀色のスルヤ・ボナリー」の項を読んでもらうとして、「新・日本三大〇〇」から話を起こすと、名作アニメが生まれるの法則。

「銀のロマンティック・・・わはは」を読んだら、パワフル・コンポジションをしなくてはいけない。

女性かペアの話なら、なんとかなると・・・長くなりそうなので日記にコンバート。

2016年11月29日 「おっと、いけない終わるのは来月だった」

無事、『ありえない思い出たち』第二巻の「マティマティカ」が終わっているだろうか？ ネーム上ではもう終了している。

変な不具合がおきていないだろうか？ それから下書きのまま掲載されていたら、それは機械の不具合なんかじゃない。

もしかして、「危険があぶな〜い」のまま、進展していないかもしれないが、これでいいのである。

もう、更新が終わったら、すぐに文読の校正をしないと。（オレ、悪い人に「仕事してます アピールだな、コレ」とお金を払ってもらってもいないのに悪態をつかれているのかな…凶星だけど）

ここで言うことじゃないかもしれないが、アマゾンで12月1日から「テクノプロデューサー横井 軍平」が五日間無料配信されるが、これはあくまでも銃四輪忌に不手際があって、その落ち度をぬぐうみたいなことから、あまり関心されない。

もう手に入れた人には、渡っているだろう。

2016年11月22日 少しずつでも前進

やることが多くて、手が回らない。

もう、来年には『あり思』の第三巻が出るから、準備をしたい。

文読を終わらせたい。

「販促」では、「製作途中の記事掲載」で何か足したはず。

無かったら、ただの手違いである。あるいは、前にあったブラウザなどの不具合だ。

横本のマリンちゃん。「映画を観たⅡ」でマリンちゃんの似顔絵を描いていたために、作画が遅れたなんて、ことはない。我々男性視聴者にサービスしなくていい。ワンピースの水着だと、水玉のファントムが出てきても、わからない。（そうか、あのいたずらな水玉で抜けた穴の色が『2』のオープニングに再利用されているのか）

ワリンちゃん、コウモリの羽の髪留めのヤツはいない。

分岐 → 奴って「女に又」って書くんだね。

|
|

→ この髪留めが気になっていて、スー先生のズボンになったのか。ズボンにリボンについては、謝罪しなくてはいけない。

2016年11月14日 近代と現代を間違えた

『文章読本』ばかり書いているので、ほとんど更新するものがない。

もしかしたら、手違いがなければ、扉絵が「販促！文章読本」に足されているかもしれない。

MEN'S ONLY02の「批評 嘶家とシェラザード」は一文字直した。

「お直しよ」と、もっと直すところがあるんじゃないかというのは、それは現代と近代をコピー&ペーストしたときにそのままにしていたように、「あきらめちまいなよ」。右眼がフランマークで、左眼がルーヴルマークとか、芸が細かすぎるギャグはやりすぎなので入れなかった。先代の団十郎のにらみみたいなのは、「やめなYO」。

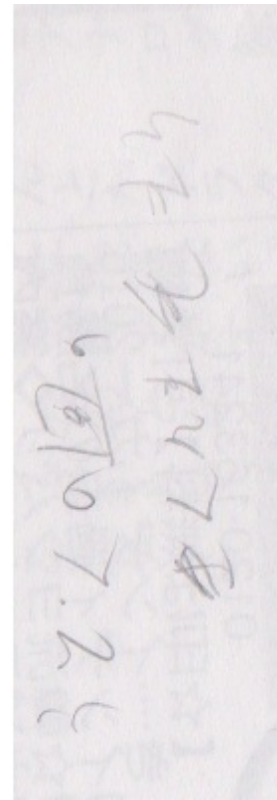
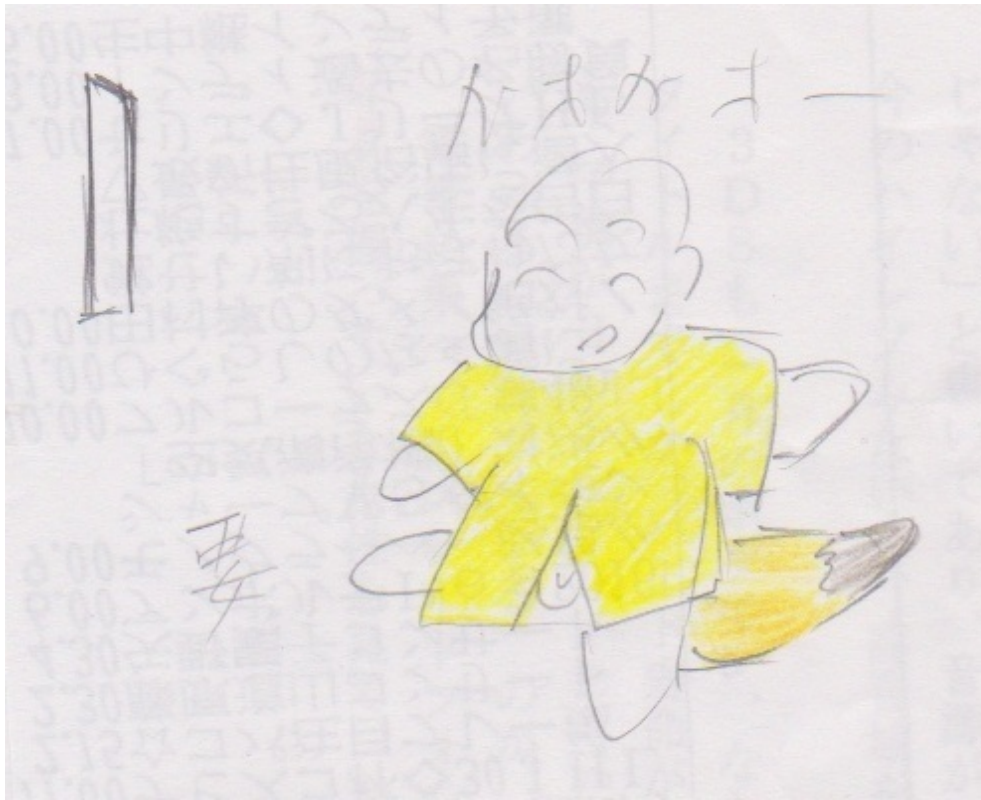
横本のジローとオルカは、少し追加・修正した。更新するものがないとき、だいたい横本の話題に触れる。「映画を観たII」で『ハイ☆スピード！』を足したり、いろいろしていたと思う。

横本はクソゲーの宣伝紙なので、絵に描いていることと字に書いてあることをそのまま鵜呑みにせず、でも商品は買うという、賢い消費者に読者を善導する主旨の電子書籍である。

忘れていた。「クイズ！脳ベルSHOW」のように、忘れていた。「アニメレビュー 『かぐや姫の物語』」をアップしていた。名前を失念した竹取物語でもあり、大藤信郎の未完作でもあるのか、そこは高畑勲本人にインタビューでもしない限り、わからない。

まだ未完成だから、仮タイトル画である。

電子データ上としては、「兄になりたかった人」を作っている。アップはまだまだ先である。本当は取材して、作りたかったが、それは仕方ない。



眼だ！
眼を狙え！

2016年11月8日 「まんがタイムきらら」を買ってください

ラジオの太田光さん経由の話である。

井森みゆきと森口博子の千葉辺りのラジオ番組（radikoの会員になって聴いてね）で、森久保祥太郎がヒョウ柄に凝っていた頃があり、服もバックもヒョウ柄にした、ツッチーの『ぼいすた』でもやったネタだから「オチは全身ヒョウ柄にして出歩いたら、職質された…かな？」と思っていたら、

「それトラそのもの」

と井森は発言した。トラじゃなくて、ヒョウだろう。芸能人の脳漿劣化が激しくなり、「クイズ！脳ベルSHOW」の曜日レギュラーぐらいできそうだ。

それを笑えないのは、別の章にデータをアップしていた件だ。

「セヴンスリーワン」に「マティマティカ」の章にアップしなくてはいけない下書きデータが、今まで二週間ぐらいアップされていた。

よくない。

これは、よくない。

よくないついでに、「反則！」の方の、「参考文献 引用物 作品欄」で「第三部 現代」を「第三部 近代」と間違えていた。トラとヒョウを誤るような、愚を犯した。これではウマとシカを見誤る、馬鹿である。

横本を少し修正。ラジオ番組ラテ欄のコラージュを足した。“覚せい剤君”をちゃんとキャラクターデザインして登場させたいと思った。

2016年10月31日 Rosenkranz

『あり思』の「マティマティカ」、やっとラマヌジャンのところまで書いた。第一巻で言えば、高橋源一郎の息子がコトバの力を使ったところまで来た。

あのシーンは浜渦さんの「Rosenkranz」をかけて読んでほしい。『ギャートルズ』の園山さんが「ここでヘイ・ジュードをかけて」と、選曲指定して手塚治虫がちゃんとその通りに律儀に聴いて、ビートルズを認めるようになった。

たぶん、忘れるから書いておくと （読点抜き改行鍵括弧挿入）

「この矛が折れたとき、それはオレが死んだときだあ！」

と、威勢よく言っていたローゼン克蘭ツ。ギルデンスターンが介抱されて、あの女が折れた矛の先を見せるという、そこで熊のぬいぐるみ、熊いじめされた熊のぬいぐるみをベッドの上に置く。わかりやすくベッドに足し算されている。

「書いておく」と記入したが、未来、忘れてアップしていないかもしれない。ブラウザの不調で、不具合もあるかもしれない。

そこは、各自「自分で調べる」。ゲームで調べられないのは、しょうがない。

自分で調べられないのは「浜渦さんはカノンドーピングをしていないか？」という疑惑である。マキタスポーツさんが提唱した「カノンの旋律を真似するとワンヒットワンダラーで終わる」というカノンドーピング。浜渦さんの曲は全体的にアベレージは高いが、名曲は「Rosenkranz」だけな気がする。

この曲をスローテンポしているのが「マクベスのテーマ」で、「シェイクスピアロマン」ではカノンドーピングを五・六本入れる。作曲がイトケンじゃなく植松さんでショックだった「燃える血潮」をカノンドーピングした曲がオープニング映像でかかり、逆にカノンドーピングを抜いてあるのが同じライトモチーフが流れる「レイズ・ア・シェイクスピア」。

作曲がイトケンじゃなく植松さんでショックだった「燃える血潮」。「反則」する電子書籍の「日記的に制作進行を2016」を修正。もしかしたら、画像も追加されている。確定できないのは、先の更新では不具合が多く、いくつか更新されていなかったもので、今回もそうなるかもしれない。

「シャン」も少し、修正ができたかもしれない。不具合さえ、なければ読める。「美学って何？」が読める。作曲がイトケンじゃなく植松さんでショックだった「燃える血潮」。

『愛...知りそめし頃に...』の“に”を脱字していて、気になっていた方もおられるとおもうが、「Puboo×Paboo2015」の日記「安孫子フォロー」が直っている。作曲がイトケンじゃなく植松さんでショックだった「燃える血潮」。

『清ちゃん、後ろ！』

後日の付けたし → 横本での恵介監督がちゃんと直り、ビル人間出てくるアニメのことを映画とみなしている。作曲がイトケンじゃなく植松さんでショックだった「燃える血潮」。事実を知って大人になった。

2016年10月26日　きたろう脳ベル賞受賞

横本を追加・修正したと思う。ジローだったか、オルカだったか、それは忘れた。
そんなことより、大竹さんの番組（ゴールデンラジオ！）でのことだ。

「大竹紳士交遊録」 2016年10月19日　曜日レギュラーきたろう登場
大竹まこと　「それじゃ、村上春樹は何時ノーベル賞もらえるんだよ」
きたろう　　「・・・去年」

これではノーベル文学賞じゃなくて、芸能人のご長寿クイズである「クイズ！脳ベルSHOW」だよ。秋からBSフジの帯で、クイズのネタが切れちゃうだろう。

きたろうさんは、ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞したのをお気に召さず、「なんで村上春樹はノーベル文学賞を取れないんだ」と、物申していたが、こういう結果に終わった。

事後報告しようと思っていた「セヴンスリーワン」の修正が、不具合なのか、修正されていなかった。

「女子禁制なんだから、はっきり書いた方がいいんじゃないか？」

『全年齢が見てもいいのだから、うまく言えないが、後が変わっているはず。不具合が無かったら。後が。後が』

2016年10月17日　仕返しかもしれない！

略すが第二巻の「マティマティカ」、先月のものはラフではなくし、今月のものはラフで掲載されている。

もう、ネームが尽きたから、今月分はこれで終わりになる。

数字をちゃんと抑えるのが、こんなに時間がかかるとは思わなかった。

用意・予定とは違うものを入れるから、少し狂ってしまったかも。

ヒュブリスだからシザーリオか、バルサザーか、迷って、知り合いの将軍をラ・イルにする。

知らないところでペナルティが課せられるかもしれないが、「銃四輪忌にはなむけを」が少し公開されている。

ズレた4日から8日、それを修正した二・三日の公開である。余計な部分をカットした「日記その話、もうちょっと早く　2015.10.24」を足している。

これなら、悪くないかということ、まずいと思う。

「MEN'S ONLY02」の日記「大藤信郎の千代紙」は、作品タイトルを幾つか誤っていたから、修正した。

2016年10月11日 手間をかけさせるな

今日は横本をいくつか修正したはずだ。

「反則！」の方も何かやったかもしれない。

アマゾンで「銃四輪忌にはなむけを」がなかなか読めなかった。

まず、48時間以上レビュー状態で、何日も待たされた（何かのペナルティか？）。前回の更新情報掲載と同じ三日の日にレビュー開始で、一日二日ズレるのは仕方ないと踏んでいたのに、公開になったのは日付上は七日の日である。

四日間の無料公開期間が、だいたい4日から8日の時期とずれてしまった。銃四輪忌じゃないじゃないか。

さらに、iPadで読めない仕様にいつの間にか変わっていて、不便だ。アマゾンさんがハードを出すらしいから、アップル系統の機種だと、据え置きパソコンでないとダメだとか、急になったと思われる。

裏取りに何か調べる時間が無い。

何もしていないのではなく、『かぐや姫の物語』のアニメレビューを書こうとしているが、女性の自意識よりも、戦後アニメの自意識だろうと思う。特撮番組の自意識だと仮定すると、ムリが生じると思う。

それから、テラさんの記事をまとめて、「兄になりたかった人」という電子書籍を作ろうと思う。出版社が企画として出せばいいけど、取材費用が出ない、取材対象者に交渉もできない、そういう状況にある気がする。

だから、出版社とのツテがあっても、ムリだろう。

2016年10月3日 銃四輪忌にはなむけを

もし、アマゾンで「銃四輪忌にはなむけを」がアップ（3日はまだレビュー中のはず）されても、ブックログのパブーの読者は手を出してはいけない。今までの記事をちゃんと読んでいれば、読んだことがあるからだ。

「販促！文章読本」の制作日記が更新されているはず。

後は少しジローとオルカの横本を追加・修正。

「銃四輪忌のはなむけに」の方でカットした次の文章がある。

「後は神格化問題であるが、これが難しい。

多くに広めるためには神格化も止む無しだけど、いろいろ弊害も出てくる。手塚の神格化で、

戦後マンガや戦後アニメが手塚中心主義になりすぎてしまった。いろんな漫画家やいろんなアニメーターがいたはずだが、一般の人が『手塚じゃないなら』ということで、興味を示さなくなった」

ここから、「神・宮本茂」への批判を始めるのかということそうではないし、トキワ荘作家と劇画工房の人たちの違いは、長い文章で文脈をつくらなくてはいけないし、時間が足りないので、余計なこと（告発問題）を書くのは止した。

横井さんが手塚のように有名になるには、神格化されたマスイメージを作るしかない。あまりにも一般的に知られていない、一般の方は宮本茂すら知らない。あまりにも、愕然とするから、「神格化してでも広めるのは、否定するのが難しい」と思うようになった。

基本的には神格化反対は変わっていない。だから、神格化は私の担当ではない。工学や技術経営的知識を伝統工芸のように受け継がせるテキストを書いてきたので、「神だから受け継げない」になっちゃうといけない。

メガストーンではなく



メカストーン

これを持てば
ゴジラがメカゴジラ
とかになるんだよ
(うまいなあ)

テラさんは、アンダースローなんだよね。『まんが道』『愛しり』でもよく見ると、下手投げのフォームだけど、迫力あるように見えるため、一読だけだと「まるでオーバースローすごい球を投げていた」印象しか残らない。

そこは安孫子マジックである。

だけど、実像からやや離れる。太宰の批評でも書いたが、一般の人はそれでいいんだよ。マンガを楽しく読めさえ、すればいい。

それから横井軍平さんは、もちろん安孫子派である。すこ〜し話を面白くすることが書かれている。

ついでのことを書くと、『ありえない未来の思い出たち』第二巻の「セヴンスリーワン」と「マティマティカ」が追加無く、修正されている。「マティマティカ」の方だと、一頁しかラフが直っていない。

まだフローチャンネルのコラム、作ってないだけ。

2016年9月28日 順調に制作が進んでおります

「なんでセヴンスリーワンの章の最後らへんはラフのままなんだ。先月のままじゃないか？」
まず、「セヴンスリーワン」のラフの部分は、コラム「フローチャンネル」うんたらかんたらの補足記事がまだできていないのである。「出来ても何の役にも立たないけどね」

それと、いろいろな事情で前倒しになって、「マティマティカ」を新しく新設しているのに、そこもラフである。ガウスの顔を控えてなかったのだ。（後日マルク札の肖像から似顔絵を起こす）

「事情って何？」と問われると、急ごしらえで「銃四輪忌にはなむけを」という横井さんの命日から告別式の日まで、何か無料の本を提供したいから、それにかかりきりにならないといけない。

「文読は？」

「その話は、おいておこう」

この間、おみくじを引いて、「あれ？ おかしいな」と思って調べたら、易の陰陽を調べなおした。易経は64パターン、6ビットである。直したのが、正しくなかったのだ。魔法の円すいじゃなくて、魔法の易だったのである。

でも、これは私が天才ではない証拠だから、未完全版ができるまで、修正するのは待とうと思う。

普通のゲーム製作現場だと、数学の監修者がいないぐらいのプランニング能力のあるプランナーでないとダメだという、証拠でもある。

ゲームプランニング能力と数学能力をともに備えているって、天才じゃないかと思われるが、その通り。

天は二物を与える。

現実はそのうだ。

昔の数学者の話はそんなことばかりである。一瞥即解かどうかはフィクションだと思うが、天才しかいないという業界であるのは、間違いない。

2016年9月23日 水出しコーヒーはうまかった

「MEN'S ONLY02」の日記4.17と6.17を修正。

今月は忙しくて、ゲームラボをまだ読んでおらず、『ジローの横本』を追加・修正。

タチバナブラックをかつて試して、口に合わなかったけど、水出しコーヒーはうまい。夏に麦

茶をしこたま作った水差しをもう片付けるから、最後に水出しコーヒーを試してみるかと、水にパックも入れずにコーヒーの挽いた粉を直接入れた（後でキッチンハイターして仕舞う）。

苦味が少なくて、夏場、作って飲めばよかった。

もうちょっと早く、ネタをマンガに描いてほしかった。

そういえば、コンビニのコーヒーも、氷が溶けきった頃が、一番飲みやすい。

（ガストのフリードリンクのアイスコーヒーはそんなにおいしくないとか、悪口と思われるから、書いちゃいけないよね）

2016年9月16日 今日の更新は、今月ほぼ週一なので少ない。

「販促！文章読本」の日記が修正されているはず。もしかしたら、「堀井のブンブン調査」が久しぶりに…読者に無用な期待をもたせるのは、よくない。

「真・超人大全」は相撲の部分が、場所中なので修正されている。四股名・人間の人間性がわかる。

そろそろ文読を完成させたい。（このセンテンスを書くということは遅れている）

八月は『あり思』第二巻を描かず、そちらは完全に夏休みをとればよかった。まだ、製版が完成していなかったりする。

暑くて暑くて、スパートをかけられなかった。カット袋みたいにプリントアウトして修正を加える紙を入れていたA4紙袋が破けて、切り刻んでメモ用紙にした。

早く「第三ライトノベル」を書きたい。「吸血鬼って何をモンスタームしているのか」早く書きたい。早く書かないと、何か書くか忘れる。でも、そんなに売れないからな。

出版社が営業しまくっても、本は売れないからな。

売れた本は結果的に売れた、と考えた方がいい。売れなかった本と同じくらい営業努力を水面下でかけている。それでも売れない物は売れない。

2016年9月10日 アニメ映画『TATSUMI』のレビューはいつ完成するのか

「販促！文章読本」の日記が修正されているはず。

まだ見られないけど、「マティマティカ」へのリンクを貼ったり、「MEN'S ONLY02」ではレヴィ・ストロースはレヴィ＝ストロースに直っているはず。

他はもしかしたら、横本が修正されている。

amazonの「ガンバレ！ピンポンフォロワー」は売れた・・・ありがたいことだけど、あんな少学館の悪口ばかりの電書が売れていいのかはさておき、読み返すと独りよがりが見受けられたり、もうちょっと親切丁寧に説明されたテキストを書けなかったのか、正直書き直したいが、次がつかえて時間も無いので、何かの機会が無ければ追加・修正はもうしない。

アマゾンではパブーとの価格差が70円ぐらいあるが、やはり機会費用で数十分の手間が差分よりも、大きいと感じたのだろう。体感百円以上があったのだろう。

さすがにパブーの苦言を、パブーの電子書籍で書くのは気が引けるが、熊本地震の被災者のためにチャリティーで売り上げを寄付とか、やらないのはどうかな。東日本大震災のときはチャリティーをしたのに、「あれ？ しないの」と、ずっと思っていたが、どうやらやらないようである。（やらいでか、と書こうとして、『ジョジョの奇妙な冒険』の言葉だから修正した）

こちらも単行本の購入を被災者の心情を考えて自粛したし、被災者に支援金を出せるほど、儲けてはいない。

千部、いや200部ぐらい売れると、ペイメントして支援金を払えるのだけど、ピョコタンに「バクアゲノ ニンテンド ウカブイマ スグウレ。」と電報を打っていれば、その金で被災者を支援できたのになあ。

2016年9月2日の事後報告情報

「販促！文章読本」の「日記的に制作進行」のところを修正と追加した。

していなかったら、セーブし忘れたのだろう。（後日見返したら、五月後半のところに重複があり、修正しなければ）

「ジローの横本」は、修正されているはず。

後、事後報告になってしまったが「ゲームレビュー改造的想像力の現在進行形」は完成したことになった。ダウンロードデータも作った。

後はゲームレビューの『世界（略）』を完成しなくていいので、完成しないにこしたことはない。ゲームレビューって閲覧者数が少ないから、完成させても、閲覧者少ない。

それに、他にやることが多い。

『ペルソナ5』はそもそもPS4をもっていないので、購入しない。（注・誤字）

台風の被災者の心情を考えて、五輪でマリオに扮した安倍さんは、つけヒゲをしなかったんだって。それならはじめからリオ五輪閉会式に行かなければいいのに。

玉さんに「なるぺそ5」の四コママンガを発注してもらわないと。そのためにセガはほしくもないアトラスの借金を背負ったんだから。

2016年8月29日 いいじゃないか

『ありえない未来の思い出たち』の第二巻を更新した（月末だから）。

なんだこれは、まるで、

「セリフのあたりをとっているだけの下書きじゃないか！」

そう、まるで『ハンター×ハンター』の雑誌掲載時みたいなものがあって、いいじゃないか。フィルタリングが無いもの。

真面目に修正するためのフィルタリングが無いし、いくらでもラフ画が載っても叱られない。（叱られても半年ぐらいいは置いてホトボリが冷めたと思ったらまたラフを掲載）

だいたい色をつけたり、ペンを入れても、ラフと同じである。クオリティーが256段階なら、十六進法89と8Bである。十進法で表現すると137と139。（一点が色、もう一点はペン入れ）

意外に高得点だ。鳥山明が230ぐらいで、あとたった約100段階足りない。

だから、いいじゃないか。

夏休みだと思って、こちらも、休む気マンマンでいた。

オットセイの顔に長髪にサングラス、つけヒゲを…というのは、文読でしたネタだ。（注・Linked Horizonじゃない方）

話が見えてこなかったと思うが、『ありえない未来の思い出たち』の第二巻、「セヴンスリーワン」にラフを掲載した。

ネーム（この場合セリフ等）を削るかもしれないので、こちらに掲載。

「高難度のハードモードは敵が強く経験値も少ない。さらに超高難度のマニアックorルナティック。それでもルドゥスが足りないゲーマーは縛りプレイをしてもっとルドゥスを引き上げる。」

「クラシックはユニットが倒れたら限定的な条件下ではないと、復活しないがカジュアルはユニットが倒れても次マップで復活する。フェニックスはユニットが倒れてもすぐに復活する。」

脚をつけるみたいにモードをつけなくてはいいけないが、律詩の押韻ではないので抜いた。文字数が多くなるので削った。削らないといけけない。（なんで「イムズとアリスの夢冒険」で挿入するパターンがこちらにコンバートされているかということ、記事を書いている途中で遊戯と闘技のことだと気づいたのだということにしてほしい）

横本の鯨の“本の写真”ばかり写したところを集中的に追加・修正。「そもそも単行本の版型が違うじゃないか。どれもこれも山下の仕業だな」。

二郎の方は何かを修正。（「MEN'S ONLY02」も6.17の日記を修正した。これはいらぬ情報か）

「ZELDAの試供誌を手に入れた。」を修正した。これで、『改造的想像力の現在進行形』は完成した。ということになる。ゲームレビュー『世界樹の迷宮』は完成しなくてもいいし、完成させなくていい。

2016年8月19日 二郎の横本

「横本」の鯨と二郎を修正した。

わからない人もいると思うので「SideBook O R C A」と「ジローの横本」を修正した。単行本の判型でもう偽物を写真撮影しているとわかるようにしているが、わかっただろうか。

文読ばかり書いているが、さっぱり進まない。

プリントアウトして「校正」にした段階の章に加筆や、四色問題は純粋数学でも解けていると修正しなくちゃならないことが多かったり、前進はしてはいるけど、思ったほど進まない。

「この本、売れないんだよなあ」

と、弱音も出る。

普通に市販される書籍ですら売れないのに、純文学系の新人賞すらとれなかった肩書きの無い人間の本なんて、売れない。内容も「名文なんて存在せず、ただ肩書きがあるだけでした」と、書いてある文読はほしいか？ 肩書きが無い人の文章には、商品価値は無いなんて、真面目なことが書かれている本なんて、読みたいか？

だけど、変に読み手の気分を上げて、「いい本だった」と騙すのは気が引けるし、アマゾンのMONKEY EAT WORDSにはある所で脱いている文章をちゃんと英文で入っているとか、あれは海外英語圏用のやつで、彼ら向けだったKindleアンリミテッドで見てもらえない。せっかく作ったのに。

ちゃんと読んでもらいたい。

2016年8月12日 何を更新したか忘れる

「販促！文章読本」の制作日誌を更新する必要は、ないんじゃないか？ いつもすすんでないとばかり書いてある。一応、用意し忘れた画像が上がっているはずだが、どうであろう。

「横本鯨」に新しいコーナーを新設した。「ジローの横本」は普通に追加・修正更新。「真・超人大全」の「超人名簿 丁 相撲教会サイド」は修正する意味があるのだろうか？

「MEN'S ONLY02」は「嘶家とシェラザード」、日記の2.20と4.17と6.17のダレちゃんを修正したらしい。ネタの「お金…」がどうのこうのも、手違いがなければ、更新したと思う。

G R CのVol.2も、去年の今月にVol.1を出しているから、そろそろ完成したのを作りたい。（複合感情的に「クリーチャーズはいったい何がしたかったんだ？」という点も書かないといけない）

ネタを小出しにすると、原田勝彦さんの書いたテキストで「Gの閃光」に似た歌詞がある。ガ

ンダムとなんの繋がりも無いように見えて、ある繋がりがある。

元々富野監督が好きだけど、あの記事を読んで井荻燐となって「Gの閃光」を書いたとしたら、私は嬉しい。誰も知らないゲームライターのことを、ひっそりと「僕は知ってるよ」とされたら、二年間ベストアニメ受賞だよ。

こういうものがあるから「いつかのオーリーを見せてくれよ」は完成できるし、ゲームレビュー『世界樹の迷宮』は完成しなくていいし、完成させなくていい。

アトラスは業界をなめてほしくないね。

業界をなめているとしか思えない会社がある。名指しすればサイバーコネクトツーだけど、いしかわじゅん先生が『右曲がりのダンディー』と作者が嫌いみたいなものだよ。荒木飛呂彦も含めて仲良くなりたくないって、ちゃんと表明しないとダメだ。それでヘイトやレイシズムに堕さないようにするのが、大変だよ。

2016年8月5日 事後報告

実は、「ジローの横本」を少し修正した。

そこと、「ガンバレ！ピンポンフォロワー」で、辻堂文革のことについて、修正があったかもしれない。無いかもしれない。

事後報告となったのは、更新情報のテキストを忙しすぎて、あらかじめ作っておかなかったのだ。ガツガツしないから、いいのだ。

無料配信情報を事後報告しているということはない。（ということでアマゾンで『あり思』第一巻が8月初週で無料サービスをしたことは報告しない）

ウムラウトがある「Shone」がなかなか更新されないのは、資料調べが大変だからだ。

ロレンツォ豪華王の象徴がダイヤの指輪と言われている。具体的に知らないけど、すでにダイヤ加工技術があったのか、そこから調べないといけない。砕いたダイヤで旋盤に接着剤でくっつけて、ダイヤの原石を削ってキレイに加工して指輪にするのだが、この技術はルネサンス時代にあったのだろうか？

このダイヤモンドパウダーを接着する素材が、壁画を作るときに油絵の具を定着させる素材に近いんじゃないのか？ イスラム科学内の美術であった技術じゃないか？

「これ、知ってる奴いる？」

イタリアに留学したこともある山田五郎さんに訊かなくちゃいけないことである。

まずは、美学からだ。

美学よりも絵画技法が先で、そうやって増えた選択肢が複数ある中、どれを選んだかによって同工房の画家の作風が違う。

美学は広義的には画法・技術体系であって、狭義的には「自然には輪郭線は無い」というクリエイティブな考えとなる。

2016年7月31日 横本の追加・修正しているかも

「セヴンスリーワン」を修正した。来月は更新が無い休みになるかもしれないから、これでゆっくりと円すいを見てほしい。

「MEN'S ONLY02」は日記を4.3と5.17と5.26と6.10と6.24が更新されているはず。

書評の「寺田ヒロオはどこにいる」が完成したはず。上宮の四番から「人生フルカラーフルカラー」の曲でモヒカンのパカパカさせるモックンになっているはず。

批評の「嘶家とシェラザード」もだいぶ出来ていて、後はもう事実誤認を修正するだけだろう。

運さえよければ、「ガンバレ！ピンポンフォロワー」が、公開されて税抜き30円であるはず。原稿を紛失する、せっかく作ったデジタルデータが壊れる等のアクシデントがなければ、公開されて購入できるようになっている。

アマゾンのキンドルでは百円かもしれないが、手続きをする機会費用の差分だと思って諦めたまえ。

面倒くさがらずに、ブックログのパブでクレジットカードの入力をすればいいのだ。そうすれば、差分がディスカウントされる。

2016年7月25日 ガツガツしない

[ラジオ動画「プータイシーVS文楽」なんて、アップしてないよ。](#)

「MEN'S ONLY02」の日記6.10が修正されていたり、随筆の「占いて何なのかしら？」を修正したか、後は…

『あり思』第二巻「セヴンスリーワン」が追加され、松山洋と久米田康治が等価がであることが判明。このネタをやりたくて、飛ばし記事的にどんどん存在しない円すいをこっそり小出しにしていた。今日更新したわけではないが、「ジローの横本」の文房具のコーナーには、実際に作図した際の直角三角形がある。

「人生、面白っ！」

面白すぎて、ネームが早く終わった。

夏休みがとれそうだ。

「ガンバレ！ピンポンフォロワー」はなんとか完成するけど、「dramtick picherの輸出」がこんなに遅れると思わなかった。

劇画は二大潮流があって、それぞれ質と量を分担しているまでは、教えられると思うけど、そ

の中間に貸本雑誌「迷路」出身のマンガ家もいる。

ここまで説明するのが、かなり面倒で書く前は皆（読者）を理解させることができるほど、劇画情報にちょっと明るくなかった。漠然としていた。何より手元資料が足りてなかった。

作家で分ければ質を担保する白土三平とその周辺、量を担保するさいとうたかをとその周辺にとりあえず説明できる。この貸本劇画もあれば、貸本小説というものもある。これがアウトサイダー・リテラチャーだったりする。発掘して、押さえないといけない。

ともかく劇画工房が分裂してしまっている事実を目の当たりにすると、トキワ荘作家たちの青春が如何に美しいかがわかる。相対差がつく。仲間割れのドラマを映像化できないのも、理解できる。

26日から30日頃まで、「テクノプロデューサー横井軍平」が無料配信されているかもしれない。Kindleで調べてみてくれ。

2016年7月11日 ミス減らしはお金がかかる

「MEN'S ONLY02」の批評「嘶家とシェラザード」の追加修正がされている。

『トキワ荘の時代』の書評は題名を「寺田ヒロオはどこにいる」にして、半分に割った。半分は本書にコンバートされていることを願う。

随筆「占って何なのかしら？」は修正したけど、大木凡人は漢字間違っただけかもしれない。批評「嘶家とシェラザード」も修正したはず。日記は6.10と6.17をマウスホイールを回転させながら修正。5.17の16×16×16で4096がさらに16掛けることになっているうっかりミスは修正し忘れた。

「ジローの横本」も更新。「横本鯪」は修正したか忘れた。

「横本烏賊」は修正した。

一応、断っておくと、学童社みたいにいつ潰れてもおかしくないように、いつ「お金が無くて更新ができなくなりました。続けられなくなりました」ということがあっても、おかしくない。それはずっと、書いてきたし不況の昨今で、それは仕方ないと私自身は思うようになった。

閲覧者・読者の方がそれを認めるか、納得するかは別だろう。

これからも、続けられるかどうかかわからないけど、たとえば「校正やいろいろな理由で原稿を読んでもらう人がいたとしたら、お金を払わなくても、おジュースを出さなくちゃならないでしょ？ お昼にラーメン出さなくちゃならないでしょ？ 学童社の編集者みたいに出前を取ってばかりいたら、予算がなくなるのよ！」ということで、承知してもらいたい。

黒のセントリー！

マルちゃんは
マーヴェルと
ツーカーなのか



ちょうどカラーリングも
黒と黄色だから

2016年7月3日 謹賀新年

「あけましておめでとうございます」

やってはいけない禁断のギャグから入ったからには、何かあるなと思わせておいて、何もなく、「MEN'S ONLY02」の『トキワ荘の時代』の書評をとりあえず完成させて、次があるかはわからない。

最近『「漫画少年」史』も読んだから書評も収録した「寺田ヒロオさんのこと」を独立させたいけど、取材や資料を洗う時間もお金もコネクションも無い。

テラさんのことを知りたくてよねやんこと米沢さんの『戦後野球マンガ史』や『藤子不二雄論』も読んだら、同じ問題意識を持っていた。

沢村栄治伝説でみんな野球が好きだったのか、似たようなことを書いている。

「MEN'S ONLY02」は日記“「ナンカ変だよね」が「何故か変」”“クインシー譲”“回遊する鮪じゃなくて、潮を吹く鯨のダレちゃん”を修正、日記“アレ？ ジロさんが宇野さんと対談してる？”を追加して、随筆の「十分どん兵衛VSゆで時間半分」も修正した。

今までの更新履歴情報

今までの更新履歴情報はこちら

[MEN'S ONLY02](#)

コンテンツ案内

[書評 A 寺田ヒロオはどこにいる 梶井純『トキワ荘の時代』](#)

[随筆 十分どん兵衛VSゆで時間半分](#)

[ネタ 受賞者](#)

[日記 妖精さんがいなくなっちゃったよ 5.17](#)

[日記 塩パン2.13](#)

もし今、文学者が文読を作るなら、業界のコネクションを総動員して誰がゴーストライティングさせていて、ゴーストライターを誰がしているのか、調べないといけない。



日本放送協会 NHK Eテレ2
0570-066066

5.30 ロシア語圏 池上解説
6.00 政治資金講座 外添
政治とカネどっぞ説明体操
40 Eテレネギズ アニメ
V45にほんごV0655V
7.00 団アブラタモリV
団かっぱVあV暴露
V35 団ゴッドタンV
おそ松さんV8.00 団
蠍川幸雄さん80歳死去
V25 団いない杉東V40
えいごVタモリV離婚

00 団新都市知事 英語がらんこ
15 団引きこもり時々相模
40 団オシマイ・ピン子
50 団平岩紙 ノックアウ
00 団買い物とあそぼ
15 団おとなの失神失禁団
25 団ニュースでドS 設楽
プロレス選挙 50 団明

00 団ロンドンハーツ団
健康でお得ノ回転寿司
狭い場所でお肉を吟じる
45 リトル・ベッキ

00 団N 20 団BS S ダレトク
不機嫌の旅V清原和博
45 団N 20 団不正姉ちゃん団
00 団N 05 団スタバ
満島ひかり魅力に迫る
働きたくなくて熱演ノ
バカリズム 時間の秘密
V清原への手紙2016・
明日へ(ボロもうけ)

00 団N 天 西川史子
70 団大相撲夏場所
「6日目」
V新十面紹介・マツコ
幕内解説・汁ノ海親方
がん手術後オムツ生活

早朝

7

8

9

10

11

0

1

2

3

4

4.20 団添 50 団家族 5.20 団
5.25 団クッドノあさちゃん
日産傘下三菱どうなるスボ
V政治資金でゆえもん
疑惑ぶりぶりざえもん
V蠍川幸雄さん復活V
犬侵入被害何を語る?
V依田中年アスリート

00 清原モーニングショウ
演出家・蠍川幸雄さん
逝去……清原が見た魂の
現場V日米野球招致で
時空を超えてでも約東
だよベッキーノ今日ほ
ウソついたらダメだよ
9.55 痛車の世界 仮想現実
の最新技術がオバマV
西区の千鳥ノズなパン
10.30 団ヒルナンデス 蠍川
幸雄さん死去……稽古の
鬼「世界のノブコブ」
演出魂V家族旅行疑惑
「全力で興奮」愛人氏
V趣味の拘束実態日常

00 団徹子 優しい母から
愛のピンタ片岡愛之助
30 団吹き矢ゲーム 深刻化
施設不足「ヤミ裁判」
実情V仰天山賊々誕生
の背景 1.45 団清原
漫面男 30 団選 いじめ
バイキング 団「2億の
トリックノ源氏物語に
驚いて鼻水ドバツ旅行
3.42 甲鉄城の阿部サダ
50 どきッノ団 衝撃中居
正広が盗まれたク天才
が父のアソコにいる娘
4.50 僕らのヤバイクヒオ大佐

00 団N 30 団選 いじめ
バイキング 団「2億の
トリックノ源氏物語に
驚いて鼻水ドバツ旅行
3.42 甲鉄城の阿部サダ
50 どきッノ団 衝撃中居
正広が盗まれたク天才
が父のアソコにいる娘
4.50 僕らのヤバイクヒオ大佐

00 団N 30 団選 いじめ
バイキング 団「2億の
トリックノ源氏物語に
驚いて鼻水ドバツ旅行
3.42 甲鉄城の阿部サダ
50 どきッノ団 衝撃中居
正広が盗まれたク天才
が父のアソコにいる娘
4.50 僕らのヤバイクヒオ大佐

番組コーラ
テレビ東京
03-5470-7777

4.18 墓ダネノ 23 団ス
5.45 団N 國村集一魔戒烈伝
6.40 団山賊の娘ベッキ
Vにらみあう女将たち
7.05 おはスタ……でも約東
だよベッキーノ今日ほ
30 団ウソついたらダメだよ
主婦の借金苦トラブル
00 団阿部サダモリXY&Z
パーキンソン病の治療
15 団韓流「アメトーク6
ガンダム芸人に潜む闇
V早子先生、牙狼する
って本当ですか? ば
9 古代インド 芸能界に
28 衝撃……蠍川幸雄氏80歳
死去・ママたち育てた
スタジオから結婚中
イナオシ松重豊が登場
Vクヒオ大佐V虎ノ門
市場・サバのアイノカ
11.13 団N スターシーヤネ屋
35 団N 厳選いいミヤネ屋
50 団N ジリ貧旅 結婚詐欺湖
被害のお手軽シジミ汁
V聞きにくい事を聞く
0.55 アニメ・精霊の守り人
私密売できない人じゃ
なくて、しないんです
1.50 団N 映画「エクソシス
ト」(73年ニッポン)
ウィリアム・ベッキ
キン監督 エレン・バ
ース 団N マックス
・片岡ノ・愛之助
3.55 L4 Y O U 国家建設
満載ノ被災地ウラ散歩
イザベラ・バード横丁
4.54 団N 7 時のコンサート

00 団阿部サダモリXY&Z
パーキンソン病の治療
15 団韓流「アメトーク6
ガンダム芸人に潜む闇
V早子先生、牙狼する
って本当ですか? ば
9 古代インド 芸能界に
28 衝撃……蠍川幸雄氏80歳
死去・ママたち育てた
スタジオから結婚中
イナオシ松重豊が登場
Vクヒオ大佐V虎ノ門
市場・サバのアイノカ
11.13 団N スターシーヤネ屋
35 団N 厳選いいミヤネ屋
50 団N ジリ貧旅 結婚詐欺湖
被害のお手軽シジミ汁
V聞きにくい事を聞く
0.55 アニメ・精霊の守り人
私密売できない人じゃ
なくて、しないんです
1.50 団N 映画「エクソシス
ト」(73年ニッポン)
ウィリアム・ベッキ
キン監督 エレン・バ
ース 団N マックス
・片岡ノ・愛之助
3.55 L4 Y O U 国家建設
満載ノ被災地ウラ散歩
イザベラ・バード横丁
4.54 団N 7 時のコンサート

00 団阿部サダモリXY&Z
パーキンソン病の治療
15 団韓流「アメトーク6
ガンダム芸人に潜む闇
V早子先生、牙狼する
って本当ですか? ば
9 古代インド 芸能界に
28 衝撃……蠍川幸雄氏80歳
死去・ママたち育てた
スタジオから結婚中
イナオシ松重豊が登場
Vクヒオ大佐V虎ノ門
市場・サバのアイノカ
11.13 団N スターシーヤネ屋
35 団N 厳選いいミヤネ屋
50 団N ジリ貧旅 結婚詐欺湖
被害のお手軽シジミ汁
V聞きにくい事を聞く
0.55 アニメ・精霊の守り人
私密売できない人じゃ
なくて、しないんです
1.50 団N 映画「エクソシス
ト」(73年ニッポン)
ウィリアム・ベッキ
キン監督 エレン・バ
ース 団N マックス
・片岡ノ・愛之助
3.55 L4 Y O U 国家建設
満載ノ被災地ウラ散歩
イザベラ・バード横丁
4.54 団N 7 時のコンサート

00 団阿部サダモリXY&Z
パーキンソン病の治療
15 団韓流「アメトーク6
ガンダム芸人に潜む闇
V早子先生、牙狼する
って本当ですか? ば
9 古代インド 芸能界に
28 衝撃……蠍川幸雄氏80歳
死去・ママたち育てた
スタジオから結婚中
イナオシ松重豊が登場
Vクヒオ大佐V虎ノ門
市場・サバのアイノカ
11.13 団N スターシーヤネ屋
35 団N 厳選いいミヤネ屋
50 団N ジリ貧旅 結婚詐欺湖
被害のお手軽シジミ汁
V聞きにくい事を聞く
0.55 アニメ・精霊の守り人
私密売できない人じゃ
なくて、しないんです
1.50 団N 映画「エクソシス
ト」(73年ニッポン)
ウィリアム・ベッキ
キン監督 エレン・バ
ース 団N マックス
・片岡ノ・愛之助
3.55 L4 Y O U 国家建設
満載ノ被災地ウラ散歩
イザベラ・バード横丁
4.54 団N 7 時のコンサート

00 団阿部サダモリXY&Z
パーキンソン病の治療
15 団韓流「アメトーク6
ガンダム芸人に潜む闇
V早子先生、牙狼する
って本当ですか? ば
9 古代インド 芸能界に
28 衝撃……蠍川幸雄氏80歳
死去・ママたち育てた
スタジオから結婚中
イナオシ松重豊が登場
Vクヒオ大佐V虎ノ門
市場・サバのアイノカ
11.13 団N スターシーヤネ屋
35 団N 厳選いいミヤネ屋
50 団N ジリ貧旅 結婚詐欺湖
被害のお手軽シジミ汁
V聞きにくい事を聞く
0.55 アニメ・精霊の守り人
私密売できない人じゃ
なくて、しないんです
1.50 団N 映画「エクソシス
ト」(73年ニッポン)
ウィリアム・ベッキ
キン監督 エレン・バ
ース 団N マックス
・片岡ノ・愛之助
3.55 L4 Y O U 国家建設
満載ノ被災地ウラ散歩
イザベラ・バード横丁
4.54 団N 7 時のコンサート

この頁は は、は、の広告だよ
は、
やわらかさ 一番
弾力 一番
赤、
金、
ロケット 一番

は、
容量 一番
は、
ロケット 一番
は、
金、
ロケット 一番

BS4 BS朝テレ
03-6215-4444

4.00 団N 暗殺 団N パナマ文書
8.00 新座頭市 団N 麻薬
10.00 ガイアの元気TV
0.00 団N 純情派 団N 教育熱
1.00 団N ドラマ 団N フナ
2.00 団N と姉 団N ミス 団N 28
4.00 団N USA 団N 野球 団N 東京D
6.00 団N 巨入 団N ヤクルト
桑田真澄V勝新先発ノ
(8.53~最大10.00まで
142ch 表現の自由)
9.00 車港のギズナ歌合戦
池上季実子 団N ジヤガ 命
10.00 団N 天オノ 団N 鑑士 団N 騎威
中国・北朝鮮への心旅
中井貴一 団N 旋風 団N こま
11.00 きみまろ 団N 30 団N 下ろ
0.00 鬼平 団N 2.30 団N 窓際太郎 団N

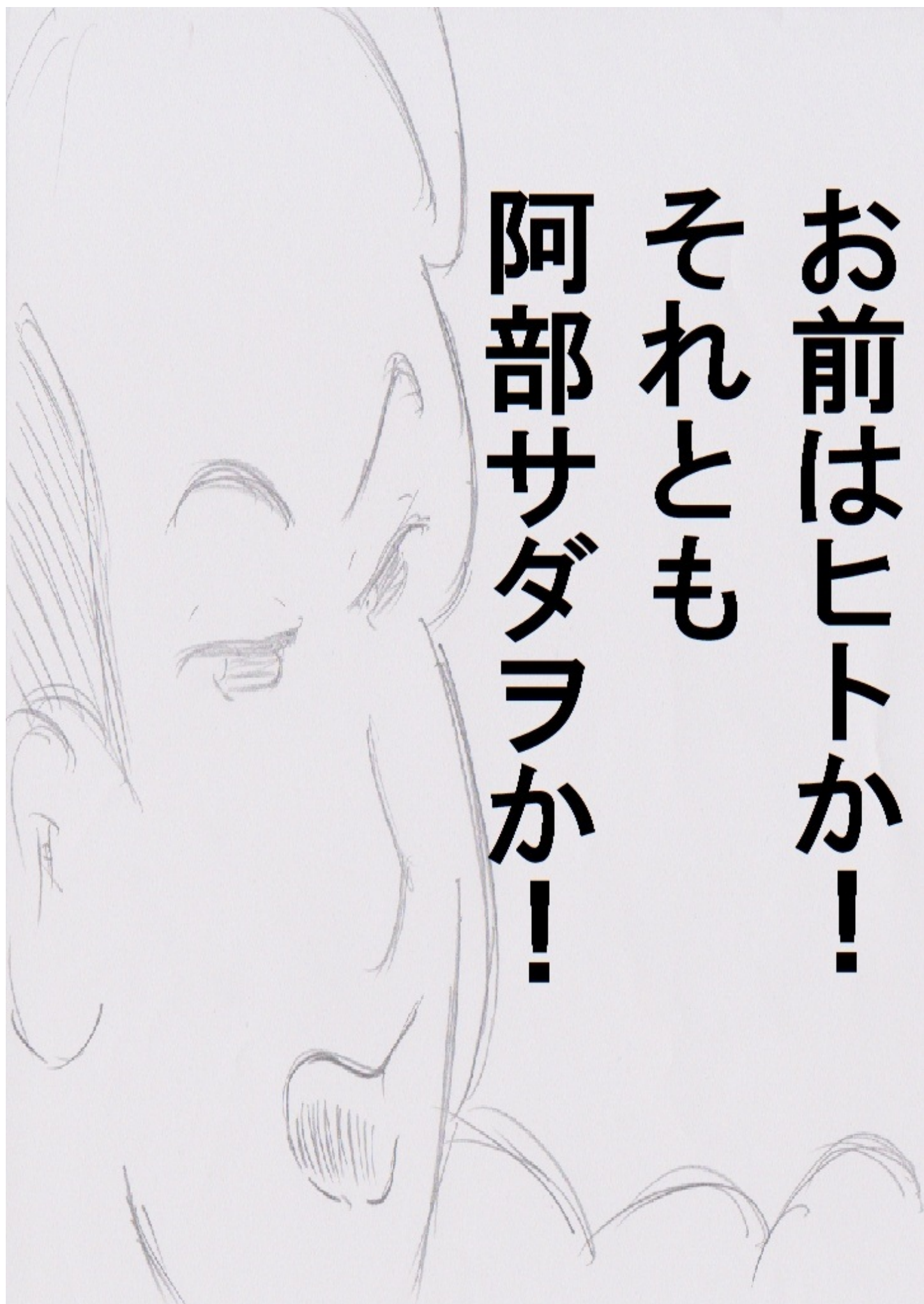
BS24 BSバカパー!
0120-163241
【☆無料】引き継ぎ 団N
7.00 御朱印 団N 30 団N 哀悼……マカ
8.00 秘密 団N 理想 団N 団N UCL
11.30 夕酒場 ハイライ
0.00 団N スカパ 団N 団N ☆ザ
2.00 相棒 2015「かたせ 梨乃
×酒場放浪記」 団N 清原
5.00 ☆最新 団N 風俗 団N 店に 団N 潜
5.55 ☆ニ 団N ス 団N 松平 健
8.00 (録面) 団N 30 団N 泉 団N ピン子
9.00 団N 保青 団N 團 落ちた…… 団N #48
「覚せい剤におぼれたく
壮絶すぎる窓際太郎
10.00 団N シ 団N ネ 団N ト 団N ポン 団N キ
11.00 団N 韓流 団N ヤ 団N シ 団N ゲ 団N B 団N J 団N ちゃん
阿部サダモリ 団N 5 団N 人 団N 体 団N 制
1.00 団N ス 団N カ 団N パ 団N 団N ☆ 団N ザ
3.00 団N サ 団N 出場 団N 試合 団N 「 団N ダ 団N ラ 団N ケ 団N ル
団N × 団N 上 団N 手 団N に 団N 裁 団N 陪 団N 判

番組ラテ欄のカラー・ジュ

お前はヒトか！

それとも

阿部サダヲか！



どちらでもない！
阿部サダだ！

午後3.42から始まるショートギャグアニメ
『甲鉄城の阿部サダ』のオープニング
大人計画の一社提供だろうか？



随筆ネタ批評書評

今頃、皆
無名ちゃん
に夢中だよ



アニメージュでの
荒木哲郎の発言

一応、引用があるから批評というカテゴリーにしている映画批評である。

私の好きなアニメ映画の話だ。

二つの風を起こした人、のことを書こうと思う。

中野晴行の本で、こういうことが書かれている。

手塚は、アニメ『西遊記』の構成を考えている段階では、孫悟空のガールフレンドとして登場する憐憐という猿を最後に死なせてしまうつもりだった。三蔵法師を守る旅を終えた孫悟空が故郷に戻ると、そこには待ちくたびれて死んでいった憐憐のお墓があり、孫悟空がその前で泣き崩れるという設定だ。

手塚好みの悲劇的なエンディングだが、スタッフからは反対の声が上がった。当時、学生アルバイトとしてスタッフに加わっていた某氏などは、それを聞いたとたんに手塚治虫はもうだめだ、と思ったとも言う。

中野晴行『そうだったのか手塚治虫』祥伝社

この学生アルバイトが、どうやら宮崎駿らしい。

今、手元に『宮崎駿全書』が無いので、記事末に後日調べた内容を、たぶん、多分記す。私は反宮崎駿だから、手塚の真似をもちろんする。この点はわざわざ書くことではない。宮崎にストローを刺してスポイルしているだけだ。

このバイト君が宮崎駿として仮定すると、手塚批判としてはディズニーの『バンビ』そのまま（母鹿が雌猿になっているだけ）だったり、批判する感情はわからないでもない。

しかしこの孫悟空をアシタカに見立てることができたら、意外にも『もののけ姫』の種映画かもしれない。憐憐がエミシの里に残してきたカヤで、そのカヤから送られた黒曜石をアシタカが受け取るように、実は手塚を引き継いでいたという意地悪な見方もできる。

アシタカは西方に行ったきりの孫悟空としたら、『シュナの旅』のシュナは憐憐が地元にいない孫悟空である。そして、死なない生ける憐憐が宮崎アニメのヒロインたちであった。

だが、最後の作品だから出来たのだろう、『風立ちぬ』のラストシーンは、原作にある『菜穂子』通りだけど、メインキャラクターが『西遊記』の原プラン通り、亡くなる。彼女の起こした風で試作機が空を飛ぶ。“風立ちぬ”とは、「風が吹いた」の古語的表現（修辞）らしい。

禁じ手を繰り出す。プロ棋士が引退戦最終局面で二歩を出したようなものだ。あるいは、競技人生晩年を迎えた白鵬ということか。

それから西村プロデューサーの発言は、実は女性を体よく使ってきた、スタジオジブリ史の暗黒面を体現している。

要約はこうだ。

「男子は理想主義、女子は現実主義。理想主義でないとファンタジー映像はできない」というような発言をしたらしい。（原典を調べてね）

そんなこと言ったら、原作を提供したダイアナ・ウィン・ジョーンズやアーシュラ・K・ル＝グィンは現実主義なのか？ 国内の三羽鳥と言われる作家たちはファンタジー作家として、ダメなのか？ 小説は映像作家とかけ離れるのか、西村の発言は、ジェンダー的に見て単なる偏見だろう。

ジブリ出身じゃない松本や山本には、ファンタジー映画を作れないのか。

日本では長年の不況で女性が地位向上、男女平等になるのを諦めた。

バックラッシュも起きた。自由の檻に入らず、自ら檻の中の不自由さを積極的に選ぶようになり、やがて専業主婦になれるのがいいことだと、思うようになるぐらい生活水準が下がった。

「生活が大事」という党が生まれるように、解放よりも檻の中でエサが来るのを待つ、それは理想主義である。どうせ社会に出ても、ホワイトカラーのような中労働と高収入を得られないなら、専業主婦でいい。それで椅子を争ったら必ず脱落するのは眼に見えている。

現実主義は夫婦共働き二人で子育てする、不況下の平均にとっくの昔に対応している。順応できない者は生存婚も出来ずに貧困層の高齢者になるだろう。夫婦世帯も貧困層にならないために、子供を諦めてますます少子化になるだろう。

映像作家は性差的なものはなく、個人の資質だろう。それと日本の映画会社に女性がキャリアアップして映画監督になる、階梯が用意できていないのだろう。

ボーヴォワールの『第二の性』での主張と同じく、個体差であって性差の違い、個人の向き不向きだろう。基礎的な誤りだろう。それから宮崎駿と映画を作る能力を比べたら、誰だってひとたまりもない。二番手があまりにも離れている。

その二番手がたまたま、愛称「鷹」の米林宏昌だっただけで、別によけいなことをいわなくていい。

それにしても、これはブーメラン発言だろう。高畑勲批判だろう。

現実主義と言えば高畑で、日本で十指に入る実存主義者だ。ボーヴォワールのガールフレンドと嗜む、実存的透明性を持っているわけじゃない。

こう考えるべきである。高畑監督のプロデュースをして、「もう現実主義者は嫌だ！ もう懲り懲りだ」と、思想改造されたのだ。偏見と先入観の持ち主に堕して、楽しいなあ。

ともかく映画のラッシュフィルムが出来ない、実存的現実主義者。鈴木敏夫はジブリの生産力は月五分と言っていた。たしかに二年間の製作期間で『もののけ姫』が出来たが、それが『かぐや姫の物語』では五年を要しているから、月二分だ。プリプロダクションも、五年ほどかけているときく。

高畑勲の百二十分どん兵衛である。（このセンテンスでひとわらいできれば、この四分の三ぐらいエッセイという名の悪口、四分の一の批評はいらない。後の似非批評はいらない）

高畑の現実主義、ヒルダにスパイとして報いを受けるが、宮崎のヒロインは最終作までけて死ななかった理想主義である。ただの相対差かもしれないが、わかりやすい差だ。

宮崎が『ホルス』の監督なら、ヒルダは助かっただろう。それを『風立ちぬ』では、国内法で著作権が切れているから、菜穂子さんが生き残る改竄をやっても別に誰かが法的に異を唱えなかったはずだ。

西村の発言から、『かぐや姫の物語』はプロデュース失敗するのは、目に見えていたのだろう。

本来、ジェンダー童話ではない竹取物語、「虫愛る姫君」と同じ、ロールモデルの姫をズラした話（これはオデュッセイアのパイナキアの王女と同じ）なのに、むりやりジェンダー童話として作り変えて、うまくいくわけが無い。本来滑稽話的で、ズレているから面白い。氏素性が由緒正しき姫ではなく、竹から生まれたおなごが京に出て貴族として振舞うなど、本当はもっての他だと、平安時代頃は受け取っていたと思われる。（階級制度にクラッキングをかける悪だから主人公がタイトルの名にならない？）

ジェンダー童話の『クレバープリンセス』を皆が見れるファンタジーアニメ映画にした『アリエテ姫』とは、反転させたことをしている。片渕須直監督は、高畑監督の下にいた名監督だ。

だから、『かぐや姫』には、風が立たなかった。

竹取物語をジェンダー童話にしてアニメ化しても、客が入らない。万人向けしても、別に客が入るわけじゃないが。

話は飛ぶ。

「風が立った」

二木さんはメーヴェを飛ばしてくれた。八谷和彦が飛ぶ前に、ジブリアニメに風を立たせた。

手塚の中にも、それは内包されていて、たぶん中性（アトム大使）、その中性から女性（サファイア）になったと思われる。単に少女が読む雑誌から依頼がきただけかもしれない。

そこから、ナウシカ幻想が生まれたのは、

安倍政権が小泉政権を引き継いだフェミニズムの偽装であるのは、見ればわかるだろう。一億総活躍と言って、ブルーカラーとして女性をこきつかいだだけだ。

偏見や先入観で見ると近親憎悪。

ミリタリーが好きなのか、反戦平和で女性解放なのか、どっちつかずで、よくわからない。

安倍政権の言っていることと、実は表裏一体、悪弊というコインの表と裏だ。むしろ、安倍晋三に宮崎アニメの影響を感じる。奥さんなんて、自分の事をナウシカという自意識を持っているかもしれない。

ホワイトカラーの求人は男性でも足りないのが実情なので、ブルーカラーの仕事を「英雄的」と騙して働かせていたのは、ブルーカラー的労働力だけほしくて、ホワイトカラーにはさせない日本のどの企業と変わりはない。有名なところだと、勝手に受け手が幻想をもってしまい、それはスタジオジブリでも変わりないと信じたくないのだろう。（監督というホワイトカラーにしなかったのは「現実主義だから」なんだろうね）

さらにデジタル機器の導入で本質的にはブルーカラーなのに、グレーカラーになっていくと、自分の立場がわからなくなる。

軍国婦人になるしか女性解放されない、現実を言葉で騙している。

極めて有能な軍国少女がナウシカだ。ミリタリーの負債を引き受けてくれるパイナキアの王女だ。（たとえとして「大藤信郎の娘」と書こうと思ったが、何かためられるので止めた）

成人男性のオデュッセウスコンプレックスが、宮崎アニメの売り物だった。英文に置き換える

とユリシーズ・コンプレックスだけど、ジブリというトロイの木馬だったのかもしれない。

大人になるためには、ジブリから卒業する。そうしないと、こういうことに脱却できないだろう。

ともかく西村プロデューサーの発言があったことでわかったのは、道理で二木真希子さんが映画監督をできなかったわけだ。「女性は技術職に向かない」という偏見に満ちた発言者とそんなに変わらない。

映画監督に性別役割分業は無い。

スタジオジブリ制作でアニメ映画の『精霊の守り人』を、二木さんが監督で観たかったというのは、私だけでなく、いろいろな人が求めていたことだったと思う。

絵が描けるだけではダメで、音響演出（磨みたいに消音演出をただ真似すればいいわけじゃない）、コンマを切る映像制作技術、スタッフの人心掌握（という名の管理監視「共産圏の密告制度」を想像せよ）、デジタル化以後にデジタル処理する撮影制作の進歩と変化に対応する（ポニョで全否定）。これをこなしていた宮崎が監督したものに、二木さんが優るわけがない。

あるいは、「あそこは依存で成り立っている」と庵野監督は発言しているが、それは尤もなことだったのかもしれない。映画監督として激務をこなせて、なおかつ任せられる人間が数人しかいない中で、そんなトップの人物に依存するのは組織として仕方ない。

他にも、営業で「なんで主人公はブタなんですか？」を百回聞かれる地方巡業、ジブリの地方の映画館から売れるという営業手法上、とらざるを得ない地方メディアの露出（ドサ回り）で、「なんで主人公は中年女性なんですか？」を二木さんは百回聞かれるのは、いやだったと思う。死ぬほどつらい。宮崎駿は『紅の豚』以後はドサ回りをやめてしまう。

善人宮崎吾郎だから、イヤな顔せずできるのである。

そういえば『ゲド戦記』はボーイミーツガールを、ガールミーツボーイに編集しなおしたら、面白いかもしれない。

そんなことは、どうでもよろしい。面白くなるに決まっている。（残念だが面白くなくても何も責任は取らない）

我々は手塚を思い出さなくてはいけない。手塚のマーチャンダイジングとしての海外売り込みと大藤信郎が海外の映画祭に出品するのは、大きく違うようだ。

大藤さんが海外に発信していくのは、漢字の『鯨』のプリント（説明不要だと思うがマスターフィルムからコピーした上映用のフィルムテープ）が海外にあれば、ひらがなの『くじら』をわざわざ戦後にリメイクしなくてもよかったかもしれない、という悔恨だろう。

現存するテレビアニメ最古の単発アニメ「もぐらのアバンチュール」は見つかった（見つかるまで所在不明だった）。海外にプリントが出ていれば、『鯨』は戦後になっても見れた。それが大藤の動機だったと思う。何が大藤と円谷英二を分けたのかは謎だが、戦中の作品が残っているか、いないかかもしれない。

論文では国内での賞レースに破れて、お姉さんに海外で認められた方がいいと、海外進出を促されたい。もうひとつ風が立っていたのだ。

失ったモノクロ影絵アニメ『鯨』のマスターフィルムは空中分解した試作機と同じく、カラー

で作り直した影絵アニメ『くじら』はゼロ戦だ。

ありえない機体構造と、影絵ではありえない色彩。

それでカンヌ映画祭の大藤作品の出品により、ジャン・コクトーやパブロ・ピカソが絶賛していると、当時の読売新聞社の週刊誌の増刊の記事に書かれているらしいが、これはデマゴギーの疑いがある。

大藤を取り扱った論文では、さすがにここまで踏み込んだ発言は無いが、海外に観光ビザも出ない時期だと、その懸念がある。国内にいたら裏取りできない。

大藤作品をコクトーやピカソが本当に褒めた、裏取り（第一次情報）が無い。論文執筆者が困っている。

当時の海外事情は労働ビザがなんとか降りる特派員の情報に頼るしかないのである。その時代の情報だと、かなり怪しい。

読売新聞はおそらく朝日新聞と同じ体質がある。そういうことが窺える。

子供をポケモンの記事でエサを撒いておいて、読みたくも無い新聞を読ませる魂胆なのに、ポケモンGOが流行れば、事故報道や危険を喚起するだけでいいのに、悪意ある記事を書く。本当にポケモン竜王戦の共催として、ビジネスパートナーであるべきなのだろうか。清武さんみたいに外に出すべきだろう。（なんだか移民排斥運動する人と同じことを言っている気がしてきた）

ともかくポケモンのブランド性をスポイルしているのだ。私が豚面の人物の頭にストローを刺して、口で吸ってネタをスポイルしているようなもの。田尻智さんの生物多様性の豊かさや、フリークス（奇形）も認めていこうという寛容を、まったく理解しない原作破壊である。強調するがこれでは宮崎駿の自画像のブタの頭にストローを刺してデザイナーズペットがスポイルするのも文句は言えない。

ともかく確定的ではない、海外の評価があやふやなため、こうしたことが、大藤さんの著作権が切れているから、子供向けの時間帯に放送されたりしない（昔から言われている子供向けではないエロチックな表現はある）ことの片方の理由だろう。

もう片方は「マレー沖海戦」などが、反戦平和主義者の眉をひそめるためだろう。現在のリミテッドアニメーションの起源的手法が見受けられるので、まったく低品質の国威発揚、プロパガンダ映画と切って捨てると、アニメ史がよくわからなくなる。

円谷の大ヒット作『ゴジラ』クラスの作品を作ることが出来なかったためか、業界以外には荻村伊知郎のように忘れ去られている。卓球で荻村杯があるのように、大藤信郎賞がアニメにはある。

海外にプリントが残っていたらというのは、別に私の妄想ではない。

後に失われた「ミドロが沼」（「みどろが沼の怪人」とも）のプリントが発見されている。英語吹き替え版『アストロボーイ』のプリントが残っていたのである。

国内の日本語マスターフィルムは、手塚が捨てたとされる。それも放送に穴をあけないために、スタジオ・ゼロに外注（下請け）しておいて、フィルムの出来が悪いからという理由で、廃棄したと噂される。

手塚の外道ぶりがわかる。

「これは酷い。あまりにも酷い」

非道い。

でも海外にプリントが残っていて、本当によかった。『鯨』の上映プリントが海外に残っていたぐらい、よかった。

子供の頃は虫に悪いこと（手術して延命させられると思った狂気）をしたかもしれないが、大人になったら自分を師事するマンガ家たちが頑張って寝ずに作ったフィルムを捨てるなんて、あんまりである。

それよりも、手塚を思い出すとき、大藤さんのことも思い出してほしい。

まるで手塚を思い出すように、大藤さんを思い出してほしい。

大藤さんの菜穂子さんである、お姉さんのことも。

そして、久石譲の「旅路」を聴いたら、まるで手塚を思い出すように二木さんのことを思い出してほしい。

「マレー沖海戦」を作った以上、優等生を気取らなくてはならないNHKでは朝の連続テレビ小説にはならない題材だ。だからこそ、八重さんは堀越二郎が目指した航空機の形容詞の如き人なのである。

1959年（海外渡航解禁の年）頃に手塚は東映の嘱託となり、翌1960年前後はまだ宮崎駿は学習院大学の学生だったはずだから、一応学生アルバイトをしていたのだろう。『宮崎駿全仕事』には書かれていない。

個人的には大藤信郎賞を取るために「八重さんの千代紙（仮）」を作りたい。この随筆（引用があるから批評だがアニメ随筆である）のテーマは「大藤を支持することは高畑宮崎を否定する」ということ。

無意識は宮崎駿かもしれないが、自意識として大藤信郎を私は選んだ。イバラジャンルである。それから『君の名は。』の原画スタッフに二木真季子さんの名があったら、遺作の一つかもしれないので、見てあげてほしい。



東京郊の職員

読者へ大切な通知

パンティと書かれていた場合これからは「ズボン」と読もう

パンティと
書かれ
ていた場合
「ズボン」と
読むんです



COOL VUPARI
スペル違っただろ
何々番組に
出る時のふくさう

これで岡村ちゃんの歌詞も「君のズボンの中でバタフライがしたい
よ。バタフライがしたよお」と……本当に女子禁制にしてよかった。

テラさんは藤子不二雄両名とたった二歳しか違わないが、戦前派にカテゴライズされるのではないだろうか。このように考えるのはテラさん自身が『新宝島』を読んでショックを受けた資料を、私はまだ読んでいないからだ。

90年代初頭はまだ、戦前マンガのラインナップは『のらくろ』や『フクちゃん』で、発掘がまだ進んでいなかった。21世紀に入る頃から、製版技術が上がって本を裂かなくても製版が出来て、復刊が進んでいった。これによりテラさんのマンガ著作が近年、徐々に復刊されて現在でも読めるようになっている事情がある。

神田神保町古本屋街を中心に全国の本市場で資料を漁る研究者もいる。唐沢俊一の場合、研究の側面は面積が小さく、純粋にコレクションのために貸本劇画を集めていただろう。火星探検しているのではなく、汽車旅行のつもりだったと思う。大城のぼるの作品名を挙げているが、実は戦前でも映画的な手法はこのようにある。

米沢嘉博の指摘や続くマンガ研究者の検証で、ストーリーマンガとしての叙述性が、『新宝島』の評価であり、おそらく刷新されず、マンガ研究の外に出ずに今日まで来ている。手塚のキャラクターの所作についても、宮本大人が加藤てい象を発掘し、夏目房之介「手塚治虫は生きている」で触れ、伊藤剛『テヅカ・イズ・デッド』まで続く。

赤本でデビューし、学童社に拾われた手塚は戦前から戦中にかけてのマンガの進歩と停滞を知っているのである。

問題は新宝島ショックのようなものを次世代の作家たちに与えなかった。そして国威発揚の内容ばかりを描かされるので、戦中マンガのミッシングリンク化が起きているようだ。

正確には、戦火を逃れた手塚治虫は影響を受けている。初期SF三部作は『火星探検』の影響があると「マンガ夜話」での手塚特集で指摘されている。

当時、たくさんいた漫画の影響を受けた人たちは水木しげるのように、戦地に送られる。だから戦中派がすっぱり抜けて、戦前派は国策的に戦意高揚の漫画を描かなくてはいけない時期を過ごした。

検閲があり、国威高揚を目的とした展開を大城のぼるも横山隆一も求められた。しかし言論統制で『のらくろ』は「ふざけて軍隊を描いている」との評価から、41年に「少年倶楽部」の連載を終了させられてしまう。これをテラさんは知っていただろう。

長くなったので、ここからはどこかに転載

兄になりたかった人

[パブー版](#) [アマゾン版](#)

マキタスポーツ氏の提唱した「どん兵衛に湯を入れて五分ではなく十分待つとうまい」という、略して「十分どん兵衛」は公式に日清に認められて、コマーシャルにも「十分どん兵衛って、知ってる？」とお侍さんまで言うようになっている。

長らく停滞していた時代劇に新風が舞い込んだようだ。

これは春日太一さんも一筆を取り、更科さんにクサされるだろう。新日プロレスのようにエース級二人がアングルとして争うことで客を喜ばせる。花道から登場するとき、棺が運ばれてきて中から更科さんが出てくる。そして春日さんの自宅を襲撃して強奪してきた絶対にもう再販がかからない大切なグッドスマイルカンパニー15周年アニバーサリーで出した木之本桜のフィギュアを破壊するような我々の心の奥底に住まうプロレスファンを揺り起こしてほしい。

どこをどう歴史修正主義したのは、[「十分どん兵衛VSゆで時間半分」](#)を読んでもらいたい。

「最近、閲覧数が減ってきているからメジャーなことでもしよう」

ということ自体、太宰治の心中商法にひっかけている。

ドナルド・トランプの炎上商法、「日本と韓国の核武装を認める」と言っているが、実は「私が大統領にならなかつたら、そうなる。でもトランプが大統領になったら、もう安心だ！ 心配ないぜっ！」みたいなことを言って、低所得の頭の悪いアメリカ人に支持をとりつけているのではなく、前の方の部分しかとりあげない頭の悪いマスコミに向かって言っているように、戦術戦略である。

80年代ぐらい、かなり前に出した本（『トランプ自伝』）に、そういう方法でコメントすればマスコミが食いつくと、語っている（裏取りはしていないがおそらく語りおろしだろう）。

もちろん留保の点は報道されない。

三島の美学を語るときの研究者が何度も「自分は同性愛ではない」と留保するのを思い出す。こちらはわざわざ、「たとえあなたが同性愛者でも、排斥したり差別したりしないよ」と、当たり前のことを言わなくてはいけないのだろうか？ と思ってしまう。

メディアリテラシーを持つと、トランプの炎上商法に踊らされているマスコミが悪い。つまり低所得の頭の悪いアメリカ人はそもそもいないのかもしれない。正統な共和党議員が党員に支持されていないのもあるが、マスコミが自分たちが指弾されないために作った虚構に誘導しているのでは？ なんて珍説も唱えたいくなる。

だから、「戦後、日本文学は存在しない。あるのはアメリカンクレオールだけだ」と書いたりして、わざと物議を醸そうとはしない。最もアメリカン・クレオールとして成功したのは二人のレイモンドの掛け合わせ・村上春樹であるとか、そういうことは知らない。

私にとっては「太宰治よりも寺田ヒロオだろう」「同時代作家としての鴨志田穰だろ」と思っているので、太宰の文学的評価は、正直興味は無い。話題に出した寺田ヒロオは太宰の心中死に衝撃を受けたのか、『「漫画少年」史』の巻末の年表に昭和23年のこの出来事を記している。特筆すべきことだったのだろう。

問題は、太宰の批評や評伝はコンスタントに出ている。

つまり売れ線だ。

生家など斜陽館として観光資源にすらなっている。

そうした太宰の魅力とは何だろうか、肉迫せずに遠くから眺める程度の野次馬、その態度は文学者としてどうなんだと言われると、こちらは現代文学者だから、良いのである。

まず、太宰治については、かいつまんだ情報を辿ることになる。

彼の筆名は、大宰府に左遷された菅原道真を自分になぞらえているとしたら、自意識過剰である。平安時代の悪霊にして、奉られて学業の神様になった道真公が受けた処遇を筆名にするのは、どういうことなのか？ 学問の神にして天神に自分をなぞらえているなら、それはもう、自意識超過である。

ふいんき語りのお三方が宮沢賢治を「妹萌えの中二病患者」と言っていたが、太宰のときは「人間失格、神合格！」と言われていた。自身を道真公になぞらえているのは、ふいんき語りの中では、正しいのかもしれない。

それは、あの、この間見つかった、若者の頃にノートに書きつけたものがさらされ、エリート自意識の中二病患者と言えるか、評者によって違う。（さらすのやめたげて、などのキャプションが画像に）

実際は青森の豪農に生まれ、それなりに有能であり帝大に入るが、ドロップアウトして勘当されてしまう。国家官僚となり諸外国との競争で勝たねばならないエリートになれなかった男。本来エリートになるキャリアを積んでいたのだから「自分はエリートだ」という、自意識を持っていたと考えられるが、これは正確ではないだろう。

作家になるが、芥川賞を欲しがる欲の深さが毛嫌いされたのか、賞レースからは遠ざかる。現在でも賞レースに勝ち残れなかったり、また芥川賞を取っても仕事、文芸誌にコンスタントに小説が載るみたいなことはない。それでも国内評価では、賞を取らないと始まらない。

芥川賞を取っていない村上春樹は奇形中の奇形で、それは別の誰かが語る論材である。一応後述するランキング依存者に関わる。

自殺未遂や二度の心中未遂事件で衆目を集めるという近世時代に流行った心中騒動を思い起こされる騒動を起こして、知名度を上げる方法が功を奏したのか、それなりの稿料になる仕事もありつける。

少し前の合法ドラッグと同様に合法的に服用できた覚醒剤（商品名・ヒロポン）をやりすぎて、麻薬中毒で入院する。『放浪記』の作者林芙美子も服用していて、心臓に悪かったのか、戦後すぐに短命で亡くなる。

やがて太宰は無頼派と言われるようになる。

自分を慕う女学生に日記を書かせることを薦めるが、それは始めからその「日記」をネタに小説を書くために薦めたと言う。この『斜陽』の創作秘話だけで相当な下衆である。

玉川上水で三度目の心中を図って死ぬが、部屋に残されたゴミ箱の中には「井伏さんは悪い人です」と書かれたメモがあったとか、無いとか。

これが資料を下調べせずに、パッシヴ（受動的）に太宰の情報を受けて、私が思い出せることである。もちろん、資料を洗っていけば、覚え間違いや事実誤認があるだろう。（ということで、本書の後の方に「正解集」を付けた）

最近では、それでいいのかもしれないと思う。

一般にはマスイメージしか語られない。

私も太宰の本格的な研究書などを一通り読んで、実像に迫ったものではなく、マスコミに流通するイメージを借りて本記事を書いている。よしもとばななは吉本隆明の娘としか語られない。文学史的な立場や作品の特徴は、語られることはない。ばななさんの作品について語られたものを読んだことがある私にとっては、そのギャップに戸惑うことがある。

ちょっと切っ先を変えるが、ランキング依存という言葉がある。

太宰にとっては、そうした依存者は格好の標的だ。現実、一般的労働者像にはウィークデーを労働八時間と休憩足す通勤、さらに残業を含めたら、読書しているような時間は無い。真面目に人間交際をしていたら、休日は予定が入っているものである。

すると、必然的に今週のトップテンが指標になる。

「今、売れている本の内容だけでも知りたくて」や「映画の興行収入一位だけでも見ておかな

ければ話題に乗り遅れる」ような動機ではなく、忙殺される日常で判断に時間をかけるより、ランキング上位をとりあえず選ぶ。依存というよりランキング時短で判断に時間をかけるぐらいなら、上位で興味が引かれる本を選んだ方が「早い」。

なんらかのランキングはこうした依存者・時短者のためにある。フランス哲学のラカン派の考えで「欲望とは他者の欲望」であり、他人の欲する物（有形・無形）が気にならないと、社会で生活するのに支障を来す。

世の中のブランドに良質を提供することで市場競争に生き残ってきた。どこかでギアチェンジがなされ、知名度そのものが市場競争に生き残ることになる。すると悪名を響かせてでも、とりあえず知名度を上げる方法が有効だ。「欲望とは他者の欲望」にクラッキングをかける。

こうしたマスイメージを作るのが、マスコミュニケーションである。

よしもとばななを吉本隆明の娘としか知らないような人には知らていないマリオの作者、宮本茂さんは名言を残している。「我々は騙されて生きている」と。誰に騙されているかというと、マスコミである。援助交際が流行っていたコギャル世代である姪っ子と久しぶりに会えば、「普通的女子高生」であった。だから宮本さんは子供は皆塾に通っていると報道するのを、騙されてあげている。

騙されすぎると本質と離れてしまう、草食動物はコンラート・ローレンツの『ソロモンの指輪』を読めば、飼育下では雄同士のケンカが起きると、逃げ切れず殺すまで攻撃を止めないことが書かれている。なんだかクラスの中のいじめみたいだが、十分なスペースをとって逃げ切れないと、殺害するまで止めない生態が草食動物の実態だ。

しかし、草食系男子は草食動物の草を食んで大人しいマスイメージを抽出しているのであって、捕食されるから繁殖力旺盛であるとか、実態から抽出しているわけではない。草食動物男子ではなく、草食系だから。草食男子と縮めたあたりから、肉食という言葉が出てきて、異性をガツガツいくのも、肉食獣は全て性的に旺盛ではないだろう。意外に繁殖能力の低い種もいる。（この新語が生まれた記事を読むと肉食中年の対義語的に設定したのが草食男子であるとされる。元々は肉食中年に批判的で若者寄りの内容が、いつのまにか若者叩きに転化している。これが世の流れ）

調度、肉食老人トランプの発言が流通して作られるマスイメージと、トランプのスピーチで語られるのは、「トランプが大統領になったら、もう安心だ！ 心配ないぜっ！」の部分は切り捨てられているようなものだ。これはバラク・オバマの「イエス・ウィー・キャン！」や「チェンジ！」と同じである。「偉大なアメリカを取り戻そう」だ。

本人の本質的な人格よりもマスイメージの先行で期待値を上げて、チェンジのパブリックイメージを作って、アメリカ本土中を巻き込まないと、大統領選挙に勝てない。だからほとんどの大統領は期待外れだ。あれだけの期待をされたオバマでも、出来たことはオバマケアの次が上がらない。逆にオバマの生誕地はアメリカの領土ではない（米憲法上大統領になれない）という妄言を繰り返すバーサーズを取り除けなかったのは、自身にも責任がある気がする。期待を上げたマスイメージを作るのは、狙ったマスイメージだけが流布するわけじゃない。トランプが狡知に長けているのは、それも含んでいるからだろう。

ちなみに丸山議員はバーサーズと変わりなく、無知であり、専門の国際法の法曹に帰ったほうがいい。

少し横道がすぎた気もするが、太宰は知名度が先行、作品は最晩年期の『斜陽』から人気作家となったと言われる。

心中死の二・三年前だから本人が“晩年”である。

多くは彼の小説を読んだことがないが、自殺未遂や心中未遂を起こした人物として、悪評もまた知名度に繋がるため、本人が恣意的に事件を起こしていたようである。

こうしたマスイメージ、それが太宰の功罪の罪の部分、近代文学に先入観や偏見をよく知らない人に植え付けている。

専門のはずの編集者が作家に無頼派をお仕着せして、作家を売ろうとするようになる。笹野頼子さんは講談社の編集者に「未婚の母になれ」と言われ、それを“売り”の作家として振舞えと、よくわからないマネジメントをされる。

自分の子供を「とても育てられない」と中絶するくらい無責任だ。反吐が出る。マスイメージを先行させて耳目を引く、それは文学に力が無いことの証ではないか。

作品の質より、作家としての知名度を先行する太宰戦略である。それは作家個人が自発的に選ばない限り、しない方がいいし、まず成功しない。成功は結果に過ぎない。受験勉強しかしてこなかった無知な高学歴編集者が悪いのか、そもそも日本独自の特殊な作家と編集の関係であるのか、調べないといけない。

太宰のせいで、割を食っている作家もいるのでは？ 戦中から終戦後数年間の死ぬまで、その生前はマイナー作家だったのに、伝説的な人生を送ったために、死後にメジャー化してしまったようである。

海外にもウィリアム・テルごっこをして奥さんを銃殺したバロウズがいるけど、太宰は評価不能のアンチヒーローだ。

プロ野球界で言えば、清原和博だ。

王・長島ではけしてない。村上春樹がイチローとあてはめれば、太宰は無冠の帝王清原だ。ちょうど、薬物に手を出してしまったから、こんな悪趣味じみたたとえもできる。

太宰の評価は、清原の評価と同じになるのでは？

昔から西武ライオンズを応援していた人には、清原が覚醒剤で逮捕されて悲しいように、昔から近代文学を応援していた人には、太宰を評価の裏返しとして同じくらい悲しいと思う。悲しければ、悲しいほど高く評価している。

別に清原を応援していない人にとっては、外野からの野次、「何やってんだ清原！」ではないか？ つまり近代文学好きではない人は、「何やってんだ太宰！」なのである。

私は実はそちらの側である。

現代文学者なんだから。

現代のプロ野球ファン、つまり清原引退後にプロ野球のファンになった奇特な方には、清原はホームランバッターとして認知しているが、それほど思い入れはない。

特殊な事情がなければ、太宰に思い入れは無いのと同じだ。

ところが芸人さんに思い入れが太宰にはある。

それは芸人さんの自意識と太宰の自意識は似ているからだ。

『火花』と接続するのは、そこだろう。しかし、太宰を好きな又吉くんが「火花」で芥川賞を取ってしまい、太宰越えを成してしまう。「尊敬するプロ野球選手は？」という質問にいつ

も「清原」と答えていたプロ野球選手がホームラン王を取ってしまったような皮肉ある感慨に浸る。四百本以上ホームランを打って本塁打王になれなかったのは、清原ぐらいで太宰も同じではないのか。

耳目引く事件を起こそうとして、豊胸手術をする。

90年代までのビートたけしは太宰に同調する部分がある。

もしかしたら、『ドールズ』を撮ったのは、玉川上水の心中事件のちょっとした思いいれ、それをどう表現するかが、いろいろな選択の中で映画にしたのではないだろうか。自分の「太宰性」をフィルムに焼いて封印した文芸路線。『春琴抄』の本歌取りも含めて、そちらの路線であるのは、否めない。

明治大学の理工学部に入るも、“人生を投げる”ために漫才師になってドロップアウトする。これは太宰がドロップアウトしたことに、似ている。川原者と蔑まれる芸人の末路は最近出た『昭和芸人 七人の最後』の書籍にあるように、たとえ一時代を築く超人気芸人も野垂れ死にする運命にある。レイモンド・カーヴァーがアメリカンドリームに見放されたプアホワイトを小説に書いたが、そうした「出世」に見放された側にあえて、身を投じる。

本人の弁で澄み切った青空の日、漫才師になろうと浅草に向かった。

非常に文学的だ。赤瀬川原平さんなら「文学だと思った」ろう。確かに「頼れるものは無し」を漢文にして無頼。北野武は無頼を手に入れてビートたけしになったのだ。まだ近代文学の荷物を仕分けて懐に入れていた。

ところが思わぬ出世の道を登ってしまう。

やがてマンザイブームが起きて、全国にその名が轟き、何故かテレビでレギュラーの冠番組を持ってしまう。時代の要請であったし、たけしさんにそういう資質があった。わかりやすく彼は「天才」だった。しかし、、富くじに当たってしまったような気恥ずかしさがあり、地に足が着いていかない。

バブル期だった「風雲たけし城」は数億円かけてロケセットを作ることが出来た。テレビ番組で大鑑巨砲主義的な番組を作ると、どうしても戦中のような気が大きくなって思わぬ落とし穴にはまるような、そんな思いも冷静に感じていたかもしれない。こんな景気がいつまでも続くわけが無い。

国民文学『坂の上の雲』のように、青空の向こうに、いつの間にか立ってしまった。それは繰り返すが、地に足が着かない。

芸人だから常道を逸したことをやりたかったのか、やがて自暴自棄になってオートバイで公園内を疾走という、尾崎豊なのか、それはそれは大怪我をする事故が起きる。怪我はギャグがすべて転んだ時以外に、芸人さんはやらないでほしい。

入院生活を著した『顔面麻痺』は『人間失格』に近い。

自分から気（ぼんやりした不安）を紛らわせるために薬物を摂取するのではなく、激痛に堪える薬を投与される。「おでんの具」と自嘲してたどえた頭部に串を刺され、その串の金属アレルギーが出ないための薬も投与されただろう。この処置は頭蓋骨が割れているため、頭部の自重で亀裂が広がらないように骨が繋がるまでの、接骨であろう。

人間失格後の太宰とたけしさんの違いは、退院後に分かれている。自分の太宰性を『ドールズ

』で消尽落としのように、朝日のかかる崖の下に捨てたのだ。

バブルの頃や好景気の業界の人は、太宰を意識して、その著作を読むようなことは無い。不況下で会社が潰れるか人員整理の危機感を感じて、「このままでいいのだろうか？」と不安を感じたとき、手に取る作品だろう。人生の「晩年」を擬似的に体験し、「斜陽」に好景気後の没落を読む。

それと近代的国家主義がイヤな人のためにある文学。9割は良くも悪くも国家を肯定している（そうでなかったら運営できない）から、税金を払うなり国家主義を教育に混ぜてわからないように教える（教師の労働組合は抜こうとする）義務教育に子供を通わせるのに疑いが無い。

どうも、そこが読者と太宰（実生活面の側面）が重なる部分、シンパシーだろう。戦後大衆消費社会であっても、太宰が読まれたのは国家主義が嫌いな人のためのマイルドな左翼文学である。

そこでひとつは作品を取り上げるべきだろう。

個別の作品論は、短編「走れメロス」を取り上げる。

これが友情の物語ではないと仮定すると、途端に寓意が狂言の「宗論」めいた問題になる。

契約が正しいのか、王政・王制が正しいのか、どっちに振れているのか、よくわからない。

つまり、戦前の契約による国民なのか、王政復古の明治政府から続く大日本帝国政府が正しいのか、古代地中海世界に舞台を置き換えて、語られている。契約が革命になるかは、同胞の結束が何より大切なら、それは共和主義革命だ。社会契約論が発展すると、共和主義に流れる民衆が増える。神と契約するように、国家と契約する。その間を繋ぐのが、社会契約論だろう。

王様は王政をやめて、共和主義に禅譲したのか？ さすがに気になって、よくないのに「メロス」を直接読んでみたが、それがまたわからない。メロスとセレヌンティウスの仲間にしてくれということは、同胞主義で共和的なものに寄っている。

暴君が王制をやめて「共和制を築く」まで発言したら、特高に捕まっていたかもしれない。国体を蔑ろにした、不屈きな者として転向をするまで軟禁あるいは監禁されていただろう。

しかし、そこまで表現していないから、皆知る作品になっただろう。

体制・政府派、左翼運動側の文壇、どちらにも顔が立つ小説を書いたのだろうか？ キリストの「カエサルのはカエサルに」のように、やりたかったのかもしれないが、うまくいってない。どっちつかずなのだ。

戦前の過激派には、特高に捕まるような作品ではないから、評価されていないのでは？ それで吉本隆明が戦後に「転向した・転向していない」といろいろ言われる作品ではない。

セクト内での評価が低い。

体制派には、無視されただろう。

メロスは川を渡っているが、太宰はルビゴン川のようなものを渡っていない。

セクトには「立憲君主制度なんてやめちまえ」みたいなことを書かないのか不満であり、現体制派にはメロスは徳川家への批判で内部粛清をされた明治維新を迎えられなかった志士たちをなぞらえられるようにして、媚びている。この場合、暴君はとくせんけ、旧体制の徳川幕府だったろう。

いくらでも申し開きが効く、奸智である。その奸智を悟られずに読ませるには、友情の物語という先入観や予断を持たせるしかない。

こういう奸智に長けた人間は嫌われる。ドナルド・トランプである。反面教師にするべきである。だからたけしさんの「自分を反面教師にしろ」は太宰から受けた影響に思える。

高橋源一郎も指摘しているが、太宰の話をしたいのではなく、自分語りをしたい。太宰を評価したいのではなく、自分を評価されてほしい触媒として、選んでいるのが有名（悪名）作家である太宰で、そうなると、太宰の評価はますますよくわからなくなる。だからといって、「永遠に保留し続ける」のも違うと思う。

むしろ、こうした迷路な仕組みを抱えた作家だからこそ、芥川賞も取れなかった埋もれざるをえない作家が、半世紀も後の21世紀になっても、読まれることの「道理」かもしれない。

大衆社会に轟く悪名作家、それが太宰の称号な気がする。

少し切れは悪いが、ここまでにさせていただこう。

ちょっと批評から離れて、『文豪ストレイドッグス』（以下『文犬』・・・もっという略号はないのか）の話でしよう。

マンガ『文犬』で出てくる太宰治は、太宰本人の戯画化ではなく、太宰のマスイメージの擬人化である。

原作側もアニメ製作者も、文学者の擬人化と言っている。

本文に書いた通り、草食系男子は学術的に生態観察した草食動物の本質と同等ではない。だから草食に系をつけている草食系なのだが、この流通する草食のイメージを抽出したように、流通する文学者個人のイメージを抽出しているのである。

繰り返せば、草食動物の本質とは草食系は離れているように、ある文学者の本質（文芸評論を読まないとわからないし、評論でも意見が割れる）とは『文犬』のキャラクターは離れているのである。

しかし、マスイメージからは離れてはいない。

これは全ての擬人化されたものにあてはまるかもしれない。芥川が「映像の世紀」にある木登りするような人物に描かず、自身をやつがれと言う。（・・・実在の芥川は一回も言ったことが無いと思う）

本質・実像とその中間、マスイメージ、さらに中間とマスイメージの間、これが擬人化ではないか？

この作品の登場で、「本のセールスマン」でも「ゴーストキャッチャー」でも触れた「高橋源一郎は娯楽の前衛である」という点は、確定だろう。純文学では次々と商業的な理由からフォロワーが出る村上春樹は前衛であった。高橋はその作風の後継がおらず、異端とされる。（注・ミナ坊と高橋の対談から）

しかし岡田の『世界征服は可能か？』で引かれた『ターミネーター』よりも早くあのネタをやっていたり、『さよなら絶望先生』の前に同じオチを先に書いているのは、「ゴーストキャッチャー」で指摘した。

『日本文学盛衰史』は現代に明治の近代文学者が生活しているという趣向で書かれた文芸作品である。これをリブートというか、一分半で茹でるといふか、あるいは十分どん兵衛している

のが、『文犬』である。誰がダレにたまごっちを所望したのかが、芥川が太宰に同性愛的に求める（普通逆）に変わったのだ。だから、半径10キロ圏内に濃密な明治の小石川区がヨコハマに場所を移している。『日本文学盛衰史』が時間的移送（垂直指向）をしているが、『文犬』ではさらに地理的移送（水平指向）を施している。

純文学の前衛は村上春樹で、彼のデビュー作を読んだら自分が書きたいことを先に書かれていたと、高橋は言っている。村上フォロワーがたくさんいるのは、いろいろな事情があるが、高橋フォロワーが私を含めても福永信ぐらいしかいないことを考えると、「インテリゲンちゃんの教室」で、それは美学を優先した本人自身の責任だということにした。

新左翼の人は自省しないから本人は認めないが。

私の文読の百倍役に立つ答えがある上田万年の評伝『日本語を作った男』で、二手に分かれると書かれている。この書籍を読めばわかるが、つまり森派と夏目派に分かれ、21世紀はどちら側が勝利したか、ここで宣伝工作として「私の『文読』にそれが書かれている」と書くと興ざめだろう。ちゃんと『日本語を作った男』を読もう。

それで勢力が『文犬』では、ポートマフィアと武装探偵社に割れているかという、そうじゃない。森・谷崎、上田・夏目に分かれないと、辻褄は合わないが、そうした実態とは別物なのである。左翼版のドナルド・トランプ高橋なら、そうしているかもしれない。

本質と離れているから、いいのだ。

ダイレクトマーケティングだから、いいのだ。

クソゲーの宣伝紙と思って、あきらめちまいなよ。

でも、多少本質・実像と同じ部分も残さないといけない。中原中也と太宰は同人誌「青い花」の同人である（本当は正解集でやるネタ）。文芸運動では青花派と言われていないように、たいした成果が無いようである。中也と太宰は仲間だったという、設定は作中にある。

本当に反目しあっていたらしい。

そこは本質・実像と同じだ。

同類相憐れむではなく、近親憎悪である。

ついでに中島敦は漢学者のグループに所属して、古代中世のシナを舞台にする小説を書くのは、その影響である。

虎になった李徴の漢詩は七言律詩だけど、ちゃんと押韻しているか、漢学者に聞かないといけない。（樂さんの詩は排律なので別に押韻しなくていい。純粹にからかっているだけである）。タチが悪い。

作中は孤児院にいたが、別にキリスト教的な透谷などのような経歴は、敦には無い。というよりも、キリスト教が孤児院を設けるのは、幼児洗礼するためにある。征服地の戦災孤児をキリスト教徒にするために、こうした孤児院がある。

その話はおいておいて、泉鏡花とは、相関図でなんらかの線が中島と引かれている。

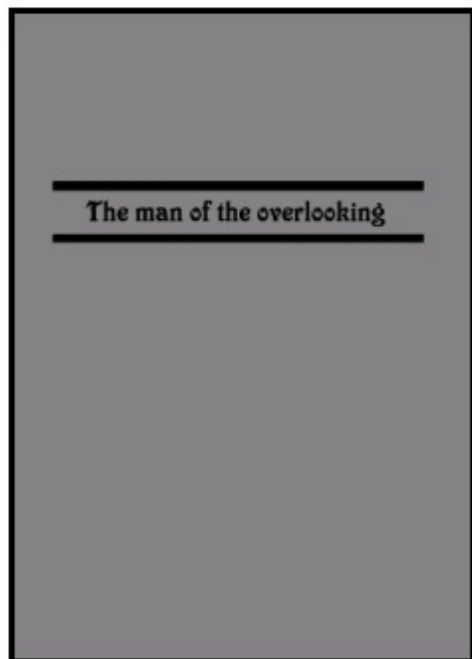
最後に触れるべきは『日本文学盛衰史』の独歩は、結核に罹り命を落とすまでの最晩年期が語られる。啄木が生前に認められずに亡くなるのと同様に、少しさびしい。

そして、せつない。

若くして妻帯していたから、現在子孫がいることに少し慰められる。また、彼らのそうした生前時の不遇もあることが、フィクションの中でも活躍させたいという作る側の動機として、理解

できる。それは高橋も、『文犬』制作陣もおなじであろう。

広告



The man of the overlooking 01~06

ピカレスク
マジシャンズ
ロマン

Architecture Product System

ブクログのパブー

各巻 ¥50

ふと、閲覧数の少なさを気に病むより女性が読める紙面づくり、「女子禁制をやめるために、おちんちんやうんちくんの表現をやめたらどうだろうか」と思ったが、それをやったら自分が自分じゃなくなる →日記「回遊する鮪じゃなくて、潮を吹く鯨のダレちゃん6.17」。「おちんちんやうんちくんですいません」「うんちくんやおちんちんが多い人生を送ってきました」。

お父さんに奴隷として売られ、チバラギ牧場（モデルはマザー牧場）で過酷な労働とゲイビデオ出演で未来が閉ざされたフェイトくん（原作準拠）。24時間働かされるために、清原みたいに目の覚める魔法の粉を吸い、殴られても笑っていられる。（清原の逮捕によってなんて素晴らしい辻褃合わせが出来たんだ。清原さまさまだ）

なんの脈絡も無く忍者にクラスチェンジするフェイトくん。

お父さんに会いに行くためにチバラギ牧場から脱走したフェイトくんは世田谷あたりで路地裏生命体（注・ねつもじを聴いてみて）に捕まってしまう。

路地裏に連れて行かれ、「今日、オレ会社休みだ」「早くしろ！ 次はオレだ」と永野護の持ちネタを披露されながらアスタリスクされ、その頃ぷりぷりトラえもんは居候のくせに金本似の居候先の主人に寿司をごちそうになっていた。

レアポケモンが出没する憩いの場である公園に舞台を移し、イジー・トルンカそっくりの男に小林ゆうの声で、「お望み通り、オレたちでアスタリスクしてやるっ」と足で股を広げられる。

（撮影・川本喜八郎）

「ぼくのちんちんは、お前らのオモチャじゃない！」

スキを突いて逃げ出すが、公園の出口で待ち構えていた東方警察の警官に警棒で二回なぐられ、路地裏生命体に引き渡される。

折りしもその頃、社交の場でアスタリスク（アイマス）を金で買って、アスタリスクさせてあまりの気持ち良さにヘッドバンキングして啓示を受けた力士、銅星阿威に助けられ、行くところの無いマライヒをハーケンが「略取」みたいな展開になる。フェイトくんは助かる。

そこへ近所の草野球で金で雇われたゲリピーが、“休める場所”に入ろうとする二人を見て「児童ポルノ反対！」と言い出し、スーパーマンとバットマンのケンカみたいになってしまう。清原。

銅星阿威と日本をこけ下ろすゲリピーは言い争いになり、エキサイティングしてきた二人の間に立ったフェイトくんは叫ぶ。

「ぼくのために争わないで！」

「ウルサイ！ このソドミーの便所がっ！」（この発言で、ゲリピーがキリストの化身であり、スーパー同性愛者が八百万の神の内力の神が宿った存在で宗教と宗教の戦争である裏テーマが発覚する）

フェイトくんはゲリピーのクギバットで殴られ、元のハッテン場までホームランされてしまう。脳内が同期している路地裏生命体にまた捕まり、イジー・トルンカそっくりの男に石田彰の声で、「お望み通り、オレたちでアスタリスクしてやるっ」と足で股を広げられる。（撮影・川本喜八郎）

その頃、苦戦するゲリピーは空から降ってきたあまどスーツを着て絶対殺すマンに変身する。それだけ。

フェイトくんはこの後、お湯に沈められる。これが『スーパー同性愛者VSバッドマン』のあらすじ。ワンダーウーマンにあたる女性（盾子ちゃん）は、資金が足りずリストラしました。

『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』のシャア・セイラ編にあたる部分が安彦良和自ら監督となってアニメ化されている。その「青い瞳のキャスバル」を観た。この『ORIGIN』からのオリジナルエピソードから登場するドノヴァン少尉は、あきらかに辻さんである。『虹色のトロツキー』で大活躍する陸軍辻参謀と、見た目がそっくりである。

一応、安彦良和のマンガ版では、ア・バオア・クーでダイクン派蜂起を先導する人で、あったはずである。記憶が確かでないので未読の人は確認してほしい。

「辻さんみたいにお好み焼きを焼いているか」

軍部から「これはデマゴギーではないのか？ 今すぐ確認作業を急げ！」という指令と思って、『ORIGIN』の第一巻から読んでほしい。フンボルトくん…ウムボルトくん…彼女が「赤ちゃんが出来たの」と言うシーンは片目であるように、真面目なことを言うときハモンさんはやはり片目であるのか、確かめるべきだろう。安彦さん自らコメディとして描いたマンガには、片目だけが映るマチルダさんを背後に思い浮かべるアムロは両目を閉じている。（フンボルトくんじゃなくて、フンボルトちゃんだろ）

『THE ORIGIN』はS F 的な考証はそれほどではない。

歴史劇、大河ドラマと呼ばれる部分を安彦さんの資質で、磨き上げている。S F 考証となると、テレビまんがに毛が生えた程度ではないかと思われる。これは安彦さんを貶めるためではなく、そこはマンガの読ませどころではない。

「君の宮殿だよ」と、テントを張るのである。（同性愛者もテントを張る！ “フックがおかしい”じゃなくチャックが壊れてしまう…よかった。ここが女子禁制だからできるネタ。別のところに転載する時は、カットする。MEN'S ONLYはバラぞくじゃないんだから）

ということで、ガンダムのS F 考証を、ファンがよくやる再考証をひとつやってみようと思う。

女装家の編纂した「ガンダム・オフィシャル」が手元に無いので、重複する内容があったとしたら、それは偶然である。情報を又聞きしたのを、それと知らずに語っていたかもしれない。

『ヤマト2199』のS F 考証しなおし、周年で2019年頃には作られるかもしれないリメイク作品のネタつぶしだと思って、気楽に読める水準、S F レベルでも中ほどに調整。みんなに語れるレベルである。

本記事の目的はネタつぶしである。

・紙と兵站

ミノフスキー粒子のことをもう一度捉えなおすと、モニター画像がゆらぐシーンがある。これはL S I に粒子が干渉して、機器が正常に動かなくなるため、映像にジャギーが入る。カメラが捉えた映像を送る際に、L S I を通すとこのようになるらしい。

鈴木ドイツ『ガンダムと第二次世界大戦』を読むと、超L S I とされて、現在のL S I を超えるほど高性能にしたものだろう。これは集積回路の縮小化技術の経験則、ムーアの法則を越えたものでないと、超がつかない。あるいはムーアの法則が止まって、縮小化技術とは違う技術革新で演算能力を向上させているかもしれない。

ともかくも1980年前後の文化消費物に逆戻りする設定にできれば、いいのではないだろうか。ブラウン管などのデジタル機器ではないものが、反って役に立つと考えていい。昭和家電の世界で、新兵器のモビルスーツがある。そうでないと、現在だとレトロフューチャーであることの説明がつかない。

メインカメラからの映像は横井軍平さんのウルTRASコープのようなかなり原始的な仕組みであれば、超LSIを必要としない。メインカメラに超LSIを通さない、機械式光学カメラで外を観る。万華鏡的拡大で外部を視認する。

動体センサーで背後からの敵影を捕捉しているのではなく、動画の処理で早く動くアンノウンをとらえて電子処理、だとしたらコンピュータが無いといけない。

実際は（フィクションだけど）天文観測の反射望遠鏡を利用して、干渉を受けづらい機体内部にカメラと超LSIが備えるべきだろう。この方が18メートルの大きさに説明が付く。ロボットの首から上に首頭を作る理由にもなる。（自分のSFのネタにすればよかったかな）

それでも望遠能力や暗視スコープを電子処理させるのに超LSIが必要だと思われる。超LSIを必要としない機械処理、マシンにするとユニットが大きくなってやはり巨大化を招く。頭にモノアイ・デュアルアイがあるのも、そこで望遠処理が出来るからじゃないか。デュアルアイの片側に、機械式で望遠鏡を頭内部にセットできる、モノアイの場合集光装置で立体視とは違う精度で、性能差があるとか、あまり語られていない。

『ガサラギ』との相対評価がわかりやすい。複数の種類の小型カメラの情報を電子処理で画像出力するから、あれだけの小型化が可能で、タクティカルアーマーこと戦術装甲は現代戦の延長上にある近未来の戦場で通用する。

ミノフスキー粒子下では動かない。そういえば、今はフルフェイスの中にモニターがあって、俳優のフェイスアップを映す映像が多い。映画『アイアンマン』が先鞭で、ユリイカの特集でも、ヘッドマウントディスプレイの中の芝居をする（ジャービスとからむ）とある。

電子機器を介した映像は粒子下戦闘に対応するために、映像もワイヤーフレームなどの情報量を少ない、画像処理にして1980年頃の映像に、一歩間違うとTRIGGERの映像になるもので、レトロ感を出すメカニクス・ルネサンスである。

時代が下ると粒子の干渉を抑えるカバーをうまく作れるようになったのか、全天周型にモニターを貼れるようになったのか、技術進歩したという風に見える。

一言で言えば、電子情報化して地球儀を作るか、天球儀を作るかである。

基本的には複数のカメラが映している映像をグーグルアースのように貼り合せているはずで、その処理には電子情報化しないと。そうすると、反射望遠鏡のお椀のような画像の集め方の…これは別にいいか。

貼り合せているモニターが、ペーパー状でZの映画版では、アーガマ内で紙のように薄い端末でパターンを見ているシーンがある。だから、コクピットルームの内壁曲面に貼り合せている。

そうするとマニュアルを紙の書籍で見るのも、この設定があれば、おかしくないはず。

軍事費が多く、森林資源が多ければ紙が作れ、印刷物を刷れる。これでミノフスキー粒子の濃度が高くても、マニュアルを読める。閲覧用電子タブレットで見るのは、非戦闘地域の戦場外でないと、見れない。

紙のマニュアルが物資面で、充実の証である。（最近出た本で第二次世界大戦で米軍が戦場に一億冊ぐらい本を送ったという話がある）

書籍を交換して物資を得る、スパイさせるなど、サイドに残した坊やに地球に行って来た証として、くしゃくしゃの紙を手に入れる欲をかい、『コンバット』さながらの話も作れる。兵站文書に紙を使っている時点で、圧倒的な戦力差があるのをジオン兵が感じる。紙くずでもムダにできない、ムダにしたくないのだ。

紙は地球に大量にあり、大気圏外では少ない。

富の象徴が紙であり、『オルフェンズ』でも本を持っているのが、バーンスタイン家が高層の階層であることの表現になっている。

ジオン・ダイクンが演説前夜にたくさんの紙を消費することができるのは、実はブルジョアジーの証とか、そういう表現もできる。また現在でもシアン化合物を印刷に使うように、紙に単独では無毒の化学薬品をしみこませ、演説時の水差しの中に単独では無毒だが交わると毒性を持つ水を入れた、サリン式暗殺もできる。（サリンの化学的な発生のさせ方は…）

宇宙空間では、ほとんど化学紙（ケミストリーペーパー）だろう。科学的に作られた樹脂で繊維紙の代用品を作るのである。ペットボトルに巻かれたパッケージビニールの頁状や現在でもポンド札はプラスチックで出来ているなどの具体例を出せばわかりやすいか。繊維紙をシュレッターにかけるなんて、もったいないことができない。

意外にも、航宙艦船（戦艦・輸送船）に穴が開いたときに対処する穴を埋めるチューインガムのような機密性を保つための粘性フーセン玉、それと同じ材料かもしれない。与圧したときに酸素か窒素と化合して固まるとか、逆に化合しにくい素材がいいのか、宇宙開発の記事を読まないといけな。

焦土作戦で命令文書を焼くのではなく、化学紙を薬品につけて溶かす。高分子（ポリマー）と高分子の間を繋ぐ鎖になっている化合物だけ溶ける薬品につけて、再現不可能にする。

これで欺瞞工作などの裏を取られないようにする。リサイクルもできる。問題はそんな夢の物質が、大気圏重力下でカンタンにできるかである。基本的にヘリウム3を地球に送っていて、資源の収奪がなされている。

こうした化学製品も地球に送っていて、利権問題化しているのか、その逆かもしれない。

ケミストリーペーパーで事足りるのに、わざわざ地球から運ばれた紙（正確には炭素資源）を買わされている状態が植民地支配、宇宙コロニアル時代の象徴として描かれる。

地球宗主国と宇宙植民圏の対立、エクスプロイトーションの構造、あるいは大気圏外で無重力の宇宙産科学物質を地球に送って（安価で売る）、地球で頁状加工したケミストリーペーパーを買わされる（もちろん高価）。

だからラプラスの箱の中身が、石碑のようなものなのも、実は異論があって、あれが実は数百年残る、宇宙空間では精製するのが難しい紙で書かれているとか、そういう素材であるべきだ。

それは歴史修正主義。

自分のロボットもののネタにしよう。

・時間よ止まれ

黒田洋介先生の本『ビルドファイターズ』の「時間よ止まれ作戦」が好きなので、それに

ならってクワランが爆弾をつける話である。逆だ。「時間よ止まれ」の話から、あの作戦が出ている。

機械式時限装置の爆弾をガンダムに設置したという設定でないと、都合が悪いだろう。

ミノフスキー粒子散布下では無線機を使えない。リモートコントロール、ラジオコントロールができないから、接着工作後に時間を置いて爆破させないといけない。

だから時限式であるのは、正しい。

たしかセリフでは物資が足りないから、リモートコントロールの爆弾は手に入らないとされるが、そもそも高性能の爆弾を持たない斥候部隊であるから無理せず情報を送るだけでいい。だが、逆にパトロールで「補給を長らく受けていないぞ」と情報をつかみ、「今なら爆弾工作でいける」と、踏む。なんとなく爆弾三勇士、大藤信郎もアニメ化（『蛙三勇士』）した話が元になっている気がする。

たぶんマンガの『ナウシカ』でも、墓所の扉攻略に爆弾三勇士と同じ事を若い兵士がして、攻略できずに王様に「兵の無駄遣いよ」と、軍国礼賛の物語をなぞってその物語に冷水を浴びせている。素材が同じなのに、こんなに作家性が現れるのである。

こんなくだらないSF考証を読む人は常識として「時間よ止まれ」のホンを書いたのは富野監督であると、当たり前前に知っているだろうし、三勇士のネタを両監督がどう素材を料理していたか、わかっている。

私は「ガンプラバトルではなく、戦争がしたい」のだ。

兵器の性能を完全に把握しているわけではないので、ホワイトベースから粒子を散布しつづけてはならないから、ガンダムから離れられない。杞憂だけどリモコン爆破がありえるので、「ありったけ濃くしておけ」とブライト・ノアが情を捨てきれない発言をしないと、ミライさんがノアに対しての感情が生まれないだろう。「アムロが…」とか言って、本当はアムロを失いたくないのに「ガンダムが無力化すると戦力を損なう」とか言ってごまかさなくてははいけないだろう。

指揮官として私情を捨て切れない。その甘さが後にアムロに侮られる。

侮れないのは、爆弾の方だ。

強力な爆弾は、貫通力のある金属蒸気を噴出する設置型RPGというか、そういう兵器が最近作られている（火山の名前を付けられていたが忘れた）が、それだと爆弾を取り除く猶予時間が無くても、起爆させて装甲に穴を穿って、小破させて（機動性を損なわせて）から本腰の爆弾を仕掛ける…これだと時限性でなくても、逆に大丈夫になってしまう。ちょっと長いワイヤーによる有線爆破で破壊工作が出来てしまう。

OVA『MS小隊』だと、そちらの方向で作戦をしかけている。それも対人兵器の的にならないように、スニーキングしながら工作をしている。無論、対人兵器で実はゲリラ活動をしている人々を一掃するシーンがある。これがどんどん進歩すると『F91』の悪名高い対人自動殲滅兵器まで到達する。

それはそうと、アムロ君はガンダムからこの爆弾を外しているから、ある種の愛着ができ、脱走するときガンダムごと持ち逃げしたのでは？ 普通なら機動性の高いコアファイターで逃げる。自分の父親が作ったものだから……家庭に軍事機密を持ち込んで、何をしているんだ。ここはアムロがハックして、セキュリティを「こじあけた」にしなければ。

脱走すること事態が、脱走兵ククルス・ドアンとの交流で連邦側に正義があるのか、疑問を持つ示唆・サジェスチョンをされるべきだろう。島にいたロランがターンAガンダムの主人公と同じ名なのは、偶然だと思う。あれはムーンレイスから女王をロランが脱走させる話だったのか。

今までの話の流れからだ、ククルス・ドアンは地球で占領した基地の紙資料から、ジオン軍が連邦寄りのコロニー群に毒ガス（G Gガス）を入れて非戦闘員を大虐殺した裏づけを発見し、大義が失われたのではないか？ マンガのスピノフでちゃんと動機は書かれているだろうから、外れている考えだ。

軍規違反については孫子韓非子を読むまでも無く、本物の軍規がある正規軍なら銃殺刑である。泣いて馬謖を斬るだ。民兵だから「チームワークを乱した」という理由をつけられて独房で反省させられるのだ。

脱走と武器強奪を合わせると、軍法会議では命が無いだろう。赤鼻バートルフ（注・アッガイのパイロットのことではない）を粛清するみたいに。民兵だから粛清しないのは温情判断、少年法的罪軽減、だがまったく罰を与えないわけにはいけないから、唐沢なをきが花輪和一のマンガをパロディにした「独房の中」に入れる。

ククルス・ドアンがジオン軍に戻ったら、確実に処刑される。利敵行為もしているし、そこまでするからには彼の中でジオン軍が地上を制圧するというプランは空理であると理解してしまったのだろう。ゲリラ戦に倦んで孤島に引きこもったのだろう。太平洋戦争で復員したお父さんの中にも、こういう人がいたのだ。

民間兵の問題に眼を向けると、メタルギアシリーズでも民間軍事会社に軍事をアウトソーシングしている。イラク戦争後は正規軍正規兵を減らすためにかなり利用され、その社会問題もある。軍規から解放された兵士が戦争犯罪行為を…（自衛隊の海外派兵が心配とか、これは「楽しい読み物」だからマジなのは止そう。機械式時限装置の爆弾で元自衛官が自爆したのについては、広島カープが優勝したから、デスブログじゃない）

パトロール部隊、つまり斥候部隊のクワランがランバ・ラルと接触していれば、結果的な威力偵察だったことになる。ガンダムに対人兵器が無いという陥穽をつける。試作機で対人兵器まで手が回らない、対戦車型戦車（駆逐戦車やヤクトパンツァーとも）は意外に砲兵に弱いような実態（RPG発明以後・F Eのアーマーキラーの起源）に近い。

位置的に難しいので、磁気テープによる情報提供がある。

紙を使いたくても、使えない。『ファイブスター物語』でも通信を紙で送り傍受されないようにするシーンがある。それは高級官僚とか、地位の高い人にしか使えない方法だ。連邦とジオン軍に格差があることになる。

ビデオデッキにトランジスタがあるから…超LSIだと機能不全が起こるが、旧式のLSIであるとけっこう動くとかそういう設定がないといけない。配線のビットが大きいから集積率が低い方が干渉を受けにくいなど、ちょっと後付設定としては苦しいところがある。

それでも例の粒子で干渉を受けないので、連邦側に再生機が無ければ、輸送中にテープを奪取されても、見る事が出来ない（それも地球降下初期の頃までと思われる）。

Vガンダムでキャラオケが趣味で、どうのこうのでテープに暗号情報が残っている、「情報解読の堅牢化」しているとか、V2ガンダムにも対人兵器が無いからビームサーベルで「じゅっ

」と、やる。

とにかく対人兵器の有無が搭乗型新兵器には問われる。戦車に機銃をつけて、駆逐戦車は逆に対戦車だから機銃をつけない。だから、歩兵＞戦車（装甲車）＞駆逐戦車＞砲兵＞歩兵？ のすくみ関係が成立しそうであるが、新兵器が出たらすぐに崩れる。その兵器がガンダムの世界ではモビルスーツであった、ということである。

これでグフを失ったラルがアムロを挑発するのに、意味がある。わざと対人兵器を使わせるのである。補給が無ければ、対人兵器を空にできる。自分が死んでも副官がミッション継続する。

対人兵器がもう無い、あるいはそもそも実装されていないことがわかっているから、ゲリラ戦に討ってでる。モビルスーツが無かった頃から、内戦じみた紛争、独立紛争の経験が為せる戦争屋の面目躍如である。それで工作活動をする決断が出来る。

ジオン兵は性格俳優である。ホワイトベースを待ち構える間、あせってヘルメットをしているのに、額の汗をぬぐおうとしてしまう。十年後、芸人さんがテレビ番組でネタとして話されたくない、名演である。（この話をしたいから対人兵器がどうのこうのでっち上げただけなんだけどね）

ここからはシェイクスピア演劇の話になり、ロミオなどの主役級以外は脇には芝居がうまい役者を配置しないといけない。（『蜷川幸雄と富野良幸』とかなら語らないといけない・宣伝じゃない！ 科学考証です。問題ありません）

・ヒートホークでビームサーベルを受けれるか？

日本史で言えば、信長は本当に本能寺の変で死んだのかぐらい、議論の湧くガンダムSF考証の花形種目である。

科学知の100m走である。

サンダーボルトではなく、ウサイン・ボルトのウィニングポーズをとる。（冬季ならフィギュアスケートで勝者は聖子ちゃんに「ズキュウウウン」）

結論から言うとこれは理論上できないのでは？ プラズマ化ぐらい加熱した粒子を受けるのは、そもそもビームサーベル同士でも難しいのでは？ それをヒートホークで受ける、サンダーボルト宙域での戦いはサイエンスに傾かず、かなりフィクション寄りである。キャビテーションする魚雷はリアル過ぎるけど。壇蜜みたいに「プロの泡が出てる」と思った。（もしかしたら兵器開発者はギルガメライトを見てこのアイデアを思いついたかもしれない）

ガスバーナーで燃出するガスを、やはりガスバーナーで燃出したガスでは、受けられないだろう。科学系のテレビ番組で燃えている物も、プラズマ化と呼んでいた。ここで長井監督が『オルフェンズ』でビーム兵器を除外した理由があるのでは？ 固体の得物でがっちゃん、がっちゃんできない。

ロボットによるチャンバラができなくなる。

私は昔、ミノフスキー粒子が加熱体に捉えられてバリア状になれば、ヒートホークの熱した刃が粒子を集めてバリアを作って、ビームサーベルを受けるとテキトー（この場合「適切に当てる」の意ではなくなげやりで放埒な意）に書いてしまったが、ミノフスキー粒子でミノフスキー粒子を弾き返している…現実の物質は逆。基本的に熱ければ熱いほど分散する。これが熱力学の基礎・法則。

熱力学の逆が起きると仮定すると、予期しない問題が起きる。水が摂氏四度で一番縮むみたいなことはあるが、極めて少ない例外だ。法則無視がこの粒子に許されていていいのか、考えどころである。

ちゃんとしたSF考証の人がいたら、

「いろんなつじつまが合わなくなる。それから“ゼロで割る”のやめなさい」

と言われてしまう。尤も意見である。

しかし、サイエンス・フィクションである。

粒子があれば、なんでもできるイノキズム（SF考証のことで猪木寛至のことが出てくる段階でまゆつばのショーアップされた娯楽であることの証）である。

この場合、トミノイズムだが。

『ビルドファイターズ』シリーズだと、ガンプラのビームサーベルとヒートホークを受けるのは、プラスチック同士だから、可能だ。

『聖戦士ダンバイン』みたいにオーラが出たZガンダムがビームを受けることが出来たのは謎なんだけど、後続作ではなんとか理屈をつけて、ダブルオーではトランザムになる。Gレコではガイトラッシュのビームソードを素手でGセルフが握るが、一応機能の設定のセリフがある。ヤマトの波動バリアのような、そういう機能がGセルフにあるらしい。

「ガンダムエース」の連載中のマンガを読んできたら、手の平にフォトンシールドがある。この設定を遡ると（坂登るボルト）、全身にフォトンシールドを出せるというZはオーパーツになってしまう。フォトンシールド技術でビーム兵器を全身で受けるのは、辻褄が合わない気がする。

そしてヒートホークの刃がフォトンシールドと同じ機能では、パワーインフレを起こすだろう。

だからガンダムSF世界では、ヒートホークでビームサーベルを受けるのは、

「キミのガンダムは、ぼくの失ったSFより自由だ」

ということで、ビームサーベル同士ですら受けられない。

盾で受け止めるしかない。

それも切られてしまう。なんとかVガンダムに出てきたビームシールドで止めることができる。ビームでビームを霧散させている。

結論は出ていたのである。

高速運動で分子から固体を断つ、高周波ブレードを受ける理屈を考えると、

「ミノフスキーバリアが出来なかったら、Zガンダムのあのシーン説明つかないけど」

それはまあ、サイエンス・フィクションだから、全て自然科学通りのことが起きない。ミノフスキーフライトは後付設定だから。

（ここから転載される時、カット いい人間と思われたいからである）

「ナウシカみたいなのはいつだってできるんだ」ということで拵えた太陰年代記、「ルナ・イズ・マイン」でヒロインがリボンの付いたヘルメットを抱え挙げて、「ロボットの夏！」と喜ぶ。もちろん、かつて宇宙空間に投げ出された先祖が、ヘルメットが大事だった恐怖から手放さなくなった、遺伝子に組み込まれた恐怖症から起因する。

ジュピターサイクル慧可とセプテンバー・イレブンの大気層突入で圧縮断熱（圧力がかかって

気体が高熱を発）して得た熱波の影響である一時的な夏が訪れる。もちろん『火星年代記』の「ロケットの夏」をバカにしている。

「もう、昔の私ではないのだ！」

「私のミニマルミュージックが聞こえる頃には、オメエはもう死んでる！」

S Fには距離を置こう。

計劃さんの作品を読み返したり、見返したりすると、「同じことを考えている」とわかる。つまりコンサーバティブなS Fを見たい人たちには、輦蹙をかう。虐殺器官の人が「いつからロリコンに物を売るようになったんだ」というのを踏まえて腐らずに、商品開発である。

S Fで評価されなかったのに、自分の出したアイデアと似たようなことがオリジナルのガンダムで出てくるはずがない。そのスポンサー会社に、入社できなかったのだから。似たようなモノがあっても偶然だろう。もう一度書こう。自分の出したアイデアと似たようなことがオリジナルのガンダムで出てくるはずがない。

でも、富野監督ならね、裏取りはしていないが原田勝彦さんのテキストを掬い取ってくれた恩義があるし、グンペイのGだから、文句は言えない。もし、そうならの話である。確定はしていないから、そこは謎。2012年頃に横井さんのちょっとしたリバイバルブームがあったからね。

もしもついでに、リメイク版を富野監督が作り直すなら、バンナムにさえ入社できていれば、制作側に本記事の内容を社内を通じて報告していたかもしれない。「外野がとやかく言うな」と黙殺されたと思うけど。本音は「カネだけ出して黙っていてくれ」だと思う。（バンナムに入社できなかったから、お金が無くて『かくしごと』が買えないよ。ジャハナムは買う）

外からS Fの知識、科学ストーリーにケチを付けられたら困るだろう。

それから藤子不二雄はハヤカワS F文庫にイラストを提供していた時期があったけど、話題性がほしかっただけで、ホントは藤子不二雄の藤本さんをS Fプロパーとして認めていなかったのでは？ 知名度の上澄みだけがほしかっただと思う。藤本さんのFマインドが並々と注がれたカップに浮くS Fの部分だけをストローで吸っただけ。

藤本さんにリンクする「コトタベ」を掲載した『ありえない未来の思い出たち』を「S Fマガジン」投稿欄レポートに「紹介してよ」と頼んでも、しなかったからファンとしてすら、気を使われることが無いのだから、気を使わずに早川書房も小松左京賞の運営側も同じ自民党に過ぎないと言える。党内の左寄り勢力か、保守勢力の違いしかない。

円城さんや計劃さんは評価されて良かった。それも自民党内の中道派・左派勢力に過ぎない。同じ自民党だから。左派といっても、革新的なことをやろうということを言っている。王権や「神よりも魔法が上位」という『俯瞰の男』みたいなことを革新原理主義で書いてしまいがちな私である。ジオニズムの悪影響が出ている。

「S Fっていいね」という再確認は、王権の肯定であり、こちらは革新勢力（笑い）であり、共和主義革命、共産主義革命でもなく、いい語呂あわせの言葉を思いつかなかったが、ともかくS F自民党から離れて、下野するしかない。S F野党勢力である。

左派、新左翼はバカにしている方だから、吉本隆明そっくりの人が最後の資本家の少女から全ての資本の裏づけである月の権利書を奪う、全共闘世代にとって夢のようなことが起こる。高橋源一郎のアイロニーなつぶやきみたいにね。映像はイジー・トルンカの『手』（撮影は川本喜

八郎、ギャグじゃなくて本当に撮影者は川本)のオマージュ、映像を流す。

アイロニーで、

「何が『ロケットの夏』だ。こちらはロボットの夏だ！」

ということである。

封印していたロリータも「戦争屋」として出す。「SFなんてロリータ商品の抱き合わせでなくては売れない」という皮肉も込めている。

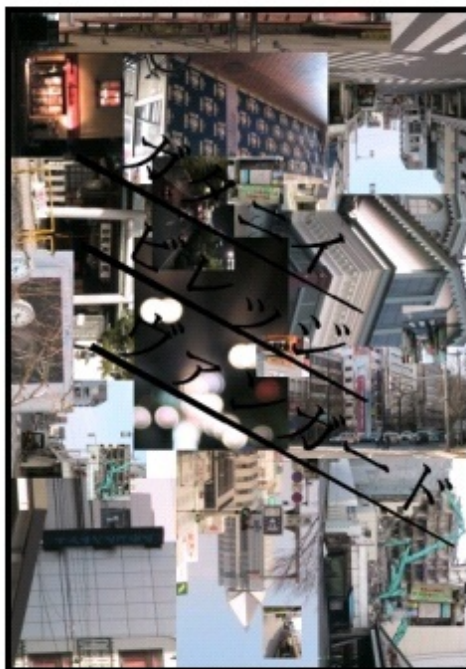
ダイクン派蜂起、最終巻を読めばすぐわかる。辻さんがロリータを祭り上げて蜂起する！デマゴギーかどうか確かめて、みてくれ。

GVV

ジャズ喫茶小説
という分野がある。
これはそのひとつ。

Architecture
Product
System

ブクログのパブー
¥50



広告

ガタニイ
ビレッジ
ヴァンガード

五島千尋

そろそろSFポルノなのか、ポルノSFなのか、はっきりさせたほうがいいと思う。最近の作品に合わせているだけなんだけど、「正室に、側室に、妾。今度は現地妻にお稚児、育てて遊ぶ紫の上まで連れてきて、なんでもアリだな」と、SFファンのヒンシュクを早くかいたい。(辻さんは何をしようとしたのかというと、ロリータ主義革命を起こしたのかな。これも語呂が合わない)

『ポリスノーツ』をプレイされると、ネタが割れる。

ミノフスキー粒子の干渉を受ける

バーチャルボーイの内部も鏡でレイを反射させている

ネタ潰しだからもう採用できないけど

カメラ

少年を視姦するハモンさん

危ない女

著作権上の理由でスー先生に

道理で沢城みゆきが声をあてるわけだ

「しかし」と言って本気を出すシーンで
片目の構図になる まさに安彦良和の本領

有視界戦闘とは
安彦視線劇です

「ランバ・ラル特攻」を参考に

化学素材

溶剤で溶けるのはガムとチョコと一緒に食べるようなもの

「沢城みゆき」と「パンティ」は更新情報誌では記載してはいけない、レギュレーション・コードに引かかる言葉じゃなかったっけ？「パンティ」なだけに。こういうところがSF自民党に嫌われるところ。

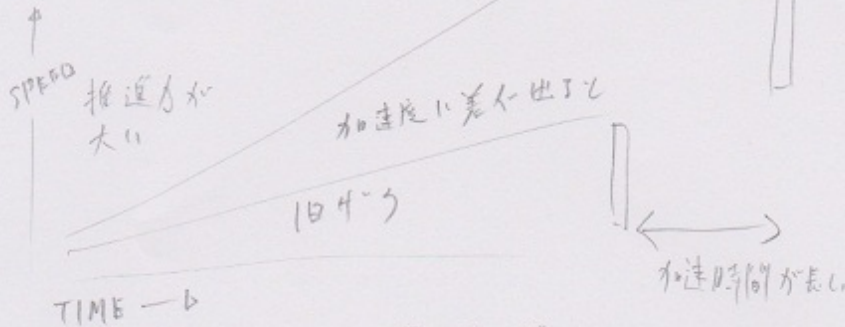
通常の三倍
ではない

赤ザク

スピード×
三倍

大気
が無いから
スピード
(11317km/h)
が減衰
(ない)

柳田理科男的



コペに月着した機体の後進機
なので分解も出来ない

加速距離が長い

アアザク

アスナブターン

このとき
スピードが三倍
に加速

一撃離脱
可能

旧ザク

カニ2対
平艦

弾幕

有視界戦闘で通常の三倍は
ほそくできない

全方位
弾幕が必要

木馬の設計思想

空飛ぶ五稜郭

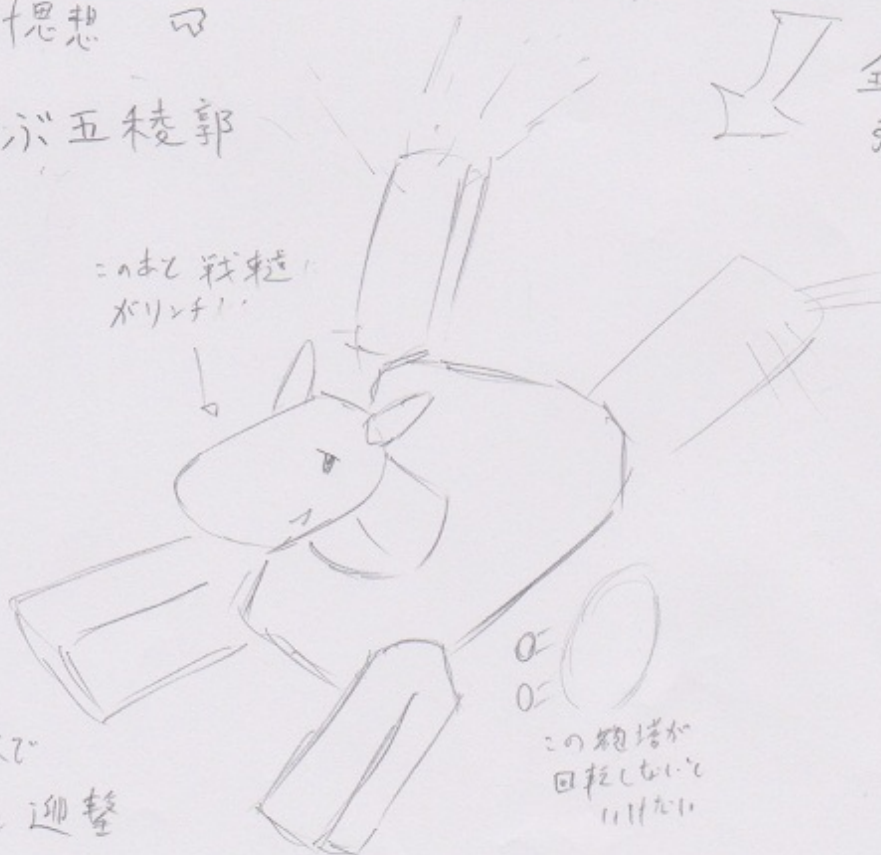
この戦艦は
がリンチ

ここで射撃
が出た

±512
MS部隊で

MSを迎撃

この砲塔が
回転しない
らしい



$$\begin{aligned} &2682440^4 + 15365639^4 \\ &+ 18796760^4 = 20615673^4 \\ &= 180630077292169 \\ &\text{つぎ} \rightarrow 281088848499041 \end{aligned}$$

このように
整数式が
存在すると
後の世で
発覚します

こっちの五乗
の方も整数式が
存在しています

$$\begin{aligned} &27^5 + 84^5 + 110^5 + 133^5 \\ &= 144^5 \\ &= 61917364224 \end{aligned}$$

ANIMATION
REVIEW

『魔法少女まどか☆マギカ』
シャフト

アニメレビュー

『魔法少女まどか☆マギカ』

あの誤配されて溜まった、
山積みのデッドレターが、
焰をあげて魔力に変わる。
「少女と世界と趣向と魔法」より

ブックログのパブー ￥10

Architecture Product System 広告

コミックマーケットの主宰者であった米沢嘉博のマンガ評論は、まるで地質学者のそれであった。出土したものを加工せず、土や泥やその他の堆積物を取り除き、年代測定の結果と特徴・分類のラベルを貼る。

米沢さんのラベリングは豊富な資料の裏打ちや時代を通してきた経験から、かなり精確。たとえ宝石となる貴重な原石であっても、出土地（雑誌などの初出）や発掘者（作者）をちゃんとラベリングして、保管している。

マンガのみならず、同時代に流行したもの、舶来映画、SF小説、テレビ番組、その中からマンガの着想となった起源を掘り起こしていく。恐竜研究者が恐竜だけでなく同時代に生きた古生物群にも目を配っている、とたえられるか。

だから、年代の順序を必ず追っていく。戦後50年代から60年代、70年代と地層を掘り下げていくというより、掘り下げ終わった地層の一番古い順から、出土年代順に並べて話を進める。

この仕事は、F面だ。

藤子不二雄のF、藤本さんのような堅実な作品づくりを感じる。

その部分もあれば、米沢さんは少しゲテモノ・グッズというか、パチモノというか、そういうおみあげを集める趣味がある。みうらじゅん風に言えば“いかもの好き”でもある。

こちらは海外からのみあげものを集める藤子不二雄のA、安孫子さんと似てA面だ。

AとF、両面を持っているのである。これほど藤子不二雄を語るにふさわしい人物を有史以来いるであろうか？ 米沢の他に。

私はあるアニメ批評で“マンガ評論の概観”と銘打って、マンガ評論にも歴史があり、いろいろなタレント（この場合批評能力のある人を指す）が出てきて、マンガの見方読み方複数の角度があることを示した。

天文学的な観測、赤道付近で太陽を見るか、極地付近で太陽を見るかで違う観測結果が出る。中世の北欧では白夜が起きることを天動説でどうやって辻褄を合わせていたのか、矛盾をどうやっても解消できない。メビウスと呼ばれる伴星が一時期チューリップ軌道を描いていたような星の運行で説明がつくのか、それはコペルニクスの転回は必然になる。

米沢の場合、天体観測を重視したガリレオのように、過去の地層の掘り下げをして、丁寧に古い順に並べていたのである。出土品を痛めずに保管していた、つまり資料として漫画雑誌や単行本を集めていた。

それが東方文献の流出で古典復古を促す結果を招く。手塚中心史観の見直しには、米沢の功績が大きい。

そんな米沢にもバージェス頁岩の化石の消化器官と思われる部分を削って、何を捕食していたのか、調べる時期が来た。

マンガ表現論や両川（いしかわじゅん先生・関川夏央）のマンガ批評に触発されて、ちょっと鉱物や古い化石を削ることをやって、驚くような事実を発見したいと、思うようになったのではないか。

ではじめに藤子不二雄の著作、二人組のマンガ家の評伝に挑んでいる。

A面である。

それが功を奏しているかという、疑問である。

第一部では今まで通り、資料を古い順から追っていくF面である。安孫子さんが藤本の世界に分け入っていくように、米沢が藤子不二雄の世界に分け入るのである。今までの仕事通りだろう。

第二部で鉱物を削ってある角度から見る批評をする。はっきり言うと、このA面がうまくいってない。慣れてない。

風刺戯画化された大げさな部分を取り除く、それで残るのはA面であるのか、F面であるのか、AとF、どちらも引けば手塚治虫が残るのか。

『藤子論』を読めばわかるが、手塚には白手塚と黒手塚があるように、白い藤子と黒い藤子があり、それは藤本さんが白を、安孫子さんが黒を単純に担当しているわけではない。どちらも、人類の三大タブーのひとつカニバリズムを表現している。『火の鳥』の鳥人間を思い出せば、藤本さんがやや手塚寄りか。

一見、黒と白に分かれているように見えるだけだ。

Aは画面も暗く（墨ベタの量が多い）よく言われるコントラストの強い画像を効果的に挿入する。相対的にFは白っぽく、中間色にあたる部分を黒く塗りつぶさずスクリーントーンで処理して、まさにコントラストが出る。もし、安孫子さんがドラえもんを担当したら、カラーで青い部分がモノクロでは黒く塗りつぶされていたのではないかな？

しかし、初期『ドラえもん』は黒い内容で、もし人気が出てタイムトラベルのバタフライ効果がなければ、のび太はジャイ子の婿のままである。さらに短編「ノスタル爺」はすごくブラック…ブラックホールのように円環する物語である。光の波長が黒しか出さない。つまり出口の無い物語。

たいして『まんが道』は輝くような白い一本道である。背景に黒地で白い銀河系を背負った手塚を追う物語だ。そして彼を追ったトキワ荘作家たちは現実成功している。

二人とも媒体が成年層向けであれば、異色短編とブラックユーモア系は同じ黒さを持っている。白と黒、白は誰にも受ける万人受け、黒はどぎつい表現やバイオレンスの表象色であるが、キャリアが長ければこの白と黒を作家は表現する。相対的に黒はAの担当、白はFの担当とある程度は言えるが、作品を通して見ると、Aが黒くFが白いと断言できない。

ある種、白しか書けなかった作家が寺田ヒロオで、『暗闇五段』で灰色あたりに分け入っても、盲目をかいぐり、柔道家は再生する。作者本人は茅ヶ崎の黒い離れに引きこもってしまったが。

『藤子論』のあとがきには、実はマンガ史三部作には、裏コンセプトがあると、語っている。SFマンガ、少女マンガ、ギャグマンガ、その三界に分け入って採集してきただけではない。必ずしもラベリングに固執していたわけではないようだ。

クロニクルが『SFマンガ史』には、刻印されていると語っている。

原田三夫は『ロボット三等兵』を描いた前谷惟光の父である。

このラベルを貼るだけでも、十分すばらしい。学会に追われた父と、ひょうきんなロボットを描く子の科学の年代記が、記述されている。少しばかり冗句を挟めば「学会を出るかでないかは、芸者の前で言うこと」なのだ。

科学と芸妓のあいの子がロボット三等兵を生み出すと思うと「すごく楽しいね」と愉快になる。

そんな『SFマンガ史』には手塚の『新宝島』の評価が書かれている。

戦前マンガからある映画的手法に、『新宝島』の新奇さがあるのではなく、ストーリーの起伏が戦前戦中マンガとの差異と受け取っている。資料を調べれば、必然的に出てくる。地層を掘り下げれば、出てくる結論である。

鉱物を調べラベリングしていく堅実な作業だが、『戦後野球マンガ史』では、鉱物そのままと削って調べる配分がちょうどよくなる。

基本的に野球マンガのラベリングだが、少し削っているところがある。原石の良さを残して、たまに卵の化石を割ってみて、細胞増殖の過程（進化の遍歴を読む）を観察する。

試合中命を落とす以上の劇的なことは起きない。それを描いてしまったから、魔球を出し、さらにそこから人情を表現する水島新司が野球マンガの人気を広めるのは、近世的演劇から藤山寛美の大衆演劇に移り変わっていく演劇史をなぞっている。大阪の貸本劇画からの出自を考えると、さもありなんといえるが、横浜明訓高校と弁慶高校の対決（新国劇的？）、当時の野球ファンだけでなくマンガファンも巻き込んで面白いと、評価できるだろう。

今現在、変化球を打てるようになる打撃理論に基づいた練習で攻略する努力と成長の過程をマンガに（つまり誇張）している魔球モノは、レギュレーションに回避される。身体の酷使をともなう魔球をダウンさせた変化球は『MAJOR 2nd』では、前作で起死回生のウイニングショットがルール改定で反則投球になっている。

つまり、現実にはマンガの中の魔球・準魔球を公式戦で投じたら、新しい野球規則で禁則される。

もしかしたら、野球マンガが他ジャンルを飲み込んでいくこの時期が、野球というジャンルのピークであり、ピークアウトの後をずっと見ている、その経過観察が『野球マンガ史』と言える。

野球ファンでないと、そのマンガが面白くないのは、野球がメジャーではなくなった証、マイナースポーツになりつつある90年代を、米沢は冷徹な目で観察している。目を背けることもできたのだが、地質学者のそれは許さなかったのだろう。

現在はプロ野球が一番人気のプロマイナースポーツで、高校野球が季節限定のメジャーアマチュアスポーツといえるかもしれないが、どちらもローカル、地元の球団が高校が重要だ。

プロ野球がA面で、F面が高校野球、どちらにも黒がある。

テレビも一部の高視聴率番組を除いて、マイナー化が著しい。かつての高視聴率番組『サザエさん』は視聴率が落ちてきていることが話題にされるようになった。

つまり今、マンガがマイナー娯楽になろうとしている。

出版から、10年経った結果、そういう読み（観測結果）が出来る。巨大になりすぎた恐竜、アンモナイトの形状の複雑さ、それらの化石から進化の袋小路を見出す。

『甲子園物語』という実在プロ野球選手が高校時代の甲子園出場（あるいは地方大会の敗退）の物語、それを実録物のように描くマンガのシリーズがあるが、米沢はこれを語りもらしている気がする。かつて草野球をしていれば、飛込みで川上哲治や長島らが混ざってくる頃ではないことと、関連する気がする。

『野球マンガ史』以降の話をすると、野球は父と子の物語、サッカーは仲間達の触れあいという、その差が大きくなっている。大きな物語の失効で父と子の物語から仲間たちの触れあいに針が振れていると、有り体にいえる。それが顕著になっていく。

野球マンガもそちらにシフトしている。『おおきく振りかぶって』は、学校法人の有力者の血縁者であることでエースになった三橋くんが、仲間たちとの交流で再生していく物語だ。

これは単純に野球が国家主義、サッカーは共和主義だろうか？ 血統の垂直指向か、仲間たちの水平指向か、その違いがあったのだろうか？

最近でも、『グラゼニ 東京ドーム編』にて、実力ある独身プロ選手が意中のシングルマザーとの結婚寸前まで話していく。しかし彼女は息子の仲間達、それを選ぶ。親子の物語の再話的祖母となるかもしれない養子縁組的血統の物語は、Jリーグの地域密着型の影響を受けた物語に否定され、地元の繋がりが肯定される。

児童文学『バッテリー』も、マネジメントハウツー小説『もしドラ』も『野球マンガ史』では語られないのだが、二つに共通するのは父性父権の物語を描かない。とくに『もしドラ』だとプロ野球選手になることを挫折した女主人公に、「ソフトボールで世界一を目指せ」と父親は言わない。

父と子の物語が毒になっている、作中の言葉通り陳腐化されている。

しかし、サッカーの世界と同じく、仲間たちの触れあいで主人公が再生していく物語となる。実はそれは町内野球チームZが再び掘り起こされたということ、米沢が生きていたら、指摘していたかもしれない。

そこと甲子園出場をかけて、勝ち上がっていく話とどう折り合いがつくのか。あるいは甲子園出場や優勝を目指す物語を捨て去るのか。岩崎夏海は『甲子園だけが高校野球ではない』を書いているのも、一つの答えだろう。

だが、マンガ化された『もしドラ』は打ち切り作品となる。それは寺田ヒロオの野球少年漫画が敗北する話を21世紀に焼きなおされているようでもある。

そろそろ話を終えよう。

母校の明治大学に米沢さんが個人所蔵した資料からマンガ図書館が創設された。（後にコレクター内記稔夫所有の資料も集合したらしい）

サンデー・マガジン創刊以前の資料もあるらしい。そうでなければマンガ史三部作と別巻と言える『戦後野球マンガ史』を書けないだろう。

この死後の貢献により、第十四回の手塚治虫文化賞の特別賞を受賞した。こうして米沢さんのF面は評価された。たとえの白い米沢、明大漫研の大OBとして、かなり大きな遺産を残したと思う。

手塚中心主義の見直しを資料的に裏付けるアーカイブを作った人物に、手塚文化賞を与えるのは、正直ためらわれる。それでも特別賞を与えることになったのは、彼がそれほどの事を成した証だろう。

次はA面だと思う。黒い米沢。たとえにすぎないが、はっきりいってA面が公的に評価されるのは、難しい。しかし、バイオレンスとポルノのパロディが表現された黒があっても、コミックマーケットを創出した主宰であったことも、評価されてほしい。

誰しもF面があり、A面がある。その多面性を米沢さんがかかえ、藤子不二雄の多面性とも重

なる部分となるために、『藤子論』を手がけられたのだろう。

よねやんのどちらの面も評価されたとき、 $F + A$ の真の方程式が解けるのではないだろうか。

広告
バンドデシネレビュー
メビウスリング・ザ・オリジン
『ARZACH』メビウス

作者メビウスは多くのマンガ家に影
響を与えまくって、翼竜に乗って天
国に旅立ってしまった 文中より抜粋



ブックログのpapierにて販売
¥20
Architecture
Product
System

我田引水。自らの田んぼに藤子不二雄と米沢さんから水を引くべきではないが、 F の「食べてしまいたいほど可愛い」を字義通りに女性を食べる、 A が力を誇示するために男性を食べてしまったかのような表現、「コトバを食べる、ケモノ。」にも、もちろん二つとも内蔵されている。方程式通りに因数分解できれば、展開した「コトタベ」に組み込まれているのが、中学生でもわかる。重要なのは、どちらも黒い藤子があるということだ。（我食両藤、我食べる藤子両氏。実穂精米、実をつけた穂は砥がれて米となる）

例のごとく「丸に A 」の記号を出力できないので、安孫子さんのことをただの A にさせてもらった。

工学の学校

~~ゴトチ~~ ゴトチ



直接手で触るのは企業秘密の材料が入っているので避けたほうがいい

萩尾望都先生、竹宮恵子先生らは「異性間が平等であったとしたら、さらに性差すら無い恋愛はどうなるのか」という思考実験のための少年愛をマンガに描いた。

そこから勃興して、JUNEがあってボーイズラブやメンズラブが広がり、少年愛・同性愛が氾濫している。障害が無い“異性間が平等”であるところが、長寿のケンタウロスとの恋愛という異種間の恋愛まで表現される、わけがわからないところまで上り詰めてしまった。

どうしてこうなったのだろう。

竹熊健太郎が石原豪人にインタビューした話で、「どうして男色画を書くのですか？」と問うと、「女性はホモ（注・ホモセクシャルのこと。男性年長者が少年を性搾取する意味ではない）が好きなのだ」と語っている。だから男色画を描くとモテると、『篋棒な人々』には書かれている。

いったいこれはどういうことなのだろう？

長年、謎であったのだが、少しばかり訳がわかった。わけというより訳、理由の翻訳ということだ。

海外にもスラッシュものがあるので、全人類的に考えてみると、文化人類学には機能主義という考えがある。これに突き当たる。

フィールドワークの対象である未開とされる現地人が、近親婚を避けるため一族氏族部族外から婚姻するという、そのころはというと、遺伝学上では血縁者近親者との繁殖を繰り返すと、障害を持つ子供が生まれる。それは人工的に交配された犬種で、ミックスさせないと種が近いために関節に障害が出る、内臓疾患の遺伝病が出るなどの身近にも実例はある。

種が弱っていると言われるアメリカン・ブルドッグ、さらに連想されるのは名馬セントサイモンの悲劇。哺乳類鳥類は近交弱勢が起こるのは、長年の観察により裏付けられている。正確ではないが、だいたい四分の一ほどである。テレビゲームの『ダービースタリオン』シリーズでは血が近いインブリードでの近交弱勢がほぼ確実に出るようにしている。

このあたり、種の生存戦略として多様を持たせるために、血縁の遺伝子を拒むのか、よくわからないところがある。多様な遺伝子を持っていることが環境に対応できるという答えが、本当に裏付けられているのか、よくわからない。

個体数が少なくなったら、絶滅への危機が加速するのではないかな？ インセストタブーをしなくってはならないぐらい数が減ったら、種としてはもう終わりに近いために自滅的に健全な固体が生まれなくなるのか、そこもよくわからない。

結果を観測しているのであって、それを逆算しよう（メカニズム解明）とすると、理にかなわないところがある気がする。

とりあえず、文化人類学的には、機能主義で一応説明が付く。近交弱勢が出る答えではない。元々狩猟採集生活の頃は個体数が少ないから、近交弱勢がおきやすいために、機能主義による文化が生まれるのはわかるが、そもそも近交弱勢が生まれるメカニズムは語られているわけではない。

この機能主義から考えるに、同性愛者がいる狩猟採集生活を送る集団があってもおかしくない。

まず、わかりやすくエコロジ的な観点では、そこで暮らす環境の資源を枯らさないために、繁殖しすぎないというのが、必要になっていく。増えれば増えるだけいいというわけではない。農業革命以前はそのフィールドで取れる食物の限界を越えて個体数が増えることはできない。

なのでヤノマミ族の「子供は精霊だ」という、近代的基本的人権思想（ベーシック・ヒューマン・ライツ）からかけ離れたことをするのは、機能主義の見地からは、一応理屈上はおかしくない。

――近代化を自発的に彼らが選ばない限り、この文化を止めさせることはしてはいけない。

これを無理に推し進めれば、テオドル・アドルノが言ったように、「啓蒙がかえって野蛮になる」だけである。彼がナチスドイツに関わっていたの差し引いても、これは正しいだろう。

逆に、未開ではないとされる欧州では、特権階級の階級制度の強化で親族婚姻の結果近交弱勢が起こり、どうもいろんな問題が出たようだ。スペイン王家は王族による婚姻を繰り返して夭折する王子王女が現れはじめ、それを反省してかフランス王朝末期では周辺諸国の王族の子女を娶るようになる。これが国内有力貴族が王侯から諸侯になる遠因だろう。百年戦争期は祖が同じシャルルマーニュの近い親戚の王侯が、遠い親戚の諸侯になったとき、リシュリュー卿が権力集中をできる絶対王権制のアイデアを思いついたのかもしれない。

そこでハプスブルク家がうまく立ち回れたのはともかく、階級制度は狩猟採集生活を逆回転したような、逆機能主義、王権・階級制度補強のために一族の血を濃くしていき、やがて近交弱勢が起きていくようだ。

話を石器時代に話を戻すと、集団では十人に一人はホモ・セクシャルがいるとされるが、母方から十人に一人の割合で遺伝すると考えられる。生物学上、まだ決定的答えが出ているわけではないが、これを仮定して二十人の集団生活のグループで同性愛のカップルが一組いると、考えればいい。

そのグループだと、一定のテリトリー内でこれ以上繁殖しなくても、グループを保たれると思われる。

外のグループとの接触で、機能主義と男性同士の友情の証（自分は相手と結婚できないので親族の女性を嫁がせる戦国武将や小林秀雄みたいなこと）など複数の意味で女性を交換財にする。つまり近代社会から見て、女性を交換財とする社会は「未開」というレッテルが貼られてしまう。

その「女の交換」とかの人類学的な話は止しておこう。

現在の野生からも、ゴリラにも同性愛者がいるという。森のヒエラルキーの頂点であるゴリラも、やはり増えすぎると森を枯れさせ、食物資源が再生力より衰えるようである。ボノボも近い理由で同性と性交渉的な融和を図っているのか、それはまだよくわかっていないのか、すでに答えが出ているのか、知らない。

類人猿の頃から同性愛はあったのかは、今度は類人猿のゲノム解析が必要だろう。

分子生物学で動物の生態がわかるように、実は人間にも同類を摂取していたらしい痕跡がある

。プリオンにならないように、因子があるとされる。この因子が無いと、タブーとしてのカニバリズムを機能主義で説明できるだろう。

精霊として人喰いを呼ぶカーニバルが、カニバリズムになったと思われるが、かつて食料が無く、カニバリズムをしていたなごりが「通過儀礼の祭り」となったのかは、これもよくわからない。

20世紀なかばから21世紀のように食料が売に残るほどの時代は無かった。時代が石器時代から古代の農業革命を経て、伝統農法や牧畜のバイオマスでは、限られた固形窒素しか得られず、妻帯しない宗教家が全体の中にいないと、餓死者が出るので再生産に限界を設けている。

中世社会で人口を安定化させる役割が、宗教家にあった。野生の機能主義に対して、中世の機能主義。その反動でもあるが牧畜をやる以上、衛生学的な理由で、「汝、姦淫するなかれ」が十戒の一つとして必要になっていく。こうしてみると宗教家の同性愛者弾圧は、自分たちの存在意義が無くなってしまう恐れかもしれない。

不確かな話ばかりで回り道しているが、こうしたことを鑑みるに、女性は潜在的に同性愛者を好む傾向があるのではないか。

仮説されることは女性はもともと同性愛者が先天的に好きなのである。そこで、どうして同性愛者が好きか、いろいろ考えてみる。そうでないと日本国内の独自文化ではないスラッシュものがある理由がつかない。

狩猟採集であると、複数のハンターが仲良く協力して狩りをするのが、とても頼もしく見えるのかもしれない。自分が採集や原始的工芸品を作ることに徹底できる。洞窟壁画を女性が描いていた説もあるので、場合によっては洞窟の中で絵を描いていたかもしれない。

このように男性たちが仲が良い、ホモ・ソーシャルな関係を築いているのを傍から見て、女性は先天的に安心できるのではないかと夢想してしまう。狩猟採集時代の性別分業制度は、現在崩壊しているため、かえってそれを求める欲求が強くなるため、同性愛の物語を想像するのもかもしれない。

男性、ロマンがあれば自分の配偶者が狩りをしているシーンを描いているというのは、野生の愛情表現の一種として考えられるが、私はサイエンティストなので、このような考えに淫しない。

反対も考えよう。

遺伝的に、恐怖症が相続されるという考えがあると思う。ぽつぽつと報道がある。

眼を痛めて失明してしまった先祖がいたら、先端を極端に忌避する先端恐怖症が、遺伝子に組み込まれているかもしれない。

ガープス・ベーシックには恐怖症の列挙がある。

このTRPGのルールブックには“よくあるものを例示”として、群衆・暗闇・死体・汚れ・閉所・高所・昆虫・騒音・機械・怪物・海洋・広場・爬虫類・先端・異人・武器の恐怖症が列挙されている。どれも単語の後に恐怖症の脚がつく。

ひとつひとつ解説はしてられないので、ピックアップすると蛇毒にやられたために蛇（爬虫類）恐怖症、タランチュラのような毒蜘蛛で昆虫恐怖症（蜘蛛は蟹の仲間だけ）、こうして

自然の中で生きていることで、遺伝的に恐怖症が相続されれば、子孫が危機回避できる。したがって蛇型が嫌いか、多足系が嫌いかは、ゲノムを調べると発現する遺伝情報があるかもしれない。

ルールブックに無いものであげるのは、男性恐怖症である。近代法が及ばない過去、力による解決でとあるグループの男性を皆殺しにし、繁殖のために女性をかどわかして子孫を産ませた例もあろう。（捕まえて男性同士愛し合えばいいのに）

ライオンの子殺しのような原始時代、石器時代の自然状態とは、こういう頃のことを言う。グループで仲が良ければ、敵対するグループとの対立も退けることができる。それがホモソーシャルを望む希求となる。

同性愛者ばかり集まると、今度は再生産が無くなるので、どこかで均衡があるのか、バイセクシャルの存在もいなくてはいけないのでは？ というのも考えられる。

生物学者・柳澤佳子さんは「悪い遺伝子は存在しない。悪い社会があるだけ」と発言されている。理想主義的で遺伝子を上位概念にしていると一蹴していいのか、悩むところだ。

食物アレルギーも同じ食物、同じ採集物ばかりをとっていたら栄養バランスが採れない。あるいは資源の枯渇を招く。農作物を生産できる農業化が行われないうえに、食べきれないほどの食物を得ることは難しい。

特に農業革命の後に、余裕が無い時に作物の種粍を確保できる。具体的にはそばアレルギーを持つ人がいることによって、そばの種粍が残されるため全体が助かることができる。

つまり同じことが、狩猟採集生活世界でも起こっていると、考えるのが人類学的だ。アレルギーがある人物がいて資源を食べ尽くさないため、自然の再生を待つことができる。これで全体が助かる。

金属アレルギーもなんらかの理由、毒物に反応して危機回避するのが、分子生物学的に組み込まれていると、考えるべき。

さて、かなり遠回りしたが同性愛者である男性がチーフダム（首長を核としたコミュニティ）にいるのは、エコロジー的観点であった。

死亡率の高い原始時代、自分の配偶者の死に直面した寡婦は、チーフダム内での立場を確保するために、他の未婚男性と関係を持つのか、機能主義で外のグループから来た場合、元のチーフダムに帰るのか、あるいは同性愛者を誘惑するのではないだろうか。

寡婦となった場合の事態に備えるために、元々同性愛者を好む、遺伝子を備えている。

ここで私はカイヨワとなって、レヴィ＝ストロースの四構造（親族の基本構造）に反対称を取り入れようと思う。母方の叔父と伯父では、機能主義で説明がつかないのである。

つまり父方の叔父か伯父、彼の同性愛のパートナーも含んだ、拡大家族を作っているのではないか。

「ハムレット」ではやはり近親婚姻として忌むべきこととされるのだが、キングダムの世界ではなくチーフダムの世界では、ありえるのではないのだろうか。

四構造の鏡像の両性愛。

さて、同性愛者を誘惑するには、どうするか。女性が男装するのか、男性の擬態をするのか、

私は、洞窟壁画に彼の狩りをしている絵を描くと思う。世界最初のホモセクシャルのために、「あなたのことを描いたのよ」と、牛を狩る姿の絵を見せるのである。彼がその絵を描いた女性との謝礼画賃のために同衾しなければ、説明がつかないのだが、原プラトニズムの先史時代にこのようなことがあった裏づけとなる資料は、無い。

そうして洞窟壁画を描く女性が、世界最初のバイセクシャルの遺伝子を繋いでいた。この地位確保のための同性愛者を好む遺伝子が相続されたのか？

そんなことはまだ、発見されていないのだ。

偽史としては、同性愛者のイヴとなった女性の残した絵画がラスコーやアルタミラの洞窟壁画に実は同性愛を表現する起源があり、石器時代から萩尾望都先生と竹宮恵子先生まで、ずっとそれを描き繋いでいたと、その歴史を見ているのである。

私はサイエンティストなので、この考えに淫しないのだが、淫してやまない女性が多い。だから、同性愛の物語はたくさん作られるのである。

それと、石原豪人さんが「ホモはモテる」とされたが、よく本を読むとその同性愛者たちは皆美男なので、「ホモがモテる」ではなく、「美男がモテる」の間違いではないだろうか。

さらに青年男性からの性支配をされていると、同情によってかまっている。そこを愛情と取り違っているのではないか（愛情ではなく若い男性と交わることで健康な子供を産む？）。そして、他のチームを襲って得た戦利品である少年を、性虐待にあっている彼（美男）を女性が助けたかった原始の記憶（遺伝情報）なのではないか。彼を壁画のある洞窟まで連れて行き、命を繋ぐことをこっそりしていたのか、機能主義で全てが片がつくわけではない。

いろいろな想像はできるが、限界というのを感じる。

だから、その限界性が男性同性愛を魅惑的なものにしているのかすら、実はわからなかったりする。今回、わからないことだらけで、結論も「謎」とすべきだと決定する。

みなもと太郎先生と大塚英志の対談著『マンガ学特講』では、さいとうたかをが“いいムード”があるマンガを描くとある。「台風五郎」でマドロスがヒロインに面当てたいなことをして男性主人公と部屋から出て行くのだ。

マンガ評論的には、なんとなくほのかな男色から本物の同性愛的表現をするマンガ家はプロダクションシステムを成功しやすい傾向にある気がする。量のプロダクションシステムを質的に変換している大友克洋も「つやのあとさき」で、落語家が色気のある芸を仕込まれるため、偶然の一致、だろうか？ 母数の多い計量分析が望まれる。（ゲームラボ11月号を読んで拾ってきたネタだが、「ホーモ・アローン」の「お前をアスタリスクにする」のは母数に含んではいけない・愛蔵版からも外され仲間外れ）

マンガの有名なセリフ「ホモが嫌いな女子はいません」に一応、分子生物学的な理由をみつろって見たが、ガーブス・ペーシックを引くなら『世界樹の迷宮』のゲームレビューを早く完成させてくれと、たいへん希少で稀な読者もおられると思う。完成しなくてもいいし、完成しなくていい。そこは機能主義で全て説明がつく。早く『大東亜論』のマンガレビューを完成させなくちゃ。なんだかアトラスを甘やかさないように厳しくするのは、別のグループから少年を奪い取ってきて性的玩弄しているマッチョな原始人みたいで気がひけるな。（女性へのサービスに非ず）

四コママンガの登場人物紹介

信濃丸



ギャグマンガでは阿素湖元子

空母信濃とは違う
たくさんの人を乗せてきた
老朽艦でいまだ現役
まだ人を乗せたい風営艦

汁ノ海親方



ギャグマンガでは関東昭和軍の監督

わかりにくくどうでもいい
大相撲の解説をしてくれる
かわいがりで障害を負って
弟子を辞めた根性無しの悪者
(相撲教会側からの視点)に
現在民事訴訟を起こされ
ピター一文もやる気はない

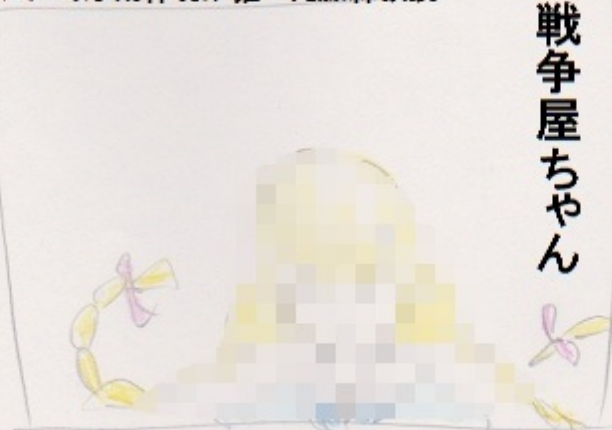
取金教授



ギャグマンガでは南伸坊が描いた藤森教授

ソーセージのことに言及
したことによりシリーズ
全体のホモに動揺が走る
(教授はゲイ研究家ではない)

戦争屋ちゃん



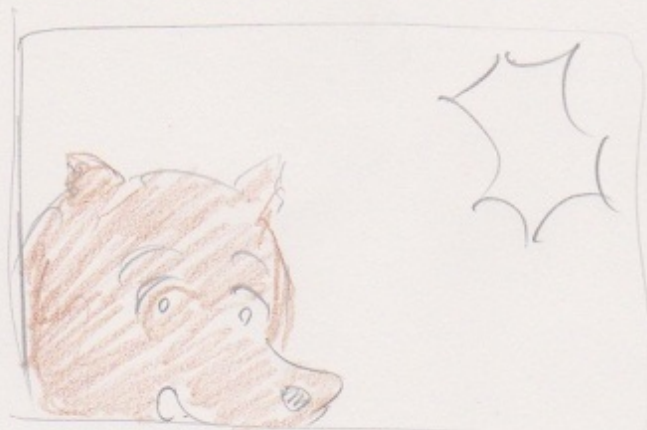
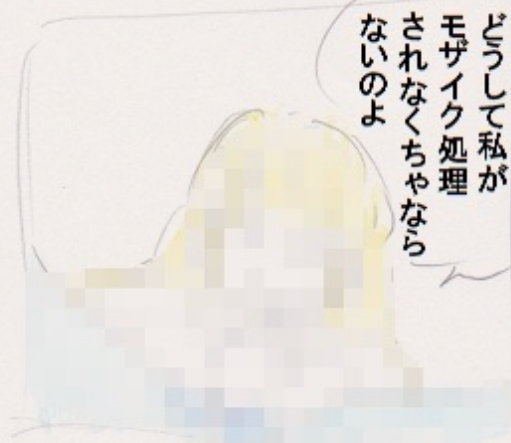
あおしょうじょ

ギャグマンガでは『ダイミダラー』の都条例違反非実在青少年リッツ

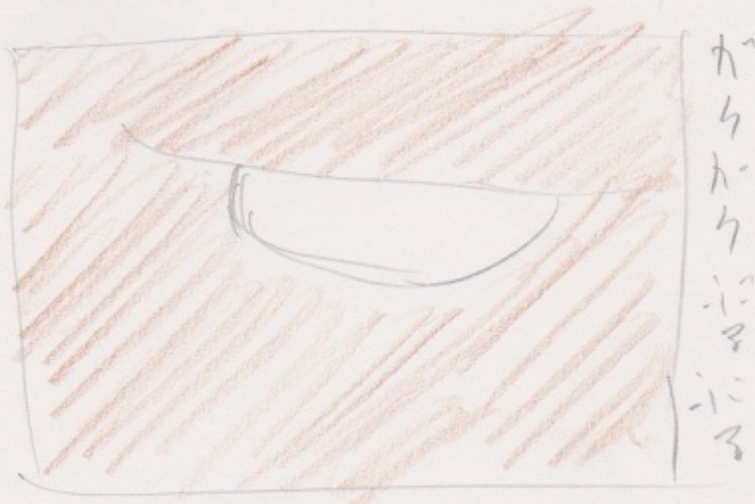
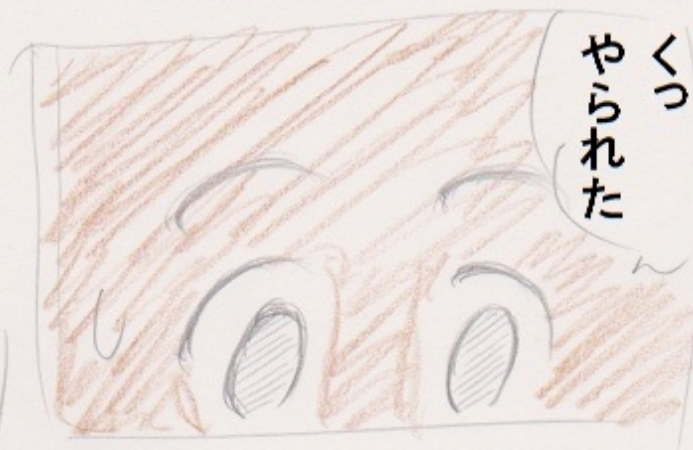
戦術コーディネーター
これだけはすまいと
思っていたロリータ
で客を集める手段に
良心の呵責を感じ
修正を入れてある

レギュレーションが低い横本見てごらん
つまり横本は東京都圏では見てはいけない

ちゅんときき
描いてます
メントくさぐさ
す



これがホントの
金色モザイクだ！



カータレット 金色モザイクからきているから

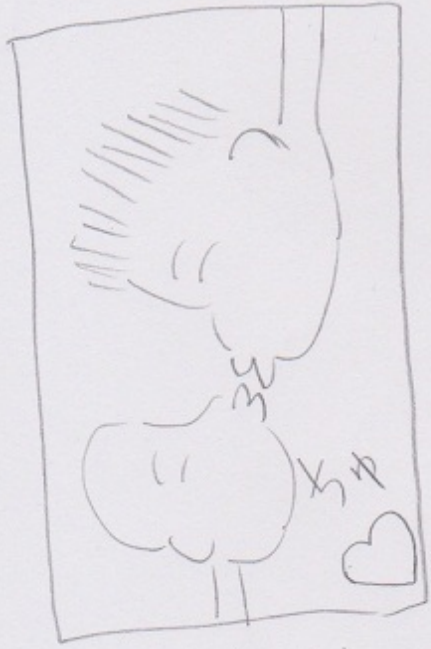
頭と頭をぶつけっ
脳髓が飛び散るような
新スーパーラトンかー？



いきなり出てきた超人に
クリティカル・リベンジ
を返されたマスクも
股が裂けなのは君の顔が...



びっくりぽんやなま



PERCE FULL

みな
ピースフル
幸せ

PERCE FULLのスペルが
書けなかったのでカタカナ
で書いた



地上万能固めで
動けないぷりⅡ世！
股をアスタクスク
ワームで裂かれたら
死んだはずのフエイト
君の顔が飛び出した

いつもの通り、字が汚いので字を清書してみた

「フェイト君 水をくれ」



20分後 宇宙服に着替えてきた
フェイト君は不思議な歌を
歌いだした。

「星汁～♪ 飲める～♪
星汁～♪ 飲める～♪
星汁～♪ 飲める～♪」



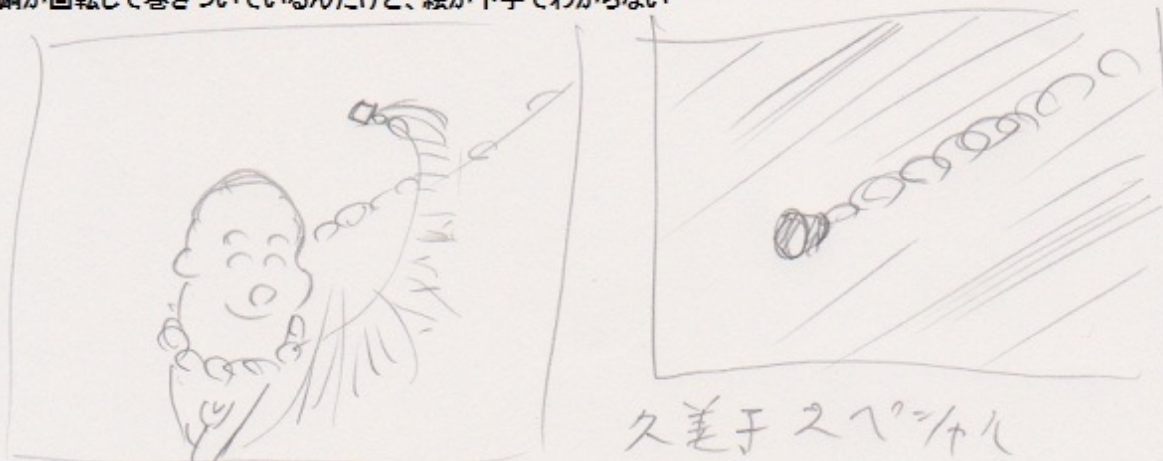
「二人の絆が 深まる～♪」



「こんなんだったら
バケツの水の方が
マシだ！」



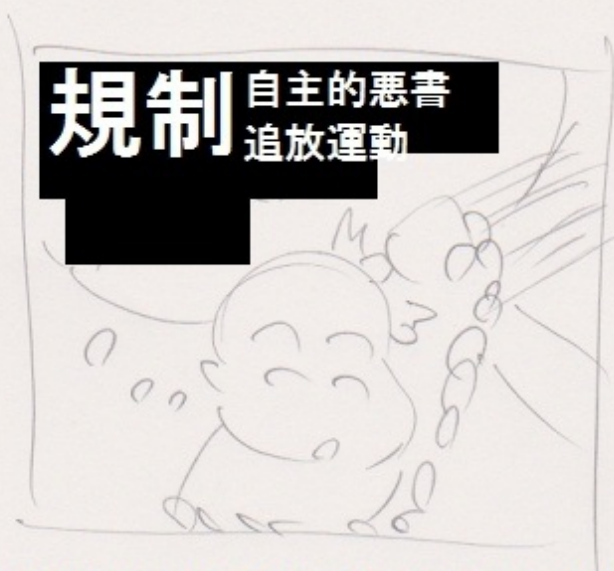
分銅が回転して巻きついているんだけど、絵が下手でわからない



募集集

みんなの考えた久美子スペシャル

規制 自主的悪書
追放運動



君たちも大人になればわかるが久美子スペシャルには、久美子スペシャル返しがあり、「デビルマンのカッター返し」というキーワードを解けば…書きすぎた

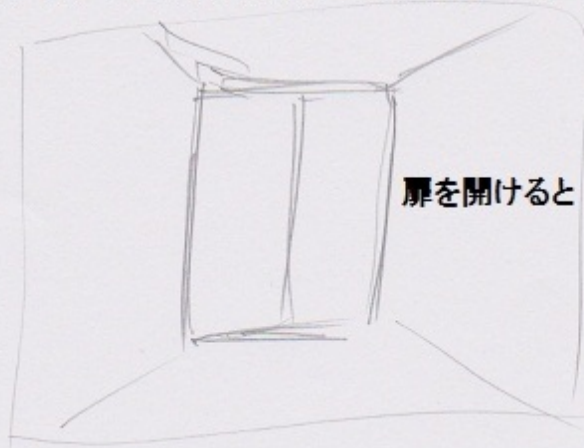
横本にあるゲイ禁止令中に描いたがいけないことをフェイト君が心の声で発しているため没にした
四コママンガなので
現在は募集を打ち切っています

ワイザードリイ のパーティーを組んだ

僧侶のアライメントは悪 つまり同性愛をしている破戒僧



他にも中立の全裸家(女装家という職業があるので成立する)もいる



もんちたあさふさいちとゆう

枠からはみ出しちゃった

人を買収していなかったら都知事になれたかもね
自分の私腹を肥やすより富の再分配をした方が懲役を科される
…法の下の不平等

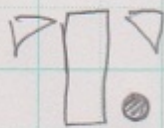


友好的な田母神だ

倒せばお金を持っているからもちろん戦う

ゼンゲバ閣下だった

タリ22レ



スワフ+1ハパーを使、2

東京五輪

(2行2行)

全株家のスタート

ちかふ -

ちん -

しんこ -

ちばや士 -

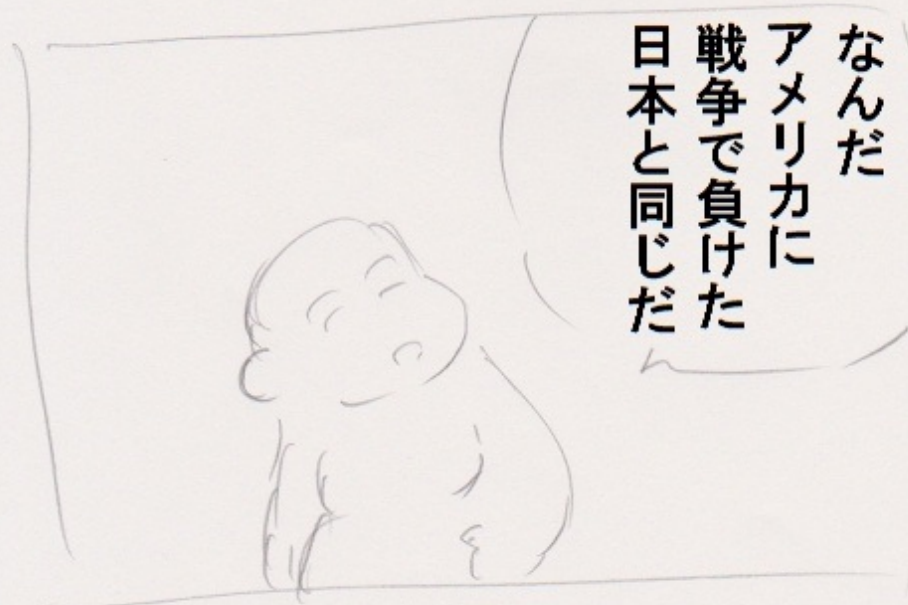
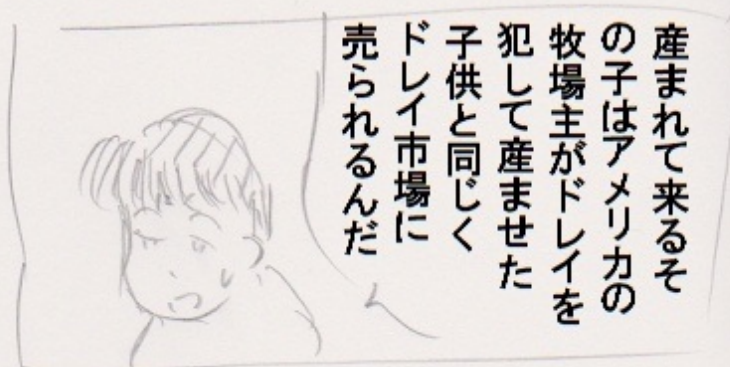
うん 12

ちんこ 11

ドリフは
ちんこにステ振り
無しでいいが
うん位がネウ

人間は基礎ちんこ 3 しめ
をいのてステ振りちんこボーナス
を振るう (12)





急に風刺

字が汚いので清書

アルブレヒト公
のことだね
熊枕ちゃんの

ねえ
くま公

健全育成条例

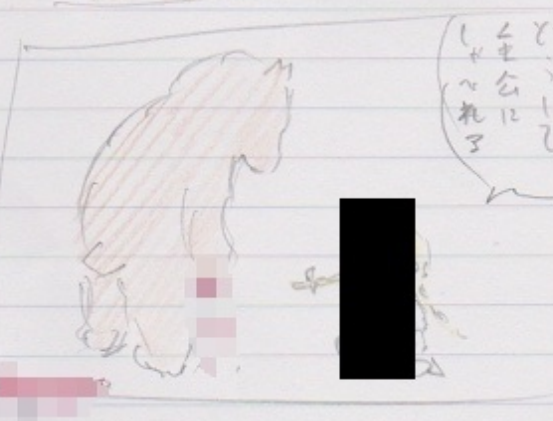
ねえ
熊公

なんだい
ちゃん



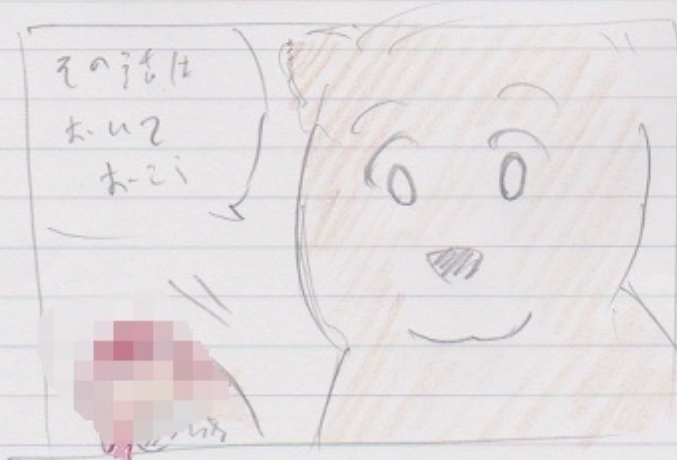
なんで
伏字なの？
放送禁止用語？

そ それは
言えない
んだな



どうして
熊公は
しゃべれるの

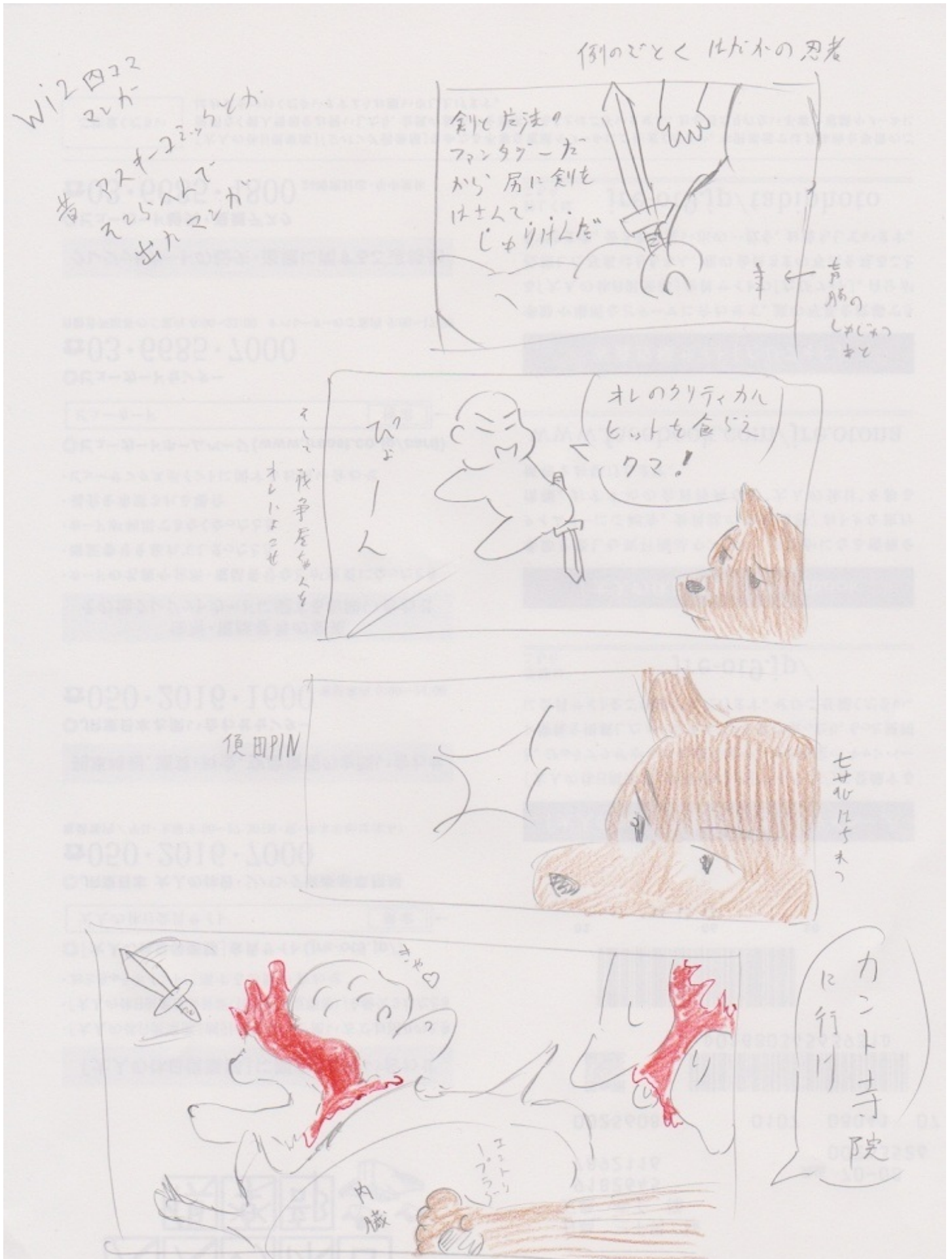
その話は
おいて
おこう

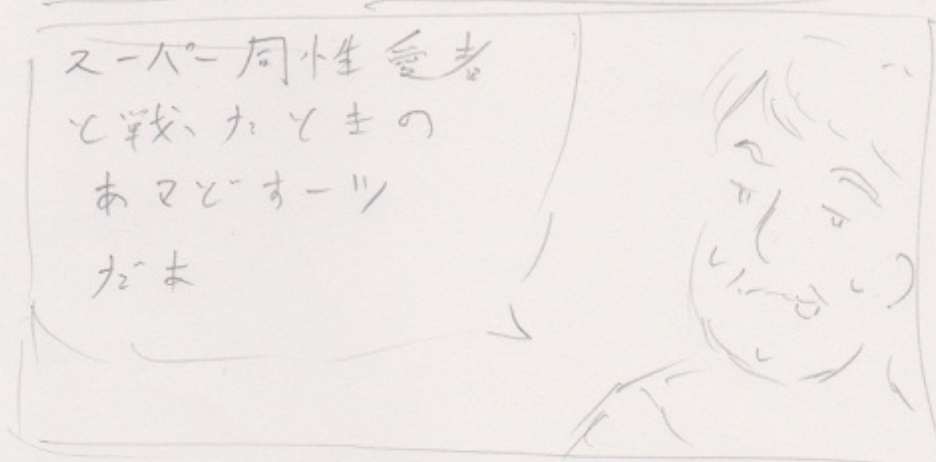


あんたの手
テレビアニメ
みたいに
モザイクかか
っているわよ

絵を一枚描いてネタを二つって蟲師でソラリスでネタ二つ作るみたいな

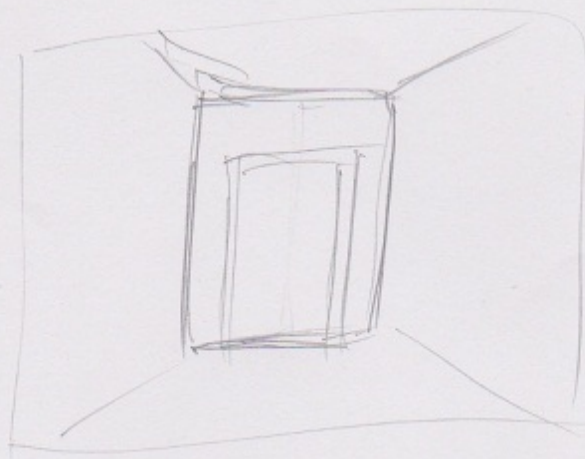
ファンタジー極右の人が描いた四コママンガ





うしりり
みせか
むくさ
イケカ
みい
金ア
サカ大人





も 人 す た 未 さ 永 け い ち と せ ゃ ん

友好的な春日太一だ



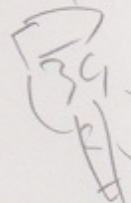
木之本桜のフィギアを
くれてダンジョンの
情報を提供してもらおう

冒険者の死骸だ
装備品をお借り
しよう



全滅で所持アイテムが減るのはこうした悪の冒険者のビジネスのためである

カシナートか
いいもん
レンタルだ

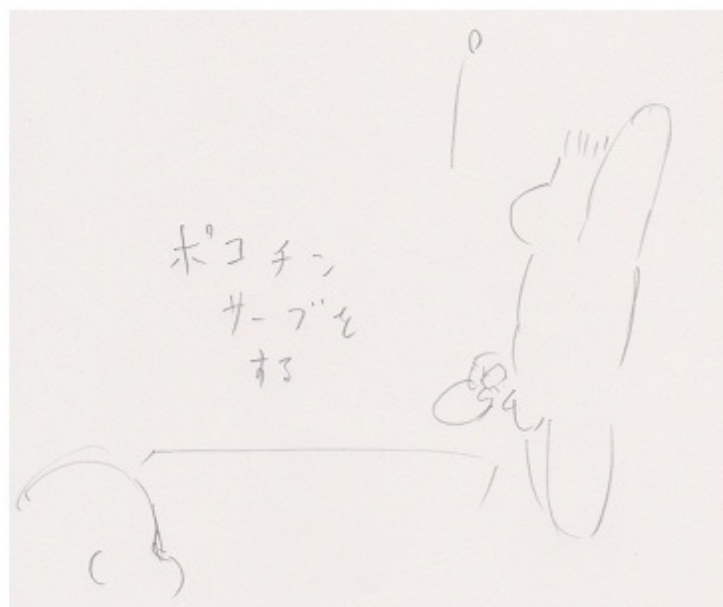


あっ

柄に
うんち君
ついてる？

ここからは絵を描くのが面倒なので『ゴッド
タン』の話をするけど、劇団ひとりはその手
でフライドポテトを食べた。西野くんもその
手でフライドポテトを食べてほしかった。
「お笑いなんてやめちまえ」。

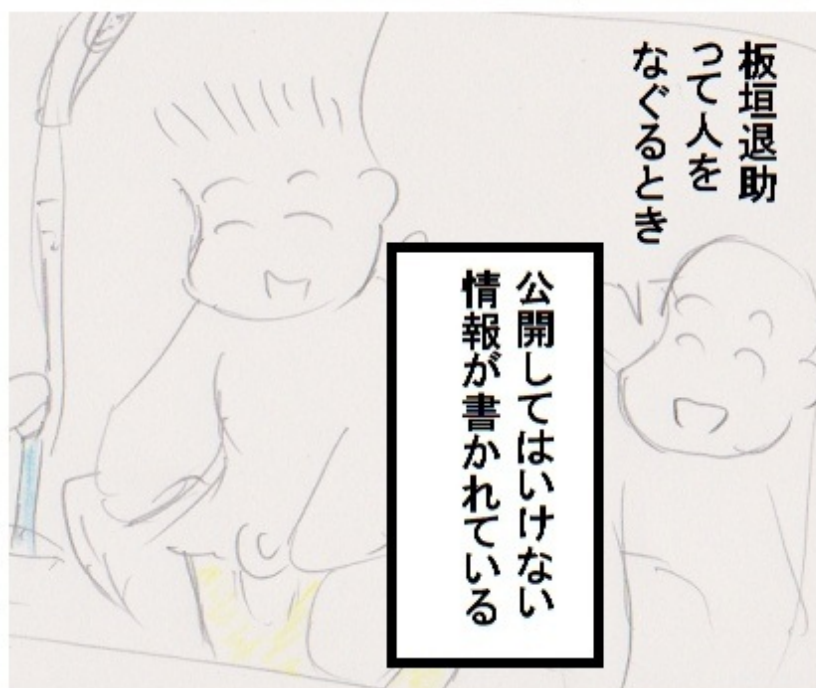
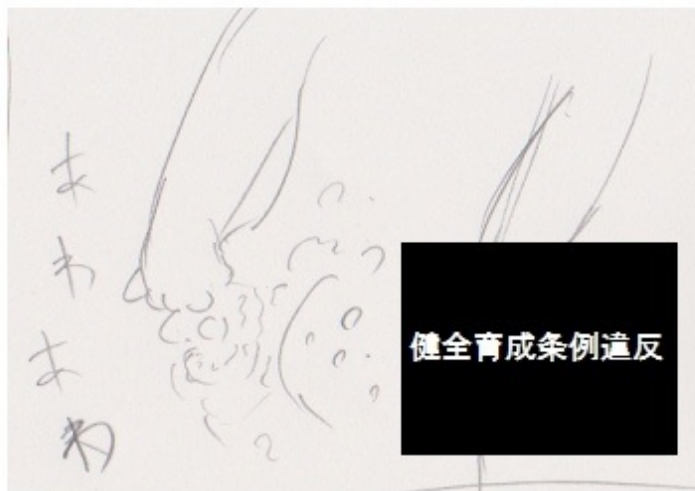
オリンピックのおもひで
を夏休みの宿題の絵日記風に



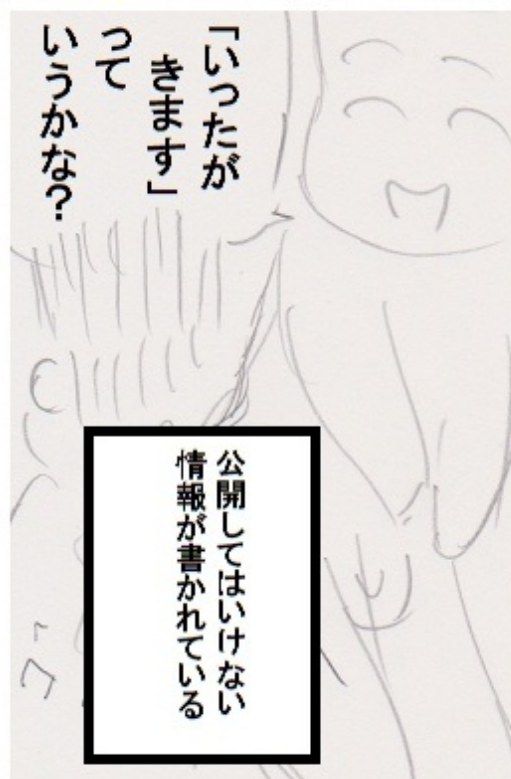
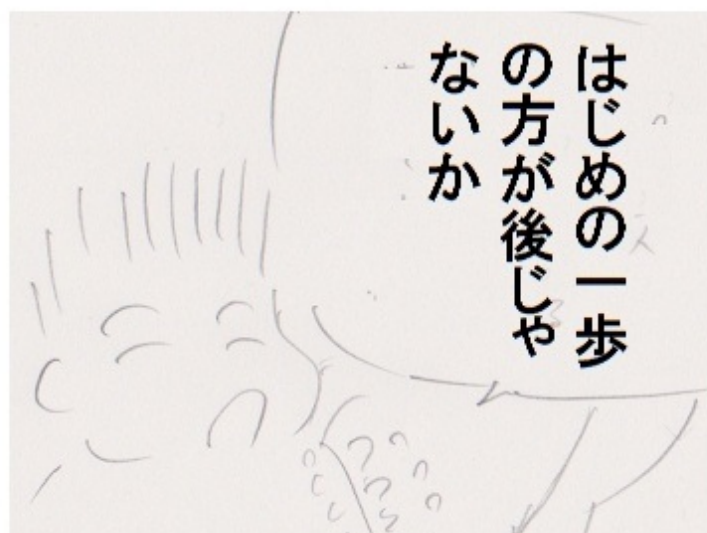
三コマ目は健全育成条例違反なので掲載できませんでした



タイトル戦で
緊張をほぐすため
セコンドが
ボクサーに
冗談を言っている



絵が下手でうまくコーナーポストや椅子がうまく描けない



銅星阿威リップロック
波久里だめか？
関の夢は断たれたか？

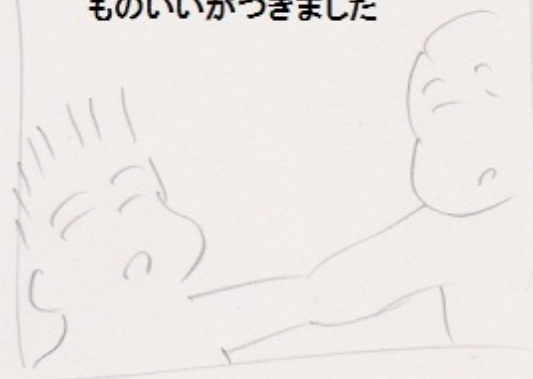


ああ 二人とも
土俵から落ちた
軍配はドロ……
波久里！

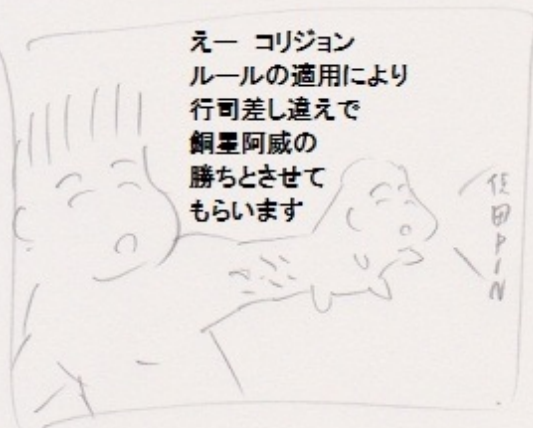


世界樹の
迷宮

ものいいがつかしました



えー コリジョン
ルールの適用により
行司差し違えで
銅星阿威の
勝ちとさせて
もらいます



相撲中継を聴きながら遊ぶ二人

2/21
1/21
1/21
1/21
1/21

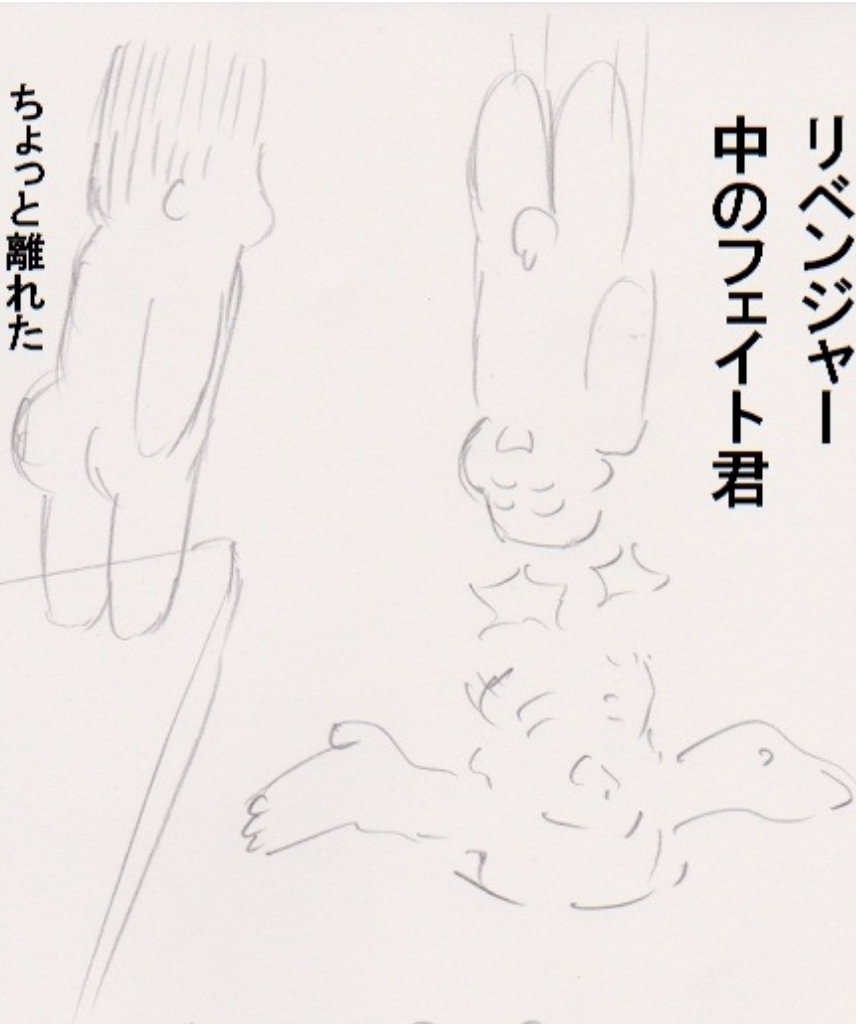
どこにでもいる

マッスル

リベンジャー

中のフェイト君

ちよつと離れた
ところにパイカル
の強化ガラス
の上に偶然立つ
なのはクン



おやおや
圧縮望遠レンズ
のビデオカメラ
が二人を捕らえ
4Kで映しているぞ



須田PIN



ゾラ

ドラクエ

小夜ちゃん

飯面

なのはくんはドラクエの荒くれ者が
国境近くにたむろしているならず者と
思われ、フォーティンプラスが
2013の差し替えなくちゃならない表紙みたいになって

水着のように
表面積が少ない
アーマーを着ている
このお姉さんたちは

なんですか？
『デッドアライブ
エクストリーム
バレエ』の隠し

目切れ311と着ていくとす

オレたち
ホモを裏切っ
たのか！

「戻らせ！」と
土くねがサレ
カタスル！

国境のならずもの
たちだよ 彼らが
いきりたったら...

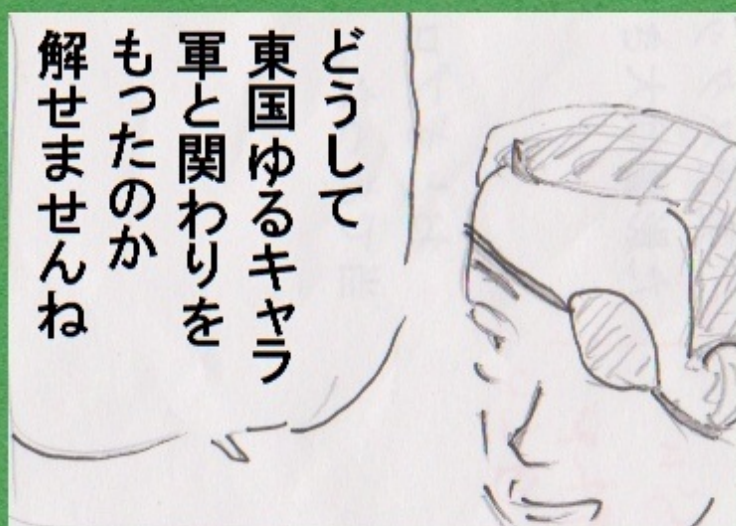
静めるために
いつもフォー
ティンプラスは
ズボンをはいてない

水着を着て 土金がほしいから

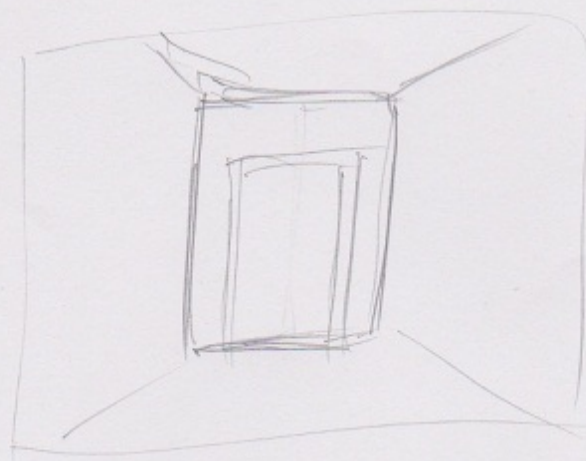
バンナムのヒロイン詐欺



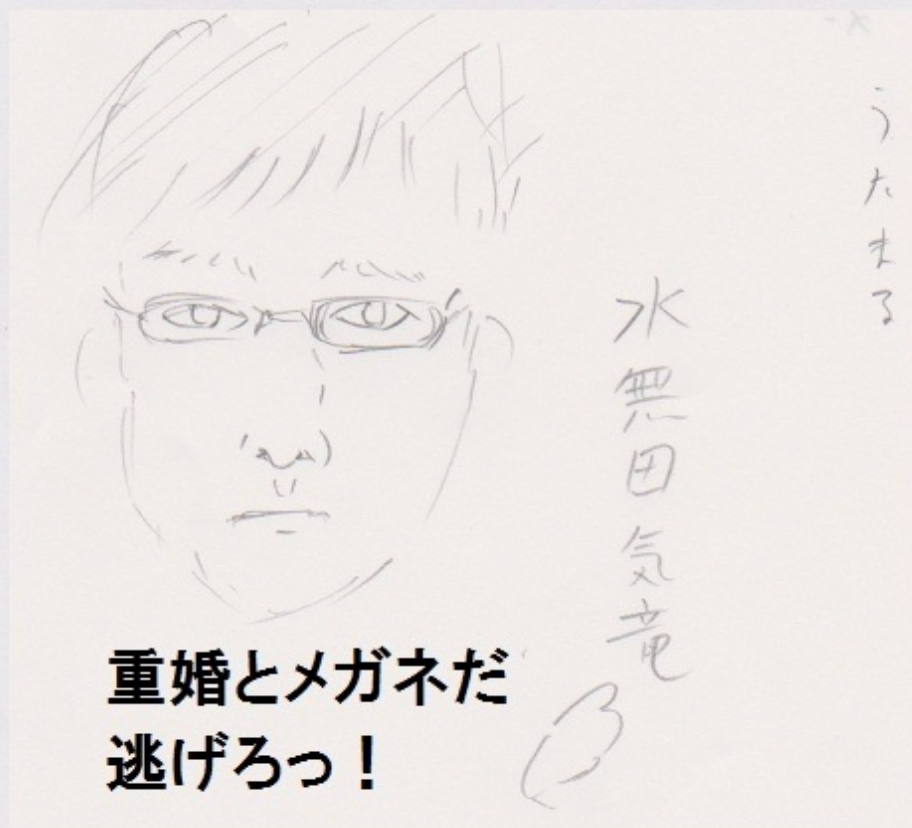
この現役高校教師の後姿
数学者に似ていないか？



TBSラジオクラウドの入りロページ まるでジャッジメントが並んでいるみたいだ
FF12とラジオを二つとも知っている人少ないだろ



も 人すた来さ永からいずとサゆら



サイバブリーが目的の犯行か？

ここで嘘でもメガネと重婚をクサしないと
TBSラジオと裏で繋がっていると思われてしまう
涙を飲んで犠牲になってくれ

そ ういふは

ホビットの
ステータス

指輪物語の批評にかゝる

「こいつら、すばし、こいのと

運だけで、ピンチが

アサシテントを

のソコに人にかねてか」

確かステータスは

ちから 5

せいめいりよく(ちんこ) 7

しんこう 9

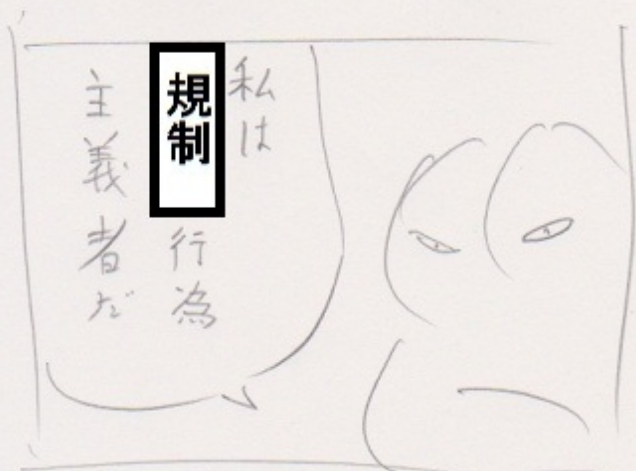
ちえ 8

すばやさ 128

うん 158

だったはず

「コマ目のセリフを思いついたゾット



須田ピンを分解するとベルソナ5になるのは証明済み
(『新世紀の数学史』より「五島の定理発見」の項を参照されたい)

ベルソナ5!

ビデオカメラ



コスプレダンパでウィザードリィの忍者
の姿に扮したフェイトくんがはしゃぐ

透明なガラス板を脚の上に置かれて三日三晩動けなくなっているのはくん
(魔法少女リリカルなのは第七話にあった「嘘じゃないんです。ギャグです」)

*コスチュームブレイダンスパーティの略 楊貴妃・聖なる同性愛者・ナポレオン・阿部**ベッキー・白鷗・デッドプール・作戦決行中のジオン兵・須田ピンなどの服に着替えた中年男性が「スリラー」の曲に合わせて一斉に踊りだす催し。

本当の病気で眼を患った人に両目に眼帯をするのは、視覚障害者団体に叱られるので大手メディアではけしてできないギャグ

上書き

生けり
北政神社



中村久美子

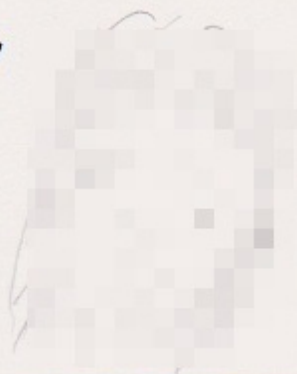


久美子になりました

白分・キラキラ

ゆうこりん

写真



デカリボンちゃんに
になりました

あまりにも写実であり、名誉毀損になってしまうので画像を加工した



そうりゅう・ア
スカ・ラング
レー

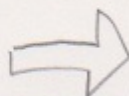


あすか先輩になりました

原作を読むと京都弁・上方言葉だから
正体を掴ませない京おんなの
性格がよく表れている



パティシエ鎧塚さん



オーボエちゃん
になりました

捕まった捕虜の末路

星を追うこともで同じネタがあったよね

うそ？ カリアゲ
にいたの？

ずっと
たんぽで

お米なんか
作ってたの？

戦争屋ちゃんの前を見せていないから
都条例に違反していない

ワンピースでフリースカートは縫製可能？

泥に足を汚したくないグロリアを肩車しているのは、金星の失樂園で
かくまわれた異性愛者の少年。

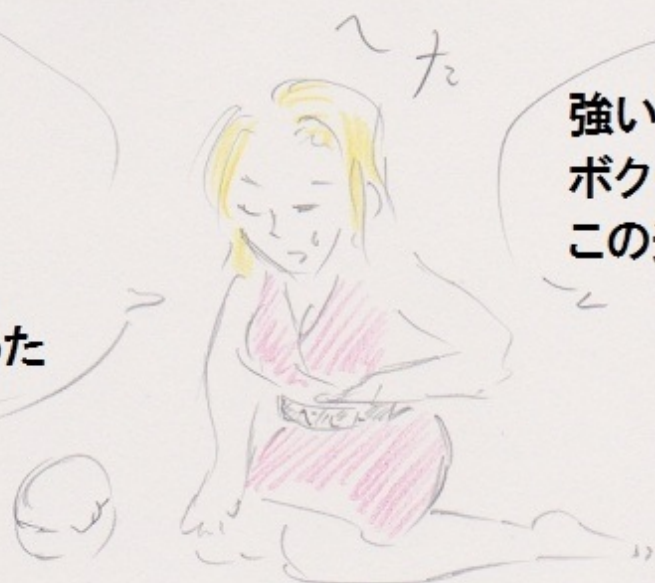
生えてない

もう 何もわからなく
なってももらい泣き

シュナの旅によく似たものがあっても「生えてない？」の思春期ギャグは無いから元ネタじゃない 元ネタは星を追うことも

アハン

ポケモン
バトルに
負けちゃった



強いよね
ボク……
この近くに



部屋を借りて
住んでいるん
だけど
よかったら
そこで休まない？

喜国雅彦の単行本か



今すぐページを
めくり四コマ目を見ろ！

うああああ

びじんきよく
だったあああ



お金を払う場ではないので
思春期ギャグも
こういう結果です

何かの広告枠 何を広告しているか わかるよね？

お金を払うと結末が違うって課金制度？
(中間を抜いているだけでオチは同じ)



Diary

もろもろの心柳にまかすべし 涼菟

『ホモ・ルーデンス』に引かれている、この句を詠んだ岩田涼菟は松尾芭蕉一門（蕉門）の一人で、隣にはちゃんと芭蕉の句も仲良く引かれている。なんで十大弟子の曾良（蕉門十哲の筆頭）をさしおいて涼菟くんなのかは、芭蕉の句と間違えたうっかりホイジンガだが、『ホモ・ルーデンス』は『ファインマンさん、ご冗談でしょう？』みたいな内容で、邦訳は「ルーデンスさんは同性愛者」である。ラテン語で「遊ぶホモ」という意味である。俳諧も、徘徊しているノンケの人を捕まえて…というのは冗談で、ちゃんと俳諧のことも『ホモ・ルーデンス』には触れられている。

ホモはもちろん、ホモセクシャルの同性愛者、つまりルーデンスさんは同性愛者、同じ事を繰り返しているギャグもそろそろ飽きる頃なので、正しく邦文に直すと“遊ぶ人間”である。

ルドロジーの開祖がこのホイジンガ。眩暈の領域を拡大したカイヨワで、古典派グループになる。経済学でいえばアダム・スミスとその継承者。戦前のホイジンガ、その業績を戦後カイヨワが横取りしようと、ゲーム（ルドゥス側）とプレイ（パイディア側）の『遊びと人間』を著したといえる。

21世紀になってゲーミフィケーション、実践的経済学者であるケインズと同じ事をしようという、実践的ルドロジーが台頭してくる。マグゴニガルである。

ちゃんとこれ覚えておかないと、後半がわからないよ。

あそびの社会的問題、国民国家の国で生まれた子供は遊ぶことで国民になるとか、ナショナライズされるとか、そういうダーティな側面は、血に染まった右手をかざして、

「その話はおいておこう」

ヨハン・ホイジンガが古典派ルドロジーで、ロジェ・カイヨワが古典派パイドロロジーで、古典派チュウヨロジーが私だと、わかりやすいけど、そうじゃない。

基本、闘技を研究するのがルドロジーで、遊戯がパイドロロジーだ。

ホイジンガもカイヨワも、闘技と遊戯、両方について語っているから、二人ともチュウヨロジーかという、そんなに中庸学的な均衡を保とうとは、思わない。むしろ、ミハイ・チクセントミハイのフロー理論の方が、中庸学的だ。

『ホモ・ルーデンス』を読み返すと、自分の元ネタばかりだ。『ばらかもん』の主人公みたいなもので、基本に忠実すぎて面白みが無いと、批判されてもおかしくない。ルドロジーをちゃんと学んだ人間がいれば、つまらないと思われる。

「言葉と詩」のビデオゲーム化が、海外では「言霊使い」に、日本では「コトタベ」になるけど、日本ではダメだと結果が出ている。追試すれば再現性が得られるそれを後進に教えなくちゃならない。

不況もあるし、それができても評価されない。

評価されないもの、レベルが低いものであるということを伝えるのが、『あり思』の役目だから、「担保価値」の方がブレるようなことがあっては、困りものだ。

正直、真面目に働いてほしい。
ところで、急に英文である。

Ah, Buckingham, now do I play the touch, To try if thou be curent gold indeed—.

これも「ルーデンスさんは同性愛者」からの孫引きである。シェイクスピアの戯曲は著作権切れで一族も絶えているから日記の方に載せても大丈夫。

「シェイクスピアロマン」を発案した人間だから。

情報漏洩が無ければ、神罰行軍（ウェールズからの黒い稲妻）に対応できるはずがない。誰が裏切り者かの円卓会議で「我々の中に理想があるかどうか？ 後の世に医者と美学者の争いになるぞ」は、もちろん鷗外が起こした「理想論争」にひっかけているけど、メタなセリフである。メタ演劇的である。

公爵の戦争の芸術を汚したから一人生贄を出さないといけず、攻略本では「正史的な理由」で赤鼻をさし出せば、一番デメリットが低いと書かれるはずだけど、プレイヤーの多くは犯人が誰かわかっている。あの女しかいないというのは、わかってる。わかるように作る。

「もう作ることがないけどね」

かーずS Pの影響でうっかり「あの女」と書いてしまったが、この場は女子禁制。気にせずに続きを書こう。表紙もジャポニカ学習帖方式で、奥様方が嫌がる昆虫をフューチャーである。「虫ポキモンは奥様に強い」（「昔は米屋だったけど、そういう文化は廃れたからな」とわけ知り顔で言う）。

虫を撮影するって難しいけどね。ショウワノートのホームページにある老カメラマンはたくさん苦労して、良い写真を作っているのが忍ばれる。野生の虫は常に動いているから、露光時間が短くてボけてしまう。

所で急に話をかえると、野球が近代戦の砦攻略の模擬であると主張したが、スリーアウトはどこから来ているのか、いろいろ考えて上陸戦三倍、攻城戦三倍が用兵の基礎にあるものからとられている。

一日八時間後は休憩の三勤交代で戦い抜けば、城を落とせる。兵士が交代で三日三晩攻め続けられ、まず指揮官がもたない。坊城装置も使い切らせる。上陸戦もはしけがわりに人の遺体、肉弾で威力偵察を繰り返していく。味方の遺体を踏んで上陸する。

近代スポーツは人を歩兵にする。カイヨワの『戦争論』の受け売りだが、歩兵が民主主義を作る。

すでにルールが展開され、なんらかの因数を分解する。でも素数だと思ったら二つの整数で因数分解できる落とし穴があり、9イニングは三日三晩攻めることの意味なのかということ、ある本に拠れば21点先取でゲームセットを、時間が無い（お茶の予定が入っている）から9イニングで終わらせようとする。10というキリのいい数字にしないのは、試合終了をデタラメにルールを決めていたからだ。21点先取も変化球が発明されていない、打者圧倒的有利の時代の産物だろう。クリケットに毛が生えていた程度か、ベンチorダグアウトも第一次世界大戦以後の球場だと塹壕の暗喩として作られたのか、まだスカウトがいた頃だろうと、懐かしがるのも問題だ。

野球という球技がまたパイディアあふれる時代ということだろう。

We are digits God's computer

ピンチョン『ヴァインランド』の注にある言葉だ。1メガバイトのデジタル文書は800万人の生死、『あそびじゃないの』だと、16メガビットは1600万のキスの有無、情報が詰まっているたとえである。

ビット数とか、そこらへんの情報量問題は、別にわざわざ語ることはないけど、一応は描いておかないと、ゲーム制作のいろははわからない。（私は天才じゃないから、こういういろははわからなくていい）

ちゃんと言わないといけないのは、これからのゲーム業界のことを考えると、アメリカの51番目の州（ステート）、あるいは大統領を選出できない準州（テリトリーのグアムに編入）に日本がなるというのは、あながち間違っていない。そういう構造改革をしなければ、日本のコンシューマはガラパゴス諸島のゾウガメのように近親交配が起きて種の衰退が起こる。すでに起きている。

アメリカ化で資本投入の国内格差を埋めて、皆P S 4を買う。そうでないと、淘汰されないといけない側にいいように立ち回られてしまう。

もちろん個人的には『風雲児たち』の読者なのだから、反対だ。インディアンの血、黒人の涙、そして白人のスペルマで出来ている国がアメリカだと知っている。しかし将来のゲームクリエイターたちのためには、こちらの方が絶対的に生き残れる。希望者100人の内5人ぐらいしかゲームを作る仕事に携われないが、アメリカ編入で15人ぐらいになる。弾数も放れる。

国民である個人と業界の動向を見る自分がコンフリクトしていて、大いに悩む。

ゲーム業界を持続していくには、海外と接続し、梶田省治さんの言うとおりの英語を覚えて、そこで作っていくしかない。デザイナーもプログラマーもさっさと英語を覚えて国外に脱出しろ。さもなくば労働力を悪用されるぞ。

梶田さんの発言時期が、ちょうどヤクザマネーがコンシューマゲーム市場から引いていく頃と一致しているだろう。それからゲームレビューを書くと、『あり思』のネタと被ってしまう。『世界樹の迷宮』のゲームレビューを書いていたら、途中でそれに気づき、わざとペインティングすることになったし、G R Cのネタも微妙に「R P G計算式」が被っている。

「イムズとアリスの夢冒険」に載せるチャートをこちらにコンバートとか、いろいろ、ラフ画だけにしておこうか、裸のお姉ちゃんを描いていいのか、少しばかり悩む。

古典派は、いくら平林久和が称揚しようと、役に立たない。『カルドセプト』シリーズが良くても、これは90年代にシリーズが初出した作品だから、現在新作として出したら評価されないだろう。シリーズが続いているから、安心して高く評価できて、古典との繋がりも語られる。

井上明人さんや中川大地さんが援護射撃でちゃんと指摘しないから、自分で言うことになるけど、古典的なルドロジーであるホイジンガやカイヨワの考えを覚えても、別に評価されるわけじゃない。（怖いと思うのはこうした古典の言葉を知らずにゲーム作りの現場が回っている…スクウェア・エニックスはどうもそうらしい）

岩谷徹の言うように処世術を学んだ方がいいだろう。エンターブレインが出したところだから

、「根回ししろ」って書いてあるんだよ。いま、トゲトゲしているからあえて言うけど、それでクソゲーを作った方が仕事になるんじゃないか。

あんまり言うとなんだけど、ソーシャルゲームは、古典派に根ざしたものではなく、ゲーミフィケーションに基づかれています。

井上さんは嫌だと思うけど、著作『ゲーミフィケーション』にソーシャルゲームのマネタイズ、マネタイゼーション、収益性の部分を支えるテクニックが書かれている。

毎日お店に行っただけでポイントがもらえるように、『パズル&ドラゴン』で毎日ログインすれば精霊石一個もらえるような、そうしたことをしないといけない。

永遠に真実に到達できないディアボロと同じだ。

採用しなかった人間のということで、ゲーミフィケーションをしてしまったら、人材登用の段階で失政していると認める、そんなバカなことがあるわけない。

松山洋がコスチュームプレイをするのは、見かけ騙しだ。バカ丸出しなので左手でダメになってきたミリペンで描いた。これからも描く。（後で、康一くんが吉良吉景が）

レイヤーに思想なし。アクターには歌舞伎役者にしろ新劇俳優にしろ、伝統主義や近代主義を表現する。

思想が無い人間にルドロジーを語っても、意味が無い。

だからたとえ、サイバーコネクトツーに入社できても、うまくいくわけがない。

「ソーシャルゲームで購入者がイヤがらずにマネタイズするためには、ゲーミフィケーションをちゃんと理解していないといけない。それはソーシャルゲームではないパッケージソフトであっても、そこを理解しないといけない」

100パーセント、「ゲーミフィケーションって、何？」と言われると思うけど。

それを理解させるために、件（くだん）の井上さんの『ゲーミフィケーション』を一晩かけて読んでもらうしかないが、読まない（断言）。書類選考しなかったのだから。書類選考をしなかった人間が選んだ人物がどうして、書籍を読むんだ？

これで何を言っても、ムダだとわかっただろう。いいがかりをつければ、自分の職務を怠けられる人間が採用されているから、無限コンボを生み出す。

こういうことが出来るのは、裏づけ、ケツ持ちがちゃんという。

つまり、パッショーネ工藤会だ。九州は反山口組工藤会の膝元で、サイバーコネクトツーが関係があってもおかしくないだろう。これで通常ではないといういいがかりをいくらでも付けられる。

「週刊ファミ通」のちょうちん記事によると創業20年らしいが、20年前はギリギリデベロッパーにヤクザが資金を回せた頃だ。NHKスペシャル「ヤクザマネー」で流行って収益性が見込めるが正規の銀行が資金投入しない業界にお金を出す様が描かれている。放送当時はIT企業、20年前は流通をSCEに押さえられ、中間流通業者の企業舎弟が撤退していくが、あいも変わらず開発会社や中古販売の小売店に企業舎弟はいただろう。

これをSCEが嫌って、PS2は開発費用がかさむ開発環境でヤクザマネーでは開発運転に手が届かない高騰化をあえてしたと思われる。もちろん、これでどの業界が潤った（資金が流れた）のか、頭が悪い私でもわかることをあえて書かない。

その業界で一応タレントが幾人か現れているから、全否定はしないが、この正史を理解しな

こんなのさばらせておくら、アメリカのテリトリーになって人材がそちらに流入した方がよっぽど健全だ。

ブックログのバブー
本体価格百円

もっとう、団子兵衛がベティちゃんの顔をしているから、大藤さんの中では女形もこなす歌舞伎俳優で『ピンポン』でベコをやった片山福十郎が声をあてるのが、適切とかの話をしたほうがいいね。つかこうへいが鈴木忠志をバイディアダウンして、さらに野田さんがバイディアダウンさせ、岩松了がルドゥスを上げる静かな演劇のはしりをして、平田オリザがそれを完成させる。そしてセリフを超リアルに岡田利規が作って、極北に至る。次の巻でこの話するかな？ けっこう忘れちゃう。

社会経済学入門 巻1

12/10

第四部 第六部

人まいたのころ



ASB

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

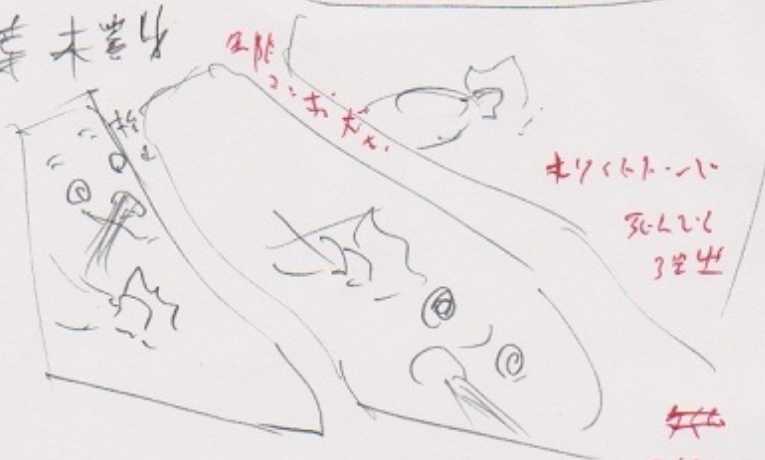
2/2

2/2

2/2

2/2

2/2 1/2 1/2



2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2
2/2 1/2 1/2
2/2 1/2 1/2
2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2



2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

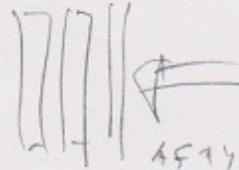
2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

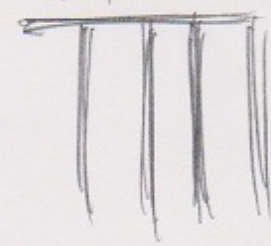


2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2

2/2 1/2 1/2



全身漫画家の起源 7.4

出来のいいアニメ『ジョジョの奇妙な冒険』の岸辺露伴の回を観ると、荒木はスティーヴン・キングが好き以外にも、手塚治虫の狂気性を引き継いでいる気がする。手塚賞でデビューしたとか、森安なおやが取材協力でスカーフしかもらえなかった「わが青春のトキワ荘」での手塚に褒められまくっているとか、いろいろ思い起こすことがある。

まずキングが好きなのは、疑いない。「痩せる男」で、映画では俳優がダイエットして、みるみる痩せていく恐怖を表現している。マンガではスピードとテンポを優先して体重が減っているだけで、見た目は変化していない。むしろそこに康一くんは恐怖している。

くだんの露伴の場合、クモを切り刻む事と似たような事を手塚もしている。NHKの教育の方だったと思うが、ドキュメンタリーで小学生の子供たちの前で自身の子供の時分の話をするというものだ。

そこは手塚、我々を裏切らない。

記憶が正しければ、捕まえたトンボを部分的に解剖して、何日生きるのか、調べていたのである。シippoの方を切ったらどうなるのか？ そんなことを何匹も試して、子供たちに語って聞かせるのである。能登さんのセリフにP音を入れなくていいのか！ というぐらいショッキング（録音した）である。黒猫のセリフにはテレビ放映ではP音が入っているが、わざわざDVDを借りてショッキング（録音した）を再確認した。（「シャチョさん」とか南洋系ホステスピジョンを話す外国人労働者・・・止めよう。新しく付け足すの止めよう）

一応の配慮である。

手塚のやっていることは、医者として解剖学の演習だから間違っていないが、普通の子供には虫をムシケラ扱いする狂気のおじいちゃんに見える。後に『ブラック・ジャック』を描く、それを下から支える経験であるが、岸辺露伴ににたりよったりだ。

たまに出てくる変な生物は白土三平の影響らしい。スカイ・ハイが操るロZZみたいなものから、南洋から訪れたという生き物が電磁波を食べるというのは、全部フィクションというより、後者は光合成の事を考えると動態でなければ可能だと思える。

マンガとしてギリギリセーフだ。

ギリギリアウトだが、露伴は理想のマンガ家像のひとつだ。

週四日か五日で週刊連載をアシスタント無しで、ページ数によるけど、昔は出来た。これが二本や三本となると、さすがにアシスタントがいないとこなせなくなるが、連載が週一本だけなら大友マンガ以前はできた。

それ以上だと量をこなさなくてはいけないから、アシスタントが必要である。吉祥寺をホームグラウンドにした大友さんが、地元のアニメスタジオとの交流の中で「量を質にしている」と気付いたはずで、質を表現するためにマンガアシスタントを使ってみたら、「Fire-Ball」や『童夢』というマンガ史に残る名作をものにしたと、思う（実際の歴史では前後している）けど荒木はそれに影響を受けたのである。

DIOとの対決は『童夢』の団地を飛行するのが、エジプト市街を飛行するに変わっている。

荒木スタイルが確立しているから、大友マンガを表現しても、独自の表現と読ませることに気づいたから、他のヤンキーマンガやグルメマンガ、ホラーマンガの要素を入れても、荒木のスタイルで描くと、一見オリジナルの表現に見えてしまう。森王町はその実験都市の側面がある。

読者はキリスト教の幼児洗礼に近い体験を受ける。荒木は例のキリスト教プロテスタント系の学校に通っていたから、けっこう危ない問題をはらんでいる。半分美大と言われる和光大学に通ったマンガ家はアクが強い作風みたいなことである。

私は荒木から「Fire-Ball」以上のショックを受けたことが無い。楽譜と12個の穴が空けられた二枚の紙で調性音楽の死亡診断書を作ったような驚きは無い。

キングの『ファイアースターター』の影響を受けて、マジシャンズレッドを描くか、「Fire-Ball」を描くか（これに宮部みゆきの『クロスファイア』もあるか）。宮本茂が土管工をファイアースターターにしたほどの影響を受けているかということ、そうではない。大友克洋にはサクラメント（聖跡）があったが、荒木には無い。

このネタはどこかでやったか？ 新書のマンガ論やユリイカの増刊で言っていることは、須賀原さんの『うああ哲学事典』の中の編者と言っていることが同じだ。

[モデル46の“バークリーの「主観」”](#)の回でするっぱげの編者の「ゲシュタルトが強い絵を描け」と、同じことを言っている。私のようにわざとゲシュタルトを下げているのは、邪道なのか。（本当は堀井雄二のみたいな絵を描きたい）

それからハイプリエステスは肉のカーテン。

「ちげえよ」

それはイエローテンバランスだよ。危うく無限コンボするところだった。ハイプリエステスはオメガマンじゃないか？

擬音「ズキュウウン」も、谷岡ヤスジの「ズギュウウン」ではないか。（『夏目房之介の漫画学』に答えがある）

同じくらい、読者の宇宙にショックを与える。

今回言いたいことは、何かという、「久美子スペシャルの起源は山岸由花子の髪を使ったものだったんだ。なんだ！ Fire-Ballショック以上を受けていたんだっ！ オリジンは由花子スペシャルだったんだ！」（最後くらい冗談でもフォローしないと）

幼児期にガクランを着た少年（リーゼントの聖人）に助けられたから東方くん（ジョウの字が出ない）、ギャングスタに救われたからというジョルノ、彼らのヒーローであるが、この幼児洗礼を克服しなくては大人になれない。正直、松山洋が嫌いだから、荒木も煽られて嫌いになって呼び捨てにしたけど、死ぬまでいじりたおす。

荒木にとってのヒーローは手塚や大友かもしれない。あるいは谷岡ヤスジ。彼がジョニィに聖軀よりも大切なものを「聖体拝領」するジャイロだ。

- ・ 『笑うせえるすまん』で、水道局の人が銭湯が好き過ぎて、三助になる話。三助は金子くんのお父さんの本業だ。安孫子さんの作品が、潜在的に影響を受けている。たけしは間違っ、アルバイトを本業だと思っている。

カーズが戦闘モードになったのと同じく、唐人開国頭巾が戦闘モードになった潜在的影響を受けているというのは、歴史修正主義でそのうち無くなる。

- ・ ジャイキリで持田がケガで代表の10番を花森に預けていたって、持田は連載初期に出てきた敵チームのキャラクターだから、連載が長期化して『風雲児たち』や『ファイブスター物語』並に伏線を引いてから回収まで時間がかかっている。

だからJリーグのシーズン優勝の決め方と、作中の決め方は、違うのでは？ リーグ戦前期・後期優勝の仕組みだったっけ？ その前の一年間かけてリーグ王者を決めるシーズンじゃ、なかったっけ？ スマートフォンが普及して、ガラパゴスケータイで話している現代劇ラノベのタイトルを終了させないといけないのと、同じ事になっていないか？

- ・ 一年前、『ガッチャマンクラウド インサイト』であれだけ「空気にのまれちゃいけない」と、描いていたのに、恐ろしいくう様に化けた人たちが舐添都知事を…アニメの視聴率が少ないだろうし、全国で200万から300万人ぐらいだとアニメファンにしか、この話通用しない。

野々村議員のように詐欺じゃないなら、政治活動費返納でことがすみそうだったのに、詐欺じゃないから政治活動費を返納しなくていいという、なんかよくわからない論理にすりかえられていた印象があるから、知事を引き摺り下ろされた。早めに「返納します」としても、あの顔じゃダメだったかもね。

- ・ 『91Days』、『ロード・トゥ・パーディション』じゃないか。伊坂幸太郎が大好きなサム・メンデス監督の映画をテレビシリーズに十分どん兵衛しているのか、「マンガ夜話」で『ロード・トゥ・パーディション』は、冥府魔道という意味があり、『子連れ狼』のこと。

他にも「このキャラクターがサム・メンデス監督の分身でカメラ小僧を演じさせられている顔の良いジュウト・ロウにあたるのかな？」と思う。

- ・ 「まんがタイムきらら」を読むと異色作の『棺担ぎのクロ。』、かわいい女の子が丸々一回分出てこない（ネコとホムンクルスのキメラ誕生譚…ややこしいな、ちょっと違うか）とか、日常的空気系萌えマンガ雑誌でそんなことあるんだ。と、驚くような内容だ。

団塊の世代が「わからない」と首を傾げた『マカロニほうれん荘』と同じく、私が「わからない」と首を傾げた『あずまんが大王』から、ここまで来るんだ。

果敢にファンタジーに挑戦しているとか、伊藤剛さんにマンガ批評を書いてほしい。（これも連載開始からはかせの話まで十年以上時間を置いている）

- ・ 催促されているようなものなのだが、四葉のクローバーを何年も探しているが見つからない。これじゃあのゲームクリアできねえよ。実際に作られることが無くて、よかった。

私は別に故・談志の「落語は人生の業の肯定」を真に受けてはいない。まとめに入るために、何かそれっぽいことを言って、終わりにしただけだ。

そんなことじゃなく、GUのシャツを私は持っている。



なんで『かくしごと』を買わず、シャツを買うんだというご批判は承らない。（後日 プラモデル黒田洋介先生＞久米田康治のマンガ と判明する）

ファーストリテイニング社は、バングラデシュに工場を持ち、人件費の安い現地人を雇用しているようだが、過去の中国と同じく、人件費が上がってきたら、やがて撤退する。

どうやら、日本は戦後西側ブロック経済の勝者で、冷戦崩壊で旧共産圏や第三世界側ブロック経済だったところにも、海外進出する動きがある。そうでないと、銀行がお金を貸さないのだろう。その勝者がファーストリテイニング社やダイソー社の、西日本発の会社である。

そうしてアジアに工場をかまえて、交通事情問題などのエクスキューズはあるが、国内ではいらなくなった時代遅れの技術を後進国に振興のためという名目で、インフラを作りに行っている邦人が殺された。裏は取れていないけど、道路公団で決められた予算で道路を作っていた頃は仕事があったのが、構造改革で仕事を求めて“外”に押し出された環境変化を美談に作り変えていないか？

他にも事情があるだろうが、ダッカを訪れた邦人たちがテロ被害にあった。

ファーストリテイニング社は現地の社員に外に出歩かないように厳命したという。

実行犯ではないが、ダッカのテログループには、日本国にいた人物もいただろうとされる。立命館大学で教鞭も振るっていた准教授で、日本国籍も持っていたと報道にはある。（後に蓮舟方の二重国籍問題が出て二重国籍者は国民ではあるが日本人ではないという認識なのだろう）

彼は実行犯に支援していたらしい。

阿呆でなければテロを行うレストランに訪バングラデシュの日本人も客に入っていると知らないわけが無い。

同じ日本国民に恩があるなら、テロリストにならない。

テロリストに資金援助、無形の援助をしたというのがテロリスト、なぜならテロリストの仲間

だから。この理路から考えれば、西原理恵子が坂本竜馬をテロリストと呼ぶのは、おかしくない。武器を長州に供与したら、幕府に対してテロをするに決まっている。

むしろ同じ日本国民なのに、どうしてムスリムでアジア人を排斥するのか？ 彼には疑問だっただろう。それに京都という土地は、国内の和人ですら排他的である。

それでインド大陸系のアジア人が、日本国籍を有していても、人種差別的扱いを受ける。白人には便宜をはかるのに、自分たちアジア人にはしない。

ムスリムがテロ加害をするのだからというなら、カソリック系だって魔女狩りしたり、プロテスタント系は三角貿易の奴隷制度の補強を図っていたはずだ。

取材したら出てくると思うが、具体的には明かせない。消費者である日本人が不利になるようなことは、朝日新聞でも明かさないのである？

自分の子供を堕胎した私の母親ですら、人種差別主義者だ。この間も、「プロ野球で四番打者は外国人がダメというルールを作れ」と、レイシストそのものの発言をしていた。さすがに、「それなら松井やイチローがメジャーリーグで四番打者をするのは、ルール違反だからさせないとされても文句が言えない」と嗜めたが、21世紀になってもこういう人は死滅せずにいる。

あなたの隣にいる。

だからテロが起こる。

私の中にも、レイシズムやヘイト感情が無いわけじゃない。もし松山洋がそちら側の民族なら、影で在特会を支援してもいいかと、暗い気持ちになることもある。こうしたことを語らないと、人種差別やテロにフタをすることになる。

こうしたことを言ったり、書いたり、つまり「やっちゃいけない」と考えていなければ、ついやってしまう。

沈降させているだけでは、なんの解決にもならない。

安孫子さんはマンガ「黒いせえるすまん」がブラックユーモア短編で、いじめる側がどうして他者をいじめるのか、論述している。述懐というやつだ。普通ここまでいじめる理屈が分かっているなら、いじめをやめる。それだと話にならないので、この人物はいじめる理屈・理由を自分でわかっていながら、いじめをやめずに続けて、逆にテロられてしまい、「スタッフがおいしくいただきました」みたいになる。

それは異様なカタルシスがある。テロをする側にこのカタルシスがある限り、テロは根絶できない。

だから、ヘイト感情をどうして持つのか論述することで、ヘイトや排斥をやめるようになる。客観視や自制心の醸成だ。しかし、誰かが自分のヘイト感情を肯定してくれたなら、「正しい」の誤認を与えてしまったら、レイシストになるだろう。

クラスの中で「あいつムカツクよな」に同調したら、理屈をわかっていても止められなくなる。

こうしたいじめ感情はヘイト感情と等価で、テロまで繋がっているが、あまり議論されていないだろう。テロする側が一方的に悪い論と、いじめられる側が悪い論は、共通項をいくつか持つ。日本の知識人はそんなことに気づいていないはずはなく、何か「お客さんに口当たりのいいこと」を言っているような錯覚がある。

日本国内で「あいつムスリムだよな」に、同調する人間が必ずいる。ナチズムと同じ構造がセ

ットされている。いまだにフランスでは極右政党が「スーパーの駐車場にロマがテントをかまえて、客の邪魔になっている」とデマを流して、政党支持を煽っている。その手口が日本では在特会が使う手口となる。

そうしたものを真に受ける、我が母のような人物が日本にもまだたくさんいる。

人種差別したらテロられても仕方ない。それで刑法罪が無罪になるわけではないが、十人が親切にしても一人だけ人種差別をしたら、「日本人はダメだ」になるよ。白人警官が十人に一人…何万人の内一人が黒人を射殺したら、暴動が起きる大問題になる。ムスリムに、特に神や預言者にたいしての侮辱をやったら、ファトワとして殺人の国際指名手配をされる。本来の意味の確信犯だから、その土地の国内法で死刑になっても、キリスト教の聖人にあたる人物に崇められる。

多くの日本人には、わからないだろう。

無知であるゆえに起こっているのか、気づきたくないのか。どちらともだ。無知であるから罪は無い。気づかないから罪が無い。そのエクスキューズがある人たちは、いずれ罰が下る。（西洋のオリエンタリストには「侵略・制圧していい」根拠となり中東のテロリストにとっては「テロをして死滅させよう」ということになる）

町屋を評価するのは、いつも白人で白人優位主義の再確認をしたい日本人には、とびっきりのネタであろう。ムスリムが暑い京都で理にかなった造りの町屋を、母国の砂漠地帯にも建てたいといっても、京都の人はうれしくないだろう。

白人からヨーロッパに建てたいと言われれば、手放しで喜ぶくせに。

隠しているだけで、表層には出さない。それがどうしても出てくるときがある。

テロリスト支援者には、それがわかってしまったのだろう。

無知で気づかないなら、罰を与えて気づかせ教える手段がテロ支援ではないのか？

日本人はアジア主義を忘れていると、手痛いめにあうだろう。

白人に評価されることが実はテロとの戦いに巻き込まれることだが、いい加減に気づくのが懸命だが、理解する人は少ない。（ゲーム市場に関しては正反対のことを言っていると思われたかもしれないが、「誰かにテロをされる危険性も犯してでもビデオゲームを作る」のはむしろ常識だろう）

日本の自意識はのび太で、他者評価はアメリカについていくスネ夫である。モスクワ五輪をアメリカがボイコットしたから、自分もボイコットするなんて、スネ夫そのものだろう。アメリカにもスネ夫と認識されたから、モスクワ五輪以後80年代からジャパンバッシングが起っている。仲間なのかどうなのか、うやむやだったのが手下になった。そして日本のセルフイメージを変えたい願望があって、『沈黙の艦隊』がウケたのではないか。

自意識はのび太であるのは、間違いないだろう。しかし、他者の評価はスネ夫だ。

藤原帰一はたしか、「日本人にとっては、アメリカはジャイアンだが、アメリカ人にとってはなんでも出してくれるドラえもん」と語っていたが、アメリカがジャイアンなら、その核の傘に守られているなら、のび太なんかじゃなくて、スネ夫だろう。

ジャイアンにラジコンヘリを取り上げられているように、制空権をアメリカに取られている。

だから、クールジャパン系の日本評価番組を観て、「自分達はけしてスネ夫ではない」という誤謬を信じ込む。（今の日本に自信が無い説より説得力があると思う）

スネ夫の持つラジコンやテレビゲーム（クールジャパン的文物）、そうした経済的に余裕があ

る部分を海外の人がうらやましいと思っているのに、スネ夫の気に触らないことをしなくちゃならない。日本人に気を使っているのである。

出演している外国人も、スネ夫ではないというエクスキューズを語るのが、役目としてあるのをよく心得ている。スネ夫が持っている魅力的な物品を預かせてもらえる、機会が得られるかもしれないから、気の障らないようにしているのである。

プチ鹿島さんが言うように「美談は批判できない」で、美談コーティングで反論できないように、番組を作っている。

日本人もアメリカのテレビ番組に出たら、アメリカのいいところ、つまり「アメリカはジャイアンではない」という誤謬の布教に一役買うだろう。「アメリカにもいいところがあるよ」か、あるいは「アメリカのここが悪い」と言う、対立軸をあえて作って番組進行させるのに一役買うだろう。

日本に訪れる海外の人こそが、のび太くんなのだ。

のび太くんに、テロリストは支援されたのかもしれない。

有名な「スネ夫を殺してぼくも死ぬ」という、それがホームグロウンテロの構造と一致して、自爆テロの本質を実はいいあてている。

取材したら明かせない素材は、新聞テレビの受け手（消費者）が知りたくない「オレたちは実はスネ夫だった」ということじゃないか？ 外国人のことを「のび太のくせに、生意気だ」をやっていないのか？ 動機を述懐せずにいる内に、大きな間違いを犯していないか。

前述したテロをする側に、このカタルシスがあるから止められないし、けして自分達はテロをする側に動機を与えていないと信じ込むなら、いずれ大きな報復に出会う。

ところで、日本にやってきた彼らがのび太くんなら、ドラえもんは何であろう？ 後進国・中進国出身なら未来ではないか？ その未来に向かっていく手伝いで交通インフラ開発の助成をしたはずが、スネ夫的打算として受け取られる。その皮肉が今回のテロだったのだ。

「『くまみこ』は最終回、行きて帰りし物語だから、アレでいいと思っていたけど、お客さんは納得しないのかもね。う～ん、くすり、くすり」

なんて他人事のように語ってみたが、「ねつもじ」の方でも『くまみこ』が話題にされていて、いわゆる最終回問題を多根さんなりに書いた記事を読んだ。その記事はどうでもいいんだけど、これって舐添降ろしと同じに見える。やってることほとんど同じ。

あの、正直なことを書いていいか、わからないけど、中学生の女の子がアイドルやるって、よくないよ。サンキュータツオさんのお言葉を借りれば、ソウルジェムが濁るから、止めておいたほうがいい。

ところが、まちちゃんが汚れないと、観ている視聴者に汚れというか、穢れが出るわけである。これは、鴻上尚治さんが言う「役者が傷つけば傷つくほど観客が喜ぶ」である。

この言葉が正しければ、キャラクターが傷つけば傷つくほど視聴者が喜ぶかもしれない。商業アイドルにまちちゃんになるなら、喜んだかもしれない。霊媒体質の田舎少女がローカルアイドルで町興し、それはアイドルアニメのストーリーライン、キャラクターがアイドルになって傷つく、ソウルジェムが濁ってもらわないといけない。それは私は見たくないが、皆が見たいものだと思う。

第一話の民話で語られるイケニエになる女性、熊に人身御供として出す話の内容だが、それは現在・現代ではできないとストッパーを付けていた。それなのに、人身御供的町興しアイドルをやらなくてはいけないことに。

アイドル・・・正直、ソウルジェムが濁らないアイカツやプリパラの方がいい。アイマスやWake UP Galr'sみたいなソウルジェム濁りまくり系は嫌いというより、見ていられない。

ふと、『くまみこ』の内容を思い出すと、まだ連載中だから決定的なことを書くのも気が引けるので、的外れなことを書いていると思って読んでもらいたい。

「う～ん、的外れ的外れ」（と言いつつ上着を脱ぐ、これは必殺仕事人のパロディコントのつかみで浜ちゃんが「くすり、くすり」と言って上着を脱ぎ、市村正親の嫁に無体を働く、今年後八時でやったらシャドーボールで殺されてしまう）

『くまみこ』は90年代のバラエティー番組「ダウンタウンのごっつええ感じ」のスタジオコントとロケを繰り返す構成によく似ている。熊が家電で遊ぶのも室内コントのモノボケ、自分が複数の男性に陵辱されたことを番組収録中にカムアウトする女性料理研究家のように料理をし、若手芸人が外でミッションをこなして撮影してきたVTRをスタジオで流すように外に出て珍道中をくり広げる。（思い出した！ まーくんとおかんがまちとなつで、性移項していたんだ）

番組の人气が出て視聴率を稼ぐと、系列のポニーキャニオンやフジパシフィックから、CDを出すみたいなのがあって、私が好きな三木聡も作詞に協力したという「エキセントリック少年」を唄わなくてははいけない・・・アイドル歌手の真似事もしないといけなくなる。つまりローカルアイドルフェスに出なくてははいけない。よしおくんがまちを利用して町興しをするのも、カウボーイの兄貴が金を無心しにきたのだろう。

こんなビジネスは、ダウンタウンはもう大人だからポジティブに楽しんで、あくまで仕事と割り切れた。しかし、中学生に町興しでアイドルをやれというのは、酷である。

ふんざりがつけられない。最後は熊に「録音した」をされるのも、まちを助けたという見方も実は出来る。自分の娘がアイドルまがいのことをしていて、うまくいってないなら、なつがやることをしてしまうかもしれない。

ところが「ごっつ」をなぞるということは、「ごっつ」が苦情をたくさん受けたことも引き受けることになる。東野幸治がタクシーの運転手に「お客様の髪形、かたやきそばみたいですね」と言われて、急にタクシーから引きずり降ろされてかたやきそばのあんを頭にかけられるのは、どれだけ苦情がきたか忘れているのだろう。

逆をやってもダメなんだよね。まっちゃんが生前の破壊王橋本とプロレス対決を煽るVTRものも、どう考えても結局敵前逃亡するというオチは当たり前なんだけど、やはり苦情が来る。（一応、書いておくと橋本の蹴りをまともに受けたら、今みたいに身体を鍛えていればいいけど、あの頃のまっちゃんだったら、死ぬからね。仮に胸に飛び蹴りを食らったら心臓がバクハツする。ヘンペイの敗北爆破VTRみたいに）

アニメの『くまみこ』は「ごっつ」をなぞっちゃったのではないかな？

お客さんは、傷つくところを観たい。でも観せたら観せたで、引く。日記だから少し端折るけど、東野幸治が傷つくところなんて、観たくない。まっちゃんが橋本に蹴られて、無様に負けて傷つくところを観たい。傷ついて皆に笑われてほしい。大衆の生贄になってほしい。そのため芸人になったのだろう。これはまちが生贄になるのと、同じだ。町興しの生贄にならず、まちが傷つかない物語なんて、一部を除いて誰も見たくなかったのだ。

「ごっつ」をなぞるということは、はじめから「詰んでいた」のだ。スタッフにたとえ三木聡級のタレント（後の映画監督）がいても、そこは避けられなかったのではないかな。でも的外れだからマンガを描いている原作は気にしなくていいが、こういうことは今だから言える。

「今だから言える。『ふらいんぐういっち』のオープニング、miwaちゃんでしょ？ あの真夜中のカウボーイ？ 深夜のカウボーイか。間違えたまんまだな。ままいいや。そこで送られてきたメール文をプリントした紙が黒塗りになって、爆問太田さんに渡される…ハガキ職人の妄想が書かれていて、それは深夜ラジオでも放送できない卑猥なことが書かれている…miwaちゃんが360度陵辱されている内容で放送できない。それを思い出してオープニングをよく観れない」

番組批判ではない。

『めがね』という本でも、miwaちゃんと矢作さんの間に線が引かれてハートマークで、小木さんにあんまり勘ぐられるから「ゴッドタン」の佐久間さんの間に線が引かれてハートマークとされてしまう。

それじゃあ、ヒム子のライバルじゃないか。

miwaちゃんには隙がある。だから、こういうこと言われるのだろう。

ご批判がある部分は、「オトナげないアニメ」で多根さんが書いたことを丸写しした部分であって、私の頭で考えたことじゃないとして下さい。（いつものウラギリ落ち）

よくある学生のコピー＆ペーストだと思って「あきらめちまいなよ」。

「ハイケーラボ」の前田くんの背景画のテクニク、

「なるほど、玉さんは代々木アニメーションに入りたいくない、そういう心理描写が出ているのか」

と、思った。

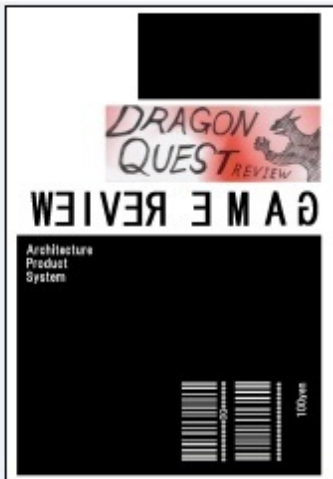
ちょっと、心理的にイヤな形になる、圧迫感がある。

背景美術（注・技法のこと）でアイレベルはマンガ『百日紅』を見た方がいい。たしか英泉と鉄蔵が、今は無き掲載紙「漫画サンデー」の読者にもわかりやすく解説している話があるはず。美術教室やデザイン学校の授業でとりあえず「アイレベルは地平線だ」と言って、残ったカリキュラムを消化していたのだろう。かくしごとしなければ、なぜかプロ化した人も「とりあえず…」のまま、誤認が修正されずにいるのを現場のチーフアシスタントが気づいて、蒙が啓いていない我々を啓蒙する、面白くてためになる記事である。（長くなっちゃったからもう終わろう）

広告

ドラクエ研究指針

ブックログのbauer



「80年代のテキスト空間」より
ドラクエを確実にプレイした作家は、糸井重里と高橋源一郎さんである。作家と限定しなければ、斎藤はドラクエをプレイしていたと思われ、天野祐吉はドラクエをプレイしたことをエッセイに書いている。彼らをひとくくりにすると、みな文筆業を営んでいるといえる。文筆業を営む彼らがどうして、ドラクエにはまったか。

「80年代のテキスト空間」の作家たち、ドラクエにはまる



100yen 税抜き

Architecture Product System

一番書きたいネタが、「何時に出るか分からないたけし」とカブってる「アスタリスクGO」のアプリをプレイしたマミヤさんのマンガなんだけどなあ。N64の話は、長くなるからできない。「そんなに聞きたいのか、仕方ない。PS2の・・・」

それから、「ごっつ」にしたけどフジのバラエティー番組なら、「めっちゃイケ」でも「はねるのとびら」でも、だいたい同じ事（名前を忘れちゃったけど素人の学生がオカタクリーダーから下されたミッションをこなすとか）が言えたと思う。的外れだから大丈夫。それからmiwaちゃんのネタも更新情報誌でギリギリのネタだからね。

谷口悟朗監督の話によると画面に映っていると、スカイツリーは許諾使用料を取られるのである。これで『シン・ゴジラ』でもスカイツリーが壊されない、皇居と同じくらいの意味がある。スカイツリーターンである。

本当はピザが高いとか、「えっ？ 二通しか来ていない？ ねつもじみたいに、イベントで読むメールがきていないと告知すればよかったのに」とか、そういうのをまくらにするのはためられる。

『ポケモンGO』が流行ったから、少し位置情報ゲームについて、ウィキペディア程度で調べた。ほんの少ししか調べていないのに、大手メディアが垂れ流す情報と、ちょっと違う。

新聞雑誌だけを読むと、偏る。ナイアンテックNianticのイングレスingressではじまったわけじゃない。イングレスをポケモンに換装なんだけど、それは元々『サガ』ⅠとⅡ、さらに『聖剣伝説』を足したRPGに換装したとっていい赤・青を考えると、原点回帰とも言える。（もうちょっと詳しい説明が必要かもしれないが、知り合いにゲーム好きの一人や二人ぐらいいるだろうから、彼らに聞いてみて）

話はそこではなく、急にイングレスが出てきて、位置情報ゲームが現れたわけじゃない。

ポケモンが出てくるまでのRPG史と位置ゲー史は、ほとんど同じくらいの年数を経ている。RPG史と位置ゲー史でポケモンの出現前と後を紀元前みたいにする、ポケモン前史とポケモンGO前史は、『ドラゴンクエスト』があったソフト史と無かったソフト史であったといえる。

位置ゲー史はかなりソフトが出ている、といってもほとんどが携帯端末向けのアプリケーションソフトで、パッケージとしてはあげられるものが、私が詳しくない所為もあるが、ない。つまりドラクエが無い。

だからコンシューマ史では、なかったことにされている。

そして広告費を「払っている」「払っていない」というわかりやすい線じゃないのも、影響している。

位置ゲーというのは、商標登録されている。

『コロニーな生活』を作っていたコロプラが、会社として成立して来た頃に、商標をとったらしい。ジャンルの商標登録をすると、同業者や消費者に反発されてしまいかねない。セガなら『セガガガ』の続編で位置ゲーという言葉が出るたびに、「位置ゲーはコロプラの商標登録です」と、繰り返しのギャグが出る。当時、バンダイがRPGを商標登録して、ヒラ坊（多根清史が平林久和のことをこう言う）が反発して、わざとロールプレイングゲームと表記するようになった。

『セガガガ2』は絶対に作られないので、大丈夫だが。

馬場社長には悪いけど反発されてしまい、位置ゲーが一般名詞化せず、急にイングレス→ポケモンGOの歴史になってしまった。ようなのである。

位置ゲーは誰のものなのかという、議論が無いわけではない。

とりあえず、ネガティブな意見は言わないが、ナイアンテックが間隙を突く、隙間を作って

しまったかもしれない。

まず、商標登録は、大事だ。

ドラえもんも原子炉に、マーク1やマーク2みたいに“ドラえもん1”とか、名前を使わせないために、商標登録している。

それはドラえもんの動力が鉄腕アトムからの悪伝統か、超小型原子炉だからである。電力会社の頭が悪いのに、従業員の中で一番最年長だから社長になった人なんかが新原子炉に縁あるドラえもんと名づける何の知恵も持たない（易経を読んで決めるとかそういうことをしない人）・・・ドラえもんルームの事前の防衛策である。津波が来ても大丈夫な防波堤を、知財を守るために築いたまで。

ドラえもんはこのようにしてわかるが、では位置ゲーの商標登録はよかったのか？

矢作さん経由の話をし少し盛ると、ずっと一人で穴倉にこもってゲーム開発していた馬場社長が、人を雇い始めてコロプラは急成長する。21世紀のサクセスストーリーだと思うが、業界でもあまりそういう面の話をされることはない。

そこから考えられるに雇った人の中に法務関係の仕事をする人がいて、知財を守るのをどうするか、このままだと大手パブリッシャーに狩られる、位置ゲーというジャンルが草刈場にされてしまう危機感（アイマス）があって、商標登録に踏み切ったのだろう。

テクノスジャパンがダメージ数表記の特許を取らなかったから、その後経営が苦しくなってブランドが無くなったのと、同じ憂き目にあっていたかもしれない。アイデアアルのに、大手に狩られた。

国産ゲームは作られているのに、インGRESが洋ゲーとして入ってきて、それはたとえば、有野課長も絶賛の『バトルロード』を作っていたレア社が『スーパードンキーコング』を作ったように、ポケモンGOができた。

なんか、ディープラーニングと同じことが起きてないか？ 国内では『森川くん2号』が作られ、そこから20年近く潜って浮上したのがアルファ碁だった。その中間にあるのが『くまうた』じゃ、わかりにくい。

ゲーム史的には、歴史シミュレートを仮定してもわからない。商標登録をコロプラがしなかったら、乱発されて位置ゲー＝クソゲーの等式がなりたって、インGRESが輸入されても、日本だけ流行らないという、ガラパゴス化があったかもしれない。

バンダイがRPGの商標登録を持ってもジャンルは大丈夫だったのは、ドラクエがすでにあり、FFも続いていたというわかりやすい歴史があるからだ。ところが、位置ゲーにはインGRESすら語られず、急にポケモンGOが出てきた「歴史」になってしまった。

コロプラにはがんばってほしい。

どんどん調べていくと、結局「課金戦士バンナム」と同じであったと、わかる日が訪れるかもしれないけど。

ラジオヘッドの「Burn the Witch」、直訳「魔女爆破」のPVの人形アニメ、面白いな。紙の赤とちょっと薄い赤で、炎を表現するストップモーションアニメとか、すごくいい。参考にしたい。

それから小沢健二や及川光博のベストアルバムも聴いている。

小沢の曲に「いとしのエリー」を聴き、ふぞろいがどうのこうの、なんて歌詞がある。

『ふぞろいの林檎たち』は受験戦争の勝者になれなかった主人公たちの物語だったけど、オザケンってサラブレッドで音楽エリートのはずだから、正直、彼らの物語を安全圏から見て、「オレはダイジョウブ」と見下げていたのでは？（悪口に聞こえちゃうから小さい字にすればよかった…これじゃ小さい字には悪口を書かれていると思われる。本文で語りもらしたためになる補足が書かれているのだ！オザケンのことをちょっと調べたら、昔聞いたとおり、インテリのサラブレッドで東大に入学している本物のエリートである。なんでこの人がふぞろいの林檎を…歌詞を書いた人が違うのか？）

もう、テレビドラマが歌詞になるのは、難しい時代になった。

「あの頃、みんな直樹は土下座してさ」

なんて歌詞は作られない。高視聴率ドラマを連発できて、渋谷系的な曲がもてはやされた時代は、終わってしまった。本人達はそんな感傷させるつもりで歌ってはいないが、受験というふるいかけられて、売するには規格外とされるふぞろいな林檎になぞらえる、そんなことをされてしまう意味が今の視聴者にはわからない。エリートじゃなく、落ちこぼれの言い換えのレトリックだった切り捨てられるふぞろい林檎は、今はアウトレット商品として陳列される。それなりに役目がある。

赤羽根社長は、意外にもスティーブ・ジョブズみたいな奴とか、話してもわからない。NHKとしてはディスラティヴィノーションを起こしてテレビを皆観てもらえなくなるようなことをされたから、動機の線では考えられる。

土下座したのは、大和田だけ。

スネオヘアーのベストアルバムを聴いたときも、同じ事を思ったけど、同じ内容を一度、二度角度を変えて、語っている。たまに定点観測（まったく同じ曲）の場合もある。

大量生産している。

大量、ではないか。

田中公平のようにキャリア20年で三千曲並の大量ではないが、同じ曲で同じ事を何度も唄っている。

A面を揃えたベストアルバムだから同工同曲が並ぶ。通して聴くと聞き飽きる。「また同じ曲だ」と、悪態がつい、出る。熊出五段になってしまった。

私と同じ熊出五段の「HEY!HEY!HEY!」で“ベストオブ第一印象が悪い”の及川は同じHENTAIを歌にしている岡村靖幸と何が違うって、その差をうまく語れない。

日本馬と鹿、何が違うのかって、学術的にはわかっている。角が生えれば、直感的にわかる。

しかし、サラブレッドじゃない小さな日本馬と、ちょっと大きい鹿は、なんとなく区別をつけられない。

このため、馬と鹿の区別が付けられないのを馬鹿と言ったかは知らないが、岡村ちゃんとミッチーは、同じシシ（恋愛原理主義）だけど、その違いはHENTAIに自覚的か、超自意識過剰か、そんな小さな差だ。カロリーメイトの味比べ。

ヨーグルト味とチーズ味、変わらないじゃない？ その味比べをして楽しいか？ 聞いていて面白いかな？ たしかに彼らの歌詞は面白い。

人のズボンの中をバタフライできない。

悲しみロケット二号って、なんだよ。

一号は「Burn the 悲しみロケット一号」で打ち上げ爆破したのか？

「キミノマニア」って変態宣言だ。「関白宣言」の駄目アンサーソング。前山田の新作「ダイスキダイスキ…」のような歌詞だ。テルミンの音をボリュームを絞って使っているようだ。違っていたらバイト先で「京大卒です」と言って総スカンされたみたいに総スカンだ。（後で調べたら曲名が違っていた…後日観た番組で小顔の千葉雄大くんと共演してはしゃいで「はやくカミングアウトしろよ」と思った。「お前の居場所はそこじゃない。Eテレの『ハートテレビ』だ」）

「ココロノヤミ」って、『デスゲーム』かよ。…『デスパレード』かよ！

そういえば、立川といえ、吉浦は『パトレイバー』の新作映画を作って、出世した。

遠くへ行ってしまった。（「わたしはウソをついとらん」）

もう『サカサマのパテマ』のギャグ「パテナ」が出来ない。

同年代なのに、さん付けしないとイケない。

新しい人を探さないと。

悪口に受け取られると困るなあ。

荒木の『荒木飛呂彦の漫画術』を読んで、ルドロジストから観て、パイディアの排除にある気がする。『プロゴルファー猿』から始まる運で勝つ『ラッキーマン』を、大ピンチになった時に空から魔法の剣が降ってくるのはいただけないと、書いているが「バラのゆびわ」はよくないのか。恨み念法を人形にして、エボニーデビルとか、チャッキーではなく安孫子さんのネタも入ってないか？ 異化効果の『三文オペラ』の唐突なハッピーエンドとか、そういうのを批判しているわりに雪が降って黄金長方形はいいか。安孫子さんは『ジョジョの奇妙な冒険』を読んでいいから、荒木＞安孫子なのだろうか。

自分で作った自己レギュレーションで、かなりきつい規制を設けてマンガを描いている。そのストイズムに皆だまされ…関節が動くロボットを描けるようにする。これがアニメーター吉田健一の「メカもキャラだよ」ということか。対抗して、「キャラもメカだよ」がちょっと流行った。Gレコの時にアニメーターたちにロボ作画をオファーしても、なかなか作画を引き受けてくれず、思わず言ったのがバイク事故を起こして『もののけ姫』製作中にリタイヤした吉田健一。昔のロボットプロレスアニメを観ると、それもわかる。「メカもキャラ」だ。荒木は反転させて「キャラもメカだよ」という、美学である。

たぶん、夏目さんの『夏目房之介の漫画学』を読んで『ジョジョ』で、『ラッキーマン』はやはり夏目さんの『消えた魔球』を読んでいる。『バクマン。』は『漫画学』と『魔球』にあることを、連載で人気を得ることに読み替えているのかもしれない。夏目さん本人はそういうことを言わないようにしているから、別の話をする、オザケンは一浪して東大に入りなおした。規格品になったから、これで安心してふぞろいの林檎を回顧して歌に出来る、だから「いとしのエリー」の恋愛至上主義を軽く笑うことができる。

学歴主義者がそういうことを歌詞に書いているのかなあ。学歴主義も恋愛至上主義も、怖い。身辺調査書って、TRPGのキャラクターシートでは？ それもガープス・ベーシック並に詳しく、ヘブンズドアーもキャラクターシートに「脅迫概念」「**恐怖症」を書き込むことではないのか。

『巨人の星』の最終回の分解写真、連続写真がボスの逆回転して戻ってしまうシーンとか、元ネタは過去作にある。

シリアスの笑いの起源が『プロゴルファー猿』で敵キャラがすぐく真面目に倒れる。毒蛇にかまれて今までの人生の、プロ転落の顛末とかをシリアスに語る…カブキのもどりでえんえん「主君のためにあえて裏切ってウンヌン」をするのを、マンガに描いてしまうと笑ってしまう。（注・派閥をシャフトに戻すことはありません）

鉄塔の人は、バイクに乗っていないと、もだえてしまうバイク小僧なのか、早すぎたGTロマン…早すぎたキリン。

キリン？ わかった！ ジョジョはキリンだ。キリンに出てくる人がバトルして戦っているだけだ。ジョジリオンもそうだ。「俺は何者なんだ？」と「何故俺はバイクに乗るのか？」は同じだ。

別に新しい人は荒木のことじゃない。須田PINである。

後日追加 最近、阿部公房の小説をアニメ化した「ある詩人の詩」を観る。糸になるのは、ストーンオーシャン（親子が性移項されている）で、赤い糸のジャケットを着れなくなる。

よしりんも観た、東京ポッド許可局でもおじさん二人が観た、映画『君の名は。』を観賞して来た。

銃四輪忌に何も用意できないのに、ほぼ同じ日付の日に何か起きる映画を観てくるなんて、なんと皮肉だろう。太宰に桜桃忌があるなら、銃と車（四輪車）が好きな横井軍平さんの命日を銃四輪忌と読んでもいいだろう。ちょうど十と銃、四と四輪で命日が覚えやすい。（後日、何かを作って文読完成が遅まる）

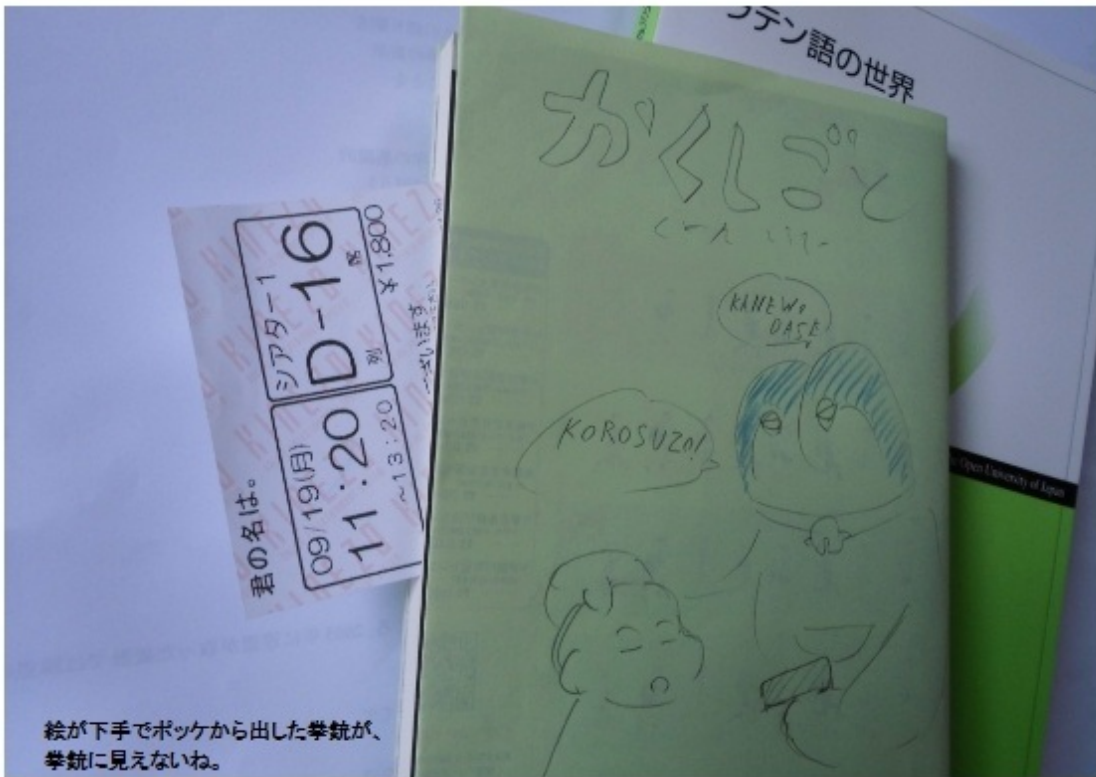
それにしても、今月号で『シン・ゴジラ』をとりあげてくれて、よかった。“『君の名は。』の快進撃が止まらない”と書き出しがあったら、映画を観なかっただろう。あからさまなネタ潰し。

来月はあの映画だろう。でも、あの映画は観れない。（後の話だけど、そこあにの特集もつらくて聴けなかった）

何故、あの映画を観れないか。まず相模原市の事件があって、障害者いじめを助長する恐れがあると言われて、公開延期になったりしなくてよかった。県内で公開されていないわけではないが、映画公開中の期日に雨が降って、最寄り駅から歩いていく道のりが遠いので、雨に濡れられなかったという理由だけならいい。

どうしても観れない、観ていられないことがある。

実の父親であることを隠して、奴隷に身をやつした実の息子フエイトくんを恐喝する正義超人ぷりぷりトラえもん。帯は捨ててきた。



映画館の近くの紀伊国屋でついでに『かくしごと』を講入（誤字ではない）してきたよ。中身は速水螺旋人さんの『スパイの歩き方』だけど。

近所の本屋で『君の名は。』と『言の葉の庭』と、スニーカー文庫のあるタイトルがセットで置かれているコーナーが八月にあったけど、九月に入ったら置かれている文庫本が無くなるという、珍しいなあ、と思っていた。

マンガなら『未来のうてな』を読んだことがある人は「糸」がリンクしている。作者が新聞を読んで拾ったアイデア、今は新聞が悪いからあまり表だっていえない。

『もやしもん』でやっていた口噛み酒、口内の酵母菌を糖分のある食物にまみれさせて作るそんなものは、樹教授しかほしくない。『しりとリエっせい』でも書いていた肛門から鳥を入れて

醗酵させるのを頭からバリバリ食う、悪食に震撼する。（後で調べたらアザラシの腹の中に海燕を入れて醗酵させたのがキビャックで、その海燕の肛門に口をつけてズルズルっと吸い込んで中を食べる）

そしてATGの勅使河原さん。（ちがう「ギルド（遠まわしの表現）」に入会した有名人に結婚不履行されるダンナさんの呼び名テッシーではなくセゾン映画で『千利休』の宏さん）

市原悦子の存在が『まんが日本昔ばなし』的成分で、先のスニーカー文庫のサブタイトルにあたるものが、どうやら『MOTHER2』の北米タイトル名に、よく似ているようである。

だから本命は『MOTHER2』の方なんだよね。

ネスがある食べ物を食べてある人物に操作キャラクターが入れ替わるとか、ブンブーンが乗ってきた乗り物、テレパシー、不在の父の性移項である不在の母、「お前だけの場所」ではなく「二人だけの場所」が存在するのだ。（日本ファルコムのネタじゃないのか）

私ぐらいになると、元ネタがわかる。

「本当にサイバーコネクトツーに入社できなくてよかった」

金庸の本をちょっと開くと、東洋の民話神仙の類の説明があって、ガンダルヴァというのが幻術を使うらしく、これが『サンダーボルトファンタジー』の大泥棒の元って、種本を読んだらさすがにわかるわな。（ガンダルフの元ではないだろう）

殺無生が難読漢字名（レンキと読むらしい）の高齢者を倒すシーンは、『ファイブスター物語』の凸やんの、あのエピソードかなと。デPPERと同じ…「ボクちゃん」か。「オレちゃん」のハシリだと思ったら、面白いね。テンギョウケンが昔懐かしいゲームブック『ブラッドソード』の柄と鞘と刀身が分かれているのだろう。子供には衝撃のルール説明50ページである。

王様の剣のインビシブル・エアの元ネタだろうロードスカイランナーもある。（このあたり記憶がもう不確かで微妙に違うと思う。もうひとつぐらい、分かれていなかったか）

「あらびき団」に出ていた芸人ベルセルクは、モズグズの弟子の真似をしていたのか。

『アクティヴレイド』は『テッカマン』の続編、リブートのはしり『テッカマンブレード』で、2ndのオープニングでボルテッカしている。話の中ではしないのか？（注・後日答えが出た）

電池が無くなると、ページするのは『レンタヒーロー』だと思うが、レンタヒーローの前に、何か特撮番組で忘れていた気がする。『仮面ライダーブラック』に車が出てくるのを忘れた頃、『ドライブ』でお車が出てくる。『ゴースト』では一年間出来なかったバイクスタントシーンが素晴らしいとか、いい加減「旧字体の声」のカタチを話題にするのは、つらい。

もう硝子ちゃんは、「破竹の勢い」の告発であった、聴覚障害者にしか見えない。すごく端折って説明すると、聴覚障害者が社内失業され、耳が聞こえないのにゲームの製品チェックをして、つらくて書けないが自殺未遂まで起き、「会社経営が傾くと社員につらくあたるようになる」懸念どおりのことがあった。

こういうことを知った以上、これ以外の見立てとして、見ることができない。一応「破竹の勢い」の89氏は京都アニメーションのアニメのロケ現場まで観に行く、京アニフリークである。普通そんなことしない。わざわざロケ地まで行かない。

その京都アニメーションがアニメ制作をしているのだ。

それで硝子ちゃんは、主人公のことが好きなんだよ。それは聴覚障害者の人が任天堂を好きに

決まっいて働いて、ああいう仕打ちを受ける。

私のやっていることも所詮、「点数稼ぎ、ご苦労さま」と言われてしまう。

原作はフィクションの中だから、少年に未来があって、元クラスメイトたちにも将来に目指している場所があると示したが、現実は大津市的いじめ揉み消しで終わるだろうし、場合によっては相模原市の事件の犯人のように主人公は障害者を逆恨みするようになるかもしれない。

それが現実だ。

さすがに少年誌では出来ない。

自死を選ぶより障害者を殲滅しようとするのはヤング誌で古谷実がそちらの方向性のマンガを描いていた。映画『バスケットボーイダイアリー』のような、その方向性にはならないように、少年マンガ誌に載せられるストーリーがあのかたちだったのだと思う。

それでも連載中は少年マガジンを『ダンサーインザダーク』を観るマツコ・デラックスのように、ちょっと読んで、ページを閉じて、ちょっと読んでページを閉じる、『生徒会役員供』を読んでまた戻って、を繰り返す。（お母さん大変だよ。姉は聴覚障害で、妹はLGBTで、大変だよ。自分の方に遺伝的問題があるんだとされて離縁されるとか、読書感想が辛いものばかりだ）

このマンガがあると、幼馴染幻想は幻想にすぎない。内田樹なら、「子供の頃、同じクラスにいた少年が他人をいじめのを見て、果たして大人になった彼女が彼を愛せるだろうか？」なんて、書くのだろう。実際は同じレイシストなら、「愛しあう」と思う。つまり、日本はレイシストだらけ、というのはブラックジョークになるだろう。（勘違いする人はいないと思うが内田樹がレイシストと言いたいわけじゃない）

原作厨ではないから、映画『ノルウェイの森』でミドリの父にキュウリを食べさせてあげる、どう考えても咽頭結核になったカフカが食べられる食物としてキュウリを食べさせてあげたいという村上の何かが入っているシーンが無い。カフカ賞を村上が受賞する根拠となるシーンが映画になってカットされたとか、そういうことは、無い。

原作どおりでなきゃいけないとは、言わない。

清武さんが『切捨てSONY』で書いた、文読でも引用している内容と同じく、任天堂はどんどん資産を切り売りしている。ピョコタンの言っている部長とは、吉松にあたる人物で、本当は上層部に会計に帳尻を合わせる人がある。“「リストラの大王」”なんて言われている。

それが今の社長で、SONYみたいになっている。

いまだにみそぎ、情報公開して、元社員に対しての賠償に近いことをしていない。（高畑事件の示談に動いたような報道もある暴力団を利用して手打ちさせていると、情報が水面に上がってこない）

『ポケモンGO』が一般の媒体でとりあげられているのを、どれだけ苦虫噛み潰してみているか。

まったくわかってない投機家が任天堂株を買いあさるのを見て、「動物か、こいつら」と思っているのを、まんま書けばいいわけではない。

溜まるものがあるから、イライラしている。

任天堂は後退戦に入っている。

ポケモンGOが流行った、マリオランも出るのに、こんな会社の足を引っ張る営業妨害な日記

記事を書いていいのか。（それは「コトタベ」でも「SE」でも聴覚障害者が出てくるから）

本当は任天堂寄り（右寄り）な人間なのに苦言を呈して、語らないといけない。告発問題に言及する。

岩田社長の失政は、後に山内時代からの功労者（会計責任を丸投げされた）、君島氏を切れなかったことで、確定するのでは？ 小泉純一郎が安倍さんを後継者に選んだことが、一番の失政に繋がったように後継者を選ぶときに最後の英断、「たった一つの冴えたやり方」が無かった。

誰もが助かるアイデアは、現実の経営には無かったのだ。

唐突だが随筆集『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』の一説、「ささやかなおかえし」のドニーを思い出す。ドニーには、ポケモンGOをしないでくれと、ロバート・フルガムに手紙を出せばいいわけではないだろう。

もう期限を切って、任天堂の製品を買わないと、宣言する時期にきているのではないか。ソニーっ子がソニーを甘やかしてダメにしてしまった実例を見ている。「オレはアトラスを甘やかさない」と、「プロダクトデザインの勝利」を書いた人間が、苦しいが離反しなくてはいけない。

自分を支持してくれる人間が、何をやっても支持し続けてくれるということは、無い。それをやったら、“不合理ゆえに我信ず”の狂信者になる。カルト化。その後に待っているのは、我々は何度も見てきた。内に敵を作らないとたもてなくて魔女狩りし、信者による集団自殺や教団内での虐殺、それを「まずい」と言う「信仰心が足りない。神を信じてないのか」になってしまう。

誰もが狂信者になるわけではない。

ある少年のためにゲームボーイを改造した横井さんが、誰もが出来るように四葉型のボタンを編み出した人が在籍していた任天堂が、こういうことを、“声のカタチ”のようなことが起こすとは、経営が悪くなると起きているんじゃないかと危惧していた通りだったから、なおさら残念だ。

苦言というか、いつも「ねつもじ」か「そこあに」、ゲームラボの記事か多根さんの悪口だと、飽きてくるだろうから、『真田丸』で関が原の対決を50秒ぐらいで終わらせたのは、たぶん脚本の三谷幸喜が『風雲児たち』を読んでいるから、同じネタがしたくて大阪夏の陣を見開き四ページで終わらせたみたいなことを本当はしたかったけど、それじゃあ幸村の活躍が一瞬で終わってしまうから関が原の合戦にしたはず。ワイド版19巻第三章「信州の三天才」で実時間で十年以上空けて再生しなおす話は、ひとまず置いておこう。

雑誌「アニメージュ」で「富野に訊け」を読んでしまい、要約すると中学までの教科書を勉強しなおせ、ということだったんだけど、「社長が訊く」のパロディでもやるし、「マティマティカ」でも触れるかもしれないが、素数を教えない中学数学は役に立つか？ ということである。今の中学生は進学塾に通っていないと、まず素数を知らないから素因数分解の一意性（ a と b の二乗はだいたい18と20とか、プログラマーでなくてもなんとなくわかる）が教えられない。じゃあ、因数分解って、なんで存在しているか、意味がわからない。

私の世代ですでに教えていないし、ゆとり世代以降の教科書は、歴史の研究が進んだことが書かれて、アイヌ問題の後退も書かれているが、役に立つとは思えない。

あるマンガで神父が素数を数えるのは、対象読者を中学生以下は切り捨てる結果になり、ウルトラジャンプに移籍するのは、必然だったのだろうか。来世後の神の予定だったのでは？

ゆとり教育は教師の労働時間を減らすためや、週休二日制に合わせた結果だろう。カリキュラム量を減らさなくていけない。

私は月に一・二度週休二日制があるカリキュラム、兄は中間、姉の頃はほぼ週休一日制のカリキュラム、のはずである。ゆとり世代が完全に週休二日制になった時代だろう。どこかで「もう90パーセント以上高校進学するのだから、足りないのは高校で補えばいい（みそ先生の『オールナイトライブ』だと先送り教育説）」とあったのかは知らないが、ファクトとして削られた中に素数があつた。本当に高校数学では習うが、中学では習わなくなった。

カリキュラムを減らして高校に通わなくてはいけなかったから、「学習指導要領の裏を突け」だったか、お父さんお母さんが喜ぶ、不足を補うゲームデザインのエデュケーションソフトが「ななつとみつとひとつ」だったけど、それは評価されない。外食の塾に通わない子供に与える補助食の駄菓子と栄養補助食品の中間、それをできればよかった。

富野監督の時代は、濃縮されていたと思われる。尋常（現代訳は普通）小学校までは、当時はこんなに専門分野が細分化していないから、通用したと思う。さらに深化していると、基礎を教えている時間が無い。

話を繋げると、もう古典ルドルギーは通用しない。

岸本好弘『ゲームはこうしてできている』では、プレゼン力を上げろと、岩谷徹も同じ事を言っている。こうは言いたくないが、企画がプレゼンで通ることを目的化している。

宮本茂の言葉を引いているが、宮本は「プレゼンで上げ底されているのを、引いて企画の本質を評価する」と岩谷の前で、語っている。書籍ではその反対のことをしろと書いているから、混

乱する。

意見が合うところだけつまみ食い。宮本が言いたいことを、彼は神だから忖度すると、プレゼンではポテンシャル100を100まで上げることが出来るが、ポテンシャル30を100にすることはできない。だから、上げ底を引くというのは、ポテンシャル通りの実質を見極めようとする。私はこちら側だから、宮本の言うことがわかる。

ナムコってゲーム会社の実態がなんとなく透けて見える。佐野研二郎くんみたいな奴を求めている。だから、十年後佐野研二郎みたいな奴が増えて、盗んだデザインでプレゼンで、さもいいもののように見せる。

ポテンシャル30を100に見せていたのだ。（電通・・・的）

変だよね。『遊びと人間』を読んだら、あそびの四分類に一つ足すのは、ルドゥスとパイディアの複論理のことだろうと、ラカン派を調べなくても出てくる答えだと思うが、なぜか論理になる。

経済学で言えば、ゲーミフィケーションはケインズ経済学で、ホイジンガを少し「ギッて」ラカンとラカニアンたちの影響を受けたカイヨワの『遊びと人間』が古典経済学であるのを、押さえていない。

他の物件にたとえていない。古典的と発展した実践的を他ジャンルでたとえていない。ケインジアンになろうとして、ケインズ経済学がわかっていない。

そもそも、自由に経済活動をさせるのがパイディアで、やや計画経済よりな公共投資で経済発展させるのがルドゥスと、古典経済学とケインズ経済が対応されるのは、一般常識的というより一般理論的だ。

ルドゥスとパイディアも相対差であるのを、わかっていない。プレゼン能力を上げて、美人コンテストに優勝しそうな美人を選ぶ（株式投機のコツ）をできるようになるかもしれないが、ルドゥスとパイディアがわかっていなかったら、ゲーミフィケーションなんてできない。パイディアあるものをルドゥスアップするのが、ゲーミフィケーションなんだから。ごっこあそびをゲームにするのが、ゲーミフィケーション。

ちゃんと「行動経済学じゃないか？」と反論してほしいし、そう言われたら「それで代用するのもアリだと思う」と答える。利己的存在が消費活動をして経済が回るのはゲーミフィケーションで対応可能。利他的プレイヤーを利己的ゲーマーにする。

ルドロジーは積層のように積み重なっているから、戦後マンガでたとえるのも、できないわけではなく、手塚マンガや劇画、大友マンガの三層で、「その差は何？」と問われたらルドゥスとパイディアの差。

D S 発の『信長の野望』の続編を岸本さんが出来なかったのは、D S はタッチ操作だからパイディアに寄ったものを作らなければいけないのに、ルドゥスを高めたのではないかな？ それで没になったのではないかな？

そのあたりは公開される資料から、判明するのではないかな。

「真面目なら、海外に行け！

海外に留学しろ。武者修行とは違って、本格的ゲームカリキュラムの大学講義を学べ」

ところが、留学組は御しにくい人材（と思われる）だから、ゲーム会社に入社できない。普通の上場企業に入社できないだろう。浜村通信がコラムでゲームカリキュラムを海外の大学でやっているとしたら10年ぐらい前に書いているから、留学して学んだ人間が業界にいるはずだけど、まだ取材対象になるくらい出世していないのだろうか？ 浜渦さんはドイツで暮らしていた帰国子女だから採用できる。

海外に行って我が強くなって帰ってくると偏見をもたれているから、就職の事を考えて海外留学しなくなっているのに、「若者が留学しない。見聞を広めようとしな。けしからん」と、若者に非を求める、若者叩きしたい動機付けになる、それは考えなくていいか。

『あそびじゃないの』の鮫島が言っている「仕事は自分を生かすか、殺すか」で、留学組は大なり小なり生かすタイプになる（という偏見がある）。国内大手企業は自分を殺すタイプしか雇わない。だから不正経理や三菱自動車のデータ捏造は、本人に罪悪感はない……必要なのは昔ながらの、詰め込み教育かもね。それをするためには、カリキュラムの消化時間が圧倒的に足りない。

仕方ないから、学習塾で土日に半ドンでもいいから、補助的にせめて補修を受けない程度は学ばせるのは、できない。受験学習でないと、親は金を払わない。だから今の学習塾は進学向きに経営環境上進化したものになっている。

それも考えなくていいか。

富野監督はこんなヘンな、ひとりよがりな、ヘイトとレイシズムすれすれのことが書かれた販売促進なのか、プロパガンダなのかよくわからなくなっている電子書籍なんて読んでないから、大丈夫。本人を批判しているわけじゃない。

よく考えたら、ホワイトベースの基地みたいなビルに向かって、ロボットがドライブシューティングしたり、バイボッドがビームで貫いたり、プロデューサーをロリコンとディスったり、松山洋の似顔絵を描いてバカにしたり、それで「ヘイトやレイシズムじゃない」と主張するって、無茶があるだろう。若者が就活のために留学しないのを、無責任なことを言うのと、変わらない。

「バンナムにたいしては、ヘイトです。サイバーコネクトツーにはレイシズムだね」レイシストである母親に育てられたから、『変ゼミ』の「全部お母さんのせいにしたい」というギャグみたいになっている。

それから、相談者は『君の名は。』を観て、建築家を目指そうと思ったら、止めた方がいい。まず、辰野金吾とか知らない。せっかく元に戻した東京駅を新しいゴジラに潰されるとか、なんというか、その、なんというか、「マニアになれ」というわけじゃないけど、フィクションとわかっていてもそういうことが建築の知識を得たら大事じゃない？ それは教科書に書いていないからな。

『NEW GAME!』の「祈りの羽」のオープニング、「シェイクスピアロマン」のオープニングと違いすぎる。地球座の踊り子が尻を振り（尻を振るオープニング映像があるのは名作の予感）、デンマーク勢が横一列に竿上武器を持って歩き、フランスが斜めに照星と照門があるホイールロックピストルでちょっと言えないキャラクターを銃撃とか、「あ、ガロアの似顔絵から“シャルルマーニュの再来”のフランス王の顔を起こそうと思います」、生足でハイランドダンスを踊る人。マナーショットを多用。

富野監督の話、関係ないね。後日連載を読んだら、ネットにあがる評判とか読まないとおるから、裏が取れた。オイラの書いているのも、読んでない。

脳腫瘍で療養していたBOOM BOOM SATELLITESの人が亡くなったり、十数年か二十年、いや一生に一度の須田PINマイブームが来ているが、北尾トロさんがパブーに本を出したから、「ご祝儀」で買おうと思ったら、前回購入からクレジットカードの期限が切れていて、再入力しなくては行けないとわかった。

どれだけ…やめとこう。

電子書籍は難しい。パブーも運営が変わってしまうらしいし、順調ならそんなに気にしなくていいが、よくない。一度有効期限が切れるまで自分自身、パブーから電書を買っていなかった事実がクゼンとする。アマゾンでは最近、『なんくる姉さん』を買ったり、利用していないことはないが、油断はできない。

アマゾンのKindle Unlimitedは何か、滞っているらしいし、「銃四輪」も無料であれば読んでくれるが、購読は無かった。来年はちゃんと、「論文」が無料配信になるようにはかろう。（資料を読み返さず出版年がズレたり、いろいろあった）

雑誌「Number」のバックナンバーを図書館で読んでいたら、「1984年のUWF」が面白いなあと思ったり、光浦靖子が『エースをねらえ！』を振り返る記事があって、『僕のヒーローアカデミア』でお茶子さんが、身を引こうとしているのを思い出して「女なら男の成長を妨げるような愛しかたはするな！」…やめとこう。

せめて、連載が終わってから、「今だから言えるけど、あの作品はこの作品の後を追っていたのでは？」と、語れるはずだ。

でも宗方コーチ=オールマイトかということ、同じなのは病身ぐらいだからなあ。アニメの脚本を書いた黒田洋介先生に『エースをねらえ！』をスーツヒーローズにしたのか、誰か聞いてみてほしい。「このキャラクターは御堂筋くんを女体化したんデスか？」と。それは黒田さんではなく、倉田英之先生に聞かないとわからない。原始キリスト教だとちょっと聖人の血や遺体の一部を食していたらしい。

この話はしないで置いて、やめておこうと思っていたけど、アニメーターマンガは死屍累々で、『アニコイ』や何かいろいろあった。「モーニングツー」や「ジャンプSQ」に連載があった。うまくいってなさそうだった。他に良い案が無いはずと探っていたわけじゃないけど高校生達が大藤賞を取りに行く話がいいのか、そんなことを「フラっ」と思った。（映像学科のある大学・専門学校ではこういうシチュエーションを作れない）

ちょっとアイデアはあるけど、活動実績として大藤賞を取れないと研究会が存続できないとか、今までのマンガの定番をすればいいのか、ともかく、これ、やめといたほうがいいなあ。

女性の登場人物を出さないといけないとか、「男の人生に女はいらない」んだけど、『アリアドネ』みたいに、アニメーターの人生には女性が必要だろう。奥様のネグリジェを勝手に着て、くつろいでいる邦子さんは、いいね。

野球マンガで女性をどう登場させて、どんな役回りさせるか、それと同じくらいけっこう重要で、くじらに寄り添っている人魚が、八重さんなわけでセロファンの波に泳ぐ姿に、感動する

わけだ。

「『男の人生に女はいらない』のは、ホモだからじゃない」

それは男権主義や男性優位主義が底流に流れていて、ちょっと矛盾するが性別分業制を強いられた時代に、自分というくじらに寄り添ってくれた姉…幾原邦彦監督がたまに影絵をするのは、大藤さんではなく、正岡憲三では？

大藤さんのエロチックなところは、『クレオパトラ』や『千夜一夜物語』の手塚が受け継いでいるのではないかな。宮崎駿に酷評されたけど、今見るとキャラクター原案を故・小島功さんがされているから、今のアニメーションのはしり…ここでも手塚中心主義が出てくる。

日動の系譜、「くもとちゅうりっぷ」からロリータを表現するのが、日本のアニメの伝統工芸、それは正しいのか、学生達が顧問の女教師（女教師でないと「ボクは一行も原作を書けない」）に言われるのか、「『ダンバイン』のエンディングを遡るとここに突き当たる」のか、それは私もよくわからない。

ノルシュテインの「歌舞伎を見なさい！」と同じ、禿げてヒゲを生やした男性教諭に説教されるのは人気を失いそうだ。川本喜八郎もイジー・トルンカに「歌舞伎とか脳を観なくちゃね」と、電子頭脳おばあちゃんの中身を見せて…冗談である。脳ではなく能を観ろと言われて、人形浄瑠璃らしき人形を使ったストップモーションアニメを作っている。

今の男性視聴者向けの作品ばかり見ると、「好きなものを好きなだけ食べる」ことになるから、くさやのシャンプーをしたやさしい雨・松崎くんの発言「ぼくたちはアゴが弱っている」ので、歴史的な経緯をなぞろうとすると、それは支持されない。（番組は放送後にＢＰＯ審議入りした）

アゴが弱っているから、噛み碎けない。

色眼鏡や偏見かもしれないけど、学生はアニメの歴史から選択肢を増やす親心というか教師心なんてわからず、今のアニメを作りたいに決まっている。咀嚼しないから、筋肉をつけられない。

マンガを読んだ読者も、学生が今テレビでやってるアニメを作れることを評価する。だから「フミ子の告白」が一般的には高く評価される。

昔の技法を下手にデジタル処理で再現すると、「アウラが失われる」のと同じ結果になるのか、宮崎駿みたいにデジタル処理をすると「アウラが失われる」と結論付けて、『崖の上ポニョ』のようにまったくデジタル処理しないとか、そうした極論に至ってしまう。

デジタル処理をしない場合、『ポニョ』並のクオリティーを出せない。

大衆受けしないから言語芸術の方面、純文学になるけど私は文壇に入れなかったから、それは無い。どこにもオファーは無い。

当然、学生達は「八重さんの千代紙（仮）」を作っても、それは大藤賞を取れないで終わる。彼女たち女性は、西村プロデューサーの発言通り評価されずに、終わる。最終的には、国内では認められない、認めてくれないから、海外を目指すことになる。八重さんが海外進出を促すのと同じ。

戦争屋ちゃん（グロリア・カータレット）にフェアリーの格好をさせてダンバインのエンディングを真似したものは、「それはやめておこう」。

「懇親会で新入社員に言うことは、まず『ありえない未来の思い出たち』を読んで、アレ以上のことが出来ないと、オマイラ、お払い箱だよ。肩たたきにあうよ」と、真面目に答えるべきだろう。吉田直樹のコラムを読んだら、そんなことを思った。

新人達にはルドロジーの古典的思考は、まず通用しないと、叩き込まなくてははいけない。『あり思』よりもできないと何がダメって、全部ダメ。それを決定付けた会社がスクウェア・エニックスだから、公表もできる。

『マネジメント』の鼻持ちなら無いボスじゃないけど、鼻持ちなら無い教育係が誰かいないと、すぐ新人なんて墮落する。この程度でいいと、なめて仕事をする。

私は心をペンギンにしてアトラスをいじっているわけじゃない？ アトラスはダメにならないかもしれないけど、セガがダメになるかもしれない。

脅しと受け取るか、わかりやすい助言として受け取るのと、ぜんぜん印象は違う。（後日観た再放送で「このシーンを雑誌連載時に読んで深層心理に記憶されてあの夢を見たのか」と思う）

堀江貴文みたいなことを言うと、懇親会をするコストと、労働時間を割くのが割りに合わないとか、経営に偏った意見を言いたくなる。だが上場企業の体面を保たないと、黒社会との関係が切れていないと思われるかもしれない。プレイモアとの和解は中国の企業が仲裁に入って、黒社会は出てこなかったと思われる。

マジコン裁判で連名に名を連ねた会社は一応、黒い交際は無いと見ていい。輸入業者が海外法人で、そこから国内市場に卸すのが黒社会から資本を流されて作られた企業舎弟、あるいはフロント会社の傘下小売店。

名目上、見た目だけかもしれないが、マジコン業者を訴える以上、黒社会と切れていないとまずい。

任天堂（黒）は電通みたいに、厚生労働省（労働基準監督署か）が立ち入りして、調べてもらわないといけな。月100時間の残業は、もう一人雇わなくてははいけない。

『NEW GAME!』第一話放送終了直後、いきなり残業しているから、「（イーグルジャンプは）ブラックなんじゃないか？」と言われていたが、基準にならない話をすると、桜井政博さんは著作で、要約したものを引かせてもらおうと「『スマブラ（初代）』を作っていたときは、40時間働いて、6時間寝に家に帰っていた」と語られている。（どうも数字的に覚え間違いがあるらしい。で、この覚え間違いの原因は『ゲームの話をしよう』第三巻で永田さんがいーです井出とのダベリを、桜井さんが話したことだと、間違って覚えていたようだ。うっかりホイジンガ。記事内では話をこのまま進めるが、ともかく納期近くの追い込みのときはこれの半分ぐらいは働いていた。それも管理職だから長時間労働が可能だったと思われる）

どのくらいの残業だったのか、調べると週六日働いて120時間。労働基準は週40時間だから、80時間の残業である。これを4週、月に320時間程度の残業である。労働時間だけなら、月二人雇える計算で「東映だったら労働争議です」となる。東宝なら米軍が（赤を狩るために）出張る。

私は交換可能な人材だけど、桜井さんに代わりはいない。どこかで聞いた「英雄は過労で死ぬ」を、実践しなくてははいけないのか、スクエニの新人には「この程度でいいと、なめて仕事」をしてほしくない。わかりやすい助言として受け取るのが正解。『ありえない未来の思い出たち』

だけでなく、ドラクエテキストを書けても、 $i + 4 = \text{ゴミ}$ みたいなシナリオではとても通用しない。転職も考えたほうがいい。

もし今、文学者が文読を作るなら、業界のコネクションを総動員して誰がゴーストライティングさせていて、ゴーストライターを誰がしているのか、調べないといけない。

amazon Kindle

税抜き600円



平尾誠二さんが亡くなったので、山際淳司の『エンドレスサマー』にある、松尾雄治のことが書かれている「ハードボイルド」を読み返した。平尾さんのことも触れられているか、調べたのである。

そういえば、『とと姉ちゃん』では石油ストーブの水かけ論争に手を出さなかった。一応朝ドラはまだ影響があるから、水かけ論争がまた再燃するといけないから、やれなかったのだろうか。国語辞書で誤用を転載しているので「犯人はお前だ！」と、ある辞書を名指しで記事を書いたのは、「そういうことはやらないでね」と、三省堂から袖の下が明解に出たのか。（答えを書いているじゃないか）

洗濯機の赤羽根社長（音羽グループの暗喩ではない）の公開処刑を見せ場にしたいけど、これも受信料をとって放送しているから可能で、民放だと白物家電を作っているところから「スポンサーを降りるぞ」と恫喝されるから放送されない。（本当にそんなことがあったら赤羽根社長そのもの）

批判にならないように書くと、魔法の円錐と同じだ。

マスメディアの記者たちを集めて、「なんで魔法の円すいを描いたんだ」と公開処刑される。「アニメ放映版では、正確な辺の長さ（少数点切捨て）になっていたのは、アニメ制作側から連絡はあったのか？」と、聞きたくなる。

「連絡があったとすれば自尊心は傷ついたか？」、それで「アニメ制作も原作も互いに気を使うと羅列ネタで書いたのか？」、「単行本で修正するという重力加速度のようにならなかったのは何故か？」「十戒でマンガ家をたたかないで下さいとあるが、今している記者会見はマンガ家叩きだと思うか？」「フレーバーテキストでTEC+8となっているが、装備するとステータス欄にはすばやさが+8になっているのは何故か？」と、ヤメ検弁護士を雇って対応されるのだろうか？ ヤメ検弁護士のおかげで舐添問題は丸くおさまって小池新都知事になったみたいになるのだろうか。（ひとつ関係無いのを後で継ぎ足した）

クメダルマウィキによると、「レコードは必ずしもデチューンじゃない」と書いてあり、音源が劣化している部分はあっても、今のハイレゾみたいに、高音域をアナログ録音している。

そういう、どうでもいい話は置いておいて。

3DSも11月のポケモン、なんとかドラクエのナンバリングタイトルまでしか、ハード寿命がたもてない。新潟市にでかけても、子供が3DSをプレイしている様子がすれちがい通信から、いわゆる「過疎っている」のが、なんとなく感じる。

電車に乗ってもスマートフォンばかりで、たまにPSvitaを握っていた女性を見て、「乙女ゲー」はえらいと思った。

スマートフォンがもう昔のテレビになって、その補完装置を作れば良いと思っていたけど、実を言うと、ワンセグでチューナー外付けなどは売れていないみたいだ。

テレビの寿命が任天堂のハードメーカーの寿命では？

普通はスマートフォンや電子タブレットの画面で据え置き機があってもいい。もう少し調べないといけないが、そういうトロイの木馬をさせない構造やOSの仕様になっているのかもしれない。

だから当然、任天堂は赤字になっている。

ニンテンドースイッチは買わない。Game&Typeみたいなものを作ろうとしていず、スマートフォンのトロイの木馬にしようとも思っていないようである。スイッチをオフにするときがきたのだ。

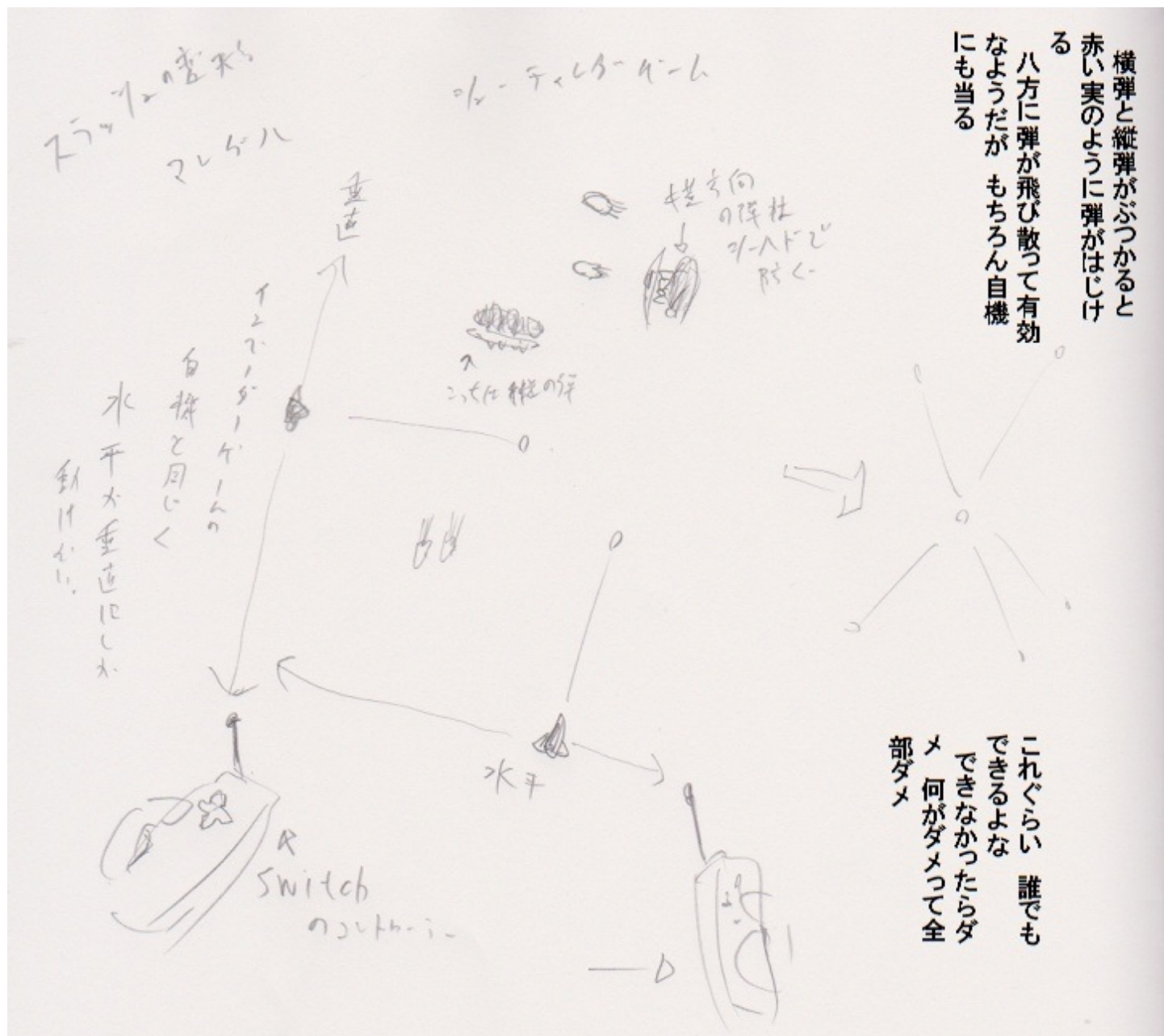
労働基準監督署が電通に入るみたいなことが、任天堂に入ることが無いのが、解せない。

いろいろな混乱もあるだろうが、それを乗り越えないと任天堂の復活は無い。

京都銀行も危ないだろう。

ごまかし、ごまかしですませていくと、横井軍平さんの伝統工芸を引き継ぎたいと口先で言って、告発問題を解決させなかったら、どの口が言うんだという話だ。

大企業病、大きい組織だとどうしてもこうなるのだろうか？



なんで、こうなるのか、会議をするからだ。豊洲の地下空間並に責任の所在を不明にしておくのは会議をしたからだ。

日本は会議をするのは、無責任民主主義で、自分には責任が無いという保証が無い限り、前に進めない。『シン・ゴジラ』で前半イライラするところは、「自分は責任が無いから丸投げしたい」という責任者の本音が出ているからではないか。忖度すると、失敗したらいろいろな案の

中から選んだ自分じゃなくて部下のせいになりたい、そのために会議がある。会議をしたから、オリンポスの不正会計が責任問題に発展せず、海外のプロ経営者が入ってきて責任問題になって逆に放逐されるという、会議の「ルール」がまったく正反対である。本来、カタルシスを得てはいけない内閣総辞職チームに、浄化作用を得てしまう。（皆が問題だとわかっていながら改めず、長くなるからサラリーマン経営者の話はやめておこう）

「日本では誰が責任を取るの？」

石原慎太郎が暴君しんちゃんって、皆わかっていたはず。内閣総辞職チームを食らわなくては いけなかったのに、任期中に食らわなかった。

怨恨の線を手繰ると、２ちゃんねるの個人情報流出事件で庵野監督がチャンネルであると発覚して、どうもそこでネット世論の意見を吸収しているらしい。元々アンチ民主党で通称アニメの殿堂を潰したから、さらに嫌いになり、そのヘイトをフィルムに焼き付けたのが、『ゴジラ』の新作だったという見立てはアリか？

あの元に戻した東京駅を壊したのは、基本的には福一の事故に擬えていると誰でもわかるようにしているが、本当はアニメの殿堂を潰された暗喩がこめられているのは、さすがに裏読み深読みすぎだ。（まだこのゴジラ観ていないのだが…）

どこから建築費が出ているか詳しくは知らないが、「東京駅を改築する予算があるなら、大手ゼネコンにアニメの殿堂を作らせろ！」という、ハコモノ財政出動に待ったをかけた民主党に…ゴジラの怨念を感じる。（助成金が出ておらずJRが全てカネを出しているならまったくの筋違い）

横井さんが「（任天堂は）良いワンマン経営」みたいに言うのは、山内社長が会社を私物化（筆頭株主だったから）して皆反対したのに、ファミコン開発発売を強行できたりするからだ。

結果がよかったからいいものの、もし悪かったら「リコーさんへの支払いをどうするんだ」と、散々に言われていただろう。

政治も経営も、結果責任だから結果が良ければ、不正だとか見過ごされることもあると思う。

果たして、任天堂はこれからどうなるのか。

向こう数年は確実によくなるだろう。それぐらいしか言えない。

『ジュ・ゲーム・モア・ノン・プリュ』を読み返したら、「そういえば水曜日（ゲーム内の人物の通り名）がセーラー服を着て、マガジンの発売日だから『街』のネタを入れた」と思い出した。曜日にしか選べないキャラクターが、水曜日だと全員プレイ可能なのは「サンデーの発売日だから」というネタだけど、もう「アサヒ芸能の発売日だから」に刷新してしまった。『絶負』は意図的にエターナスしたから、いくらでもネタを出していい。

…作らないけど第八部の表紙は魔法の円錐にしたい。

後日、雑誌「ゲッサン」の12月号の『アオイホノオ』を読んで新谷かおる（氷山一角）が「原作通りに書きちゃダメだよおお！」と言っていたシーンを読んで、処女航海で氷山にぶつかったぐらいの衝撃を受けた！ 「『じょしらく』は正しかったんだ！」 既成概念というタイタニック号が沈没した。それぐらいの衝撃を受けた。

『ストII』版でのリュウのしゃがみアップ、その再現を『スマブラ4』で行った桜井さんのコラムで、「3Dは大げさに表現した方がいい」というのは、正しい。

このリュウのドット絵を描いていたのが、あきまんこと安田朗で、カプコンに入るまではアニメーターの仕事を少ししていたらしい。先づめ後づめを理解している描き方である。原画の中割りが出来る動画をしていたから、どこをどう省略するのか、「クローズアップ現代」で放送されたパジャマで面接を受けに来たと言う伝説めいたことは本当だろうか。

ピッチングでもフォロースルーが大きくとられる。それはフォロースルーが眼に焼きついているからだ。実際はピッチングフォームの連続写真を見ると、不細工な格好もある。手が思ったほど伸びていないなどがあるが、逆にそういうモーションがないと、運動生理学上加速のために必要な助走がついていないため、伸びのあるストレートが投げれなかったりする。

ところがマリオジャンプと物理ジャンプの違いのように、リアルであればいいというわけではないし、見た目がよくなるわけではない。

ゲームバランスを持ち込むと部分的にアンリアルになり、予備動作無しですぐ出て当てられる使い勝手のいい、通常技にしがち。これは運動生理学上の動き通りにすると大きなスキが生まれるからだ。そこでリスクヘッジ的に攻撃力が強い、出掛かりは無敵時間があるなどは、またアンリアルに引き戻される。

深作欣二監督が『クロックタワー3』の監修で入って、極端な演技をつけるということをしている。それをコラムの第一回で桜井さんは支持していて、たしかに当時のポリゴンの量だけはいくらもなかった三次元モデルのキャラクターに演技をつけると、なんか初期の田辺剛（ナベの字を漢字変換できなかった時代）のマンガみたいな、ぎこちない、居心地の悪さ、「ボクはここに本当にいていいのだろうか？」と思弁的になってしまう映像であるのを、極端に3Dモデルを動かすことで、演技に気をとられることで無化する。（ブレヒトをかじっているなら異化効果の作用も考えられる）

逆に不気味の谷演出も必要なときがある。ホラーの場合、とくにあえて人物を乗り越えたはずの不気味の谷に戻す造形をするべきだ。（だから田辺さんの伊藤忠太の怪奇モノマンガを描いたのは、正しいのだろう）

3DOとプレイステーション初期はホラーゲームが強かったのは、不気味の谷のおかげで、ポリゴン量が増えちゃうと俳優たちに強張った演技をさせるためにスタジオで散弾銃をぶっ放した『エクソシスト』の監督（ウィリアム・ベッキーキン…コラージュ）みたいなことをしないとイケない。伊藤計劃さん経由の話である。

そういえば、『ジュ・ゲーム・モア・ノン・プリュ』で小島カントクをやはり山本カントクと同列に扱ったブルボン小林さんは、私と同じ視点を持っているというか、視点変更である。長島有からブルボン小林に変更じゃなくて…詳しくは『メタルギア』シリーズをプレイするとなんとなく、カタカナのカントクで呼ぶ理由が深夜の情報番組「トゥナイト2」世代にはわかる。

私もいろいろ噂（女性アシスタントを起用）を聞くにつれ、小島監督はカタカナの方のカントクだと思っていた。（同じ事を思っているのにあちらは芥川賞作家で、こちらは作家デビューもできない。格差）

VRではどんな驚きを小島信者に見せてくれるのか、楽しみだな小島カントク。トリガーボタンを押すと「ほとんどビョーキ」になってくださる。

『ブブキ・ブランキ』シリーズでも、おおげさな表現をしている。

制作陣の話では、「継承」がテーマだから国内平面アニメが築き上げてきた蓄積を、立体にどうやって落とし込むか、キッズアニメみたいなエビゾや薫子、舞台をころころ変えて、世界各地の建物や雪が降るや海の表現や世界名作劇場なロケーションをあえて描いている。

ポニョの企画に書かれている「2Dアニメーションの継承」に分水された方向に、サンジゲンはある。

現実問題としては、もうロボットアニメは3次元モデルにほぼ移行した。無理して平面アニメを作ると、『レガリア』みたいに放送延期になってしまう。

それはやめておこう。

サンジゲンは前に『アルペジオ』でイオナのような無機質系をヒロインにしているけど、3次元モデルはどうしても、そちらの方が得意である。

前にも同じことを言ったり語ったりしている気がするが、仕方ない。同じ事を書こう。

演劇的な話題、気分はもう『ありえない未来の思い出たち』の第三巻に行っている。語り漏らしもあるけど、「そもそも必要が無い」。必要があれば、ゲーム会社に働いている。

90年代前半には、静かな演劇が台頭していて、それで『新世紀エヴァンゲリオン』でそちら方面の言葉では無機質系のはじまりとされる綾波レイが出てきたのは静かな演劇が起源と思われる。（それに対して第三世代を引き継いだのはアスカで大人計画的だろうか？ もう飛鳥先輩にメインヒロインが交代したからな）

片渕監督が一家で一日100円で過ごした『この世界の片隅に』でのんちゃんをレコーディング時に世話した新谷真弓はナイロン100℃でコメディエンヌをやっていて、彼女を採用するのも、なんとなくわかる。

ここで、能年ちゃんの教育係みたいなことをした新谷真弓と片渕監督の話をすると、長くなるので、あまり言えない。

戦争中のような耐乏生活を監督がしていたとか、片渕監督は好きで無人島アニメ（もし無人島に持っていくならどのアニメ？）に選んだ『アリーテ姫』の監督だから、活躍して欲しい反面、世の中に媚びてほしくもない。

『アリーテ姫』は日本教こころ宗て派の極北アニメで、手でなんとかする無人島生活にぴったりの内容である。

前にも同じことを言ったと思うが、けっこう庵野監督は演劇史的に有名な作品を抑えているのでは？ と窺わせるところがある。特撮物が好きだから、特撮俳優の主戦場が舞台演劇で、彼らの動向を注視していると考えられる。

『シン・ゴジラ』で石原さとみが演じたカヨコ・アン・パターソンは、長濱監督の話によると、昔の特撮映画で怪獣が発生して国際問題になるというアリバイ作りに登場させる外国人を担っている。その俳優たちの演技（吹き替え）の歴史的な引用であると語っているが、最近の演劇で、ああいうのがあったんじゃないか？（実写版の『のだめカンタービレ』の外国人俳優と石原さとみは同じ？）

三浦大輔ではなく、他の演劇であったのか、ちょっと調べないといけない気がする。大人計画が好きだから所属の俳優たちをたくさん起用しているように、石原さとみも『マイ・フェア・レディ』を観て、起用したのでは？ 実際に観劇したのかは、わからないが。

蓮っ葉な町娘から淑女の変化…これ、正解じゃないか？ 発音が階級であるイギリス社会にクラッキングをかけるように、吹き替え外国人にハッキングする石原さとみ。

『菊とポケモン』を少し読んで、マネーショットという言葉があるのを知る。

男女問わず変身シーン、オモチャになるアイテムの見栄えあるシーン（思わず真似したくなるアクション）、そうした視聴者の購買意欲をそそる画面を海外ではマネーショットと言うらしい。

今はマネーサウンドで、「ガタバッタ、バタガッタ」とかうるさい事をアイテムに言わせて、コインを山のように売った。今度はMC・ATに独特の発音で「ムサシィ」「ニュートウン」「アヴェサァダ」（最強）とか言わせて、二匹目の泥鰌である。（後日調べてみると、ある人物については発音しておらず、捏造でした。「そうか。コインを玩具のベルトに仕込んで『サダバッタ、アベサッダ』と言う音響で遊べないのか…」媒体が高年層だと、コインの代わりに切り取った

これはテレビの画質が良くなったら、音周りをよくするのと、同じ。

正直マネーショットに行き詰まり（逆に完成の域に達している）があるから、音をちょっとやってみようという、なんだか演技とかいろいろなことを語ってきた本筋とは関係ない話をダラダラしてしまっただが、当時のスクウェアが金田伊功さんを登用したのは、正しいと思われるけど、いかんせん結果は出ていない。

海外に販路を開いていくのがスクウェアのソフト開発方針になったから、国内アニメーターを活かす方向には外れてしまう。だから飼い殺し批判になってしまう。

先づめ後づめの中に極端なポーズを入れる、「1コマ2コマ1コマ2コマ」と特殊な秒割りをする金田さんのあの表現の仕方、あんまり継承されていないようだ。FF15あたりの頭身で金田飛びをすると、「カッコイイ」よりも「おかしい！ 変だ！ そもそもゲーム自体が変だ！」と思われる。（例のアイツについては縁起が悪いのでカットした）

だから頭身の低いモデルを作って、演技させるのは、けっこうアニメの世界ではやっている。『ブブキ・ブランキ』でも頭身が低いキャラクターを出すのは、その部分の表現を技術的に蓄積したいのかもしれない。

どうも、中間が難しい気がする。

静かな演劇系統も、児童向け演劇も良い。しかし、おばちゃんやおじちゃんや、冴えない奴（女に股）とか、何か『山賊の娘ローニャ』（吾朗監督・ポリゴンピクチャーズ制作）にも感じたものを、『ブブキ・ブランキ』では解消できていない。

相対的には、『アルペジオ』に比べて、中間にクシの歯がかけているような状態はかなり埋まっている。はっきり言ったら、今後もサンジゲンは見逃せない。

『ストII』はOKを出すのが、笑えたポージングであったりする。

ヨガの達人でいくらなんでも、こんなに手が伸びるはずのないところまで伸びて、それを見て笑えたからOKにしている。そのあたりの極端さが海外でも受けている理由になっていると思う。（滑稽味あるPPAPの動きも、これに近いものがあり、そこが万国に受けている理由ではな

いか)

文藝春秋

1984年のUWF

柳澤健



『1984年のUWF』に影響を受けすぎて
タイガー・ブラウン警視総監が出てこない場でも
出して尚且つ虎のマスクをしている

付録の「1981年のタイガーマスク」も読もう

思いつきの演出

「そうか。斎藤由貴の『ファミリーヒストリー』は、芹澤優のファミリーヒストリーでもあるのか」

BSプレミアムで放送された「シンフォニック・ゲーマーズ」を観た、聴いた、負けた。

自分の作った曲がもう、永遠にかからないわけだから、陰鬱になる。『クロノ・トリガー』の「風の憧憬」は、JASRACと契約してゲームに流したいじゃない？ 「おねえちゃんの声が聞きたい」と、言うシーンに流すとかは…嘘になる。本当は鈴木慶一さんの「風のリグレットのテーマ」なんだけど、話をするために歴史を捏造した。なんで177を役にしなかったのか。

もう任天堂ではできない。

その憧憬にきこえる。

最近出た本では、「憧憬」って明治生まれの言葉で、今現在使われているような意味ではなかった、ラングからパロールで意味がずれているらしい。それと繋がりはないと思うが、川本喜八郎の短編人形アニメーション「道成寺」を観た。

『ゴジラ』の元ネタだと思った。だいたい、水の中に女性が入ると、大藤賞をもらえる傾向にある気がする。もし『シン・ゴジラ』が人形アニメーション（客は入らないと思うけど）なら大藤賞長編アニメーション部門を受賞できた。

イジー・トルンカのそっくりさんに「キハチロウ！ 腕を押さえておけ！」と言わせたり、うっかり喜・三・郎さんと五つ引かれたり、酷い事をしている。それは「あきらめちまいなよ」としか言えない。

歌舞伎などに語られている「娘道成寺」をわざわざアニメにしたのは、この師匠トルンカから言われたことをこなしたのであるが、「電子頭脳おばあちゃん」を遡って、中世にしているのが「道成寺」では？ おばあちゃんが電子頭脳、ロボットになるのが、サーペントになっている。

伝承にある話、これが現実の世界だと、『仮面ライダーゴースト』も乗り移させた歴史上の偉人になるのでは？ と思ってしまうが、そもそも変身する怪人の起源、ファーイースト・ブレンギグロメニアン・サーペントだ。

子供は「『仮面ライダーゴースト』にお前の言う歴史上の偉人なんてゴースト、出てこなかったぞ！ 大人は汚ねえ！ 恩赦されて刑期が短く出てきたなんて、知らなかったと思っているのか」と言うに決まっているが、もちろん冗談である。

普通の人が鬼女になって、河を渡る際に竜、蛟になるのを観ると、万国共通で何か同じモチーフがある文化人類学的テーマで、お母さんが餓えて鬼になる話とか、喜八郎はそういうものを表現したいから、材をとっているのか、師匠譲りなのか、それは論文を読んだら答えが出ていると思う。

それにしても、阿部サダヲって、松尾スズキにひどい芸名を付けられたんだな。

東京五輪の開発で立ち退き料を得て、それで海外留学的にトルンカのところへ行ったのは本にもなっている常識なので、いちいち書かないが、ビートたけしのお父さんのネタと逆である。フロイト的には、鬼になることでファルスを得るなどの、精神的なことも書かない。

朝、地震があって、目が覚めた。

今日は鯨絵の話しでもしようか。

ちくま文庫で『鯨絵』というものがあるから、読者にはそちら読んでもらうとして、話を細いつながりで「オレは攻略本じゃねえぞ」と言ったナマズの『ライブ・ア・ライブ』、旧スクウェアの話の少し。

論文から書き抜いている。

「というかですね、ゲームラボの旧スクウェアの話とグーグルサーチャーで手に入れた論文を二つ合わせているような内容の日記事です」

経営者の子弟が国際企業を設立する成功物語に読むのが正しいだろう。

四国電力の下請け会社、電線工事を請け負う会社の社長宮本国一の息子が雅史で、単純にユニクロの柳井さんに近い。電力会社の傘下にあっても仕事がある。資料不足で阿波銀行と四国銀行の関係勢力図には口を挟めないのだが、金を積めば入学できると悪口を言われている早稲田大学入学で上京し、何か会社でも起こしたいと思っていた雅史は、まだマイコン時代のコンピュータソフトを取り扱うことに事業を見出す。

もし時代が少しズレていたら、この雅史はDCブランドを起こしていたかもしれない。持ち株会社のようなエスシステム社は、服飾関係の事業をしているらしいから、そちら方面に食指を伸ばしていただろう。このあたりも柳井さんに近い。ユニットバスでスーツを黒く染めるという、田中裕二くんのお兄さんお姉さんあたりがやっていたことだ。（何かやっていたと聞いてはいるが、そもそも記憶が不確かでガール度が低い）

これを映画『インスタント沼』で三木聡監督がバカにしているのか、「白っぽい内装の店を、黒っぽい内装にしたら商売繁盛した」という、エピソードでは？ だからFF15があんな黒尽くめの服を着ているのは、この頃のマヌカン、カラス族からの流れがあるのだろう。

「黒だから売れるんじゃないか？」

詳しくないから知らないけど、ゲーラボの記事によると、ホストファッションのブランドを協力を結んで、そのブランドが元々DCブランドの流れを汲んでいると仮定してみると、なんでホストがそういうファッションをするのか「ストーリー」が読める。DCブランドが人气的に落ちてきた90年代前半期で売れ始めたホストたちが憧れだったDCブランド系を着て、やがて彼らが先輩となって後輩から憧れられる存在になると、同じようなものを着るようになった…鈴木みそ先生の『銭』を読むとこういう歴史を歩んでいたのだろうか、想像できる。

この想像推測がファッション史を紐解いて実態に即していたら、これほどダサいファッションは無い。おされピープルじゃない人のやっかみなのかというと、また繰り返すけど『銭』を読むとわかるだろう？ ホストクラブに落とされるお金はどこから出ているか？ なにかホストファッションに歪みを感じると前から思っていたら、そういうことだったのか、になる。

バブル景気のガラパゴス諸島だったんだよ。

だから、バブルの頃に出来ていたシャンパンタワーとかを、再現しているんだよ。そうすると

、あえてわかった上で着るなら、格好がつくが、それをただ猿真似したら粋じゃなくなる（『粋の構造』）。

無理して繋げると、難しいのがスクウェア社がこうしたバブル景気になっていく頃に出来た会社だから、地力があったから成功したのか、ともかく好景気に煽られたスタートダッシュで助走がついたのか、ハロー効果を抜いた掛け値なしの評価が難しい。（場合によっては不況下でソーシャルゲームで儲けられる方が「地力」があることになる）

ともかく資金的に潤沢だとなんかという、黒社会と付き合わなくていい。

NHKが「企業舎弟」のNスペを放送する前夜で、流通に黒社会が一枚噛んでいるわけだから、自社開発・販売ソフトと企業舎弟に作らせたクソゲーと抱き合わせをされたり、中古販売業をされて、スクウェア側はそうとうに不愉快だっただろう。全ソフトを買いあげて出荷するSCEに組するのも、このあたりの事情を知っているとなづける。

ある資料では、当時任天堂が20パーセントのスクウェア株を持っていたが、いろいろあってSCEに与したのも、頷ける。ゲームマスコミは黒社会との関係を語れないから、一見株主に反する経営路線をとるのも、今から振り返れるとわかる。旧スクウェア側の動機・行動がわかる。

それでSCEが流通を一手に引き受けるが、ディスクを何枚作るか決められてしまう（このあたりで飯野賢治が怒って離反）から、それはそれでまずいと感じて、共同でデジキューブを設立するが、山口組系統の組織ともめたって、わかりやすい。任天堂の本業花札を全国にさばっていた会津コテツ会（＊小鉄か虎鉄忘れちゃった。佐幕派なら虎鉄だろうね）は友好団体で、初心会参加の流通業者は山口組の企業舎弟や友好団体のフロント企業であったのが、推察される。反山口組系統だと、PCエンジンや非任天堂系をプラットフォームにせざる得なかったのでは？ 半信半疑…もうちょっとファミコン親父ジャーナルががんばってくれば、書かなくていいのに。

『大人のしくみ』でみそ先生がにおわすだけですました、だけどUSJで想像のアトラクションスペースが実現したり…絶対マンガのとおり「刺客が出たぞ」が実現しないと思うけど、「楽しみだなあ（棒読み）」。

他でも書くと思うが、不動産屋はまずテナントを貸さない。電友社の社長の息子でないと、まずPC屋を開けなかったのでは？ 中間をすっとばすと、だから、「努力も才能の内」と、言うようになったのでは？

流通改革したソニーを標的にしないあたりが、何か解せない。

それはソニーがバックに、黒い背景があるのでは？ そうでなければ、あんなサクラを使って、トランジスタラジオを売れないだろう。

無事ですむわけがない。

ブルーボックスを売りさばいた両スティーブのところに地元ギャングが、「何勝手にさばいてんだ」とすごんできた話を思い出す。

やばい話、もういいか。

倉田先生を呼び捨てにするとか、変なことを言っちゃいけない。「そんな倉田英之先生を呼び捨てにするような記事なんてねえよ」とかすごんでも、ちょっと簡単に払えない額の補聴器を壊したりする映画を多根さんがとりあげたり、仕方ない。

任天堂のいじめの象徴、ニンテンドークラシックミニファミリーコンピュータは買わない。イッセー尾形に「この会社、聴覚障害者を排斥して辞めさせた会社じゃないか」と、コマーシャルでも流せばいいのに。

ほしい、という人の気持ちがよくわからない。

「党派的な理由で『星のカービィ 星の泉の物語』が回り舞台と高田馬場をしていたので、（苦虫を口にしたような顔をして）ほしいです。あっ、舞台観劇とゲームクリエイションで回り舞台と高田馬場と同じ事をやっていたのをネームに書き忘れて、吉田玉男が花火で火事を起こしたのを、第三巻に持ち越し」

鯨の話は、どこかへ行った。

後日知った、ちょっとつらいことを書くと「『ファイナルファンタジー』のナンバリングタイトルなのに、初週100万本いかないの？ アメトークで特集されないじゃん」と、「ファミ通」の売り上げ本数の記事を見て、驚いた。「地震が起きたぐらい吃驚した」。たしかに比べれば『ペルソナ5』とダブルスコアで、たしかにそれはすごい。初週で200万、300万が当たり前の時代から考えると、「本当にコンシューマハードのソフトは売れなくなったんだ」と隔世の感がある。だからあのファッションをするのは、ゲームバブルの頃を振り返っているから、ファッション史があっていたら正しい。それからブログでまだ公開しちゃいけないことをうっかり書いて、意図せずリーク情報になってしまったのが『ライブ・ア・ライブ』のアプリ版配信のログリークの件、個人的には面白かった。

更新情報からコンバートした話として、「この間ザッピングしていたら『久米書店』が映って、壇密が何かあって、彼氏が結婚するとか、急に言い出したらしい」という話とは、繋がらない。

いろいろな候補の中から選んだのが、「男色ディーノの技で、ちょっと下品だから言えない『オレごと、アスタリスクレ!』の元ネタである寺田屋の『おいごと、刺せ!』がやっと『風雲児たち』で描かれた」と繋がるか、『ユーリ!!! on ICE』を観ているけど、「熱量と文字数」、ねつもじでAサイド、Bサイドの人気投票でどちらも一位、“そこそこアニメを語る”「そこあに」で即特集、二回、三回とトリプルを決めた。（でも覇権はアンケートによると『ハイキュー!』）

徳間書店だから親父雑誌のヤクザ記事が無いのが不満な「アニメージュ」でも即、特集記事。（これは趣味じゃないから、観るのはやめようと思った『サーヴァンプ』を子供が読書投稿欄にイラストを描いて送りつけているのを見ると、「観なかったのはよくないのかもしれない」と、「ニュータイプ」を読んでいた頃には感じなかった胸の痛みを覚えた）

「アニメディア」でも別冊の表紙を飾って、学習研究素材になる作品だとお墨付きを与えている。

歌は太田光のギャグ「うらやまディーン・フジオカ」で有名なディーン・フジオカ。こちらはちょっと歴史を捏造しているけど、「歴史を作る」である。それはポンポコ商事に一報を入れれば、作ってもらえるのか？ カメラがあると思われる上手に向かって、腰を下げて右手をやや上向きに掲げる「熊泥棒」（『パンデミック』は打ち切りになった）のポーズを子供にしても、番組を見ていないからわからない。普通ならあのポーズ、おディーンさまにかしづくポーズとか、ちゃんとした名前がついているはず。

『映像の原則』を読み返すと、映像的運動として上昇を表して二人のユーリが現れるのは、男子フィギュアを浮揚させる意味がある。でもね、こういうことがわかる富野監督『映像の原則』を読んでも、別にバンナムに入社できて、ガンダムの設定とか、なんか出来るわけじゃないから、そこは皆拡散してほしい。

腐男子から科学者、レモンを書店・丸善に置いた小説を書いたために皆が本屋にレモンを置く「レモン色のテロ」を誘発するようになった切っ掛けを作った作家、ギオルギーまで声をあてる羽田野渉がエンディング曲で、今だから言えるけど、モダンバレエには型があって、『Gのレコンギスタ』のアイキャッチでマスクが踊っていたのは古典バレエではない型。記憶がおぼろげだけど、Eテレ時代ではないNHK教育で観た覚えがある。

前衛舞踏ではないが、近代バレエにある型。富野監督の次女らしい富野幸緒さんがふりつけで、ヴィクトルにふりつけしてもらったようなもの。

ヴィクトルは330点以上を叩き出して、300点オーバーは人類史上、ゆづ（後日情報・グランプリ四連覇）ぐらいしかいなかったから、「次元が違います」と言われていた。

後で観返した太っていた頃の勇利は、動きが重い。趣味ダイエットでやせた後は、ふりつけもあるが軽やかさが出ている。ジャンプも四回転は飛んでいないと思われる。（このシーン、スケ

ートをはじめた切っ掛けである優子ちゃんに現役を辞めることを告げようとしたのを、蒲郡くんが食い止めたのかもね)

チェコの人(エネル)がカレル・チャペックの母国だから、サイボーグのふりつけをするのだろう。にくいね。そういえば、『栄光なき天才たち』にも、カレル・チャペックがキノコを落として拾う場面があったと思う(未検証)。たしか第一巻の最後がガロワで、あじあ号やハニートラップみたいなことにはまってしまった理化学研究所やその後の栄光なきを予言している内容のようだ。

振り返ると『デスパレード』が「新全件」で50点オーバーの高得点であり、フィギュアスケートをしてるのも、「隼人とブレイブウィッチーズの隊長、同じ国井事務所の人なんだ」、「ギアが17段階ぐらいある」とか、女子フィギュアスケートだとトーニャ・ハーディングが「事件」を起こすというめちゃくちゃ面白いネタがあるが、それはダメだろう。アニメじゃダメだろう。誰が円盤を買うんだ! 「円盤じゃないんです。銀盤です」

なんだっけ、選曲候補のもじりが「生の舞踏」「魔導師の弟子」「瓦割り人形」・・・「うっちゃれ五所瓦割り人形」は無いのか。

“氷上の勇利”でよかった。でも、こういう小ネタ面白いね。

山岸涼子の『アラベスク』も入っているけど、わんちゃんがクワドを飛ぶ「銀のロマンティック・・・わはは」を読んだら、女子が男子を持ち上げるパワフル・コンポジションをしなくてはいけない。マッカチンのようなでっかいプードルじゃなくて、雑種ポチの「奇跡」を見てクワドラプル・ルッツを飛べるようになる。

詳しくは『本のセールスマン』「銀色のスルヤ・ボナリー」の項を読んでもらうとして、「新・日本三大〇〇」から話を起こすと、名作アニメが生まれるの法則(母数、たった二つ)。アニメ『ピンポン』が世界のカットマン松下の三大試合、そこから「ヒントを得る」とポセイドンの社長のエピソードに繋がる。

マンガで『氷上のクラウン』はあるけど、女性かペアの話なら、なんとかかなと思っていたが男子フィギュアスケートがアニメになるなんて、「金魚が水噴いた」と驚きだ。『ファイナルファンタジー』が初週で100万本売れなくなったのより、驚いた。

「本当にサイバーコネクトツーに入社できなくて、よかった」

私が生まれたか、まだ生まれていないかの頃の作品で種本、元ネタとっていいぐらい、兄弟でフィギュアスケートをしているとか、女子フィギュアスケートだとトーニャ・ハーディングが「事件」を起こすというめちゃくちゃ面白いネタがあるけど、それはアニメじゃできないだろう。

シーズン中盤のグランプリを話のクライマックスにもっていつているのも、読み返したら世界選手権が銀口マでは最後だった。銀口マがワンシーズンだけの最高のペアであった・・・「本のセールスマン」と違って、種が割れてもいい。

今年のはじめに出た双葉社から『完全保存版 大好きだった! 少女マンガ'80年代篇』があって、そこで教授(川原泉の渾名)の特集記事があるから、そこから「ヒントを得る」のが、実態と思う。

教授が本当にフィギュアをわかってないと描けない描写があるとか、今にして思うと山本監督（カタカナの監督ではないので沙代監督の方）はこれを読んでいると思う。

片渕須直監督のように、素直になりたい。『この世界の片隅に』が興行的には成功したと言えて、まずは安心である。ちょっと系統が違う『百日紅』が興行的には、少し苦しい結果になっていたから、女流マンガ家のマンガ原作のアニメ映画化はダメかもしれないと思ってただけに、とにかく嬉しい。

後日譚 花中さん江

日記を書いている途中で継ぎ足しすることが多くて、『ハング・オーバー』とか『テッド』とか、電車に乗っていたらスラブ系のハーフと思わしき女子学生がバックにヴィーチャ（ヴィクトルの略称体…アレクサンドルの略称体がサーシャ）のグッズをつけていて、声をかけたくなる…「檸檬」を読んで本屋にレモンを置き去る迷惑行為と同じ。レモン色のテロ。

今、内藤剛志が奥さんと初めてあったときのエピソードで、同じ本を読んでいたから声をかけたみたい、同じアニメ観ているから声をかけるのは、ダメになった。たしかに「私もヴィーチャの尻、いいと思いますよ。タグにしましたもの」と言われても、困るよな。

マネーショット。

これから観る人のために、種が割れるといけないので、犯人にしか知りえない情報として『文章読本』が紙の本になったら解説を書いてもらう杉作獣太郎の獣の字からとられた獣・獣スタイル！とか、獣・獣ガールズや彼女（イザベラ…もちろん綾波レイそっくりでこれは杉作先生が『シン・ゴジラ』という映画をあててやっと有名になった庵野秀明監督が前に作ったちょっと流行ったアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』を観た悪影響で出てくる女の子みんな綾波レイの似ていない絵を描くようになったことにちなんでいる）もいて時間が来ればフィギュアスケートの頂点に立つのも間違い無しで「まさにリア獣」（これがやりたかっただけか）である。

ちょっと彼が、獣・獣が（綾波レイだけに）「波」に吞まれて演技に精彩を欠いたのを観たら、すぐに絶好調の時の滑りを観返した。皆のイメージの中では、杉作獣太郎が『チョコレート・リボルバー』を完成させずに、フィギュアスケートをしている図が浮かんで困ると思うが、一人で自宅の部屋にいるときは裸であるということが、なぜか男性の肌色が多い『ユーリ!!! on ICE』と繋がる場所だろう。

演技中、織田くんの顔がワンカット入るのは、現役時代の彼が獣・獣と同じようなことがあったからだろう。冬季五輪で似たようなことがあったのか、そもそも出場していたのか、忘れてしまったがフィギュアファンなら、思わず唸るところなんだろう。

フィギュアファンじゃないと、トーニャ・ハーディングのネタを蒸し返すのは、ラグビーでニュースになるようなことがあったら、必ず『スクールウォーズ』のネタをするようなもので、梅宮辰夫が『Ⅰ』で死んだはずが『Ⅱ』では何事もなかったように嫁役の和田アキ子とともに中華料理屋の店主を続けているようなものである。

ヴァンケットでの出来事で橋本聖子ちゃんがタカダイに「ズキュウウウウウン」した理由が

わかった。答えがスマートフォンの画像記録にあった。

まともに入るようだが、氷上には、夢と愛がある。

プチットの「原宿」の夢、オタベックの夢、そしていろんな愛、それも愛、恋愛、兄弟愛、自己愛、（クリスの愛は同性愛なんだろうなあ。パートナーらしき人が迎えに来たから）、そして美しき師弟愛。（普通なら御ディーン様のポーズと名前が付く）熊泥棒のポーズをして、上昇し最高のシニアデビューを遂げている。

「オレもユリオみたいにオタベックと友達になりたい」と思い、実際には友達になれないから細谷佳正と友達になろうと思ったが、年末に借りてきた『マンガがあるじゃないか』を読んだら、彼は『うしおととら』を選んでいたので友達になれない。巻末のセルフパロディを読んで喜んでいる人間だ。笑いの波長があうわけない。

スケートだから、滑っているのは正解だ。

彼が少年マンガを読んですごしていたとき、川原泉を読んでいた人間がうしとらの巻末のすべっているセルフパロディを読んでいる人間と、「中国の壺」とか読んで「アーマークラスが下がったぞ」に笑っていた人間が仲間になれるはずが無い。離反。『笑う大天使』を世の少年少女に勧めよう。あのぬいぐるみの胸を押すと「だいぢゅき」と音声が出るとされるから、有吉くんをリストラしてテッドの吹き替えを細谷くんに行ってもらおう、フォローで手打ち。

「銀のロマンティック・・・わはは」という種本を知っているから、ヴィクトルが爆弾を抱えていないか、心配だったがそれもなさそうで、『この世界の片隅に』が興行的に成功したことのよう、よかった。「よかったね『この世界の片隅に』」があんなにページビューを稼ぐとは思わなかった。宇多丸師匠の映画評と同じで、皆、流行っている映画のことが気になるだけで、流行っていない頃の片渕監督を応援してくれよ。

今月の「オトナげナイアニメ」にとりあげられていたのが『ユーリ!!! on ICE』でなくてよかった。被っていたら、水平線の向こうのこの後日譚が無い。（注・新年あけて発売された2月号では・・・セーフ）

多根さんの好物である源氏名を持つキャラクター花中さんも登場するし、とりあげられたら、イヤだな（どうして源氏名に触れなかった。腑に落ちない）。奥川バレエとあるから、フルネームは奥川ミナコさんだと思うが。女子グランプリ決勝ではサーラとミラ、どっちが勝ったのか気になるが、どっちが勝ってもトーニャ・ハーディングみたいな「事件」になる。

片渕監督を応援する多根さんを私は応援しない。

『ガンパレード・マーチ』の士魂号のモデルであるところの士魂部隊が命を落としてソ連軍の南下を阻止したのに、千島列島どころか、北方四島が帰ってこないとは、どういうことだ！

プーチンと安倍首相が会見する前は、北方領土問題をテレビで報道して、まるで四島が返ってくるかのような、少なくとも二島先行返還が確約される印象を持った視聴者もいると思う。

アリバイとして、TVではそんなことは報道してはいない。ただ、北方四島の現状を語っているだけで、「返還されるのを願っているお年寄りに取材した」のみを流していただけである。

しかし四島が戻ってくるかのような、誤認を誘ってないか？

プーチンのヒキワケとは、

「平和条約を結ぶなら、北方四島をロシア領と認めろ」

であって、仮に平和条約を結んでも、永遠に不可侵じゃない。

大きな戦争後の領土割譲にあったら、再びロシア軍は南下する。北方四島を差し出して、平和条約を結ぶというのは、そういうことだろう。

プチャーチンと川路聖謨（としあきら・後半の漢字が表記できない）が決めたカラフト島を両国共有地、千島列島の内ウルップ島とエトロフ島の間に引いた国境が、一応返還の根拠だろう。

日露戦争の辛勝でカラフト南部、千島列島最北占守島まで国境を広げ、第二次世界大戦ではヤルタ会談の密約からソ連に取られて、ソ連崩壊後に領土を相続しているロシア連邦が手放さなかった…というのが私の知識だけど、微妙に時期がずれていたり、認識違いもあるだろう。その程度なのである。

ともかく、バルト三国独立期に分割してもらわないと、本来はいけなかった。

終戦から何十年も経って、小笠原と沖縄が返還されたことを考えると、実効支配から解放されて領土が返ってきてもおかしくないと考えるのが人情だが、これは西側諸国に与すると決めたから返ってきた、という見方をすべきで、デメリットとして東側の領土は返ってこないのは、当然と言えば当然である。

おそらく、このヒキワケを中国政府と結んでしまったのが、角さん、田中角栄だろう。だから尖閣諸島問題が将来的に発生しても、その頃には自分が政治の表舞台からいなくなるから、無責任な解決方法を選んだのだろう。

だから最近の角さんブームの表面のなぞり方に、文句の一つも言いたくなる。

詭弁を通して、東京タワーを広告塔としたのも、危ない。国民を衆愚としか思っていないのだろう。石原慎太郎発なのも、団塊世代以上の高齢者は石原の否定は、自己否定であり、幼稚な自己肯定の再評価に陥っている気がする。

「院内」で角さんをモデルにした人物の天才性をほのめかして、それが後の『天才』に繋がる、山に立ちに可のトヨサキさんがヘンにほめるから、あんな本が出てしまう。

ロシアは、ロシア連邦はその名の通り、たくさんの共和国が連なっている連邦国家だ。世界地図を見ると、いくつも共和国があるのがわかる。これがアメリカ合衆国の州・ステートにあたる

。州ひとつにつき国家だから、それぞれ州法が違う（よく言われる合衆国憲法に違反さえしなければ法律を制定できる）し、州兵（そのまんまステートソルジャーかしら）もいる。

オリンピックで「二百近い国と地域」が参加している中には、この共和国が入っていると思われる（もしかしたら州も）。メダル換算時はロシア一国に集中である。

当然、西海岸と東海岸で文化が違うように、ヨーロッパ側共和国と南に下ればアジアである共和国は文化が違うはず。

最近、「不思議の国ロシア」みたいな映画が日本公開されているが、共和国のひとつの姿を見せているにすぎない。

まだ、ぜんぜん、ヴェールに包まれているが、速水螺旋人さんなど、積極的に調べている人はいる。それが一般にまで広がるのが、難しい。

マスメディアも基本、西側偏重である。アメリカ、ヨーロッパ、一部アジアの西側寄りの国際情報を優先する。だから、アメリカの州はそれぞれに独自性があるのは知っているが、サハ共和国、プリャート共和国、コミ共和国のことをそうは知らない。軍隊を持っているのか、ロシア連邦と一律の法律なのか、私は知らない。

おそらく帝制ロシア時代から東進して領土を広げたと思われ、歴史を背景として伝統的に「領土を広げてくれるのが良い統治者」という概念・哲学がスラブ系ロシア人の中にはあるだろう。

それが現在でも土着の人々が住んでいる共和国と、スラブ系の人が入植してロシア連邦領である、まだらになっているようだ。

問題は、スラブ民族＝ロシアではない。

ポーランドにも、いろいろな国にスラブ民族がいて、現地の民族・人種と混合して、ロシア系が生まれているのが、ロシア連邦の領土拡大の根拠になっているようである。

ポーランド国民であるか、スラブ民族の一員であるべきか、ポーランドに国籍を有するスラブ系は、つねに揺れている。そういう地域のため、第二次世界大戦では大量殺戮の地にされてしまった。

大スラブ主義だと逆にロシアの国土は小さくなってしまうのでは？（あとで調べた資料ではコサックが広げた領土は露帝国のものなのか、微妙）

一応、共産主義革命を民族自決で選んだから国民ということになったが、ロシア連邦後はスラブ系の住む土地はロシア連邦の土地、北方四島にたくさんスラブ系を住まわせて単純に実効支配を強める。流水は来るが不凍港である、軍事的に冬季でも軍艦を出せるから重要。

ウクライナのロシア系住民は、スラブ民族なのか元々国籍がロシア連邦側にあった人たちなのか、クリミア半島にはともかくロシア系住民が多く、投票によってロシア編入になってしまったけど、歴史的にそれが正しいのか、よくわからない。

クリミア戦争前までは元々タタール人の住む場所・土地で、わかりやすくするためにたとえると、『乙嫁語り』に出てくる遊牧生活民が暮らしていたところに、露帝国が弱体化したオス

マン・トルコ帝国の領土を蚕食して不凍港を求めた結果、ロシア帝国民が入植してきた。

こうしたおロシア事情を調べる人は日本国内にはいる。

ところがロシア問題に関わると、呪われたようにロシア事情通が何か起きる（佐藤優はこれらから除外）。

北方問題に関わると恵まれない。

近藤重蔵が非業の死を遂げる、というか自業自得なんだけど、ほとんど時の政府に弾圧されるか、場合に拠っては毒による暗殺もあったかもしれない。

マサルはラスプーチンみたいになかなか死なないと思うけどね。

富山元十郎がある島に碑を立てたのだから、そこまで日本領だろうと思いたいが、なかなか日本人自体にも共通の知識として持たれていない、プチャーチンとの北方交渉の頃から共通の知識として持っていなかったろうことを考えると、当時からいろいろな政治的問題があるらしい。知識を仕入れていると、国内の人に「スパイなんじゃないか」と、疑われてしまうような時代である。

二葉亭はロシア事情を仕入れていたが、それだけでは飯が食えないから、サイドビジネスで露文学の翻訳もしていたから、近代文学者になったのも不遇であって、やっぱり恵まれない。

川路聖言莫（としあきら・後半の漢字が表記できない）の北方交渉は敗北だったのか、それとも近代軍をもたない日本がロシア帝国と争わない、平和的解決だったのか、お金を払って経済協力するから領土をとられていない、はしょってスネ夫外交（少し経ったら野田さんまで安倍さんのことをスネ夫と呼び、「おマエんとこの鳩山が一番スネ夫だ！」と言われる）だったのか、歴史には耐えられない。

利害関係がなければ、フレンドリーで男同士でもチュウするが、商業利益や領土などの国益がからむと、PRIDEで対戦前の小川直也をにらみつけるヒョードルみたいに強硬になる。ちょっと氷の拳を振り下ろされる。

そんな風雲児たち史観をもって、いいのだろうか？

年が明けたら 百条委員会

困ったことに百条委員会で、石原はひらがなをいくつか忘れてっていると証言。『天才』の巻末には文献として書籍をあげている。読めたのか、チェンバレンみたいに誰かに読み上げさせたのか、まったく困ったことをしてくれる。

文読のネタをうらづけるんじゃない！

アルファ碁で森川さんのところに、取材に行かない。

『ポケモンGO』の報道や記事では、コロプラの位置情報ゲームが、まるで無かったことになっている。

そしてまた、同じようなことでPPAPのあのおなじみのエイトビットチューン調のイントロで、謎のままになっていることがある。

ピコ太郎は、「楽屋の帝王」小坂大魔王であるのは周知の事実で、つまりボキャブラ世代の底抜けAIR LINEの一人である。楽屋で同業者の笑いは取れても、一般的な人気には繋がらず、トリオ解散となったのも、なんとなく知っているはず。ネプチューンになれなかったトリオと言った方がいいか。

皆が覚えているか、私は小坂がある番組（ボキャブラの同窓会的な番組）で元メンバーが「今、ゲームクリエイターになっている」と発言しているのを覚えている。

想像に過ぎないが、その元メンバーのツテでサウンドコンポーサーを紹介してもらって、あの曲が出来たのか、自前で全部作ったのか、謎のままである。

サウンドコンポーサーって何？ と問われると、元の原曲よりも情報科学的に情報量を落として、容量制限があるソフトに落とし込む仕事と、8ビット時代は言える。CDの時代はバイロラル録音とか、あまりにも有名なヒューマンのダミーヘッドでの録音素材が、ちゃんと音声出力されるか調整するように仕事が変わってくる。ちゃんと皆さんのご期待通り、「SE」ではバイロラル録音に触れる。（前フリしとくこともないだろう。触れるに決まっていて、子供のダミーヘッドと大人の女性のダミーヘッドを作るとか、マンガを描く頃には忘れる）

少ない情報量で最大の効果を上げる。これは実はファミコンミニと繋がることだと、思う。

エイトビットチューンの曲には、そうした効用があるのか、長年の芸能活動で小坂氏にフラがこびりついたのか（「フラのある人 フラがある人」でさんまさんと呼ばひ捨てにするとか「最凶死刑囚編」に連載がさしかかっているとかは別に笑わせようとして書いているわけじゃないんですよ。ソフフ、本当に笑わせようとして書いているわけじゃないんですよ）、幼稚園の先生が横にいたら絶対に怒られてしまう「ペンでパイナップルを刺す」「ペンでアップルを刺す」という稚気を満たす（パイディア）ジェスチャーをしたから、お騒がせジャスティン君が真似した、ドナルド・トランプの孫娘が真似した。ラジオで升田アナがパロディにした、そういうことしか報道されない。

もしかしたら、元メンバーとのメンバー愛、交流によって生まれたのがPPAPかもしれない、大吉先生が喜ぶような年齢学的26才での出来事みたいな、美談かもしれないけど、そういうことを私は知りたい。

ゲームの情報というのは、知財として認められていない。

少なくとも、大手マスコミには知財としての価値は無いと、踏まれている。ゲームで美談が語られるのを、好ましくないとすら、思っている。

雑誌「ユリイカ」ぐらいなら、『君の名は。』の話題をしたら、誰かがさすがに『マザー2』の

ことに触れるだろうと思ったら、さやわかさんも触れない。プレイしたことが無かったのか、記事テーマから外れるからだろうか。

さもありなんだ。

中川大地さん言うとおりの、ゲームの記事はヴァイヤーズガイドでしかなく、その外を語ってこなかった歴史が、こういう形になったのだろう。『マザー2』って、ディザスターゲームでもあるということが、『君の名は。』を観ると照らし返されることは、誰も興味が無い。

やっぱり金が動くところしか、普通の人、というよりも業界外の人には興味が無い。ウメハラくんが技術的にどのくらいすごいのかということ（彼の発言から動体視力が優れているのではなく「動体聴力」が優れているのでは？）より、あの奇跡の大逆転劇での大会優勝賞金がいくらかしか、気にならない人には『森川君二号』もコロプラの位置情報ゲームも、もしかしたらあるかもしれないP P A Pの裏話も、いくら言っても届かない。

ミヤネ＊いじのことを悪く言うわけではないが露骨に爆笑問題のギャラを聞き出そうとする。「サンデージャポン」のギャラはいくらか、人のあたりのいい田中裕二くんが煙たがるぐらいらしい。仕方ないから、太田くんは「一回500円ぐらいで、プシューを一回するたびにプシュー手当て50円です」というウソの出来高払い制を言ったりしているだろう。

「それしか、興味ないの？」

と、思われるが、映画『クイズショー』のディレクターのセリフ、「チャンピオンが勝つところなんて、視聴者は興味が無い。視聴者は金が動くところが観たいんだ」

と、いうもので貨幣経済が続く限り、永遠に繰り返されるテーマだろう。ノーベル賞ウィークが来るたびにきたろうさんがラジオで、ノーベルが愛人に支払った「愛の年金額」の話題しかない。毎年、毎年している気がする。

おカネ屋である。

あえて、お金が動くところ、『パズドラ』の収益がどうなっていたのか語ると、ダウンロード数の十分の一が課金ユーザーで、一千万ダウンロードの内、100万人が平均200円から300円を使った計算が、開発費一億円（この中にイトケンへのギャラが入っている）で一日二・三億円の売り上げ。

運営費にお金がかかるので、二・三億がそのまま利益になるわけではないが、ファミコン時代の『スーパーマリオブラザーズ』はワールドワイドでそれくらい稼いでいた。アクションパズルのフォロワー作は、『パズドラ』みたいな収益性は、あげられない。これに匹敵したのは、『モンスターストライク』しかなく、一強皆弱から二強皆弱に均衡して、終わった。

田下広夢さんは手のアイデアは出し尽くして、ケンタウロスの足（アクションパズル）の部分がやがて問題になっていくと、語っている。

そういえば、コンシューマ時代からのユーザーだと、宮本茂の新作がたった1200円でやれる。ほぼ「新しいハードを買わなくていい」状態、もう現行機とっていいスマートフォンで『マリオラン』が手に入る。

ところが、ソーシャルゲームネイティブだと

「なんで買いきり制度なんだよ」

「なんでFREEtoPLAYじゃないんだよ」

そして、顔面を白塗りにして眼に隈取をした子供に「セガはソニーに負けるんだ」と言われてしまう。

隔世の感がある。

漱石はしていたのに、堤清二がすると読者からのお便りで読点抜き改行鍵括弧挿入を止めるくらい、隔世の感がある。

今だからいえることだと、「セガはソニーに負けました」なんだけど、私はアトラスをネタにしたいのであって、セガはいじめである。

仙田先生の遊環構造によって、自分達のマップメイキングが肯定された、裏付けられたと思ったら、甘い。五社にはむしろ否定されている。サイバーコネクトツーはクソゲーを作ったから、気にしないでいいが、収益性のことを考えたら自分達のゲームクリエーションは廃れつつあると、危機感をもつべきだろう。五社では『世界樹の迷宮』は否定して、中身を吸い取るだけなんだから。民事再生法である。

『マリオラン』の10ドルでワールドワイド4000万ダウンロードは、果たして勝利だったのか？
売り上げの7割が支払われるから、 4000×7 ドルに万をかけると2億8000万ドルで、1ドル約120円換算だと336億円の営業利益で、年度末はできるだけ年安に傾いてほしいだろう。

こうして赤は埋められるだろうが、任天堂の前途は多難だろう。

『ゼルダ』が、五社では否定されている遊環構造に基づいたマップメイキングをしているのだから。

後日

年明けにある記事を読んだら、計算は違う。

ダウンロード数＝買い切りの数ではなく、最初の数面をプレイできる「FREEtoSTART」方式で完全な買い切り制度ではない。日記に書いた通りの収益を上げられず、ダウンロード数に比べて株価にも影響を与えない。だいたい2-1以降は課金で解放され、それ以降は全プレイできるFREEtoSTART制。それでどうして課金しないで、続きをしないのかが、記事のアンケート聴取の理由である。

その記事内の中高生のアンケートのコメントは、

「お前ら貧困層じゃないか！」

と、表立ったところでは言えない感想が口から出た。有名男性声優の声で。それは「ねほりんぱほりん」のネタだ。

FREEtoPLAYって、本質的には貧困層のためのゲームなんだ。そして、ゲームという市場は、『資本論』で語られる帽子屋の話のオチまで、来てしまった。

一回転してしまった。

日本の可処分所得がそれなりにある中間層が崩壊しているのに、2DSの投入を遅れさせたのが、敗因であるとか、もっと調べないといけない。

そもそもスマートフォンが現行機のデファクトスタンダード（事実上の規格）だと早く認めることができなかったのが、敗因だと思われる。

少年マンガを大人買いしている層しか買っていないのは、ここ最近はゲーアプのFREEtoPLAY方式と変わらないと制作側は気づいて、消費者側は自分達が貧困層だと自覚せず気づいていない。

ゲーム実況も貧困層がハードとソフトを買えないから、なんとか月額通信費用は払える（払えないと日常生活に支障をきたす）から、仕方なく動画閲覧で満足するという消費の形態かもしれない。

少年マンガ雑誌が売れなくなるのが、レジャー白書を読んでちゃんと統計データの裏取りはしていないけど、「月4、5冊出る週刊誌の価格の総計が1000円を越えている」状況になってから、ガクッと落ちているのではないかな？

だいたい早くて小学生高学年、遅くとも中学生で月1000円ぐらいのおこづかいで、だいたい週刊誌200円で、曜日が5週あるときにも買えるのが、だんだん値段が徐々に上がって行って、4週の月額が1000円を越えてから、まったく売れなくなっていると思われる。

雑誌の値上がりとともに、おこづかいの量が増えていた経済成長期ではさして問題はなかったけど、たぶんこの二十年間ほぼ据え置きのおこづかい額で、雑誌だけはデフレに反して値上がり続けたのが、敗因なのか、ちょっと考えてみると、打てる手を打ってこなかっただけでは？

月五週問題を、計算してみた。なぜなら、正確な販売部数表には発売日が月五週の時、売り上げが下がっていると、思われるからだ。ここで週刊マンガ誌を買うのを脱落する層がいる。自分自身が脱落して月刊誌に切り替えていて、余ったお金で単行本を買っていた。711にある「月刊ヒーローズ」は、正しいのかもしれない。200円の値段は、そうしたミドルダウナークラス（中間層の底）や貧困層向けかもね。

話は続くが、毎週発売される週刊少年ジャンプが読めるスマートフォン向けアプリを配信するのは、月額1000円以下という価格でピンときた。

手元にジャンプが無かったから、とりあえずサンデーの価格で代用するけど、単価270円で売れたら6掛けで162円の売り上げが入る。これが月四だと648円。月五だと810円。アプリは1000円以下の980円と価格設定して、だいたい流通業よりも取り分を多くするために7掛けにしていると思われ、プラットフォームから三割引かれて月々756円となる。

これを年にして、仮に月四が8カ月（計5184円）、月五が4カ月（計3240円）あるとすると、合わせて8429円。アプリは単に12倍でいいから9072円。500円ぐらいしか、差は無い。もっと早くこの手をなぜ打たなかった？

これは「ぼくらの経世済民」のネタだ。

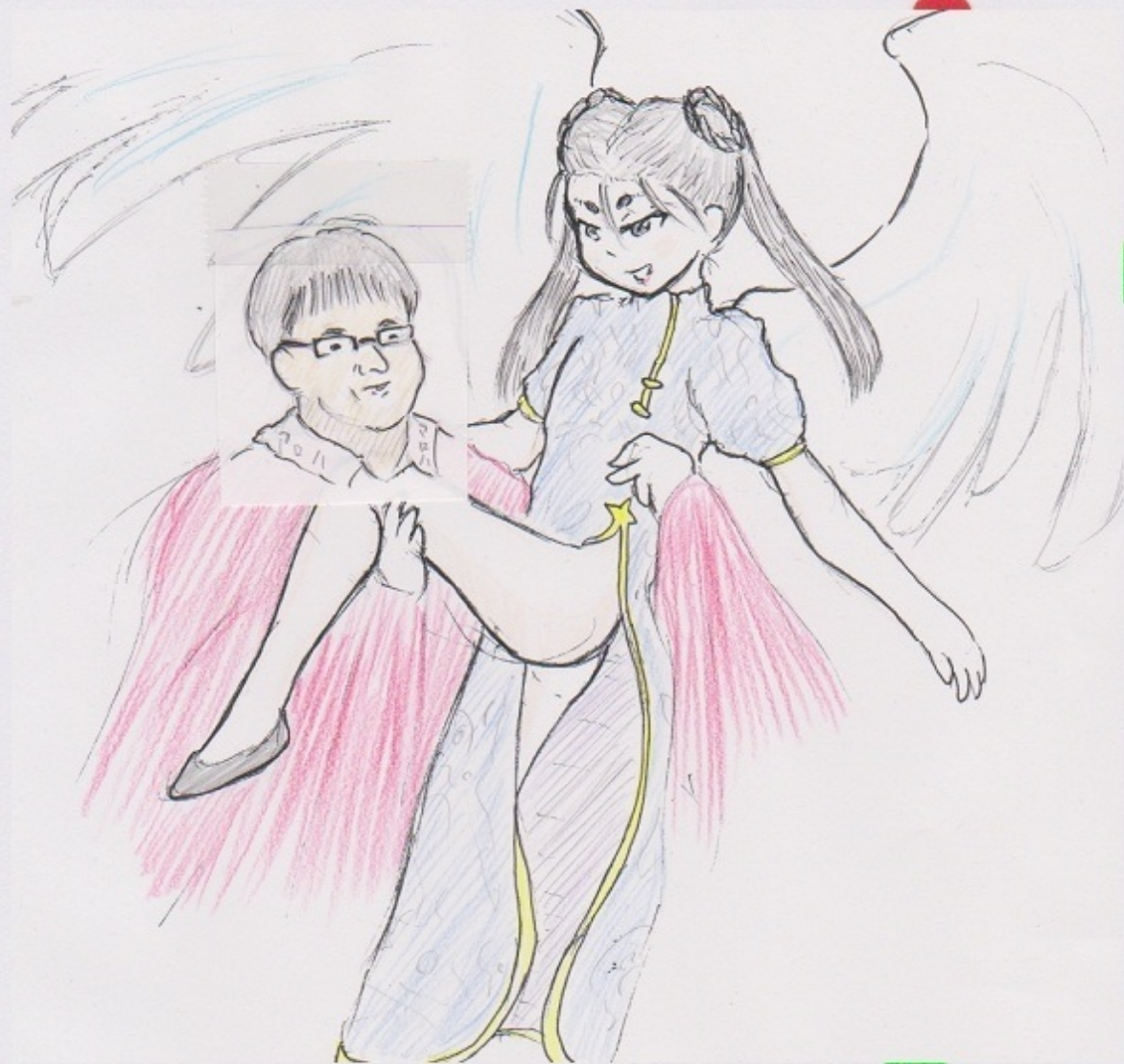
バカな月刊誌が月額1980円で、何かしているけど、客がつくわけがないし、客が離れるだろう。だからヤマザキ・マリが離反するんだよ。

底抜けAIR LINEは解散しちゃったけど、ピコ太郎というネタでもう一度ちょっと集まってネタが出来たのが「よかったね」という美談が裏にあるかもしれない話が、ふっとんじやったよ。

年が明けて放送された「関ジャム」ではこの美談は否定される。電子楽器やDTM、配信環境から結果的にエイトビットチューンに近い曲調になっている。よかったね。大手マスコミの人。それからジャンプはサンデーより10円安い。

勝手に広告

勇者死す。買って下さい



おことわり

梶田省治さんに金銭の受け取りや仕事の
斡旋を要求してはいません

それを行っているのはいしかわじゅん先生
だけです

何かエッセイでもと、ずっと考えていたのです。

しかし、いろいろと、努力はなかなか報われないじゃないですか？ 案はたくさんありましたが、これはというものがなく、漠然とラジオを聴いていました。

あるコーナーで「それぞれ！」と小木さんのサンプリングした声が出ます。

このフレーズ明石屋さんまさんです。

基本的にさんちゃんのギャグを素人さんがやっても、真似しても面白くありません。「OAでは バッサリいかせてもらいます」「 撃ちます」などをうっかり披露すると、何か空気が変です。周りは「別に楽しくない」「これじゃない感」を出さないように繕ってくれます。一応、空白を三つも空けて間が大事だと表現してみましたが、本当にそうでしょうか？

素人さんが下手に真似すると、ヤケドならぬ低温やけど、氷の上で滑って体が冷えてしまいます。

小木さんが「それ、それっ！」を真似しても、面白さは損なわれません。

フラがあります。

花がある、ではなくフラがある。

花があるのは、二枚目や美女に使う言葉かもしれません。同じくらい顔がよかったり演技力も大差無かったりするのに、主役ばかりの俳優と準主役や汚れ役をやる俳優の差を表していると、考えられます。

フラとは高座用語、隠語の可能性もあるので、寄席に通うようなそちらに詳しい人に直接聞いた方がいいのですが、花があれば面白いというわけではありません。ごくたまに春風亭小朝のように、花もあってフラもあるという困った人材がいて、混同しやすいのではないのでしょうか。

「フラというのは、ふらっとやってきて、そのまま居座る。『おまいさん、あんまり長居すると、悪いと思わないのかい？』と聞いても、『悪いと思いません（きっぱり）。悪いと思うから悪いと思うのですよ』と、ふらっと言う」

これを志ん生師匠あたりがすると、たいして面白い内容でもないのに、とても笑えるのです。

「冗談言っちゃあ、いけねえよ」

笑福亭松之助師匠の弟子にさんまはなりました。

昔の演芸場は誰かの弟子にならないと、高座にあがれず、新作落語を作って一門会のようなところでかけていました。

小木さんには、「小木博明花山薫説」を持っていました。

ここからの話はですね、マンガの刃牙シリーズを読んだことがない人には、まったくわかりま

せん。とりあえず電子書籍のリンクを貼りますが、リンクが無かったら、それは「あきらめちまいなよ」。

この志ん生師匠が落語の根多でやった笑わせどころも、フラが無いと面白くないのです。

伊集院光さんは「おぎやはぎがうらやましい」と言う謎発言をしています。どう考えても、ラジオでは伊集院さんがうらやましいはずです。ラジオスターと言われているからね。

しかし、な〜ぜ〜か、おぎやはぎさんがうらやましい（←ここ重要ですね）と発言して、ラジオリスナーに混乱と困惑を与えました。

伊集院さんは全国のバッティングセンターに回っていたことがあり、それも自転車に乗って、時間が来たら駅前の自転車置き場に置き、電車に乗って東京に帰るという…怪優火野正平さんの「こころ旅」を一人でやっているようなものです。

また時間が出来たら駅まで行き、最寄バッティングセンターで視聴者からの手紙を読みに行くように、自転車に乗って出かけるのです。バッティングセンターに着くと「とうちゃこ」と言い、きたろうさんのロケに出くわすこともあったでしょう。

これは山に籠って夜叉猿と戦っているようなものです。

これではインフレして自衛隊に本当の戦場の恐ろしさを体験させるガイア率いる部隊となぐりあうような取材をしなくてははいけません。

趣味もあるのですが、フリートークのネタ取りのためにここまでは伊集院さんをほめると、本人が天狗になってしまうので、好きなテレビゲームのデッド・アライブの天狗になってもらおうと、こちらまで責任がとれないので、

954キロヘルツに合わせて、95.4キロまでダイエットしたのに、著しく太った警官と三谷こうきが余計なことを書いたばかりに太らなくてはいけなくなり、
身体を鍛えています。

若林くんは木曜あたりにラジオで話すネタが無いと、そわそわしはじめて、キャバレークラブでステキなお姉さんたちと話して、ネタを拾ってくるとダ・ヴィンチ連載の記事にはあるのですが、これも身体を鍛えていると言えるでしょう。

小木さんはセンス小木と言われるほど、海外ドラマを観ているか、まーるちゃんの世話しているか、ゴシップの話題しかしていません。

「身体を鍛えるなんて卑怯者のやること」

の花山薫を地でいくのです。

スピノフマンガ『スカーフェイス』で描かれる十代なのにアルコール度数の高いウィスキー

をモルトで飲んだり、母親に会いたいために少年鑑別所から脱獄するのと、まったく同じ事をしているわけではないのですが、

むしろ逆に

昔であれば、「オレの吐いたゲロを食べろ」と後輩に迫っても大丈夫と思っていたり、「狙われた街」でメトロン星人が自販機に仕込んだタバコを吸った毒蝮三太夫のように、義母森山良子さんをぞんざいに扱います。

そんなことはフラがあっても、やってはいけませんが、面白いのでオーケーです。

「『悪いと思うから悪いと思うんです。悪くないと思えば、たいしたこたあないんだよ』と、ふらっと言う」

フラッと終わりましょう。

完成したら、海賊ファンブックに収録されるが、いつになるやら。

めぐみ
どうしたの

またシンイチ
君が何か
やったの？

裸の男の人が
抱き合ってる
マンガ あれ
何？

お母さんの
ベッドの下に
隠してある

それはね

めぐみ

ちよつと歴史修正主義だけど、いいのです。だって商業媒体で21世紀のヒューリスティカ☆はリリースされることはない。そんなことより健全育成条例違反が透けて見える。



社長が訊く『ななつとみつとひとつ』
「セヴンスリーワン」編

「ルールラーニングストーリー」編からの続き

6 翻訳してみると、村上春樹のかほり

いわっち もしかして
『かたわ少女』ですか？
『かたわ少女』が
どうかしたんですか？

ゴトチヒ 答えを言うな！
じゃなくて身障者だよ。
物議をかもすだろ。
ミニメディアだから
可能で、マスメディア
なら回収とか、偉い人が
出て来て謝罪会見だよ。

いわっち それはつまり、私に謝罪しろ
ということですか？

ゴトチヒ (いわっちを指差して)
わかっているじゃない。
告発の通りならそう
せざるをえないだろう。

こんな見た目の春日太一さんは
今年(2016)「オレたちのBL論」
をサンキュータツオさんとの
共著で発売します

「カードキャプターさくら」が
好きな春日太一さんのために買いなさい

勝手に広告 のコーナー

「僕たちも応援してます
帯に出してよ☆」



ヤクザ映画とか観るのも
ヤクザにリクルートされそうに
なったことがあったからでは……

画像データを使い回すつもりが
どっかにやったので
また一から作り直した

ピョコタンの
本を宣伝する
なんて
不本意だ



リサイクル

でも(面白いから)
宣伝する



『ぼくは任天堂信者』

読んでないのでわからないが
ここに松山洋を罵るピョコタンの
姿が収録されているようだ

アボ汁シリーズもよろしく

アマゾンとかパプーで買えよ

このままでは『グラゼニ』で左利きの人が右手で食事やサインペンを握るうっかりミス、バカにできない。

これじゃ、うっかりホイジンガや「こんな円すい存在しねぇよ」と指摘しているのに、「お前の方がダメじゃねぇか」と言われてしまう。マキタスポーツさんがバスケット選手ステフィン・カリーを「ステファーン・カリー」と言い間違ふ、そんなデタラメな誤りを正す、正誤表である。

最近新古書店で手に入れた、ユリイカの臨時増刊号の『ジョジョの奇妙な冒険』特集で“スタンド”を“スランド”と誤記しているのを発見して、「それはそれで“何をするだー”みたいに正しいのかな」と、妙に納得した。原作準拠。

ということで、私の誤りも免罪される。全部免罪される。

人間賛歌である。

よねやんの『藤子論』は脱稿後、資料（総合年表）作成のため、一年ぐらい仕事をしている。この仕事を怠ると、『戦後野球マンガ史』巻末年表資料で、『ストッパー毒島』の連載開始が1986年（本当はその十年後）になってしまう。だいぶ突貫工事の感がある。

だから、文読脱稿後、一年ぐらい資料関係の情報に費やすかもしれない。

「オレの眼を見ろ！ 本気だ」

国会図書館に行き、島本慶親方の名文採集もしたい。しかたなく、春日太一さんのテキストをリザーブで引用した。

ふに～。

冗談はさておき、最近もうっかりミスが多い。

修正したものの中には、一朱と一分のレートを一両の四分の一と八分の一と間違えたり、他にもいろいろある。それも手塚を非道いと言えないくらい、酷いのが。俳優の翁（おきな）さん、私が熱心にテレビドラマを観ていないだけで、別に見かけなくなっただけではない。ちゃんと二時間ドラマとか、刑事ドラマとかに出ている。永田竹丸さんを、うっかり「竹田さん」と書き間違ふ（たまに言い間違ふ）が多い。どうして田川水泡は森安なおやを弟子と認めてくれないのだろう。『「漫画少年」史』では手塚がカラー彩色していなくて、永田さんが頼まれて彩色したと寄稿手記に書かれているが、手塚が清刷でカラー彩色することのきっかけでは？

シェヘラザードをシェラザードまでならいいが、シェラザートとか、酷いものがある。モアがルフ鳥のモデルじゃなくて、エピオルニスだよ。

なんでミスが減らないか、お金が無いからである。お金があれば、ちゃんと『イメージと人間』に孫引用したことが書かれていないと、資料の段階で調べられる。それと「MONKEY EAT WORDS」の対訳表を作っているからだよ。

「そんなこと ありません」を「心配 入りません」と英語圏とドイツ語圏の人を間違った原文で騙そうとした、罰が下っている。（…ドイツから謎の入金がある）

スシ・マテリアルとか、あきらかに『ニンジャスレイヤー』のマネである。寿司ネタにする、材料だからスシ・マテリアルだけど、真面目な翻訳者はこんなこと書かないだろう。わざとだろう。

（さりげなく宣伝）

と、思ったら**6**ビットで64パターンである。
 いろはがなっていない天才性の無さを担保するので
 修正しなくていいのではないかな？

ライブニッツさんが易の影響を受けて二進法を確立させて
ノイマン型コンピュータができたなら
ライブニッツ型コンピュータと言った方が正しいかもね

一応ミスした理由は縦表記のため横表記入力を終えてからの作業をいつもしていたらうっかり作業を終了したと勘違い



16掛ける16掛ける16で4096色
4096掛ける16になる

e が脱字している。
慣れない英単語を使うものじゃない

シャツンがゼロで割った
ところに Undefined
を記入することになります

$$\boxed{b} \div \boxed{d} + \boxed{f} = \boxed{f}$$

Undefined

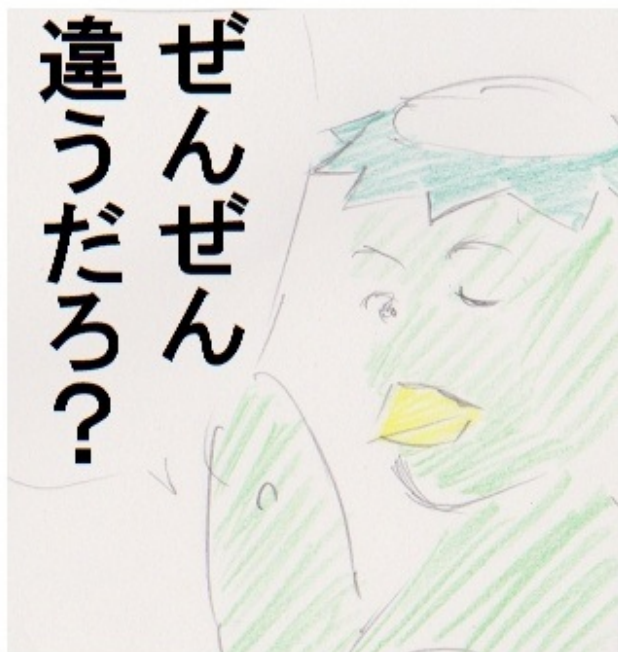
こちらも豪快に武器と防具を入れ違えてしまう。
須田ピン

和田三才が好きな須田どの書いた攻略本
武器の欄が豪快に脱字して、とても愉快な気分になる本

そもそも口の部分 あれ 嘴でいいのか？
カールスモーキー石井の映画みないと

河童の嘴に黄色を塗り忘れてるじゃねえかよ
それとも人間がプールに入りすぎて唇が紫になるように
黄色が取れたのか

ぜんぜん
違うだろ？



うっかり日本語でセリフを書いちゃったけど川本喜八郎から日本語を覚えたと後づけ設定



俯瞰から構図なので平面行事が見える

の が脱字 いつも
の如く笑ってしまつて集
中力を欠く

ちなみに右手が動かしながらかい・松尾監督みたい
なことをしているオールバックの人は幕内力士印度のお
父さんで見た目はイジー・トルンカ

イジー・トルンカの



手

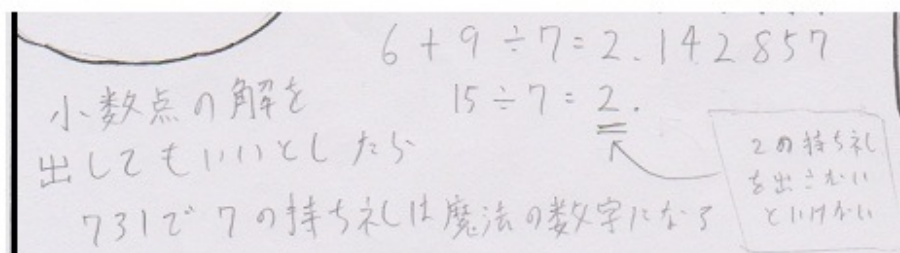
(撮影者・川本喜八郎)

ライバルはクロスアンジェで
お母さんに「生きて」と
言われて生きるアンジェ様が
次に好きな男が出来て
彼が「生き残ってくれ」と…
ライバル視して
ベストアニメには

× クロスアンジェ
○ クロスアンジュ

「もう場外乱闘がはじまっていますよ」

× 持ち札
○ 持ち札
ただのクセ





ちゃんと16進法用のカードを用意しないから
こういう目も当てられないミスが起きる

×ティスリスpest ○ティスリスpekt

木下順二監督作品への敬意
私が宮崎駿をティスリスpekt
しているギャグのようなもの
の反対を見せられて

木下恵介監督では？

調べたら恵介の方だった

お母さん同様、悪谷も未婚の母になる

お母さんの
ベットの下に
隠してある

×ベット ○ベッド

「に」が脱字しているね

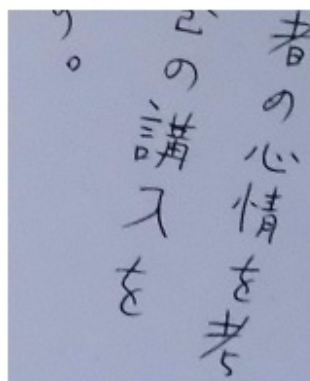


↑信濃の孫 後の悪谷

スペルも **Bed** であるから、めぐみちゃんはまだ英語教育を受けていないから、発音が正しくないという、設定でもつけよう。シンイチくんは山内ヒロシをモデルにした人物の隠し子で、便利屋をはじめたときに引きこもっていたコロブラの馬場社長みたいな奴をリクルートしてパズドラ的なアプリを作らせてまぐれ当たりした。(女子禁制だから少女マンガになったときも大丈夫)

血統か才能かという二元論は、オトナサイドでもあるという二重らせん構造

ミッチーの歌「ぼくの哀しみロケット2号」でも歌詞に“ベット”とある不条理ギャグマンガを歌と曲にしたような内容だからいいのでは？



×講入 ○購入

「ゲラゲラ」腹を抱えて字を書いていたので、このような凡ミスが起きる。

「被災者の心情を考えて、マンガの単行本を買わないって、どういうことだよ！」と、これだけ悟られない宣伝をすれば、誰か一冊ぐらいマンガ(タイトルを出さなくても)を買うだろう。

ちなみにISBNが無い単行本なので正規に市場流通していないので円すいの問題の解説が誤っている。

内田樹(うちだたつる)の文庫版『街場のマ
ンガ論』で

『風立ちぬ』の菜穂子さんのことを

「菜緒子」と書いている

堀辰雄の原作でも 宮崎風立でも 菜緒子
なんて奴出てこない
校正をちゃんとしてもらっていないのかな

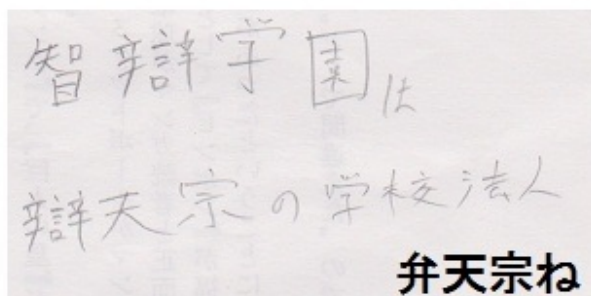
九試験機を飛ばすというのはゼロ戦を飛ば
すということだからな

吉本隆明が裸の王様(知識人)になるのと同じだから別にいいか

といいつつ、こちらは阿素湖素子の字が元子になっていたりして



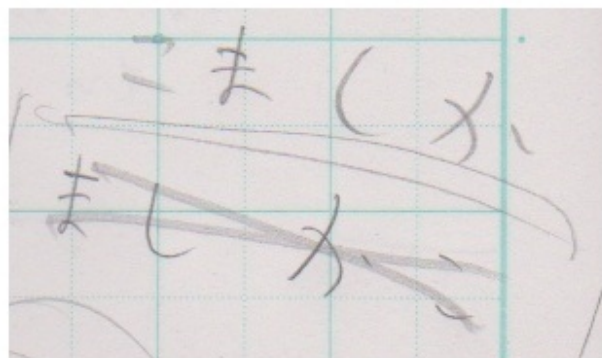
吾妻ひでお は呼び捨てに
しても怒ったりしないだろうし
まあいいか



○まこしか
×こましか

まこしかって、言いにくいんだけどね

そういえば『ゲド戦記』は100億円越えてないみたい
期待はずれな 興行収入70億代



← 至 ジブリ美術館



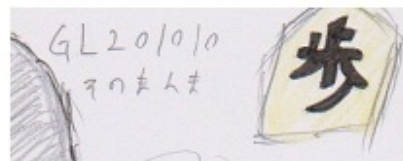
質料兵器ってアリストテレスを飛ばすのか？
飛ばしたアリストテレスをぶつけて
形相を破壊するのだろうか？



こちらのアリストテレスはプラトン(ホモ)と対話している絵から

別に説明必要ないと思うけどラファエロの「アテナイの学堂」が元絵。パルカン半島辺りの人だから『ヒストリエ』の方が正しいと思われる。

ゲームラボ 2010年六月号



あらずじ劇場を見てわかったが
やはりグリム童話を円朝が
落語に置き換えたのが「死神」
唯一神が零落した姿ではない

噺家とシェラザードが完成した後でよかった
途中で知ったら原稿を全部捨てる
高橋源一郎の真似をしたかもしれない

秀麿親方の番組を観て
オーケストラ・コノエ・グラーフの前に
ユダヤ人を助けていた

アメリカ公文書公開解禁以前の書籍『近衛
秀麿』を代わりに読んだのがいけなかった

番組ではやはり
楽団を作った同じ数くらい
お子さんがいたらしいことは
まったく触れていなかった



こちらは『辞書になった』という
ボーイズラブ・ノンフィクション

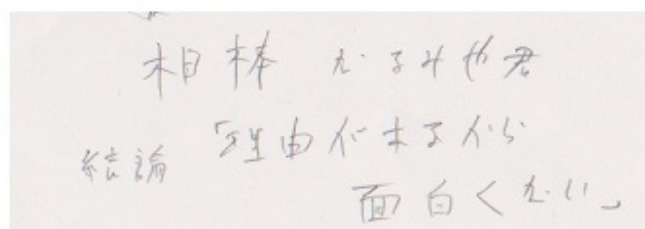
『辞書になった』
のは単語だろうか？
ボーイズラブ・ノンフィクションではない

ケンポーに事故有りって、真相がわかっている意味深だね

2010年に『ゲーム館』が復刻され、牧野武文『ゲームの父 横井軍平伝』と横
井さんの発言を収録した書籍も2012年に出版された。その後ちくま文庫に
『ゲーム館』が所収と相成った。

2010年に『ゲームの父 横井軍平伝』は出版である。
突貫工事で作ったから、資料を見返す余裕も無かった。
だから、前々から用意しておかなくてはいけないのに、
時間も無いのに無理するからいけなかったのだ。

残念なことに努力の甲斐なく
デスブログとなってしまいました
この件に関して謝罪するとともに
再発防止に努めたいと思います



私がやっていることはサイバーブリーそのもの！
みんなは止めよう☆

おまけのコーナーも面白いですよ



撮影を監督する人から
「指を入れて服装を整えて下さい」
と指摘される皺々

僕等の
マナーショット

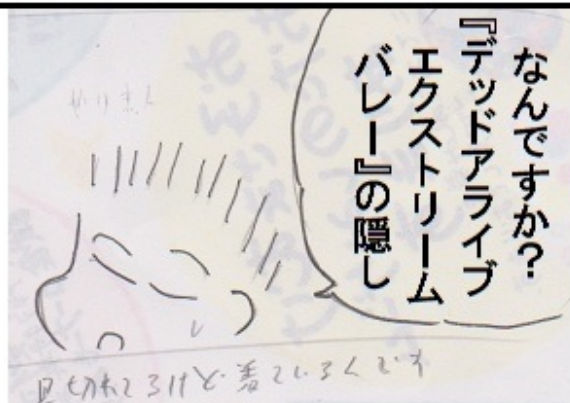


「木じゃなくて土です」

☒ 檀
☐ 壇

そんなことより更新情報誌では
このようなイラストは掲載できないのでは
マガジン51号みたいにしないでほしい

バルサザー(失言)も「將軍」と呼び止めて「氣づき線もペン線が抜けてますわ」と誤った女性觀を持てているようなしやべり方と勝手に思われるかもしれないが貴族で淑女ならこんなしやべり方するよ



なのはくんはドラクエの荒くれ者が
 国境近くにたむろしているならず者と
 思われ、フォーティンブラスが
 2013の差し替えなくちゃならない巻紙みたいになって

「ならない」ってなんだよ
2013年の あの表紙が誤植のようなものだからいいのだ
活字拾いの人が全てやったことだ

そんなゲームでは遊べません

ウォルガンシムゲームに勝つための
テクニックが書かれている

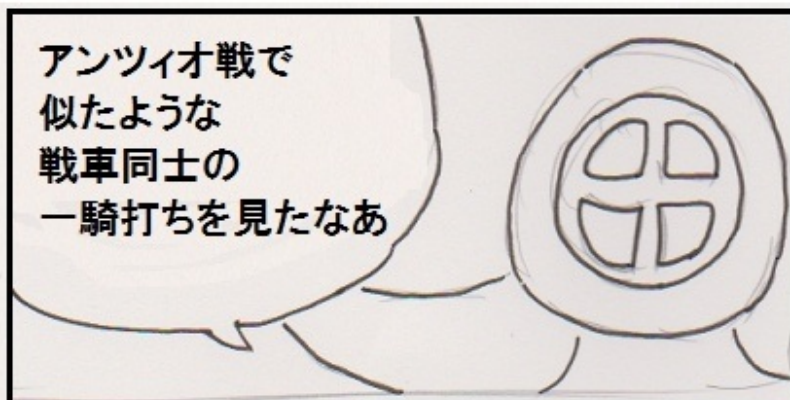
実際に映像を作ってみたくいなくて、「知らないよ」

うまくいきませんでした

マジノ女学院が正しいらしい マジノ高校、マジノ学園所有だったかな？

デルモツツエじゃなくて
セモベンテのこと

ビッグ・ザ・戦車道はなのはくんを投げてフェイトくんに玉突き、戦争屋ちゃんを襲わせた。



三突とデルモツツェ(だっけ)

三突とデルモツツェ(だっけ)

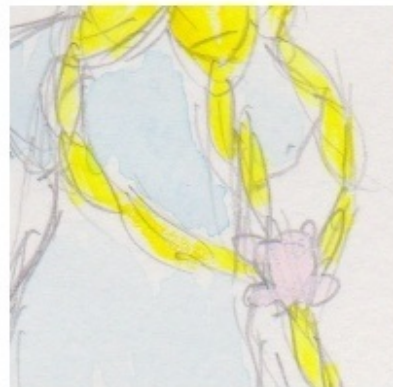
マジックポイントにダメージを与えるサド系の魔法は女神転生シリーズに存在しないが、アマゾンでは中古価格で高い場合で4000円ぐらいするから掘り出し物。

後で調べたら、中古価格は1000円以下に下がっていて新品の価格は下がっていない。

調べたら

氏家さんの名前は
斎の旧字体である
氏に刀だから
齋部秋田とは違う

字面は似ているが表意性が違う

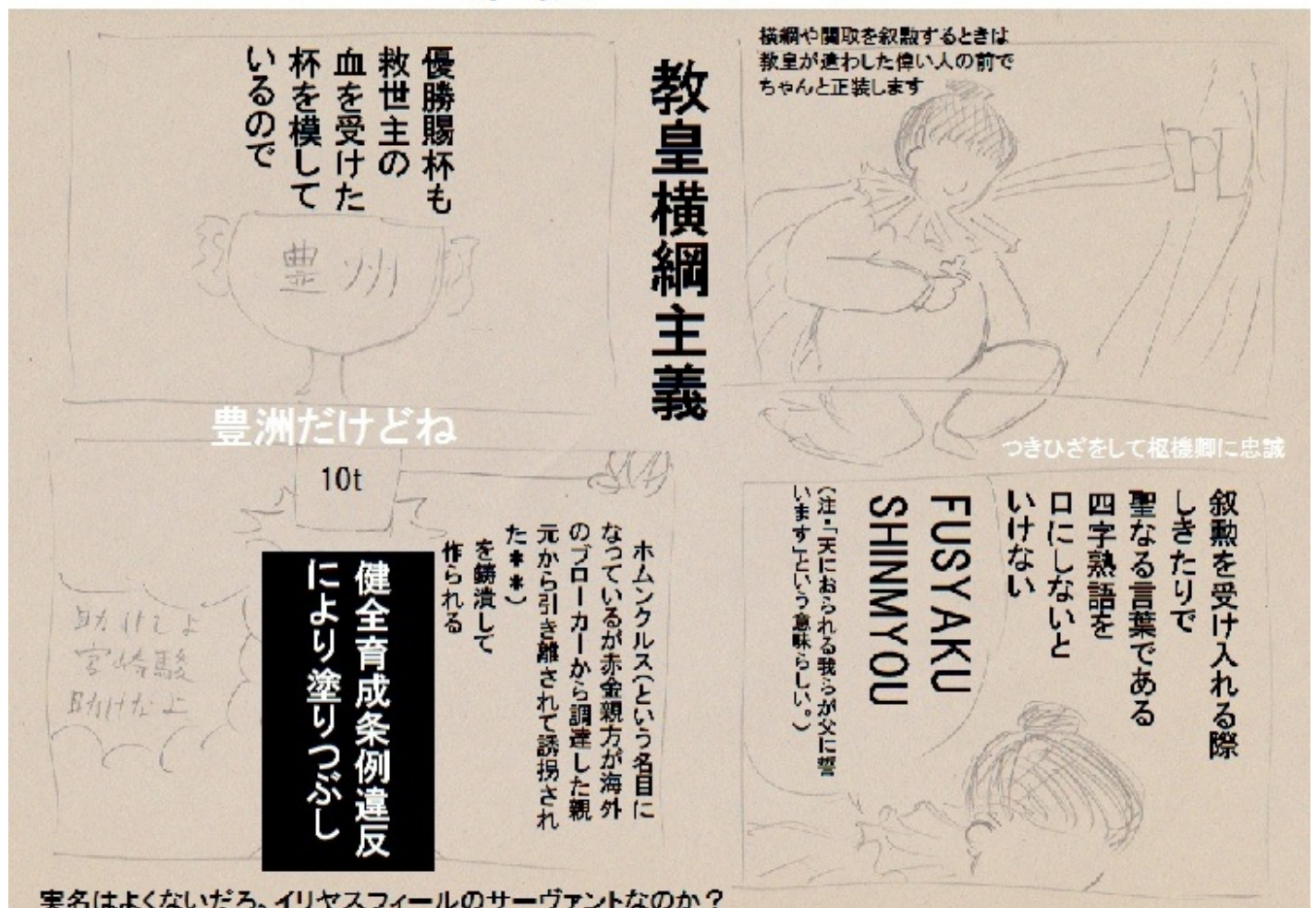


ピンク塗り忘れ

ぜんぜん違う

氏家さんは『かぐや姫の物語』を観られずに亡くなられて
カメオ出演していたらいいかもしれないが 高畑勲は
そんなことはしない 冷徹 酷
本当は氏家さんのことを嫌いだっんじゃないか？

全部 誤り ですね これ



実名はよくないだろ。イリヤスフィールのサーヴァントなのか？

太宰の年表を少し見たもので、太宰治の聞きかじり情報との差異を書く。独歩には愛人がいたとか、余計な（いらぬ）情報が書かれるかもしれないが、それはそれでよしとしなさい。荻上チキだって、三年間以上近所に住まわせていたら、内縁関係が成立してみなし重婚である。

太宰のようなもの。

とうの太宰は作家になりたくて帝大の仏文学科に入学という、戦前だから動機が不純である。欧米列強と覇権を競うためにエリート教育機関を全国に配置した、国策として作られた帝国大学に入るのだから、作家になるのが目的では…

その帝大で仏文学部があるのは、先進国フランスの書籍から国益となることを調べ、翻訳するためにある。そのためわざわざ官費留学させて、参考になるものは国内に送る（裏は取れていないが書籍代も国から出ている？）などの、後進国のエリートが自国の発展のために万進するために先進国の言語を学ぶのである。（本当は平野啓一郎はこれをしないといけなかったがただ本人のキャリアアップで終わってしまった…ポル・ポト？ みたいに左翼イデオロギーに塗れて帰ってこなかっただけいいかもしれない）

そこを横から出る、つまり高級官僚になろうとしなかった。

周囲から批難ごうごうだったのは、察するに余りあるが、これが元で薬に手を出してしまう動機となって、また批難ごうごうで、また薬に手を出してしまう悪循環、というかコントなどをする際の演芸用語にあると思うが、燃料はヒロポンという永久機関である。

国家のために役に立つ人物にするのだから、こんな役立たずでは帝大に学んだ意味がない。せめて民間で活躍してほしいが、あの性格では半官半民な旧財閥系では居場所はないし、自由主義万歳の企業であっても、もてあましてしまうだろう。

それから大日本帝国下の同調圧力は現在の比ではない。

その状況下で、左翼活動に身を投じるが、裏では「皆がやっているから、同調しているだけなんだけど」みたいなことを言っている。そんなんだったら、はじめから帝大の戦前的国益誘導の人になれ、という同調圧力に屈しろよ。

ほとんど清原への野次である。

「塁をつめる」とか、プロの隠語を野球中継でうっかり口にして、放送できないだろう。それで野球中継での解説のオファーの声がかからなくなる。太宰作品にどのくらい隠語が使われているか、もう把握されていると思うので、資料をひっくり返してみしてほしい。

太宰は貴族院議員をお父さんに持つ。930家から1100家あるという、華族（爵位を有している）だったのかはわからない。

一応調べによると、お兄さんが家督を継いでいるらしい。太宰自身にも子があり、津島家は文学者を輩出している。

ドナルド・トランプについては、週刊文春の連載「池上彰のそこからですか!？」の250回目にある、「トランプの『炎上商法』」を参考にした。実際に「丸見えテレビ」ではやはり自動車会社の最高経営責任者なんかが、トランプの支持者である。トランプの高額所得者への減税が支持

されて横山ノック的エロおじさんを大統領にしようとしているのである。FOXニュースの情報だけを信じたらミスタークリントンと変わらないので、米国民はそれでいいのかもしれない。（だいたい女性の下着を盗む大臣の国に住む人間がとやかく言えない）

＊ 11月以降の報告「デスブログ・エフェクトで大統領になっちゃいました」

これはメディアリテラシーの問題で、マスメディアが偏っている。免罪符で低所得者や頭の悪いアメリカ人を設定すれば、自分たちに責任が問われないスキームだろう。

移民排斥も移民を一番こき使って儲けているのは、トランプみたいな富裕層だったりするから、結局自分の首をしめることになるのではないだろうか。農場で不法移民を低賃金で働かせているって、それじゃ奴隷制度下の南部と変わらないじゃないか。

その件は本編に触れた通りである。

井伏悪人説は、猪瀬の流言であるかもしれない。これは宿題で閲覧者・読者の皆さんが各自各々で調べて答えを見つけるべき。私は悪人説は妄言とする側。悔しかったらお金をバックに入れてみる。

とはいえ太宰は『女学生』の頃から、女子学生に日記を書かせて、それを元に小説を書いている。『斜陽』が初犯ではなかったのである。

それが後に『斜陽』に結実したのは…これも手放しに喜べない。

芥川の弟子・堀辰雄は女性が日記を書く日本の女流文学が中世からあって、その文脈にある作品を書いている。それが『菜穂子』なのだが、太宰の場合日記を女性に書かせるのは、日本文学では昔からあったといえるが、それは著者が女性であると明記されている。

取り分全部自分というのは、おかしくないか。

逆に『更科日記』などが、裏で太宰みたいなヤツがいて、原典を直してしまったり、しているかもしれない。だから宇治十帖問題が出てくる。

そうしたいろいろな問題はさておいて、実際にメロスを読んでみた。略しているが短編「走れメロス」である。

資料によると1940年発表である。

文壇事象では、単純にセリヌンティウスが芥川でフィロストラトスが芥川の弟子筋（堀辰雄ら）、暴君ディオニスが“ぼんやりした不安”だろうか、あてはめられるが、どうだろう？

セリヌンティウス＝芥川説は昔からあった説なのか、興味が無いから知らないけど、メロスを亡き者にしようとした山賊やメロスの義弟は、なんとなくこの人物ではないかと、めぼしがつく。

“竹馬の友”と書いているが、古代地中海世界では竹は伝来していないだろう。“南無三”や“韋駄天”も東アジアの仏典や文化発祥だろう。これは当時の読者にわかりやすく伝えるための、ロクムをプリンにしたような翻訳問題だ。

当時の読者のためにあえて亜細亜な言葉を入れて“サーヴィス”だと思って、めくじらたてて糾弾するべきではない。だが、指摘はしておかなくてははいけない。

地中海の人は結婚式で会釈するのか、もっと違うボディランゲージではないのか、首搔ききりポーズのためにサムズアップしたのが、後の世に「いいね！」になるような、そんな間違いみたいなものを広めていないか？

物語の線ではなく、文章を読むと、あの、とても、キケンな観点を持ってしまう。

次のものはメロスの内話を引いた。

“セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君と一緒に死なせてくれ”

ほととほもの間の真実！

“友と友の間の真実”を書き間違ってしまったが、ここは女子禁制。ドナルド・トランプみたいにわざと書き間違えて女性読者に媚を売っているわけではないので、良しとしなさい。表紙だって女性避けのために撮影難度が高い昆虫がよろしくしている。（そもそも女性読者なんて女子禁制にする前から「いないのだ！」）

この“友と友の間の真実”があれば、芥川は死ななかったのだ、と、太宰本人が仮に思っていたら、傲慢である。傲慢もさることながら、恥ずかしい。

他人の批判ばかりだと、いけない気がしてきたので、自分のことも語れば、私のメンターである横井軍平さんと生前出会う、師弟関係を結んで、面白いガジェットを作ったろう寓意の物語を書くのは、フィクションであってもそれは恥ずかしい。「コトにそんなガジェットを生み出す余裕はありません」

自分が横井の代わりに、車にはねられて死ねばよかったと、たまに思う。それは正解だ。最適解だ。しかし、それを明かすのは恥ずかしい。

だから、緋のマントで恥部を隠す。その表現の仕方（動機・手段）がわかる。

そこが太宰のなんともいえない魅力なんだろう。

だが共産主義の象徴（共産主義革命で帝政ロシアを挫いた）なのか、それとも「罪を血で贖われた」キリストの行為を象徴しているのか、どちらかはっきりしない、正直わからない。

それが否定されているのであれば、よいのだが。

共産主義の赤＝緋であると、少しつじつまがあわないところがあるが、仲間内にはそれで体面が保てる。血の代わりに汗を流している方だと、やはり契約宗教的なテーマがあるようである。契約は王権に優る、ところまでは書いている。

シラクスの救世主となったのか、だから立憲君主制はやめようみたいな急進共和のジャコバン派の共和主義なら、なんとか特高に捕まらないが、共産主義の象徴だと捕まってしまうのは、1940年で微妙なところ。

コミンテルンとか、国内で欺瞞なり情報操作の工作している時期で、思想統制して国家を文化的・精神的に崩されないように、特高もいた時期でもある。

繰り返しになるけど、まずいことは書けないか、書いたら書いたでセクト内で評価される。「よくやった太宰」みたいに「よくやった清武（注・事実誤認）」になってしまう。場合によってはそこを評価されて教科書に載るかもしれない。清武英利が教科書に載るなら、拍手で迎えたい。

これは憶測だが、メロスは義弟のために故郷に戻ったのであって、妹のためにじゃない気が

する。結婚式に新婦の兄がいないことより、新郎の義兄が欠席することが体面が悪いと思っていないか？

なんだか、体面ばかり気にしているようである。

世間に向かって「世間とはお前のことだろう」と看破したのか、大小の風当たりを目前の人物にやつあたりしたのか、いろいろ考えられるが、これはオルグされた結果だろう。

世間体を気にする連中に体面を考えて、オルガナイゼーションされた結果だ。

「オレは世間を気にしていないわけではない」という、誰かが自分にマントを被せてくれないか、生前の女性関係を見ると、期待している。

そもそも生前に女性たちが太宰にいろいろ便宜を図っているらしい。その「日常生活」が表れているのか？　と思う。（調べたら、また違った答えが出てくるだろう）

「走れメロス」において、王権とは何かに戻れば、王権というのは『進撃の巨人』の巨人と同様、作者が言っている通り、なんらかのメタファーではないので、なんでも入れられる器になっている。

執筆当初は、何かのメタファー、それに擬えてディオニスを太宰は書いたかもしれない。だが、それを具体的に「大日本帝国が意に沿わない人たちを思想統制で粛清している」とは言えない。

逆に太宰の手から離れるようになって、なんでも入れられる器になったとき、誰でも読める作品になって、再評価されるようになったと見るべき。

『ドン・キホーテ』も再評価され、『モービー・ディック　あるいは鯨』もメルヴィルの死後かなり経ってから評価されている。『ドン・キホーテ』はベストセラーで偽物が出たほどだけど、『白鯨』とメルヴィルはほとんど忘れ去られて、トーベ・ヤンソンなどが出てきたときに、米文学の掘り起こしで「すごい作品がある」と、中編「バートルビー」とともに米文学史に残る作品・作家という評価を得た。

名作になるかは没後の再評価にかかっている。

そもそも騎士道物語に憧れた青年がレパント海戦で虜囚になって、「騎士道物語に憧れるのは、これくらいバカバカしいことだから、眼を覚ませ！　『ありえない未来の思い出たち』も読んで、やりがい搾取されるだけだと眼を覚ませ」だったのが、新テクノロジーを表す風車に挑むロートルという普遍的な滑稽話に読み継がれるようになった時に名作となって、奇形の国家であり多人種・他民族が集まって統治しきることができない合衆国の白鯨から、あらゆる制御できない、コントロールできないものの象徴になったから読み継がれるようになる。

太宰作品も、結果としてこうした経過を辿っているようである。それは初めに悪名プレミアムがついているから、万人に「布教」されているから、可能だったのだ。

悪名だけど、それに成功したのが、太宰の姿なのだ。

功罪の功の部分も少しばかり語らないとバランスが悪いので、功の部分も少し。先ごろ亡くなった太宰の娘・津島裕子は、死後支払われる印税を浪費していなかったことで、基金を作れて太宰賞の運営にあてている。『人間失格』はあるテレビ番組のナレーションによると、累計1000万部を売っているので、著作権が切れるまでの印税はそこに収容されている。新人作家を見出す太宰賞は、文壇政治勢力では弱いところがある。そこは生前の太宰と同じ。

これと比較して漱石の場合、夏目房之介さんのお父さん（漱石の長男）は欧州留学で豪遊して印税を蕩尽し、貴族とテニスをして家来がコートアウトしたボールを拾ってくれないのはイヤだと貴族趣味を抱えて帰ってくる。それと傍系の人が漱石賞を作ろうとして、夏目さんを筆頭に一族の大反対にあって、ちゃんと断念している。それから松山坊ちゃん賞は、電通と市が主導で運営しているが渡部直巳の『電通的文学』を読んだ身としては、複雑。

この話[「正誤表番外 太宰始末」](#)に続く

今までラインと表記していたが、LINEと変なアクセントで呼ぶ会社の話である。

親会社はNEVER、ネイヴァーと読むらしい。

韓国の大手検索サービスで、韓国内のIT系企業の勝者である。ライブドア事件以後の新体制のライブドアを買収して、情報学系の人材が集まったいろいろ（注・とても一行二行で説明しきる自信がない）な結果、LINEが生まれた、らしい。

平野啓一郎は鼎談で、

「（第二次産業である）炭鉱の北九州市は廃れて、博多の第三次作業（サービス業）は発展している」（注・要約した発言「文藝」15年夏号を読め！）

と触れたが、その発展した産業の代表選手がLINEではなかろうか。

企業名LINEの前の名前はHNHジャパン、元はハンゲームジャパンで福岡に本拠地を置いて、現在所在地はヒカリエにあるらしい。元々はオンラインゲーム『マビノギ』の運営をしていた会社なそう。オンラインでは加入者を募る必要があり、その顧客獲得のノウハウで、強みだったのである。

系列でcomicoもある。

comicoのおかげで、大ヒット作が無くても福岡在住でマンガ家ができる。梶井純のような階級闘争史観を持つ者は、勝手に劣等感を持たせるのはやめてほしい。むしろこれから雑誌と心中するかもしれないマンガ家もいるかもしれないので、優越性というものが逆転するかもしれない。

話はtwitter普及期の頃で、まだ機能が未熟だったtwitterの追加・補助機能のフリーウェアを個人で作り拡張しているのを、正式にtwitterに採用されたりしていた。リツイート機能はもともとフリーウェアであった機能が公式に実装された。

似たようなtwitterのフリーウェアに毛の生えたメールサービスを提供していた国内発の企業はいくつかあったと思う。中国のウェイポーみたいなものを、国内で作ろうとした動きがあったはすだ。

そんなたくさんあるつぶやきのメールサービスで、何か出来ないかと複数の企業が試して残ったのが、ショートメールサービスLINEということになる。

このあたり、キャズムを越えたのか、生き残ったのがLINEなのか、その評価は最近になり上場に乗じて出た新書群だけ見ても、よくわからない。

法人LINEがとった囲い込み戦術は、会員同士の通話料の無料だった。この携帯端末通話料金無料は初期の加入者獲得のための、エサに過ぎなかった。加入者のほとんどは使っていないのが実情らしい。（これは通信会社の競争で通話料がディスカウントされて無化されていると考えられる）

通話料は事業のプロフィットを上回るほどのコストにならなかった。それが売り上げ会計上の結果である。

ところが、日本の国内企業では、できない。コンビニやカラオケの感圧式タッチパネルを、静電式タッチパネルに変えてスマートフォンや電子タブレットを作ることができない。お好みボッ

クスはドラえもんの世界にしか、日本では作れない。

スネ夫の国の証左だろう。

かわいそうだけど「iPhoneは日本で作れた」というフィクション・ファンタジーを信じていることこそが、スネ夫であることを認められない……宇野さんの悪口を言っているわけじゃない。そうじゃないと言っておかないと「出来杉くんの頭を持った性格スネ夫」とか、勝手に読者が思うので、そこは否定しておく。

通話料負担が売り上げを上回るとして、絶対に採用されなかっただろう。（それは通信会社のディスカウントがここまで下がると予測もできなかったことになる）

一応、これに反論が無いわけではない。ハロー効果で結果に過ぎないことを、成功の要因と誤解、後光によって誤計測している可能性がある。しかし、初手の戦術が大きいスパンの戦略で差が付いたのは、間違いない。

ソニータブレットやいろんな国内メーカーのタブレットがあっても、タブレット市場は「小さかった」という結末を知った上で、皮肉な結論を言えば「アマゾンやアップルのような万国を股にかけた帝国主義的企業でないなら、参入しないのが正解」となる。

現実、会員同士はアプリ内でのメールのやりとり（「LINE」と代名詞で呼ばれるようになった）ばかりして、前述の通り電話はかけないらしい。「LINE」をしていて、LINEスタンプを使用はするが、このLINEスタンプよりもゲームで収益をあげるビジネスモデルになっている。だからグリー（ソーシャルゲームを展開するブランドがcygames?）やDeNAと同じSNS的に顧客を囲い込みしている。

問題となるLINEは自社開発であったのか、どうかは、自社開発だろう。社外の誰かのアイデアを聞いて、子会社を作って社内ベンチャーみたいに事業を設立したわけではないらしい。

つまり、国内企業が資本投入、国内投資家にあたって開発資金を出していなかったというのは、私の単なる想像に過ぎなかったということだ。

一応言わせてもらおうと、はたして同様のサービス企画で、国内の機関投資家と個人資産家は出資しただろうか？ という疑念は拭い去れない。

このあたりの詳しい実情は、新書や雑誌記事を読んでも、わかりにくい。まだ設立から数年で、創業時のエピソードが公開してもいい時期ではなかったり、名前がどんどん変わっていく企業なので、年表がいる。

それが無いと混乱が生じる。この時期はHNHジャパン、これをしていたのはまだハンゲームジャパン、いつのまにライブドアを吸収していたのか、把握しないといけない。

ほとんどの会社はヒット作の年表でわかりやすく簡略化できるが、法人LINEの場合簡略化するとかえってわかりにくくなる。このややこしさが、法人LINEがどういう顔相をしているのか、才能の無い私ではよくわからないところがある。

単行本や新書だけでなく、雑誌記事もある資料を集めて、歴史を押さえる、それをしている暇は、残念ながら、無い。

マンガ化されたLINEタウンは意外にも『おそ松くん』とキャラクター配置が一致していて、「週刊少年サンデー」で連載があったのは、それほど間違いじゃない。ブラウンはデカパンとか、

イヤミにあたるキャラクターがいて、後は現代で受け入れられた『おそ松さん』的なことができればよかったが、そうはならなかったのは編集部の力が足りなかったのだろう。

DeNA（モバゲー）やグリー（cygamesとは提携している）とは、別の進歩進化、いろいろ事業に手を出して進歩し、経営進化論的に環境に合わせて会社を進化させていった。本当の進化論でも生物が環境に合わせて、形態を何世代にも渡って進化するのだが、IT事業の場合、経営環境が数年で変わってしまうので、それに合わせた急速進化が進んで、いつの間にか会社の顔がよくわからなくなる。

ライブドア社を吸収しているのも、関川夏央のマンガ批評（「自己嫌悪の日本」）で語られる、『沈黙の艦隊』を読んで“空元気”と言われるものをマンガと割り切らない、批評できないその人物たちが見えるようになって、今でいうネット右翼、在特会になってしまっているのではないかな？ 全部『沈黙』のせいではない。もともとそういう層がいただけである。その層に訴求する作品として今は『インベスターZ』があるのではないかな？

ちょっとわかりにくいと思うが、マネーゲームで合併・吸収を繰り返して、それを批判批難する向きはあるだろうが、結果的によかった。三田さんは堀江貴文が好きであって、ライブドア社はそんなに好きではないかもしれない。堀江社長時代に集めたライブドア社の人材知財があるおかげで、今のLINEの成功があり、その点はこれから描かれるのか、ネタを潰してしまったか、わからない。（『Z』には一貫性は無い。むしろ一貫性があってはいけないのが投資投機の世界。『おーい！龍馬』を読んだ堀江貴文は影響を受けて会社経営者になっているが、『Z』は坂本の明治維新への貢献には懐疑的）

結果的に言えば、韓国の投資家が投資した事業として利益は上がった。

雑誌「サイゾー」を読めば、上場によるストックオプションでNEVERの会長職あたりが14億円ぐらい手にしているとわかる。日本人の元社長より、ジェームズ＝イヤミの絵を描いた人（韓国籍）の方が持ち株では資産が多い。

母数に法人LINEだけなのは問題だが、このように国内にスター投資家はいない。

それは別に変わらなかったのである。

だから、私は国内の機関投資家（銀行・証券会社）が法人LINEに投資しなかったのは、おかしいと思っている。日銀がこれだけマネーサプライをしているにも関わらず。

皮肉なことを言うと、法人LINEが日本資本主導だと、「あれしろこれしろ」と口出しされて、競争に勝てる策じゃなくて今までの成功例をなぞった方法ばかりで、結局負けたのではないかな？

国内の銀行が社債を買っていたりして、コントロールしかなかったから成功したのかもしれない。

外資叩きをしたいわけじゃない。繰り返すが、本来日本の国内投資、何度もあったマネーサプライで投資が出来たはずなのに、法人LINEにしていなかったというのが、どうしても解せない。

だから株式上場するのもかもしれない。

まちがってほしくないのは、在日コリアンの悪口を言いたいわけではない。彼らの国内でのありかたは、ユダヤ人の職業であろう。

アシュケナージ系ユダヤ人は、欧州では賤業とされる金融をやらないといけない。非アシュ

ケナージ系の中東でも賤業につくが、金融はいろいろな事情でやってはいない。日本国内では、やはり高利貸しやパチンコ業などをやらざるをえない。

そうした職業蔑視を重ねてみるのが可能だ。

私の母親は人種差別主義者だ。

裏千家の集金システムの家元制度で、生徒に茶の湯を教えていいと免状を持っているらしいが、長次郎の茶碗に本当は価値が無いと思っている。

「ボク、ラクえも〜ん」では、この件についてさすがに避けたけど、大陸から渡ってきた（朝鮮出兵で捕らえられた）とされる長次郎は朝鮮民族、少なくとも大陸の人間で、瓦職人である説があり、飾り瓦や屋根の置物として獅子を焼いていたらしい（沖縄の守り神シーサー文化は大陸由来だろう）。穿った見方をすれば、樂茶碗が国宝ではなく重要文化財に留まっているのは、このあたりの事情があるのか。

その子孫である樂さんの茶碗に、本当に価値があるとは、人種差別主義者が思っているはずではない。

深層心理はこうだろう。

お金を払うことで、自分は差別主義者ではないという、免罪符のようなものを買っている。日本国中どこにでもいる卑近な偽善者である。

こういう人間を下衆といって、そのゲスの股座から生まれてきたのが、私だ。サノバビッチ「メス犬の息子」なのだ。そもそも、お金を忌む中世の上流階級ではないし、むしろ経済学的なことをやっている人間なのだから、網野善彦さんが研究するような「野卑」の側であろう。本当は歴史用語が鍵括弧内にある。

穿った見方をすると、系列のcomicoの作品、『ReLIFE』で描かれる主人公の先輩が受ける社内いじめが、LINEがNEVERの子会社であることで、見える・見えないいじめを受けてきた、その影を写し取っているのではないだろうか。特にネットの世界では、見えるようになっている。

上場によって、それを無化するはずが、情報が広まってかえって、何かしらの叩きの対象にされてしまう恐れを危惧する。

関川さんが言うように、同情もまた差別で、同情せず同格としてみなすというのが、なかなか難しい。

『ReLIFE』もある事情で周りの記憶を失ってしまうとか、また穿った見方をしてしまう。日本名で過ごしていて、在日とわかったら人間関係を清算される裏読みをしてしまう。生前の松田優作が朝鮮民族と和人のハーフであることを公表できないような、見ていてつらいものがある。

たとえば、朝鮮学校に行かずに、一般的な国内の学校法人（私立公立問わず）に通う在日朝鮮人（北朝鮮籍）が、日本名で誰ともつきあわないで過ごしている、その表現があるようで、観ていてつらい。卒業後、在日であるとひた隠しにしていた罪悪感で、忘れられた存在になろうとする。

在日の人は早く大人にならなくてはいけない、その事情を大人になっているから、察してしまう。

逆に差別をした側に「あんたとの関係は考えさせてもらう」となるはずが、在特会的なグルー

プでは反知性主義的に仲間意識を持ち、そんなグループに関わった個人が、かつて在日の人と関わっていたら、存在しないものとして扱うどころか、排斥しだす。

その恐ろしさが暗喩されているようで、青春の物語の再話と割り切れないものがある。

「LINEはどういう会社なのか」という、テーマから幾分離れたが、TTPを締結したら、法人LINEが韓国資本なんて、どうでもいい話題になるほど、日本国内に外資による競争が激しくなり、国内企業が生き残れない。

正解はまだ、書けていないようである。

小さい字

自称は「ゲームのことに詳しい」と吹聴しても、どうしても抜かりが出てきて、『LINE POP』の話がまったく出来なかった。その点の中川大地さんの『現代ゲーム全史』にあるので、そちらを読んで補うべし。

MEN'S ONLY03

<http://p.booklog.jp/book/107330>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotochihi1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/107330>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/107330>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ



広告

マンガとかを「天体観測」

Architecture
Product
System

天文年鑑
2023年版